朝酌川河川改修工事に伴う

タテチョウ遺跡発掘調査報告書

－Ⅳ－

平成４年３月

部河川課
育委員会

朝酌川河川改修工事に伴う

タテチョウ遺跡発掘調査報告書

－Ⅳ－

平成４年３月

島根県土木部河川課
島根県教育委員会

序

本報告書は，島根県教育委員会が島根県土木部から委託を受けて，平成２・３年度に実施した朝酌川中小河川改修工事予定地内に所在するタテチョウ遺跡の発掘調査の結果をまとめたものです。この遺跡につきましては，昭和52年以来調査を行ってまいりましたが，このたび河川改修に伴う調査を終了する運びとなりました。

今回の調査でも，大量の弥生土器をはじめ，縄文時代から平安時代に至る多種多様の遺物が出土しました。とりわけ弥生時代を中心に，畿内や北九州さらには朝鮮半島との交流をうかがわせる土器・石器など興味深い資料を付加することができましたことは，山陰地域の当該期文化の展開を考える上で意義があるものと考えております。

本書では，多岐にわたる出土遺物について充分な検討ができず，不備な点も少なからずありますが，従来の調査成果とあわせてこの調査結果が多少なりとも埋蔵文化財に対す理解に役立てば幸いに存じます。

発掘調査および本書の刊行にあたり，各方面から多大なるご支援，ご協力をいただいた関係各位に心よりお礼申し上げます。

平成４年３月

島根県教育委員会

教育長　坂　本　和　男

例　　言

1．本書は島根県土木部の委託を受けて，島根県教育委員会が1990・91年度（平成２・３年度）の２ヵ年にわたって実施した，一級河川朝酌川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘地は次のとおりである。1990年度調査区―島根県松江市西川津町1261番地 他。
1991年度調査区―島根県松江市西川津町1127番地 他。

3．調査組織は次のとおりである。

（1990年度）

事　務　局　　泉　恒雄（文化課長），藤原義光（同課長補佐），勝部　昭（同課長補佐），野村純一（同文化係長），坂根　繁（文化係主事），佐伯善治（財務課予算経理係長），野津健二（同主事），田部利夫（島根県教育文化財団嘱託）

調　査　員　　宮澤明久（文化課埋蔵文化財第1係長），佐伯徳哉（同主事），林　健亮（同主事），瀬古諒子（同臨時職員）

（1991年度）

事　務　局　　目次理雄（文化課長），藤原義光（同課長補佐），勝部　昭（同課長補佐），高橋研（同文化係長），伊藤　宏（文化係主事），佐伯善治（財務課予算経理係長），野津健二（同主事），田部利夫（島根県教育文化財団嘱託）

調　査　員　　宮澤明久（文化課埋蔵文化財第１係長），佐伯徳哉（同主事），林　健亮（同主事），瀬古諒子（同臨時職員）

遺物整理　　岩成直子，奥田美穂子，奥野希美，金津まり子，近藤千穂子，瀬田明子，津森真弓，中村暢夫，平井明子，藤本千夏，松本令子，馬庭志津子，山根由利子，吉岡和美，吉岡三枝子

5．自然遺物の同定および自然科学的分析は次の方々の協力をいただき，その結果を収録した。
（敬称略，順不同）

大西郁夫（島根大学理学部教授），徳岡隆夫（同教授），山本重幸，田村嘉之（以上　土壌分析），西本豊弘（国立歴史民俗博物館考古研究部助教授　獣骨），三浦　清（島根大学教育学部教授　石材），渡邊正巳（川崎地質株式会社大坂支店技術部付課長代理　樹種鑑定）

6．発掘調査および遺物整理にあたり次の方々に御指導，御助言をいただいた。記して感謝する。
（敬称略　五十音順）

赤澤秀則（鹿島町教育委員会），池田満雄（島根県文化財保護審議会委員），泉　拓良（奈良大学

文学部助教授)，置田雅昭（天理大学付属天理参考館学芸員)，小田富士雄（福岡大学人文学部教授)，亀田修一（岡山理科大学理学部助教授)，七田忠昭（佐賀県教育委員会)，田中清美（財団法人大阪市文化財協会)，田中義昭（島根大学法文学部教授)，都出比呂志（大阪大学文学部教授)，西谷　正（九州大学文学部教授)，平井　勝（岡山県立古代吉備文化財センター)，水島稔夫（下関市教育委員会)，三宅博士（安来市教育委員会)，柳本照男（豊中市教育委員会)，山本　清（島根県文化財保護審議会会長)

7．出土遺物については，遺物の種類毎に通し番号を与えてそれを挿図番号とし，各番号の前には略号を付した。略号は縄文土器がJ(Jomon Pottery)，弥生土器がY(Yayoi Pottery)，土師器がH(Haji Pottery)，須恵器がSU(Sue Pottery)，その他の土器がE(Etc)，ミニチュア土器がM(Miniatue)，土製品がCL(Cly Object)，石器がST(Stone Tool)，木製品がW(Wood)，である。

8．挿図中の方位は国土調査法による第Ⅲ座標系X軸の方向を指す。従って，磁北より7°12′，真北より0°32′東の方向を指す。

9．掲載図面は佐伯，林，瀬古が作成し，奥田，奥野，近藤，津森，平井，馬庭，山根，吉岡（三）が浄書した。写真は自然遺物を除き佐伯，林が撮影した。自然遺物については各執筆者の撮影である。

10．本書の執筆は調査員が討議して行い，その分担は本文目次に示した。

11．本書の編集は宮澤明久，その他文化課職員の協力を得て，佐伯，林，瀬古が行った。

12．本書で掲載した「遺跡位置図」は建設省国土地理院発行のものを使用し，「調査区位置図」は松江圏都市計画図をトレースして使用した。

本　文　目　次

Ⅰ．調査に至る経緯　（佐伯）…… 1
Ⅱ．遺跡の位置と歴史的環境　（佐伯）…… 3
Ⅲ．遺跡の概要　（ 林 ）
(1) 調査の経過 …… 8
(2) 遺構の概要 …… 13
Ⅳ．出土遺物
(1) 縄文土器　（瀬古）…… 30
(2) 弥生土器　（瀬古）…… 48
(3) 土 師 器　（瀬古）…… 116
(4) 近畿系土器・瓦質土器　（瀬古）…… 150
(5) 須 恵 器　（瀬古）…… 155
(6) その他の土器　（瀬古）…… 169
(7) ミニチュア土器　（ 林 ）…… 171
(8) 土 製 品　（ 林 ）…… 174
(9) 石　　器　（ 林 ）…… 178
(10) 木 製 品　（ 林 ）…… 194
(11) 金属遺物　（ 林 ）…… 222
Ⅴ．タテチョウ遺跡1990，91年度調査出土の動物遺体　（西本豊弘）…… 223
Ⅵ．タテチョウ遺跡の珪藻遺骸分析と軟Ｘ線解析 …… 225
（大西郁夫・徳岡隆夫・山本重幸・田村嘉之）
Ⅶ．松江市タテチョウ遺跡出土木製品の樹種の記載 —その２—　（渡邊正巳）…… 231
Ⅷ．松江市タテチョウ遺跡出土の材化石　（渡邊正巳）…… 235
Ⅸ．原の前遺跡・西川津遺跡Ⅱ区の範囲確認調査　（佐伯・林）…… 246
Ⅹ．ま と め　（佐伯・林・瀬古）…… 253

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 5・6
第２図　調査区配置図 …… 9・10
第３図　1977年度調査区配置図 …… 11・12
第４図　河道検出状況 …… 14
第５図　河道２完掘状況 …… 15
第６図　しがらみ状遺構平面図 …… 16
第７図　しがらみ状遺構付近土層断面図 …… 17
第８図　しがらみ状遺構立面図 …… 17
第９図　河道２平面図 …… 18
第10図　河道４検出状況 …… 20
第11図　河道４平面図 …… 21
第12図　1990年度調査区東壁土層図 …… 23・24
第13図　1991年度第Ⅰ調査区東壁土層図 …… 25・26
第14図　1991年度第Ⅱ調査区東壁土層図 …… 27
第15図　1990年度調査区北壁土層図 …… 28
第16図　1990年度調査区土層断面図 …… 29
第17図　縄文土器実測図（1） …… 34
第18図　縄文土器実測図（2） …… 35
第19図　縄文土器実測図（3） …… 36
第20図　縄文土器実測図（4） …… 37
第21図　縄文土器実測図（5） …… 38
第22図　縄文土器実測図（6） …… 39
第23図　縄文土器実測図（7） …… 40
第24図　弥生土器実測図（1） …… 51
第25図　弥生土器実測図（2） …… 52
第26図　弥生土器実測図（3） …… 53
第27図　弥生土器実測図（4） …… 54
第28図　弥生土器実測図（5） …… 55
第29図　弥生土器実測図（6） …… 56
第30図　弥生土器実測図（7） …… 57
第31図　弥生土器実測図（8） …… 58

第32図　弥生土器実測図（9）…… 59
第33図　弥生土器実測図（10）…… 60
第34図　弥生土器実測図（11）…… 61
第35図　弥生土器実測図（12）…… 62
第36図　弥生土器実測図（13）…… 63
第37図　弥生土器実測図（14）…… 64
第38図　弥生土器実測図（15）…… 65
第39図　弥生土器実測図（16）…… 66
第40図　弥生土器実測図（17）…… 70
第41図　弥生土器実測図（18）…… 71
第42図　弥生土器実測図（19）…… 72
第43図　弥生土器実測図（20）…… 73
第44図　弥生土器実測図（21）…… 74
第45図　弥生土器実測図（22）…… 75
第46図　弥生土器実測図（23）…… 76
第47図　弥生土器実測図（24）…… 77
第48図　弥生土器実測図（25）…… 78
第49図　弥生土器実測図（26）…… 79
第50図　弥生土器実測図（27）…… 80
第51図　弥生土器実測図（28）…… 84
第52図　弥生土器実測図（29）…… 85
第53図　弥生土器実測図（30）…… 86
第54図　弥生土器実測図（31）…… 87
第55図　土師器実測図（1）…… 118
第56図　土師器実測図（2）…… 119
第57図　土師器実測図（3）…… 120
第58図　土師器実測図（4）…… 121
第59図　土師器実測図（5）…… 122
第60図　土師器実測図（6）…… 123
第61図　土師器実測図（7）…… 124
第62図　土師器実測図（8）…… 125
第63図　土師器実測図（9）…… 126
第64図　土師器実測図（10）…… 127
第65図　土師器実測図（11）…… 128

第66図　土師器実測図（12）…… 129
第67図　土師器実測図（13）…… 130
第68図　土師器実測図（14）…… 131
第69図　土師器実測図（15）…… 132
第70図　土師器実測図（16）…… 133
第71図　近畿系土器・瓦質土器実測図 …… 153
第72図　須恵器実測図（1）…… 158
第73図　須恵器実測図（2）…… 159
第74図　須恵器実測図（3）…… 160
第75図　須恵器実測図（4）…… 161
第76図　須恵器実測図（5）…… 162
第77図　須恵器実測図（6）…… 163
第78図　土器実測図 …… 169
第79図　ミニチュア土器実測図 …… 171
第80図　土製品実測図 …… 175
第81図　石器実測図（1）…… 179
第82図　石器実測図（2）…… 181
第83図　石器実測図（3）…… 183
第84図　石器実測図（4）…… 185
第85図　石器実測図（5）…… 187
第86図　石器実測図（6）…… 188
第87図　石器実測図（7）…… 189
第88図　木製品実測図（1）…… 195
第89図　木製品実測図（2）…… 197
第90図　木製品実測図（3）…… 199
第91図　木製品実測図（4）…… 201
第92図　木製品実測図（5）…… 203
第93図　木製品実測図（6）…… 205
第94図　木製品実測図（7）…… 207
第95図　木製品実測図（8）…… 209
第96図　木製品実測図（9）…… 210
第97図　木製品実測図（10）…… 211
第98図　木製品実測図（11）…… 212
第99図　木製品実測図（12）…… 213

第100図　木製品実測図（13）…… 214
第101図　木製品実測図（14）…… 215
第102図　木製品実測図（15）…… 216
第103図　金属遺物実測図 …… 222
第104図　壁面の断面図 …… 228
第105図　タテチョウ遺跡東西壁面断面図と柱状図 …… 229
第106図　タテチョウ遺跡における堆積物中の珪藻化石の分析結果 …… 230
第107図　調査地点 …… 237
第108図　試料採取地点 …… 238
第109図　材化石の出現率と花粉化石の出現率の関係 …… 242
第110図　調査区配置図 …… 247
第111図　西川津遺跡Ⅱ区土層断面図 …… 248
第112図　原の前遺跡・西川津遺跡Ⅱ区出土遺物実測図（1） …… 249
第113図　原の前遺跡・西川津遺跡Ⅱ区出土遺物実測図（2） …… 250

表　目　次

第１表　動物遺体出土内容 …… 224
第２表　木製品樹種一覧表 …… 234
第３表　タテチョウ遺跡出土材化石一覧表 …… 243

図　版　目　次

図版１　タテチョウ遺跡近景・遠景
図版２　河道１完掘状況，河道１土層断面
図版３　河道２検出状況，河道２・３土層断面
図版４　河道３完掘状況，河道３土層断面
図版５　河道４検出状況，河道４完掘状況
図版６　河道４土層断面，1991年度Ⅰ調査区東壁
図版７　1991年度第Ⅱ区調査区東壁，遺物出土状況
図版８　遺物出土状況
図版９　しがらみ状遺構検出状況，しがらみ状遺構付近土層断面
図版10　1990年度調査区完掘状況，1991年度第Ⅰ調査区完掘状況
図版11　縄文土器（1）
図版12　縄文土器（2）
図版13　縄文土器（3）
図版14　縄文土器（4）
図版15　弥生土器（1）　壺
図版16　弥生土器（2）　壺
図版17　弥生土器（3）　壺
図版18　弥生土器（4）　壺
図版19　弥生土器（5）　壺
図版20　弥生土器（6）　壺
図版21　弥生土器（7）　無頸壺・甕
図版22　弥生土器（8）　甕
図版23　弥生土器（9）　甕
図版24　弥生土器（10）　甕
図版25　弥生土器（11）　甕
図版26　弥生土器（12）　鉢・蓋
図版27　弥生土器（13）　底部
図版28　弥生土器（14）　壺
図版29　弥生土器（15）　壺
図版30　弥生土器（16）　壺
図版31　弥生土器（17）　壺

図版32　弥生土器（18）　甕
図版33　弥生土器（19）　甕
図版34　弥生土器（20）　鉢　高坏
図版35　弥生土器（21）　高坏　底部
図版36　弥生土器（22）　壺　甕
図版37　弥生土器（23）　壺　甕
図版38　弥生土器（24）　壺　甕
図版39　弥生土器（25）
図版40　土師器（1）　壺
図版41　土師器（2）　壺
図版42　土師器（3）　甕
図版43　土師器（4）　甕
図版44　土師器（5）　甕
図版45　土師器（6）　甕
図版46　土師器（7）　高坏
図版47　土師器（8）　高坏　鼓形器台
図版48　土師器（9）　鼓形器台　低脚坏
図版49　土師器（10）　低脚坏
図版50　土師器（11）　甑形土器
図版51　土師器（12）　甕
図版52　土師器（13）　甕
図版53　土師器（14）　高坏　坏
図版54　土師器（15）　甑　かまど
図版55　近畿系土器（1）　瓦質土器
図版56　近畿系土器（2）
図版57　須恵器（1）　蓋坏
図版58　須恵器（2）　坏
図版59　須恵器（3）　坏
図版60　須恵器（4）　長頸壺　広口壺
図版61　須恵器（5）　皿　盤　瓶　甕
図版62　須恵器　その他の土器
図版63　ミニチュア土器・土製品
図版64　石　器（1）
図版65　石　器（2）

図版66　石　器（3）
図版67　木製品（1）
図版68　木製品（2）
図版69　木製品（3）
図版70　木製品（4）
図版71　木製品（5）
図版72　木製品（6）
図版73　木製品（7）
図版74　木製品（8）
図版75　木製品（9）
図版76　獣　骨（1）
図版77　獣　骨（2）
図版78　獣　骨（3）
図版79　資料採取地点
図版80　2－bの拡大写真
図版81　木製品の樹種（1）
図版82　木製品の樹種（2）
図版83　材化石（1）
図版84　材化石（2）
図版85　材化石（3）
図版86　材化石（4）
図版87　材化石（5）
図版88　材化石（6）
図版89　原の前遺跡第1トレンチ南壁・西川津遺跡Ⅱ区第3トレンチ西壁
図版90　原の前遺跡・西川津遺跡Ⅱ区出土遺物

第I章　調査に至る経緯

タテチョウ遺跡は，松江市の北東方向から大橋川に流れる朝酌川沿いにある。昭和９(1934）年に行われた堰と水門を造る工事に際して多くの土器が出土してその存在が確認された。そして，昭和24（1949）年に至って山本清氏によって一部試掘調査が行われ，本遺跡が弥生時代を中心に古墳時代におよぶ複合遺跡であることが明らかとなった。当時，山陰地方では弥生時代前期土器が出土する遺跡が少なかったこともあり特に注目された。

ところが，朝酌川は度々氾濫を起こし，1970年代から急増した川津地区の住宅に損害を与えるに至った。そのため昭和47（1972）年から島根県土木部において河積拡大の河川改修計画が企画された。島根県教育委員会では昭和49（1974）年に県土木部の依頼を受け遺跡範囲確認のための予備調査を行った。

一方，松江市が松江圏都市計画を立案するに伴い，松江市教育委員会は，同予定地内にかかるタテチョウ遺跡西側部分の試掘調査を昭和49年11月に，発掘調査を同12月から翌50年２月まで行った。

昭和52（1977）年，県教委と県土木部は協議の末，予備調査の結果に基づいて400㎡の調査区を４箇所，計1,600㎡について，遺跡の概要把握のための事前調査を実施することになった。同年10月から翌53年３月にかけて行われた調査で，弥生土器を中心に縄文時代から中世に至るまでの多量の遺物が出土した。(『タテチョウ遺跡発掘調査報告書』Ⅰ　1979)

県土木部の河川改修工事予定地の取得完了（昭和58（1983）年７月），松江市立第二中学校移転，「松江圏都市計画事業北部土地区画整理事業」伴い，県教委と県土木部とで再三協議の結果，昭和59（1984）年度と昭和60（1985）年度の２箇年にわたって調査を実施することとなった。この調査では，木製品を含む多量の遺物が出土し，これらの整理に約２年を要した。(『タテチョウ遺跡発掘調査報告書』Ⅱ　1987)

また，昭和60年この調査区の北隣接地で松江市の事業である橋梁架設工事が予定され，松江市教育委員会による発掘調査が行われた。また，県教委でもその周辺2,000㎡を昭和62（1987）年度に調査することになり，同年５月６日から翌63年の１月12日まで発掘調査を行った。

昭和63年度になると，楽山橋上流方面の対岸側に調査区を移して2,000㎡について調査を実施することになった。発掘調査期間は同年４月11日から12月24日までの約８ヵ月であった。この調査区からも，縄文時代から中世に至るまでの多量の遺物が出土し，出土遺物の整理には約１年を要した。(『タテチョウ遺跡発掘調査報告書』Ⅲ　1990)

平成２年度も，引き続き昭和63年度調査区の上流側の調査を続行し，同年７月５日から12月21日

まで1,600㎡について調査を行った。また，同年，この調査区上流加羅加羅橋南側で，松江市の事業である橋梁架設工事が予定され，松江市教育委員会による発掘調査が行われた。

平成３年度は，前年度調査区上流側2,000㎡について４月22日から８月５日まで調査を行った。また，加羅加羅橋上流側に位置する原の前遺跡及び，西川津遺跡Ⅱ区の遺跡範囲確認のための予備調査を９月２日から10月16日まで併せて実施した。

本報告書は，平成２・３（1990・1991）年度発掘調査の報告である。

第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史的環境

タテチョウ遺跡は，松江市西川津町にある。この遺跡は，松江市の東郊に位置し，市の北東部澄水山麓に流れを発し，市街の東辺を南下して大橋川に注ぐ朝酌川沿いの沖積地に立地している。遺跡の範囲は南北約300m程の広がりを持つと考えられ，遺跡付近の標高は約１mである。朝酌川の上流部，本遺跡の北東約1.5kmには西川津遺跡があり，また，西川津遺跡と本遺跡の間にも原の前遺跡と称する遺跡の存在が知られている。朝酌川をはさむ平野周辺の丘陵先端部には，金崎古墳群をはじめとして多くの古墳が存在する。

本遺跡周辺では，現在のところ旧石器時代の遺跡は知られていないが，タテチョウ遺跡，西川津遺跡において，尖頭器[註1]や細石刃核[註2]と考えられる石器が出土しており，将来，付近で旧石器時代の遺跡が確認される可能性も考えられる。

縄文時代の遺跡としては，金崎遺跡，城の越遺跡，西川津遺跡などが知られている。本遺跡北側丘陵上に位置する金崎遺跡では深鉢土器が出土しているほか，城の越遺跡では晩期の土器片が採集されている。朝酌川上流部に位置する西川津遺跡は昭和55年から発掘調査が行なわれており，縄文～弥生時代のものを中心とした多量の遺物を出土している。縄文時代の遺物としては早期末の繊維土器をはじめ，前期，晩期の土器や石器類が多量に出土しており，この地域における縄文時代人の生活の痕跡を伺うことができる。

弥生時代の遺跡としては，西川津遺跡をはじめ，朝酌川南岸丘陵麓にある貝崎遺跡，橋本遺跡などが知られている。西川津遺跡で出土した弥生時代の遺物には前期から中期にかけての多量の土器類をはじめ，木製品，石器，骨角器などが見られる。また，小丸山古墳群のある丘陵上をはじめ，朝酌川上流部北側の丘陵裾部標高20～30mに位置する芝原遺跡，坂本中遺跡，持田神社前，本遺跡南側楽山の麓に位置する橋本遺跡からは少量ながら弥生土器片が出土しており，集落跡の存在が推定される。西川津遺跡と本遺跡の間に位置する原の前遺跡では昭和62年に試掘調査が行なわれ，弥生土器片が出土している。しかし，現在のところ本遺跡周辺での集落跡や，墓の存在は知られておらず今後の調査による発見が期待される。

古墳時代の遺跡としては，本遺跡周辺部の丘陵上に見られる数多くの古墳をはじめ，集落跡が知られている。

この地域における大型の前期古墳の存在は，今のところ知られていないが，古い様相を示す古墳としては，木棺直葬形態をもつ道仙古墳群，箱式石棺と礫床をもつ小丸山古墳群など一辺10m程度の方墳が，本遺跡北方の丘陵先端部に見られる。

中期に入ると本遺跡東側丘陵上にある山崎古墳をはじめとして，一辺20m未満の方墳が相当数築造されるようになる。その一方で，直径30m以上に及ぶ大源１号墳，宮垣古墳など大型の円墳や，全長20～30m前後に及ぶ前方後方墳を含む金崎古墳群，薬師山古墳が本遺跡北側の丘陵上に築造されており，比較的大規模な古墳が見られるようになる。中でも，全長35mに及び，竪穴式石室を内蔵し，倣製内向花文鏡，滑石製異形子持勾玉，碧玉製勾玉，同棗玉，同管玉などの玉類のほか，金環，須恵器などの豊富な副葬品が出土している金崎１号墳は特に有名である。

出雲地方の後期古墳の特徴の一つとされる石棺式石室は，この地域に多く見られ，東持田町の佐々木亮宅畑中古墳，野津真宅前古墳，加佐奈子古墳，佐々木浅市宅裏古墳，加美古墳，上東川津西宗寺古墳などが丘陵裾部に築造されているが，整正のものは殆ど見られず，石棺式石室亜流と称されるものが多い。出雲地方に多く見られる横穴墓は，この地域では比較的少なく，穴の口横穴群や鍛冶屋谷横穴墓群などわずかしか知られていない。この地域の後期古墳でも特殊なものとしては，片袖式の横穴式石室を持ち全長50mにも及ぶ大型の薄井原古墳や，中国地方の平野部では珍しい袖なしの横穴式石室を持つ岡田薬師山古墳などが知られている。

本遺跡周辺の標高30m程度の低丘陵上の斜面には集落跡も見られ，住居跡18棟を検出した堤迫遺跡や柴遺跡が知られている。

律令制下においては，この遺跡の周辺地域は島根郡山口郷と呼ばれたものと考えられる。[註3] 朝酌川の支流福原川沿いの微高地にある芝原遺跡は，墨書土器や建物跡などから島根郡家に比定されている。また，昭和53年にタテチョウ遺跡で発見された「驛」の墨書銘入り須恵器は，この地域における駅家の存在を推測させる。また，持田川流域条里制遺跡として，奈良時代の水田状況が残された遺跡が知られているが，分布調査では，縄文土器，須恵器が出土している。[註4]

律令制の崩壊から中世への移行期におけるこの地域の状況は，よくわからないが，平安時代の遺跡としては坂本町坊床廃寺があり，瓦類や蔵骨器が採集されている。また，昭和62年度のタテチョウ遺跡の発掘調査では平安時代の河道跡を検出している。

中世になると，律令制下の山口郷は長田郷と呼ばれるようになる。[註5] 長田郷は，成立当初より東郷と西郷に分かれていたと推測され，[註6] 鎌倉時代にはこの地域の在地領主であった長田氏一族によって支配されていた。鎌倉時代の末期，本遺跡周辺の長田西郷は，荘園領主万里小路家の派遣した雑掌と地頭長田氏らによって支配が行なわれており，市成地区楽山北麓にある「政所」の地名は，この雑掌の支配拠点の痕跡であろうと思われる。[註7]

南北朝～室町時代になると，長田東郷は朝山氏に支配が移り，西郷は，従来の長田一族か，もしくは佐々木一族による支配が行なわれたものと推測される。

戦国時代に入り，尼子氏の領国支配が進展するなかで，この地域は多賀氏の支配に入っている。[註8]

1. 金崎古墳群
2. 城の越遺跡
3. 原の前遺跡
4. 西川津遺跡
5. 貝崎遺跡
6. 小丸山古墳群
7.,芝原遺跡
8. 坂本中遺跡
9. 持田神社
10. 橋本遺跡
11. 道仙古墳群
12. 山崎古墳
13. 大源古墳群
14. 宮垣古墳
15. 薬師山古墳
16. 佐々木亮宅畑中古墳
17. 野津真宅前古墳
18. 加佐奈子古墳
19. 佐々木浅市宅裏古墳
20. 加美古墳
21. 西宗寺古墳
22. 穴の口横穴群
23. 鍛冶屋谷横穴墓群
24. 薄井原古墳
25. 岡田薬師山古墳
26. 堤廻遺跡
27. 柴遺跡
28. 坊床廃寺
29. 和久羅山城

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡　（国土地理院 加賀・松江 1：25000）　25000)

尼子支配の末期になると，この地域周辺では戦いがくり返され，本遺跡近辺でも，尼子方にあった多賀氏の和久羅山城をめぐって尼子，毛利両軍が戦いを交えている。この時期，まだ本遺跡付近は，朝酌川河口部であったといわれる。

註１　『タテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』　島根県教育委員会　1990年
註２　『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ　海崎地区１』　島根県教育委員会　1987年
註３　「出雲国風土記」　内田律雄　『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ　海崎地区１』　島根県教育委員会　1987年
註４　『小丸山古墳群』　松江市教育委員会　1986年
註５　山本清　『川津郷土誌』　1982年
註６　文永８，11月日　「関東御教書」「千家文書」『新修島根県史史料編１』
註７　元応２，３，２，「関東下知状」「飯野八幡宮文書」『史料纂集古文書編』
註８　井上寛司　「中世の朝酌川流域」『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ　海崎地区１』　島根県教育委員会　1987年

第Ⅲ章　遺　跡　の　概　要

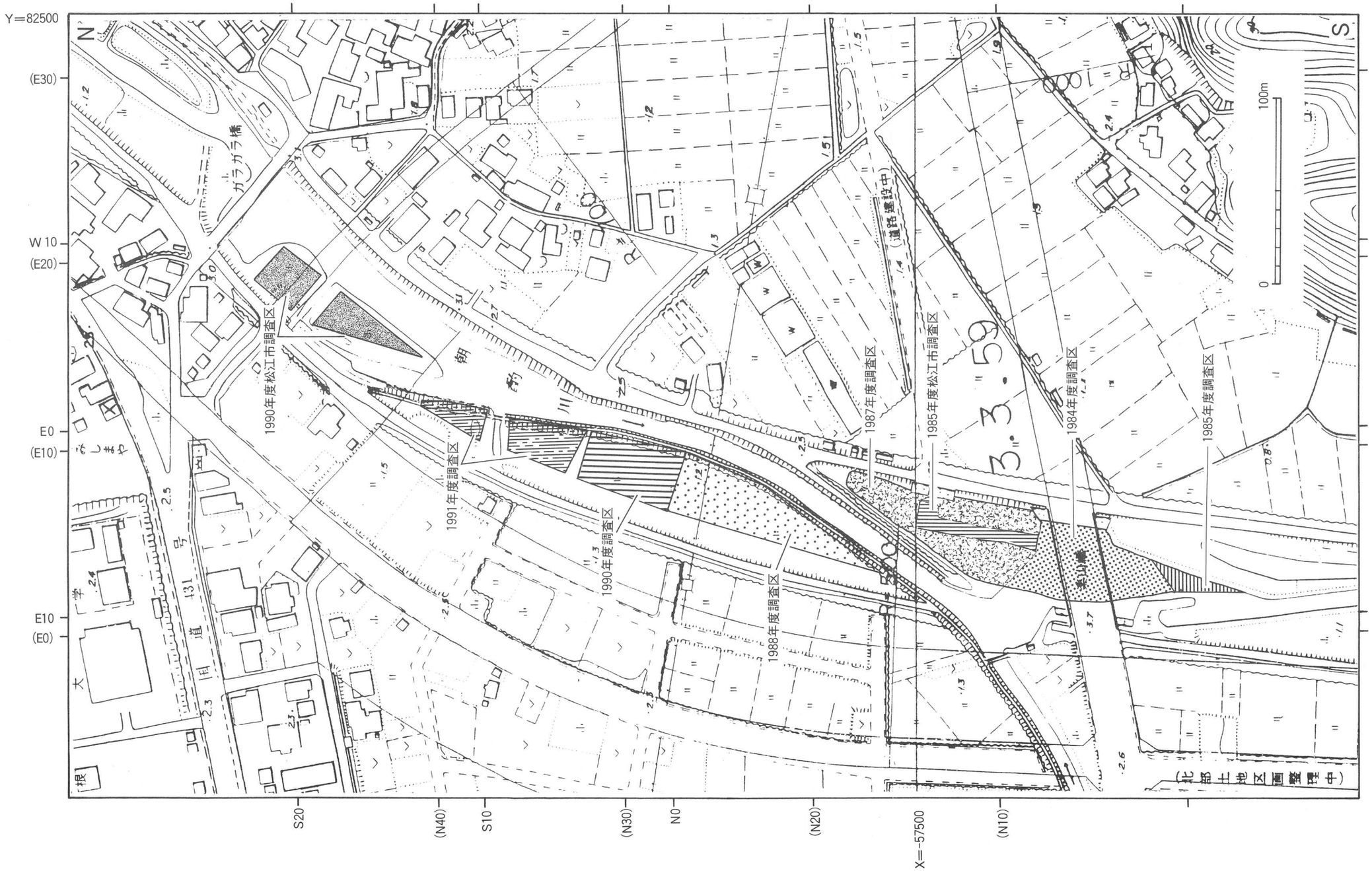
(1)　調査の経過

今回のタテチョウ遺跡の現地調査は，1990年（平成２年）７月５日から12月21日までと，1991年（平成３年）５月１日から８月６日までの２ヵ年にわたって実施した。このうち1990年度の調査区は，1988年度調査区の北側隣接地に約1600m²を設定し，旧河道３本の他，しがらみ状遺構を検出した。また，1991年度は1990年度松江市調査区との間に約1700m²を設定し，旧河道を検出した。これらの調査区は1977年度（昭和52年度）の第Ⅲ・Ⅳ調査区を含んでいる。グリッドの設定は，国土座標を使用したが，現地調査前の準備不足のため，1984～1988年度調査区のものとは異なるものになってしまった。すなわち，座標軸X＝－57,320,000　Y＝82,280,000の交点をN0E0とし，南に向かってN1，N2…，西に向かってE1，E2…と呼び，各方眼の北東の交点をグリッド名とした。従って，N0E0は1988年度のN32、5E11に当たる。

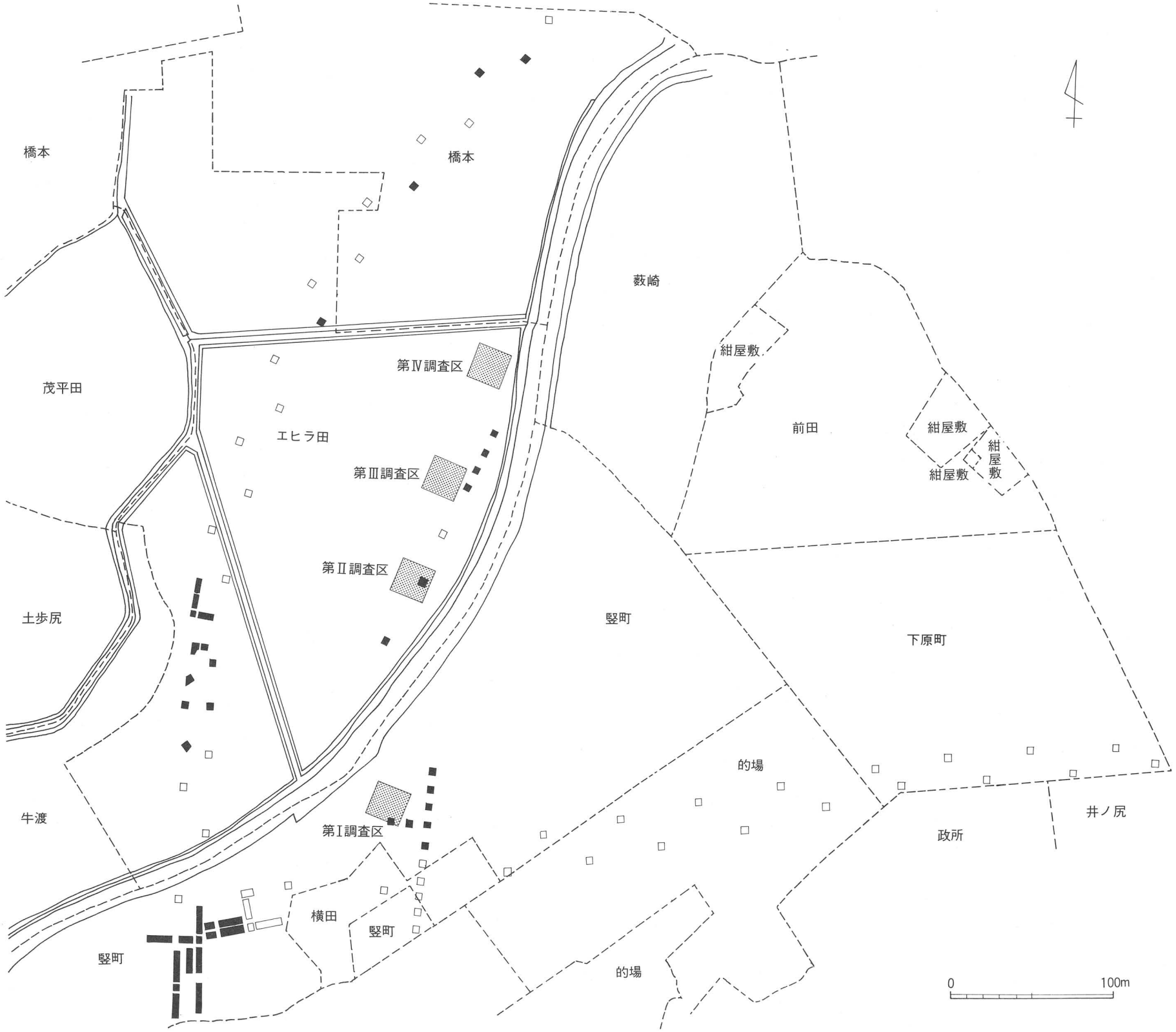
1990年度の調査では，前年度までの調査成果を参考に，上層の耕作土・粘質土部分を重機により除去し，暗青灰色砂質土より下層を人力により掘削した。また，旧河道が検出されることを想定して，調査区北端に東西にトレンチを設定し，土層の確認に努めた。その結果，遺物包含層の状況と河道１を確認したが，その後トレンチに掛からなかった部分から河道２・３が相次いで検出され，その都度調査方針を変更せざるを得なくなった。1991年度の調査区は，調査範囲中程に農業用水用の水路があるため，調査区も南北に二分し，南側をⅠ区，北側をⅡ区と仮称した。この年度の調査でも，上層の耕作土・粘質土部分を重機によって除去した後に人力による掘削を開始している。前年度の調査により，土層がかなり複雑に堆積していること，旧河道が更に増える可能性が高いことが推定されたため，調査区端の４辺にトレンチを設定し，旧河道等を確認した上で掘削を開始した。この結果，南側の第Ⅰ調査区で河道４を検出することができた。

現地調査が終了した1991年８月より出土遺物の整理，報告書の作成を開始した。遺物は，洗浄・注記の終了したものから総てに目を通し，実測可能なもの，特異なものを抽出し，実測するものを決定した。また，この作業と並行して，木製品の一部と河道４埋土中で採集した自然木から樹種鑑定用のプレパラートを作成する作業を行った。

この間，将来の調査に備え加羅加羅橋上流側に当たる原の前遺跡右岸と，西川津遺跡Ⅱ区の学園橋までの部分について遺跡の範囲確認調査を行った。この調査では，両遺跡で合計６ヵ所のトレンチを設定し，総てのトレンチから遺物が出土した。



第２図　調査区配置図（松江圏都市計画1991　1:2500　1987に加筆）



第３図　1977年度調査区配置図

(2) 遺構の概要

1990・91年度の調査では，４本の旧河道の他，２本以上の小さな自然流路を検出した。また，土層の堆積状況より，遺跡全体が河川堆積層であったことを確認した。

1990年度の調査では，1988年度の調査結果により，土層の堆積状況が非常に複雑であることが予想されたため，調査区北端にトレンチを入れ土層の確認に努めた。その結果，耕作土・暗褐色粘質土・灰褐色粘質土を除去後，多量の遺物を含んだ暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層が検出された。しかし，調査が進展して行くにしたがって，この調査区では暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層は調査区全面には広がらず，南東隅では自然流路（河道３）によって削られていることが判明した他，砂礫層を含んだ土層中にも何本かの自然流路が存在することが判った。そのため，各自然流路毎に掘削を行い，自然流路の掘削終了後に流路に伴わない遺物包含層を掘削することとした。

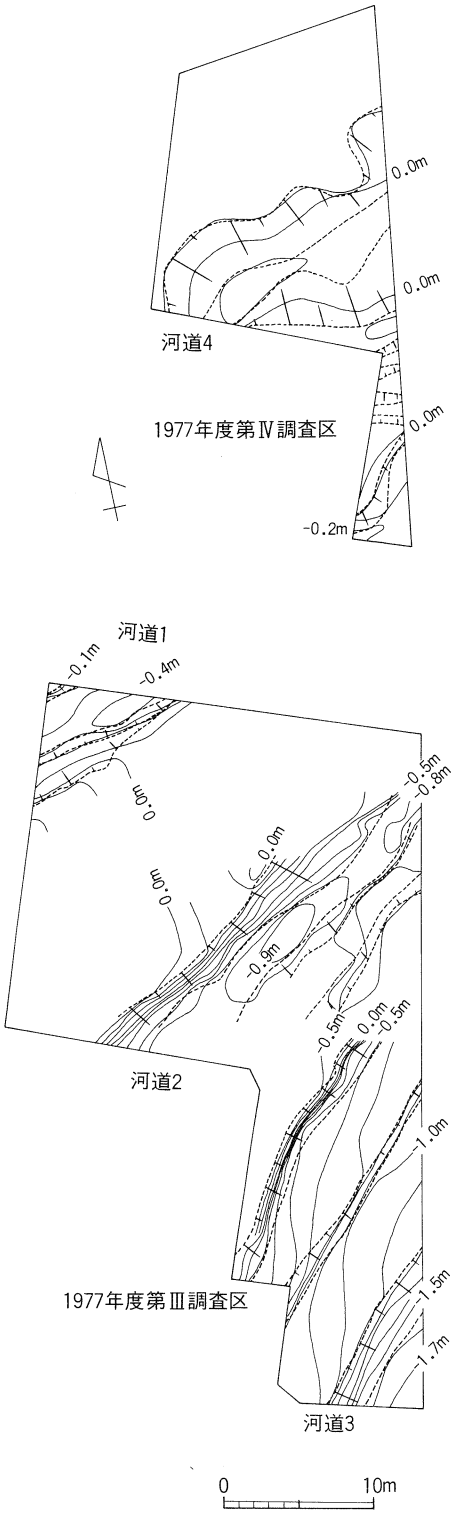
1991年度の調査でもトレンチにより，自然流路（河道４）の存在が確認され，1990年度と同様に自然流路毎の掘削を行っている。

旧河道に伴わない遺物包含層

旧河道以外の遺物包含層部分は，各調査区の北西側と1991年度第Ⅱ調査区に広がっている。暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層を中心に多数の土器・石器類を出土しているが木製品は旧河道内に比べ少ない。土器類は弥生時代前期の土器を中心に縄文土器から土師器までを含んでいるが須恵器は殆ど見られなかった。1990年度調査区の暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層より下層は，無遺物層である青灰色細砂層までの間に砂層が見られる部分があり，弥生時代前期の土器が少量出土している。この砂層内から出土する土器は，殆ど弥生時代前期に集中しており，破片も比較的大きなものが多い事から，比較的近くの弥生時代前期の遺跡から流入してきた物と考えられる。

今回の調査では最も上流にあたる1991年度第Ⅱ調査区では旧河道は検出されず，暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層の堆積も薄い状態であった。暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層の直下に無遺物層である青灰色細砂層が見られ，全体に遺物の出土量が少なかった。1991年度第Ⅱ調査区で出土した遺物の中には須恵器・木製品は見られず，土師器も僅かしかなかったが，縄文土器・弥生時代前期の土器の割合が多かったことが注意される。1991年度第Ⅱ調査区で出土した縄文土器・弥生土器は，いずれも水磨を受けた小片がほとんどであった。1988年度調査では1.5㎞離れた上流の西川津遺跡出土弥生土器とタテチョウ遺跡出土土器が接合した例があり，1991年度第Ⅱ調査区の遺物は，上流の西川津遺跡等から流れてきたものである可能性もある。

なお，1991年度第Ⅱ調査区にはコンクリート片等が詰まった大きな土壙が開けられており，広い範囲で攪乱を受けていた。



第４図　河道検出状況（１：500）

河道３（第４図　図版４）

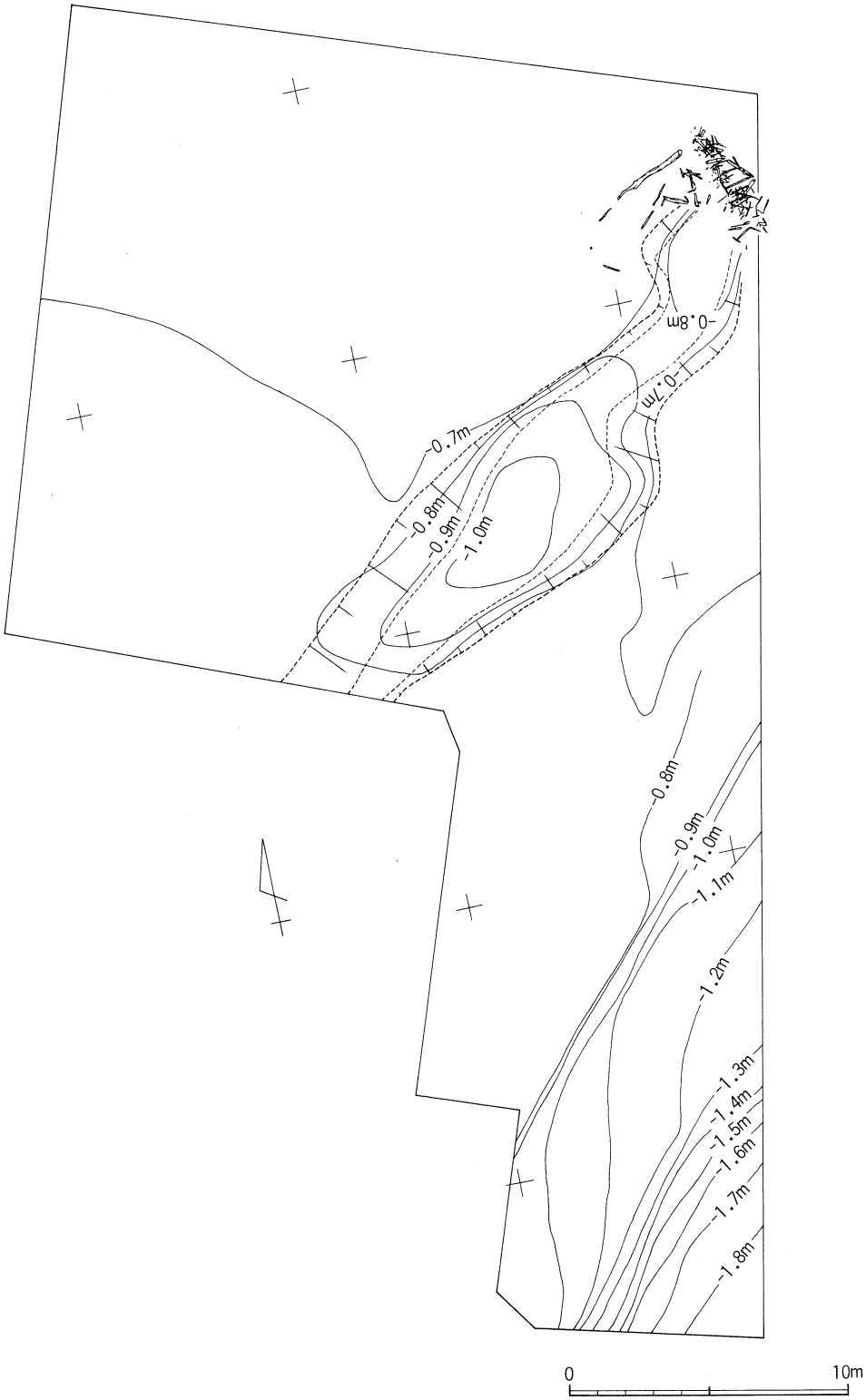
河道３は1990年度調査区の南東に，北東から南西に向かって検出された自然流路で，検出した最深部の標高は標高－1.3m，検出面肩部から底部までの比高差は1.1mにもなる。東岸は検出できなかったが，土層がいずれも東に大きく傾斜して堆積していたことから，河道の中央は調査区より東を流れる現在の朝酌川内にあったと考えられる。標高－0.6m付近には幅２m程の平坦面が広がっており，河岸段丘状になっている。肩部付近の傾斜はその後に検出した他の自然流路に比べ急傾斜になっている。河道３の埋土は砂層を縞状に挟み，植物質を含んだ粘質土である。この堆積は，砂礫層が多量に堆積した他の自然流路とは堆積の仕方が異なるように見える。すなわち，砂礫層の堆積は水流の強い力により一度に堆積したと考えられるのに対し，粘質土の堆積は澱んだような状況で時間をかけて堆積したと思える。

河道３から出土した遺物には，縄文土器は全く見られず，弥生土器・土師器・石器の出土も少量に止どまった。しかし，河道３の底面にはわずかに砂層が見られ，砂層とその直上の粘質土内からは，ほぼ完形を保つ須恵器や，曲物等の木製容器類が出土し，河道３の埋没時期は９世紀後半から10世紀初め頃と推定される。

河道３は検出位置や出土遺物から，1988年度調査の第２河道に続くものと考えられる。

河道２（第５図　図版３）

河道２は1990年度調査区のほぼ中央を北東から南西に横断する自然流路で，検出した部分の最大幅約９m，肩部から底部までの比高差約1.0m，最深部の標高－1.1mを測る。東岸は河道３に切られており，最大幅は更に広かったものと思える。



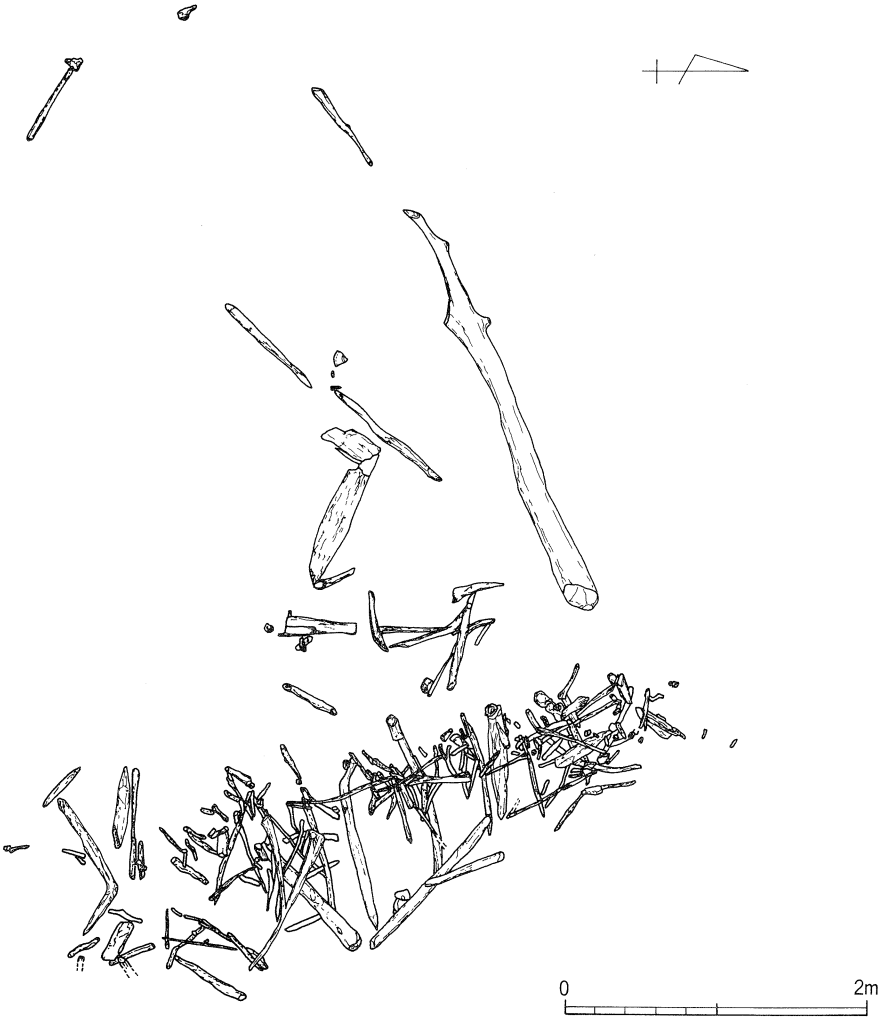
第５図　河道２完掘状況（１：250）

埋土は青灰色砂礫層が厚く堆積しており，植物質を含む薄い粘質土や砂層が縞状に見られる。青灰色砂礫層中には土器片を中心とした多数の遺物を含んでいた。

自然流路底面には50cm程もある円礫が見られる部分があったほか，50本以上にも及ぶ杭が打ち込まれていた。杭は河道２東岸にあたるN3E1付近に集中して見られ，N1E0付近からは，多くの立ち杭や小枝を絡ませた施設が検出され，しがらみ状遺構と呼んだ。

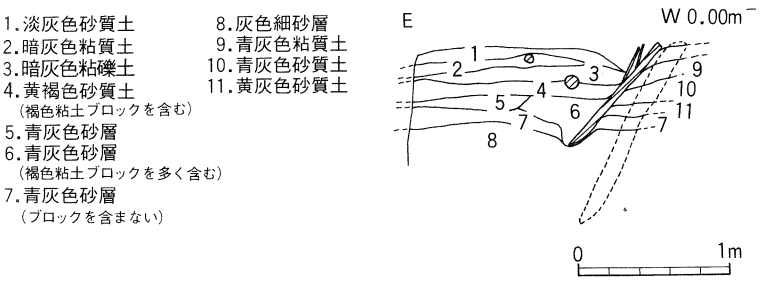
しがらみ状遺構（第６～８図　図版９）は1990年度調査区の北東隅にあり，約２ｍにわたって河道２を横切る形で設置されていた。

しがらみ状遺構は直径約10cm，長さ約２ｍの杭，小枝を落とし先端を尖らせた長さ30cm程の細い棒，小枝をそのまま使用した横木等を組み合わせたもので，約50cm間隔で打ち込まれた杭の間に細



第６図　しがらみ状遺構平面図（１：50）

い棒を立て並べ，それに沿わせて横木を置いたものである。全体に大きく西に傾斜しており，水圧により傾いたことが予想される。土層断面を見ると，しがらみ状遺構より西側は青灰色細砂層が堆積しており，河道２の底面より下層の状況と同様だが，東側は砂礫層が深く潜り込んだように堆積しており，東側から流れてくる流路をせき止めるように設置されていたと考えられる。



第７図　しがらみ状遺構付近土層断面図（１：50）

しがらみ状遺構東側の深く落ち込んだ部分からは，ほぼ完形を保つ須恵器長頸壺（SU-75）が出土しており，この須恵器は８世紀代のものと推定される。このことよりしがらみ状遺構の埋没時期は８世紀代と考えられる。

河道２の東岸，しがらみ状遺構南側には前述の通りに多くの杭が打ち込まれていたが，その周辺からも完形に近い須恵器が多く出土している。それらはしがらみ状遺構で出土した須恵器とほぼ同時期のものと考えられ，河道２の埋没年代は８世紀代と考えられる。

河道１（第４図　図版２）

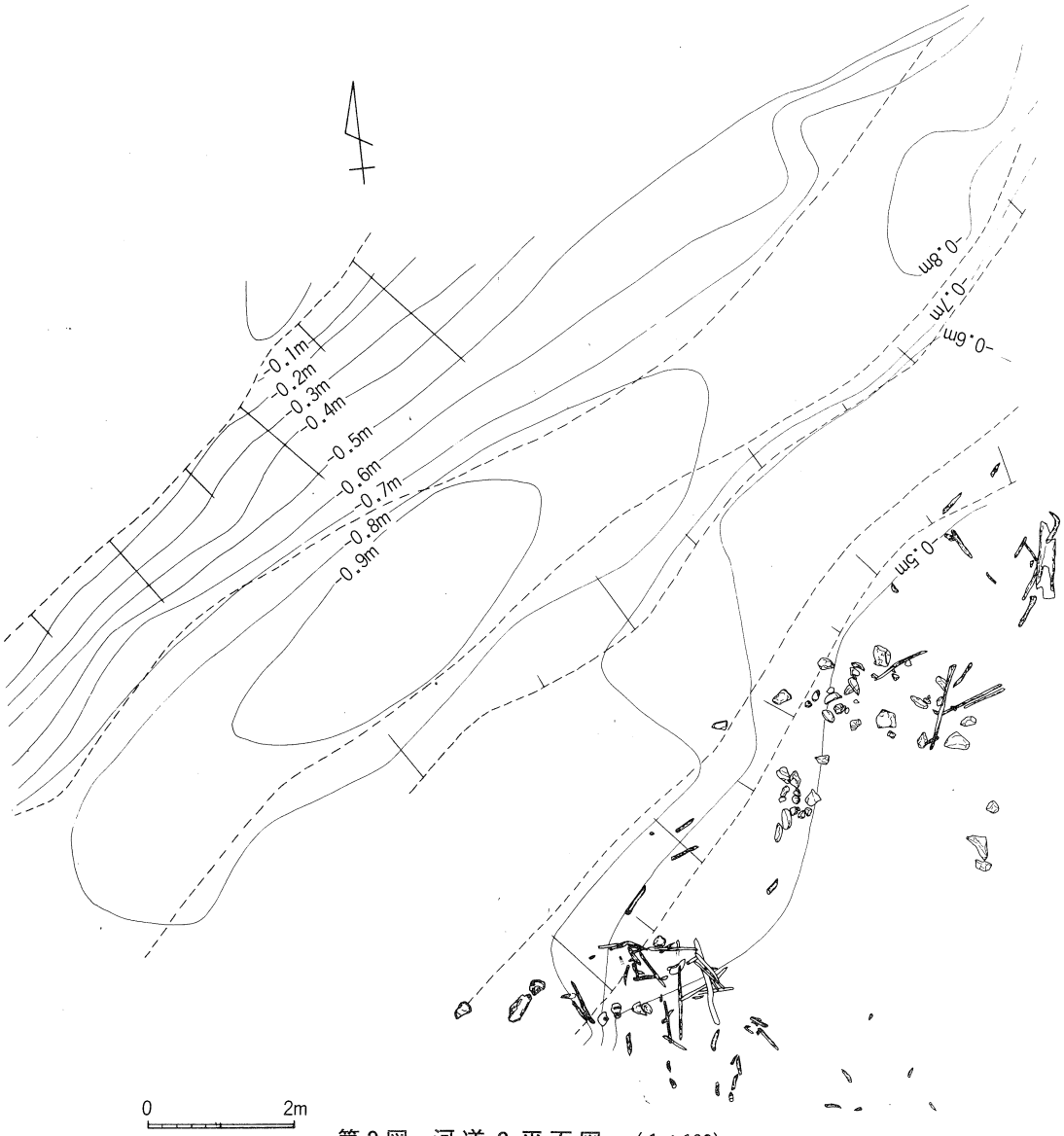
河道１は，1990年度調査区の北西隅に掛かった小さな自然流路で，土層断面により確認された。河道２・３と同様に北東から南西に向かって伸びており，西側で大きく広がっている。広がった部分での最大幅約５ｍ，検出面肩部から底部までの比高差約30㎝，最深部の標高－0.4ｍを測る。南東岸の標高－0.1ｍ付近には幅約２ｍの平坦面が見られ，段をもっている。埋土は，底面に，植物の腐食によると思われる粘質土が薄く堆積している他は，自然流路に伴わない遺物包含層と同様の青灰色砂礫層であった。出土遺物は，他の旧河道に比べて少なく，縄文・弥生土器を中心に少量の

第８図　しがらみ状遺構立面図（１：50）

土師器を含んでいる。出土遺物は小片が多く，河道１の埋没年代を示すものは見られなかった。

河道４（第10・11図　図版５・６）

河道４は1991年度第Ⅰ調査区中程を横断する大きな自然流路で北東から南西に向かい，S2ライン付近で南に大きく流路を変えている。南側については，S52年度第Ⅳ調査区内に向かって延びており，1990年度調査区との関連は判らない。S2E0付近での幅は約７ｍで流路が南に変わる部分では約４ｍまで狭くなる。検出面肩部から底部までの比高差約30cm，最深部の標高－0.3mを測る。土層の堆積状況は非常に複雑で，堆積・侵食を何回か繰り返しており，植物の腐食土や粘質土が砂礫



第９図　河道２平面図　（1：100）

層の間に挟まれている。腐食土層下面の砂質土中には多量の自然木が堆積している部分が見られた。この部分は，S3E0・S2E0付近を中心にしており，流路が方向を変える部分にあたり，上流から流れてきたものが澱みに溜まったまま堆積したものと考えられる。これらの中には，木製品や土器類も含まれており，特に鼓形器台（63－150）が完形を保ったまま出土しており，河道４の埋没時期を推定させるものになっている。

S2E1とS3E1には河道４と同時に埋没したと思われる土壙２基が見られる。いずれも直径約１m，深さ約30cmの不整円形を呈している。S3E1付近は元々遺物包含層が薄く，この土壙も無遺物だったが，S2E1のものには，河道４と同様に自然木が堆積しており，河道４が流れていたころに同時に開いていた土壙で，河道４と同時に埋没したものであろう。自然流路に比較的近く，土層の堆積状況や遺物の出土状況から人為的に掘られた土壙とは考えられず，倒木等により自然にできたものであろう。

その他の自然流路（第11図）

河道４の南側は，S52年度第Ⅳ調査区によって切られているが，残る部分には10cm間隔の等高線にも現れない小さな自然流路が何本か確認されている。S1ライン付近に見られる２本の流路は，いずれも幅２m，深さ10cm以下の小さなもので，河道４とほぼ並行し，東西方向に走っている。遺物包含層部分と同様の青灰色砂礫層が埋土となっており，河道４の上層部分とは層位的な違いは見られない。

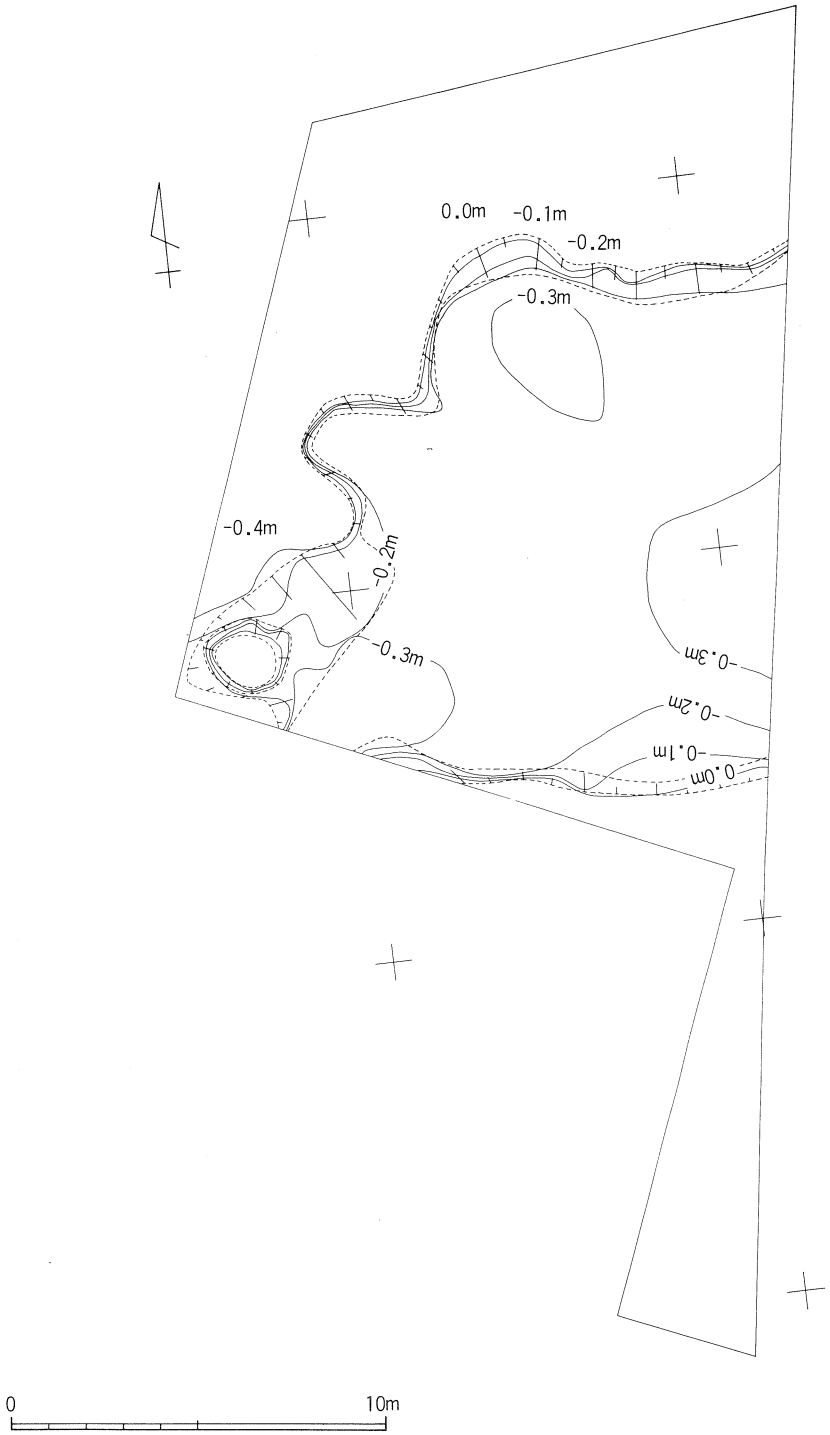
S1E0付近を北東－南西方向に走る自然流路は他の２本に比べ，やや大きなものになっている。検出面肩部から底部までの比高差は約30cmあり，最深部の標高は－0.3mを測る。東岸は調査区内では確認できず，大きな河道であった可能性も考えられる。埋土は，青灰色砂礫層を主に，粘質土や砂層が複雑に堆積していた。縄文・弥生土器片が多く出土し，規模や方向などから1990年度調査区の河道１とつながる可能性があったが，矢板工事の都合により調査区の間隔が開いてしまったため不明である。

河道２・３の埋没年代は前述したとおりであるが，他の自然流路に関しては各時代の遺物が混在しており，その年代を決めにくくなっている。

河道４は埋土に土師器類が含まれていることにより，古墳時代初頭をさか上ることは考えられない。また，河道４からは須恵器類が出土していないことから，古墳時代前半代に埋没したことが推定される。河道４周辺の小さな自然流路や土壙も河道４と層位的には明確な違いが見られないことから，それに近い時期に埋没したものであろう。

河道１はその上層に河道２の埋土を被っているので，少なくとも８世紀代までには埋没していたはずである。出土遺物も1991年度の河道４とほぼ同様であり，古墳時代の前半期に埋没したもので

第10図　河道４検出状況　（1：200）

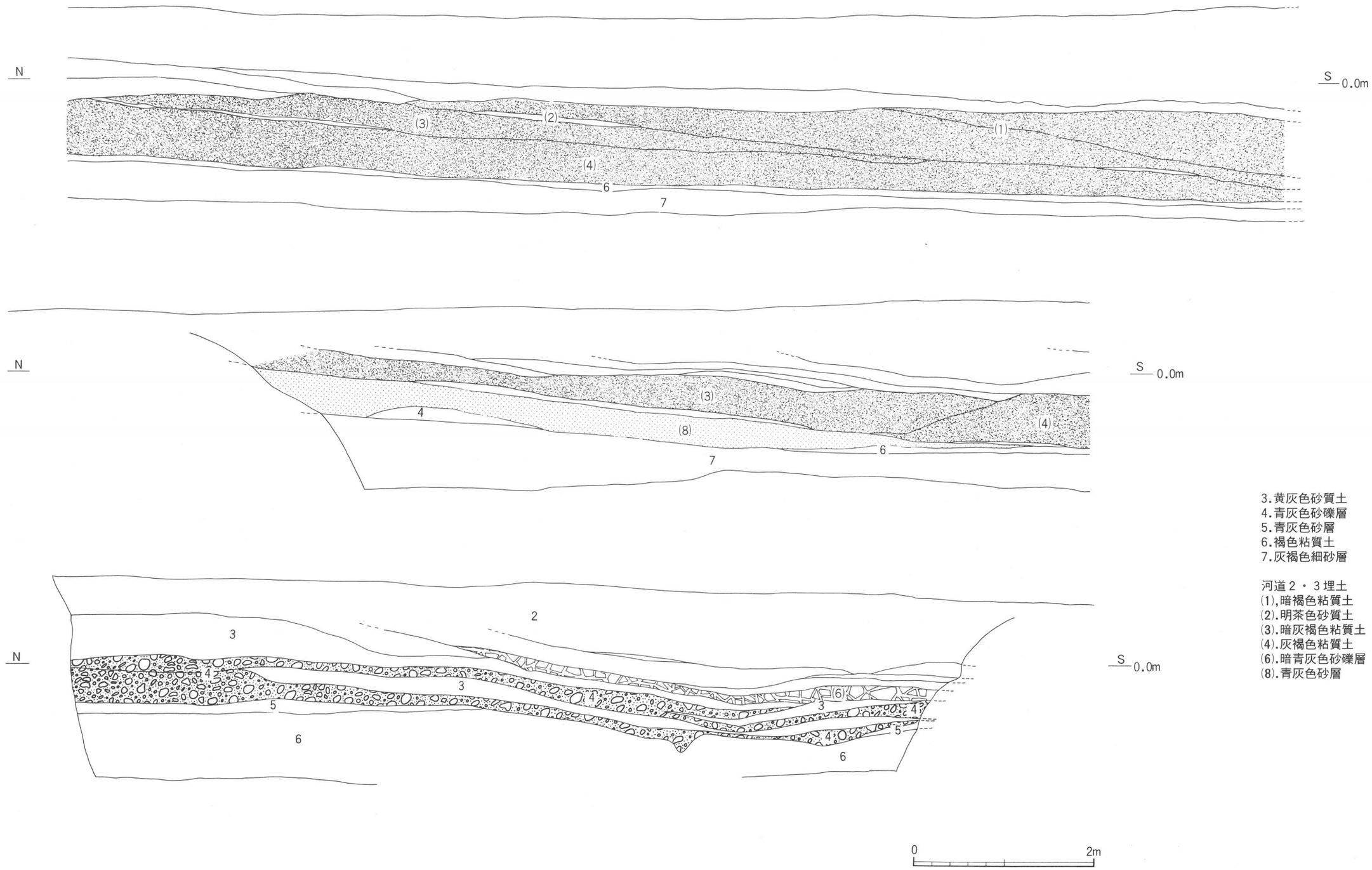


第11図　河道４平面図　（1：200）

あろうか。

1990年度調査区の河道以外の遺物包含層と1991年度の調査区では，須恵器類はほとんど出土していない。また，いずれの自然流路も遺物包含層を掘り込んでおり，遺物包含層である暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層の堆積時期は少なくとも古墳時代前半期以前であろう。

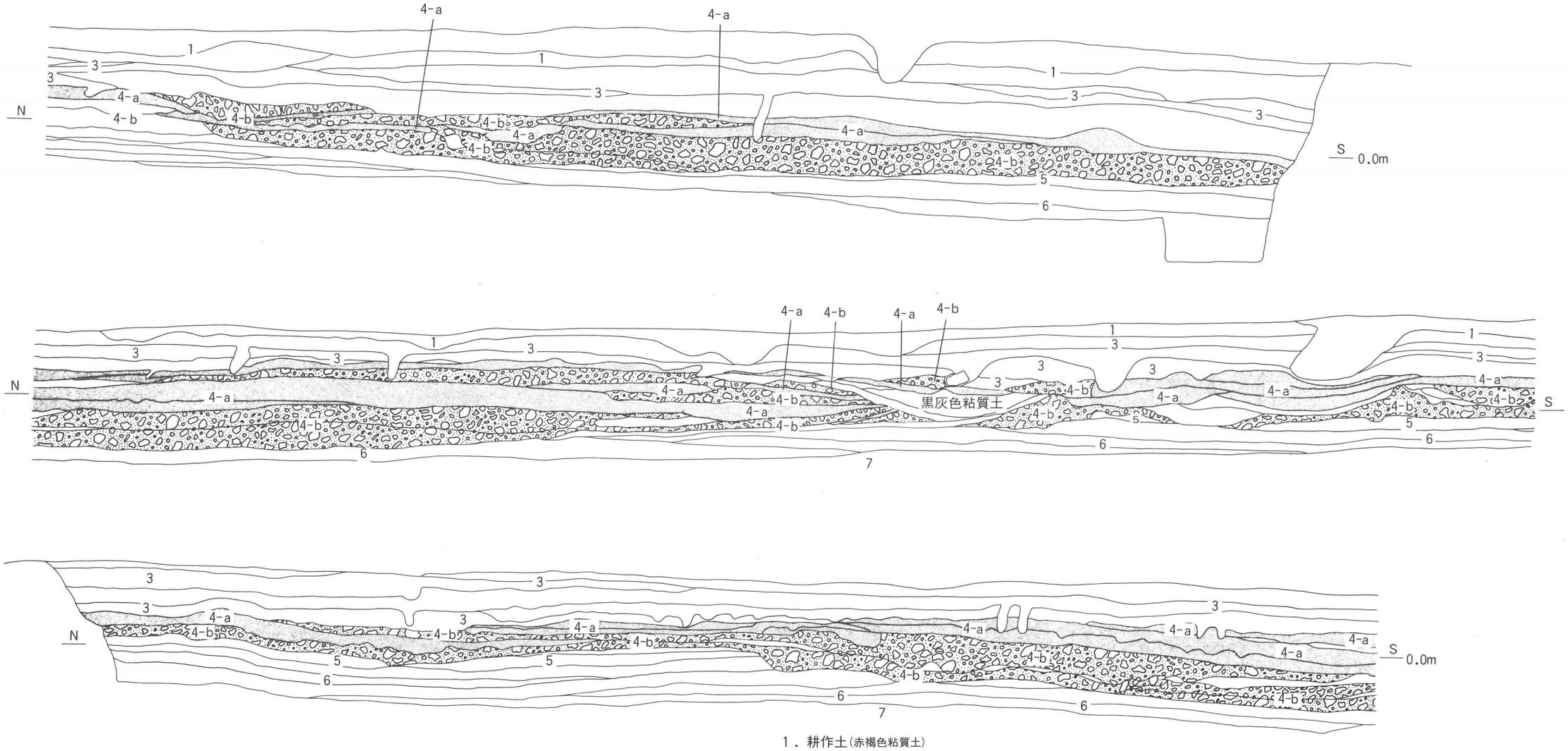
以上の事より，タテチョウ遺跡の土層は次の順序によって堆積したと考えられる。①青灰色細砂層が堆積している。その上層に弥生時代前期の土器を含む砂層が堆積する。②青灰色細砂層を削りながら青灰色砂礫層が堆積，さらにその上に暗青灰色砂質土が堆積する。③青灰色砂礫層・暗青灰色砂質土を削りながら，河道1・4が流れ，古墳時代前半期に埋没する。④青灰色砂礫層・暗青灰色砂質土を削りながら，河道2が流れ，しがらみ状遺構が設置される。8世紀代になって埋没する。⑤河道2の埋土を削りながら河道3が流れる。河道3は9世紀後半から10世紀初頭に埋没し，現朝酌川に近い状況になる。また，今回の調査では1988年度に検出した室町時代の河道（第1河道）が検出されていない。この河道は1990年度調査区よりも更に東の現朝酌川内に含まれるものと思われる。



3.黄灰色砂質土
4.青灰色砂礫層
5.青灰色砂層
6.褐色粘質土
7.灰褐色細砂層

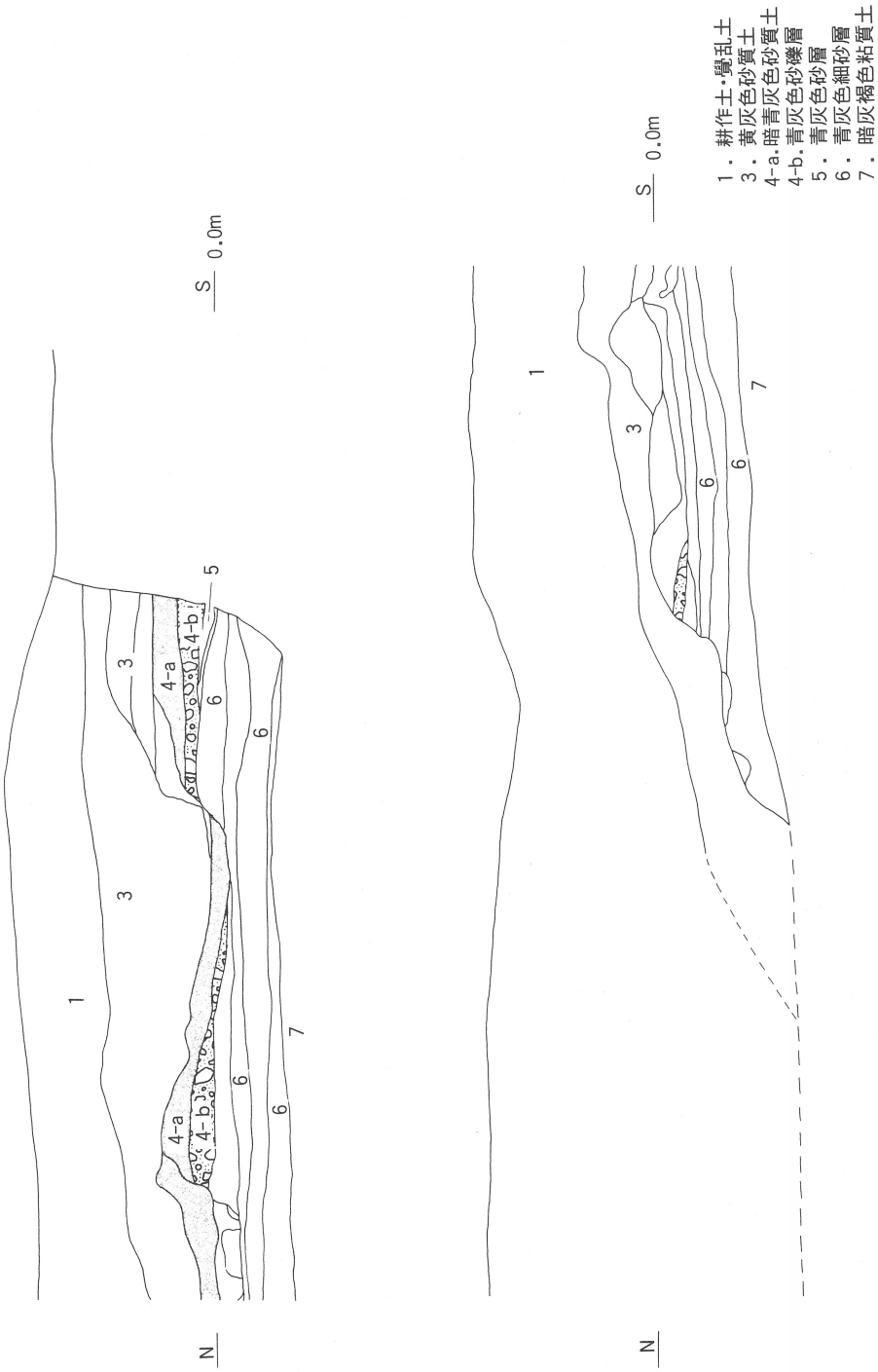
河道２・３埋土
(1),暗褐色粘質土
(2).明茶色砂質土
(3).暗灰褐色粘質土
(4).灰褐色粘質土
(6).暗青灰色砂礫層
(8).青灰色砂層

第12図　1990年度調査区東壁土層図　（1：50）

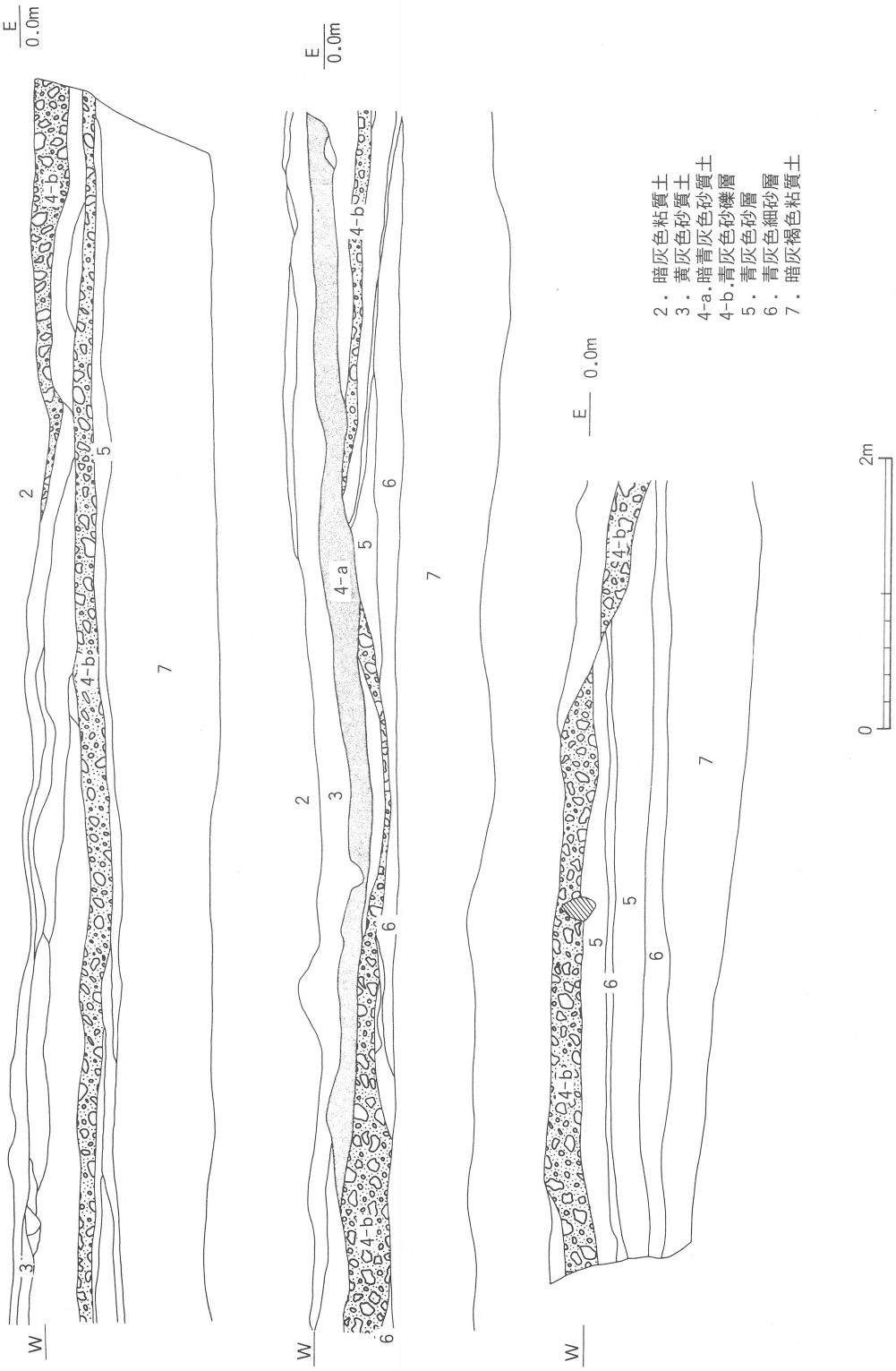


1．耕作土(赤褐色粘質土)
3．黄灰色砂質土
4-a.暗青灰色砂質土
4-b.青灰色砂礫層
5．青灰色砂層
6．青灰色細砂層
7．暗灰褐色粘質土

第13図　1991年度第Ⅰ調査区東壁土層図　（1：50）



第14図　1991年度第Ⅱ調査区東壁土層図（1：50）



第15図　1990年度調査区北壁土層図（1：50）

第16図　1990年度調査区土層断面図（1：50）

第Ⅳ章　出　土　遺　物

今回の調査でも，縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，ミニチュア土器等の土器類，土製品，石器，木製品，獣骨等多量の遺物が出土している。ここでは遺物の種類毎にまとめ，若干の説明と検討を行う。

なお，遺構の概要のところで述べられているように，遺物包含層以外に4本の河道が検出されており，本来ならば各遺構毎に遺物を掲載するべきであろう。しかしながら，一部の遺物を除き，遺構間での明確な違いを見い出すことができなかった。そこで，出土位置については，本文中でふれられるものはできるだけふれ，ふれられなかったものについては，観察表の備考欄に記載することとした。

1．縄　文　土　器

縄文土器は河道3を除く調査区の上層から下層までまんべんなく出土している。総点数は約350点を数えるが，その大半は摩滅した小片で，実測可能なものは少なかった。実測点数は170点，内図示したものは139点である。その内訳は早期末から前期初頭と考えられるもの35点，前期と考えられるもの10点，中期と考えられるもの5点，後期と考えられるもの15点，晩期と考えられるもの74点である。

(1)　早期末から前期初頭の土器（第17，18図　J-1～35）

早期末から前期初頭としたものはいずれも小破片であった。

胎土に繊維を含むもの（J-1・9・11・12・14）と胎土に繊維を含まないもの（J-10・13・15～35）がある。胎土に繊維を含むもののうち，J-1～8は繊維を多量に含んでいるが，それ以外のものは若干認められるという程度である。器面調整は内外面とも条痕，若しくは片面のみ条痕のものがほとんどであり，縄文地の繊維土器である。いわゆる「菱根式土器」は見られなかった。

胎土に繊維を含まないものには，無文のものと文様を施すものとがある。

無文のものには条痕地のものとナデ仕上げのものがある。無文条痕地の土器には平口縁のもの（J-10・13・16），波状口縁のもの（J-17），外面に肥厚帯を貼り付けたもの（J-21～23）がある。また，無文ナデ仕上げの土器には平口縁をもつもの（J-15），口縁外面に肥厚帯を貼り付けた波状のもの（J-26）がある。

文様の施された土器については，その文様によって条痕文土器，刺突文土器，押し引き文土器，

沈線文土器，隆帯文土器に分類した。

刺突文土器としたものには，半截竹管によるもの（J-18・27・32・33），貝によるもの（J-31），棒状工具によるもの（J-19），ヘラによるもの（J-30）の他，工具の判らないもの（J-20，28）が見られ，その施文位置や文様構成はさまざまである。器面調整は条痕地のものとナデのもの，その両者を施したものがある。

押し引き文土器としたものはJ-34・35である。J-34は内湾する胴部に斜めと水平方向の施文を行うものである。J-35は波状口縁を持つもので，隆帯の上下に山形に施文されている。

J-25は沈線文土器である。口縁外面に肥厚帯を貼り付け，その直下に斜めの平行沈線を引く。外面は条痕地，内面は凹凸の著しいナデで調整される。

J-29は隆帯文土器である。条痕地の胴部片で，刻み目を持つ横方向の低い隆帯が走る。摩滅のためはっきりしないが，隆帯は縦方向にもある可能性がある。

以上までに，早期末から前期初頭の土器と考えられるものについて述べたが，これらの土器と同様のものは，朝酌川の上流にあたる西川津遺跡[註1]で多量に出土している。

(2) 前期の土器（第18図　J-36～47）

J-36～49はD字刺突文，J-40・41は押し引き状のD字刺突文，J-43・44はC字刺突文を施すものである。これらの刺突文土器は羽島下層Ⅲ式に併行すると思われる。

J-42は半截竹管による2連1単位の押し引き文を施すもので，波状口縁をなす。

J-45はヘラで区画線を引き，その中にC字の連続刺突文を直線及び曲線状に施文するものである。内面はナデ調整を行う。J-46は胴くびれ部以下に縄文を施すものである。J-45・46は磯の森式併行のものと考えられる。

J-47は平口縁の深鉢で，口唇は平らに作り，内面は二枚貝条痕の後ナデで平滑にしている。外面は摩滅のため調整不明である。

(3) 中期の土器（第19図　J-48～52）

J-48はやや厚手の平口縁深鉢形土器である。地文に縄文を施し，外面に突帯文を貼り付ける。突帯文上には貝殻腹縁による刺突文を持つ。

J-49は口縁部の小片で，内湾するキャリパー形のものと考えられる。外面には沈線と円形刺突文によって作り出された波状文が見られる。

J-50・51は体部の小片である。外面に縄文，内面にナデを施している。

J-52は外面に素隆帯を貼り付け，円形刺突文で飾るキャリパー形波状口縁の土器である。端部内

面はやや厚く作られ，縄文が施される。船元里木様式併行かと思われる。

(4) 後期の土器（第19図　J-53～68）

J-54～56は中津式併行と考えられるもので，いずれも太い沈線文と磨消縄文を持つ。

J-53はJ-54～56より細目の沈線文を持つものであるが，著しく摩滅しており詳細は不明である。

J-57は外面に沈線文を施し，口縁端部内面を肥厚させたものである。福田KⅡ式併行と考えられる。

J-58・59は縁帯文土器である。J-58には蕨手状の沈線文が見られる。J-59は肥大した縁帯部分で，円形の刺突，沈線，刻み目を持つ。

J-60～64の土器は，元住吉山式併行と考えられるものである。J-60は細目の弧状沈線と磨消縄文が施される薄手のものである。口縁端部は内湾する。

J-61は口縁部断面が逆「く」の字状を呈し，波状口縁をもつものである。肥厚した口縁端部外面には沈線を引き，その下部に刻み目を加えている。

J-62は凹線文が施され，屈曲部外面に浅い刻み目を持つものである。

J-63は逆「く」の字状の平縁を持つ浅鉢と考えられる。外面には細い沈線と円弧状の貼りつけ隆帯を持つ。J-64も同様のものか。

J-65～68は逆「く」の字状口縁をもつ土器で，外面に凹線文が施される。宮滝式併行のものと考えられる。

(5) 晩期の土器（第19～23図　J-69～139）

J-69～82は晩期前半の深鉢，又は鉢と考えられるものである。

J-69は頸部がくびれ胴部に稜を持つもので，北九州市貫川遺跡出土のもの[註2]に類品が見られる。

J-70は口縁部がゆるやかに外反し胴部のやや張る深鉢である。外面は部分的に削った後ナデが施される。

J-71～77は口縁部が外反し，若干胴部の張る深鉢である。これらの土器には口縁内面，頸部外面に円形の刺突文が施されている。J-81はJ-71～77より口縁部が短く，胴部の張るものである。

J-78～80は鉢形土器である。J-71～77・81と同様に口縁内面に竹管状工具による円形刺突文を施している。

J-83は口頸部が内傾し，胴部との境に稜線を持つものである。

浅鉢と考えられるものにはJ-84～98がある。

J-84は口頸部を「く」の字状に屈曲させ，張り出した胴部に稜線を持つものである。波状口縁の

波頭部はリボン突起状を呈する。晩期前半のものであろう。

J-86～88は長頸の浅鉢である。J-86は長く外反する頸部に直立する短い口縁部をもつ。内外面ともヘラミガキが施される。J-87は口頸部が長く外反し，端部内面に沈線をもつものである。外面はヘラミガキ，内面はナデで調整される。J-88は口頸部が長く外反して，そのまま端部に至るものである。

J-89・90はボール状をなす浅鉢で，内外面ともヘラミガキを施している。

J-91は口縁部が短く外反し波状を呈するもの，J-92は口頸部が屈曲し胴部を張り出させ，口唇内面を肥厚させ段をなす波状口縁のものである。

J-93は口縁部内面に段をもつもの，J-94は碗形の体部に内傾する口縁のつくもの，J-95は口縁部が直立気味に外反し，口唇内面に不明瞭な沈線をもつものである。

J-96～98は浅鉢の底部になると思われる。

J-85は口縁部が直立気味に外反し，胴部の張り出す鉢形のものである。[註3]

J-99～139はすべて突帯文系の土器である。

J-99は刻み目突帯を貼り付け，頸胴部界に段をもつ鉢形の土器である。滋賀里Ⅳ式併行であろうか。

J-100～112は突帯の他に，口唇にも刻み目をもつもので，突帯貼り付け位置はやや下がったところにある。

J-113～131は突帯上にのみ刻み目をもつもので，突帯貼り付け位置がやや下がった所にあるもの（J-113～121他）と，口唇部に接してあるもの（J-128～131他）とがある。

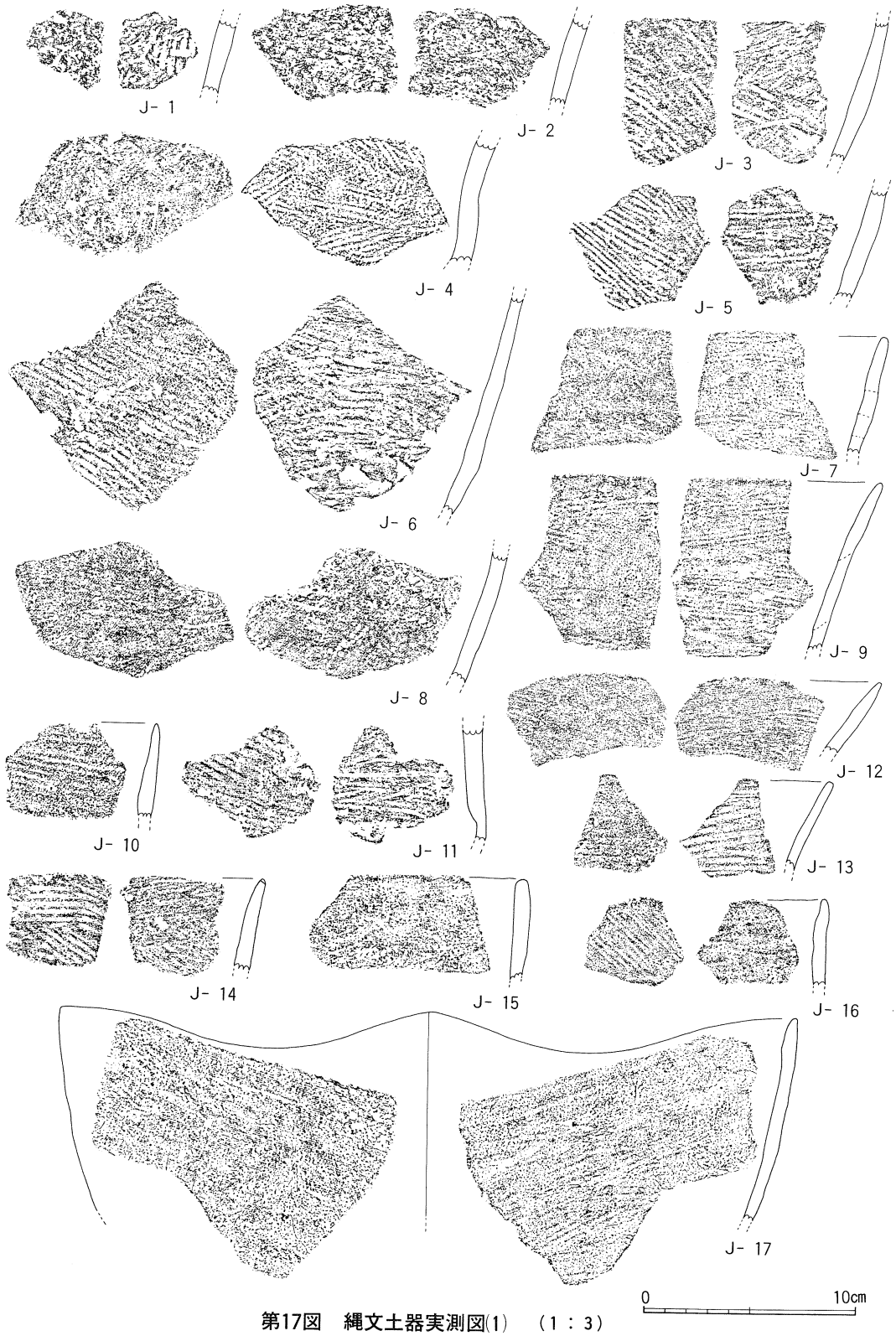
J-132～138は刻み目を施さない突帯をもつものである。突帯貼り付け位置は口唇部からやや下がった位置につくもの（J-132・133・135・138）と，口唇部に接するもの（J-134・136・137）の両者がある。

J-139は短く外反する口縁外面に刻み目突帯を貼り付ける土器である。外面には条痕とハケ目の両者が見られ，内面はハケ目のちナデ調整を施し指頭圧痕が著しい。砂粒をかなり含むが器面は滑らかで焼成は良く，外傾接合を行う。突帯を備えるものの，一見して他の突帯文土器とは異なった印象を受ける。縄文土器として扱ったが，弥生土器の範疇に入る可能性もある。

註1　『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ（海崎地区1）』　島根県教育委員会　1987年

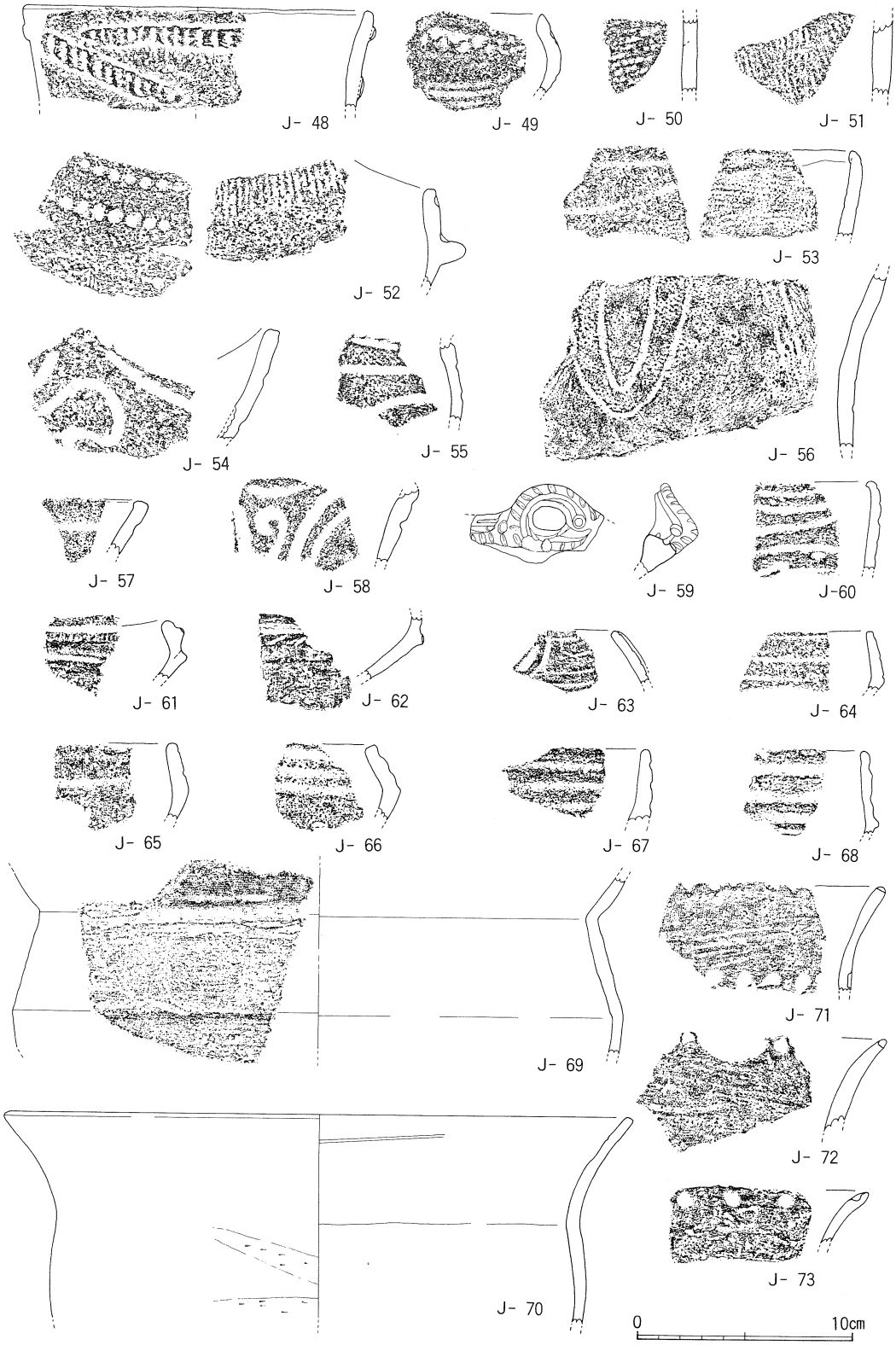
註2　『北九州市埋蔵文化財報告書　第85集　貫川都市小河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告2　貫川遺跡Ⅱ』　(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室　1989年

註3　泉拓良氏より「大阪市長原遺跡出土の突帯文土器と共伴する壺形土器に似る」との御教示を得た。

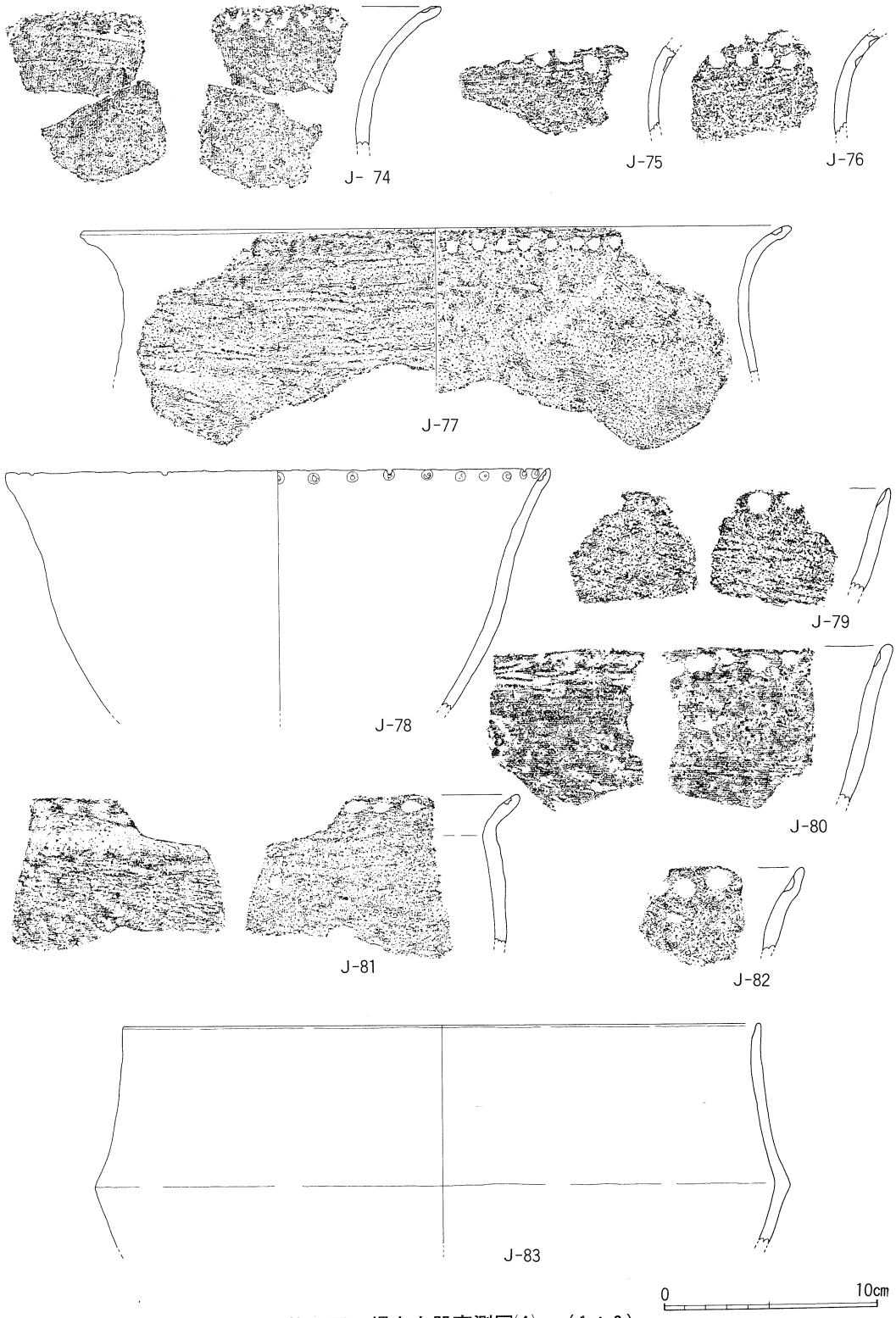


第17図　縄文土器実測図(1)　（1：3）

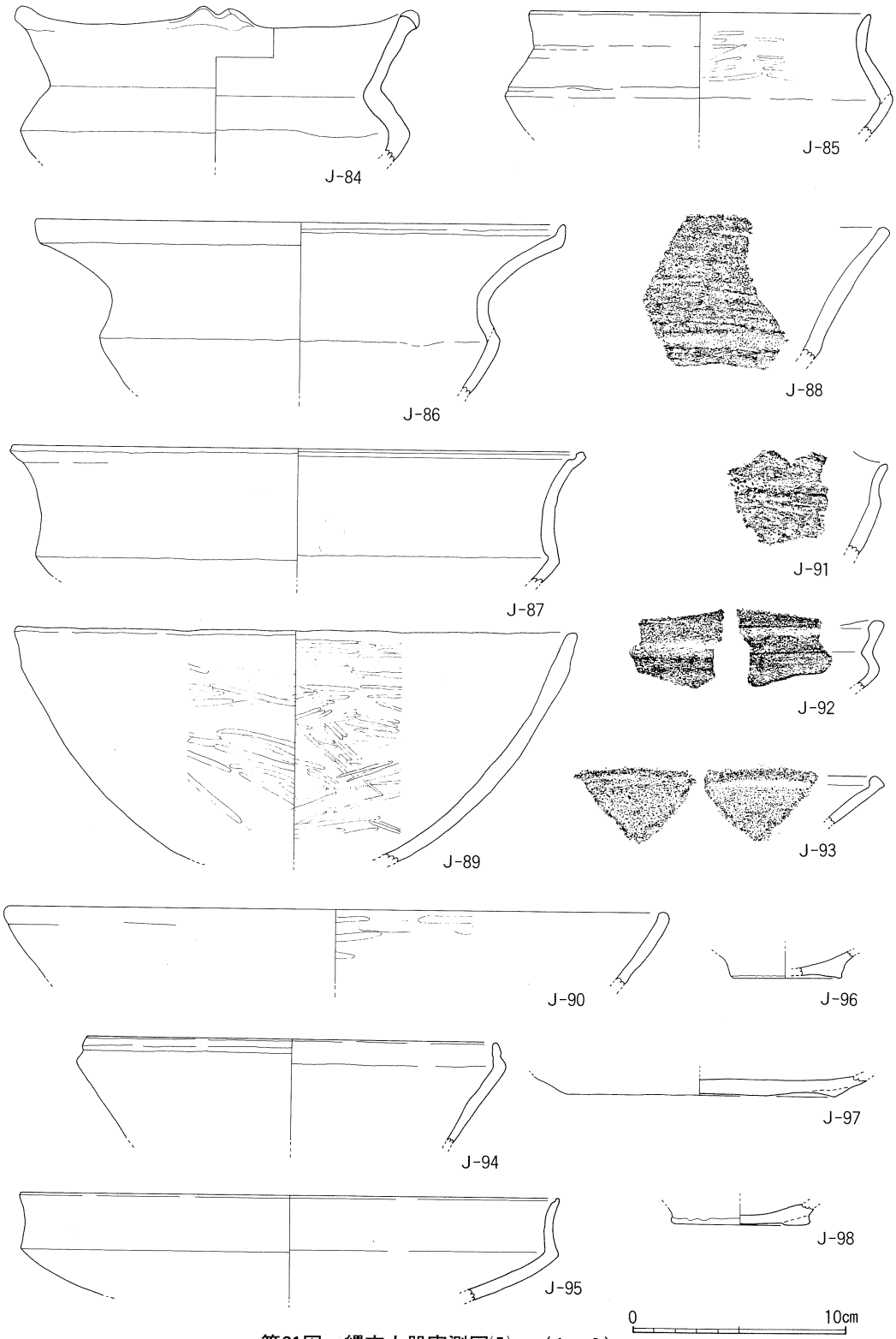
第18図　縄文土器実測図(2)　（1：3）



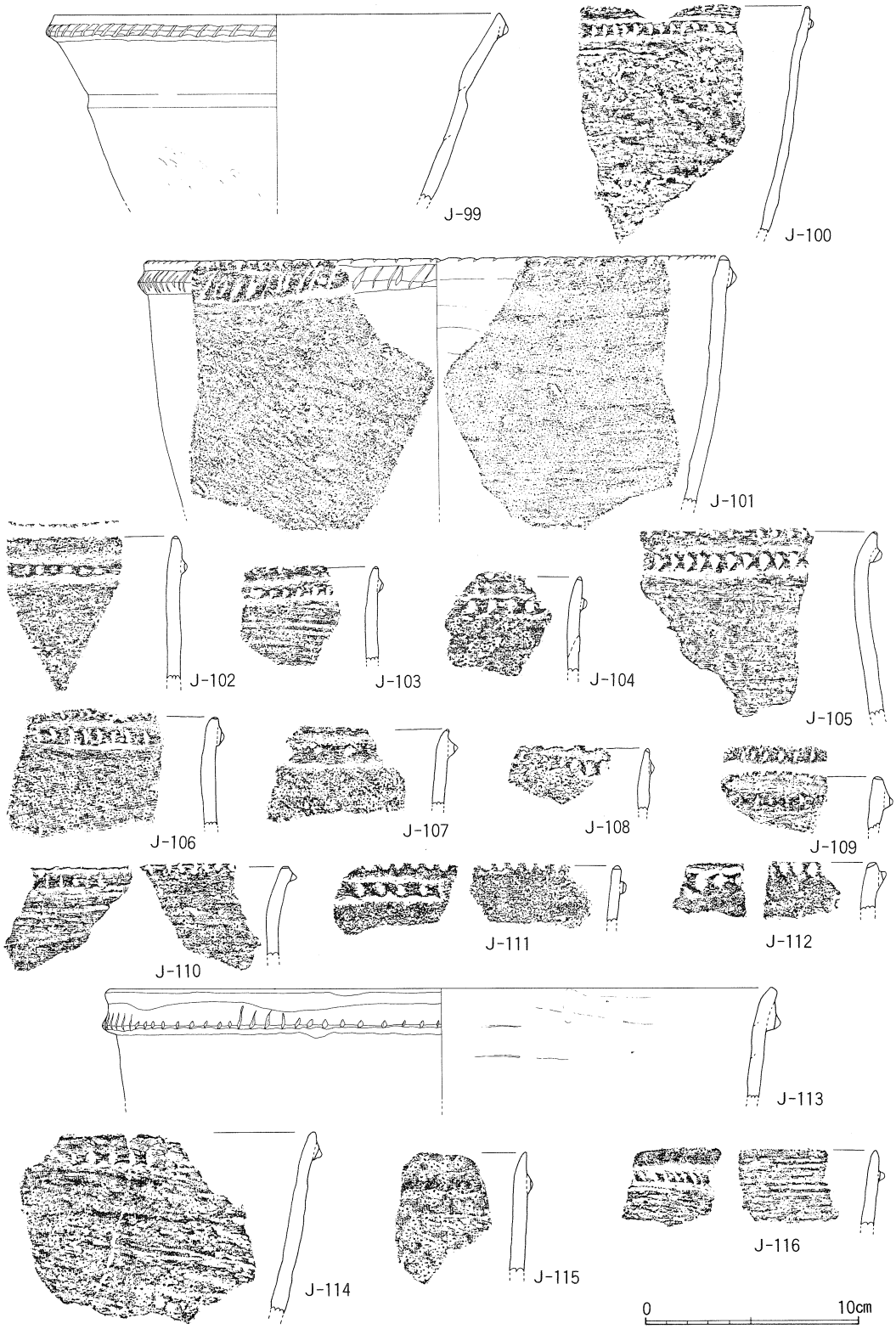
第19図　縄文土器実測図(3)　（1：3）



第20図　縄文土器実測図(4)　（1：3）



第21図　縄文土器実測図(5)　（1：3）



第22図　縄文土器実測図(6)　（1：3）

第23図　縄文土器実測図(7)　（1：3）

縄　文　土　器　観　察　表

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
	第17図 J-1	11	N1E2	暗灰色 砂質土 (礫混入)			外面:ナデ 内面:条痕	胎土:繊維を多量に含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
	第17図 J-2	11	トレンチ内	暗灰色 砂層			調整不明	胎土:1～2㎜大の砂粒,繊維を含む 焼成:良好 色調:外 灰色,内 褐色	
	第17図 J-3	11	N2E2	暗灰色 砂礫層			内外面:二枚貝条痕	胎土:2㎜大の砂粒,繊維を含む 焼成:良好 色調:外 淡灰色,内 黒灰色	
	第17図 J-4	11	トレンチ内	暗灰色 砂層			外面:ナデ 内面:二枚貝条痕。指頭による縦長の凹凸顕著	胎土:1～3㎜大の砂粒を多く含む。繊維を含む 焼成:良好 色調:暗灰色～黒褐色	
	第17図 J-5	11					外面:二枚貝条痕,炭化物付着 内面:二枚貝条痕	胎土:1㎜大の砂粒を含む。繊維を含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着
深鉢	第17図 J-6	11	Ⅰ区 トレンチ内	暗青灰色 砂礫層			内外面:二枚貝条痕	胎土:1～3㎜大の白色及び半透明の砂粒を多量に含む。繊維を少量含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第17図 J-7	11	Ⅰ区 トレンチ内	暗青灰色 砂礫層		平口縁	外面:ナデ 内面:横方向の細かい条痕	胎土:1～2㎜大の砂粒(白色)を含む。繊維を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第17図 J-8	11	S3E0	暗青灰色 砂礫層			内外面:磨滅しているがナデか？	胎土:1㎜未満の砂粒を若干含む。繊維を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色～暗灰色	河道4
深鉢	第17図 J-9	11	N1E1	暗灰色 砂層		平口縁	内外面:二枚貝条痕,ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む。繊維を含む 焼成:良好 色調:外 灰色,内 黒灰色	
深鉢	第17図 J-10	11	N3E1	赤褐～青灰色 砂礫層		平口縁	外面:二枚貝条痕 内面:ナデ,指圧痕	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河道2
深鉢	第17図 J-11	11	Ⅰ区 トレンチ内 北側				内外面:二枚貝条痕	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む。繊維を含む 焼成:良好 色調:外 暗灰色,内 黒灰褐色	
深鉢	第17図 J-12	11	N3E1	赤褐～青灰色 砂礫層		平口縁	外面:ナデ 内面:二枚貝条痕,ナデ	胎土:密,微砂粒,繊維をわずかに含んでいるか 焼成:良好 色調:黒褐色	河道2
深鉢	第17図 J-13	11	N2E3	暗灰色 砂礫層		平口縁	外面:条痕の上からナデる。内面:二枚貝条痕	胎土:1㎜以下の砂粒をかなり含む 焼成:良好 色調:暗褐色～黒褐色	内に炭化物付着
深鉢	第17図 J-14	11	N4E2	青灰色 砂礫層		平口縁 口唇に刻目	外面:二枚貝条痕 内面:強いナデ又は二枚貝のケズリ状	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黒褐色	河道2
深鉢	第17図 J-15	11	Ⅱ区 トレンチ内			平口縁	内外面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黒灰褐色	
深鉢	第17図 J-16	11	S3E0			平口縁	外面:条痕 内面:条痕	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
深鉢	第17図 J-17	11	S1E0	灰褐色 砂礫層	口径 35.0	波状口縁	外面:条痕,ナデ 内面:二枚貝条痕	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第18図 J-18	11	Ⅱ区 S6W1	青灰色 砂礫層		波状口縁。端部外面に貼付肥厚帯 肥厚帯上に半截竹管による刺突文	外面:二枚貝条痕後ナデ 内面:ケズリ？	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黒褐色	
深鉢	第18図 J-19	11				口縁部外面に肥厚帯 肥厚帯上と胴部に丸い棒による刺突文	外面:ナデ 内面:ナデ,凹凸著	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外 褐色,内 灰褐色	外面に炭化物付着
深鉢	第18図 J-20	11	N1E2	褐色 砂質土		波状口縁。端部外面に貼付肥厚帯 刺突文	内面:ナデか？	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:茶褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
深鉢	第18図 J-21	11	Ⅱ区 トレンチ内			口縁端部外面に貼付肥厚帯	外面:ナデ 内面:条痕,ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色～灰褐色	
深鉢	第18図 J-22	11	N1E1	褐色 砂礫層		口縁部外面に貼付肥厚帯	外面:条痕	胎土:2㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
深鉢	第18図 J-23	11	S3E0	暗青灰色 砂礫層		口縁端部外面に貼付肥厚帯	外面:二枚貝条痕 内面:ナデ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
深鉢	第18図 J-24	11	S6W1	青灰色 砂礫層		口縁外面に貼付肥厚帯,粘土粒が付着	外面:ヨコ条痕,ナデ 内面:ナデ	胎土:1㎜未満の白色粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
深鉢	第18図 J-25	11	S1E0	灰褐色 砂礫層		口縁外面に貼付肥厚帯斜めの沈線文	外面:条痕 内面:ナデ,指頭圧痕,凹凸著	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗茶褐色	
深鉢	第18図 J-26	11				波状口縁。端部外面に貼付肥厚帯	調整不明	胎土:5㎜大の大粒砂粒を含む 焼成:良好 色調:黄褐色	
深鉢	第18図 J-27	11	N0E2 河道	暗灰色 砂礫層		半截竹管による押引状の刺突文	内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外 灰色,内 黒灰色	河道1
深鉢	第18図 J-28	11	N2E2	褐色 砂礫層		刺突文(D字爪形文に近いか)	内面:ナデ,指圧痕	胎土:1～2㎜大の砂粒を若干含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
深鉢	第18図 J-29	11	S3E0	暗青灰色 砂礫層～砂層		外面にかすかな隆帯 隆帯上にやや斜めに刻目	外面:条痕 内面:条痕	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	河道4
深鉢	第18図 J-30	11	N2E2	暗灰色 砂礫層		刺突文(ヘラ状のものによる)	外面:ナデ,二枚貝条痕(斜め) 内面:ナデ,条痕,凹凸著	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外 暗灰褐色,内 灰褐色	
深鉢	第18図 J-31	11	N2E2	暗灰色 砂礫層		二枚貝による刺突文	外面:二枚貝条痕 内面:二枚貝条痕	胎土:微少な砂粒をかなり含む 焼成:良好 色調:外 灰褐色(スス付着),内 淡褐色	
深鉢	第18図 J-32	11	S3E0	暗青灰色 砂礫層		半截竹管による刺突文	内面:二枚貝条痕	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰色	河道4
深鉢	第18図 J-33	11	N3E1	赤褐～青灰色 砂礫層		波状口縁 端部外面に刺突文(貝?)	外面:二枚貝条痕 内面:ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
深鉢	第18図 J-34	11	N2E3	暗灰色 砂礫層		押引状の刺突文	外面:ナデ 内面:?	胎土:1～2㎜大の砂粒を多量に含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
深鉢	第18図 J-35	11	Ⅱ区 S7W1	青灰色 砂礫層		波状口縁。外面に隆帯 押引状の刺突文	内面:条痕,ナデ	胎土:小砂粒を多く含む。大砂粒を少し含む 焼成:良好 色調:黒褐色	
深鉢	第18図 J-36	12	S3W1	暗青灰色 砂礫層		波状口縁 半截竹管によるD字爪形文	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河道4
深鉢	第18図 J-37	12	N2E1	褐色 砂礫層		直径1.1㎝の円孔を有す 半截竹管によるD字爪形文	内面:二枚貝条痕,ナデ	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
深鉢	第18図 J-38	12	N2E2	褐色 砂礫層		波状口縁。口唇は平坦 D字爪形文	外面:条痕の上から丁寧なナデ 内面:丁寧なナデ,凹凸顕著	胎土:密,1㎜未満の砂粒を少し含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第18図 J-39	12	N2E1～N3E1	青灰褐色 砂礫層		D字爪形文	内面:ナデ	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
深鉢	第18図 J-40	12	N2E1	褐色 砂礫層		押引状のD字爪形文	外面:丁寧なナデ 内面:ナデ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第18図 J-41	12	Ⅰ区 トレンチ内	青灰色 砂礫層		押引状のD字爪形文	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
深鉢	第18図 J-42	12	N2E1	褐色 砂礫層		波状口縁か？ 2連1単位の押引状の刺突文(竹管)	内面:ナデ	胎土:2～5㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色～黒褐色	
深鉢	第18図 J-43	12	N2E2	暗灰色 砂礫層		C字爪形文	内外面:丁寧なナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外 暗褐色,内 淡褐色	
深鉢	第18図 J-44	12	N2E2	排水路 砂礫層		C字爪形文	外面:条痕後ナデ 内面:ナデ	胎土:1㎜未満の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黒褐色	
深鉢	第18図 J-45	12	Ⅰ区 N0E0	灰褐色 砂礫層		ヘラで区画線を引きその中にC字連続爪形文を施す	内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黒褐色	
深鉢	第18図 J-46	12	S2E0	暗青灰色 砂礫層		くびれ部の破片 縄文	外面:縄文,ナデ 内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む(金色の雲母を含む) 焼成:良好 色調:褐色	河道4
深鉢	第18図 J-47	12	Ⅰ区 西側 排水路	青灰色 砂礫層	口径 33.7	平口縁	外面:ナデか？ 内面:横方向の二枚貝条痕後ナデ,平滑	胎土:2㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	
深鉢	第19図 J-48	12	N1E?	褐色 砂質土	口径 16.0	平口縁。貼付隆帯上に貝殻腹縁による刺突文を施す	縄文地	胎土:密 焼成:良好 色調:黒灰色	
深鉢	第19図 J-49	12	N3E1	青灰色 砂礫層		キャリパー形口縁部,外面に円形の刺突文を2段に施す	外面:二枚貝条痕 内面:ナデ	胎土:1㎜前後の白色粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
深鉢	第19図 J-50	12	N1E2	褐色 砂礫層			外面:縄文 内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外 黒褐色,内 淡灰褐色	
深鉢	第19図 J-51	12					外面:条痕か撚糸？ 内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第19図 J-52	12	S3W1	暗青灰色 砂礫層		波状口縁。外面に突帯がつく 円形刺突文	外面:条痕か？ 内面:縄文か？	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰色	河道4
深鉢	第19図 J-53	12	Ⅰ区 トレンチ内	排土		沈線文	外面:磨滅して不明 内面:二枚貝条痕	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
深鉢	第19図 J-54	12	Ⅱ区 トレンチ内			波状口縁 太い沈線文,磨消縄文	内面:ナデか？	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡茶褐色	
深鉢	第19図 J-55	12	N2E1	褐色 砂礫層		太い沈線文,磨消縄文	内面:ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
深鉢	第19図 J-56	12	N1E0	淡灰色 砂質土		J字文？ 磨消縄文	内面:ナデ	胎土:1～4㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道2
深鉢	第19図 J-57	12	S6W1	青灰色 砂礫層		口縁端部内面は肥厚 沈線文	ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外 灰色,内 黒褐色	
深鉢	第19図 J-58	12	N0E0	青灰色 砂礫層		沈線文		胎土:1㎜前後の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:濃褐色	
深鉢	第19図 J-59	12	S6W1	青灰色 砂礫層		縁帯文		胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗茶褐色	
深鉢	第19図 J-60	12	N1E1	褐色 砂礫層		沈線文,磨消縄文	内面:ナデ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第19図 J-61	12	N1E2	暗灰色 粘質土		波状口縁		胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	
深鉢	第19図 J-62	12	N2E2	暗灰色 砂礫層			内外面:ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
深鉢	第19図 J-63	12	トレンチ内	暗灰色 砂質土		円弧状の隆帯,沈線文		胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
深鉢	第19図 J-64	12	Ⅰ区	青灰色 砂礫層		沈線文	磨滅して不明	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第19図 J-65	12	S2E1	暗青灰色 砂礫層		凹線文	ナデか?	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰白褐色	河道4
深鉢	第19図 J-66	12	N4E1	暗青灰色 砂層		口縁部は外傾し,外面に凹線文3条	内面:ナデか?	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
深鉢	第19図 J-67	12	N4E2	青灰色 砂礫層		口縁部は直立し,外面に凹線文3条	磨滅して不明	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河道2
深鉢	第19図 J-68	12	Ⅱ区 S6W1	青灰色 砂礫層		口縁部は直立し,外面に凹線文3条	内面:ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	
深鉢	第19図 J-69	12	N2E1	暗青灰色 砂層		頸部は「く」の字状に屈曲し,胴部には稜をもつ。外面に炭化物付着	外面:二枚貝条痕 内面:ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を含む(全雲母) 焼成:良好 色調:外 暗褐色,内 黒褐色	河道2
深鉢	第19図 J-70	12	N3E1	赤褐～青灰色 砂礫層		口縁部外反,胴部はあまり張らない	外面:部分的にケズリあり,他はナデ 内面:ナデ,下半 二枚貝条痕後ナデ	胎土:1㎜未満の長石,石英粒を多く含む 焼成:良好 色調:茶褐色	河道2。外面:炭化物付着
深鉢	第19図 J-71	12	排土中			口縁部外反 口唇に刻目。竹管状工具による円形の刺突文	外面:条痕,ナデ 内面:ナデ?	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外 茶灰色,内 灰褐色	
深鉢	第19図 J-72	12	N1E2	暗青灰色 砂質土		口縁部外反 三角状の刺突文	外面:ナデ 内面:二枚貝条痕,ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	
深鉢	第19図 J-73	12	N2E3	褐色 砂礫層		竹管状の刺突文	外面:ナデ 内面:ナデ,ケズリ?	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:肌色	
深鉢	第20図 J-74	13	N2E2	暗灰色 砂礫層		口縁部外反 竹管状の刺突文	外面:二枚貝条痕 内面:ナデ	胎土:3～5㎜大の砂粒をかなり含む 焼成:良好 色調:外 暗褐色,内 淡黄灰褐色	
深鉢	第20図 J-75	13	N2E3	赤褐色 砂質土		竹管状の刺突文	内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢?	第20図 J-76	13	Ⅱ区 S6W1	青灰色 砂礫層		円形刺突文	外面:下半 二枚貝ナデ 内面:ナデ,下半 ケズリ後ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
深鉢	第20図 J-77	13	N1E2	淡灰色 砂層 (最下層)	口径 33.6	口縁部強く外反 口縁内面に竹管状工具による刺突文	外面:二枚貝条痕 内面:上半 ナデ,下半 条痕	胎土:1㎜前後の長石,石英粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰白色～灰色	
鉢	第20図 J-78	13	N1E1	褐色 砂質土	口径 25.6	口縁内面に円形刺突文	外面:一部条痕? 内面:かすかに条痕を残す。指頭圧痕	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む(白色,透明砂粒,雲母) 焼成:良好 色調:外 灰褐色,内 灰色～黒灰色	
鉢	第20図 J-79	13	排土中			口縁内面に円形刺突文	外面:ナデ 内面:下半 二枚貝条痕	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰色	
深鉢	第20図 J-80	13	S2E0	暗青灰色 砂礫層		口縁内面に巻貝尾部による円形刺突文	外面:条痕,ナデ 内面:上半 ナデ,下半 条痕	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
深鉢	第20図 J-81	13	N2E2	暗灰色 砂礫層		口縁部は短く外反し,胴部がやや張る 口縁内面に竹管状工具による円形刺突文	外面:二枚貝条痕後ナデ 内面:ナデ	胎土:2㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
深鉢	第20図 J-82	13	S3E0	暗青灰色 砂礫層		口縁部外反 竹管状工具による円形刺突文	外面:ナデ? 内面:ナデ?	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
深鉢	第20図 J-83	13	N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 30.0	口縁は内傾気味	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1～2㎜の白色及び灰色砂粒,1㎜未満の透明砂粒と雲母を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
深鉢	第21図 J-84	13	N1E2	褐色 砂質土		波状口縁	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外 淡褐色～黒褐色,内 黒褐色	
鉢 or 壺	第21図 J-85	13	トレンチ内	灰色 砂層	口径 15.8		外面:ナデ? 内面:ミガキ	胎土:細かい白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色～灰褐色	
浅鉢	第21図 J-86	13	N2E2	暗灰色 砂礫層	口径 24.6	長頸で口縁端部は直立する	口縁端部はナデ,頸部以下ヘラミガキ 内面:ミガキ	胎土:1㎜前後の長石,石英粒及び金雲母を含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
浅鉢	第21図 J-87	13	N2E2	暗青灰色 砂質土	口径 26.6	長頸で口縁内面に沈線	外面:上半 ミガキ,下半 条痕? 内面:ナデ?	胎土:1㎜未満の長石,石英粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
浅鉢	第21図 J-88	13	N1E0	淡灰色 砂質土		長頸で口縁端部はやや平坦につくる	外面:二枚貝条痕,ナデ 内面:ナデ,ミガキ?	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色～淡灰褐色	河道2
浅鉢	第21図 J-89	13	N4E1	暗青灰色 砂層	口径 26.2	口縁部は内湾しつつ大きく開く	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	胎土:1～4㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	河道2
浅鉢	第21図 J-90	13	N2E2	暗灰色 砂礫層	口径 30.8	口縁部は内湾しつつ大きく開く	外面:ナデ 内面:ミガキ	胎土:1～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	
浅鉢	第21図 J-91	13	N1E2	暗青灰色 砂質土		波状口縁か?	外面:二枚貝条痕,ナデ 内面:条痕,ナデ,ミガキ	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
浅鉢	第21図 J-92	13				波状口縁	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
浅鉢	第21図 J-93	13	S3E0	暗青灰色 砂礫層 ～砂層		口縁端部は内側に肥厚する	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黒褐色	
浅鉢	第21図 J-94	13	N1E1	褐色 砂礫層	口径 19.0	口縁端部はやや内傾し,外面に沈線状の凹みをもつ	内面:ナデ	胎土:1㎜未満の長石,石英,雲母等を含む 焼成:良好 色調:外 暗褐色,内 黒褐色	
浅鉢	第21図 J-95	13	N1E1	茶褐色 粘質土 901128	口径 25.0	口縁部は直立気味に外反する 口縁端部内面に不明瞭な沈線	外面:上半 ナデ,下半 調整不明 内面:ミガキ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	
浅鉢	第21図 J-96	13	N1E2	褐色 砂礫層	底径 5.0		外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黒褐色	
浅鉢	第21図 J-97	13	N2E0	青灰褐色 砂礫層	底径 12.6		内外面:磨滅により調整不明	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	河道2
浅鉢	第21図 J-98	13	N1E2	暗青灰色 砂質土	底径 6.4		内面:ナデ,ケズリ?	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
鉢?	第22図 J-99	14	中央ベルト	暗青灰色 砂礫層 ～砂層	口径 20.9	胴部に段 刻目突帯文	外面:ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面:ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰色	炭化物付着。河道2
深鉢	第22図 J-100	14	N2E2	褐色 砂質土～ 暗青灰色 砂層		刻目突帯文,口唇に浅い刻目	外面:工具による横方向の強いナデ 内面:横方向の強いナデ	胎土:密,1㎜までの砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:濃褐色	炭化物が付着
深鉢	第22図 J-101	14	N3E1	赤褐～ 青灰色 砂礫層	口径 27.6	刻目突帯文,口唇に浅い刻目	内面:上半 強いナデ,下半 条痕の上から強いナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河道2
深鉢	第22図 J-102	14	N2E1	褐色 砂礫層		刻目突帯文,口唇に刻目	外面:? 内面:ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
深鉢	第22図 J-103	14	Ⅱ区 S6W1	黒灰色 砂礫層		刻目突帯文,口唇に刻目	外面:二枚貝条痕 内面:ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
深鉢	第22図 J-104	14	N4E2	青灰色 砂礫層		刻目突帯文,口唇に刻目	外面:ナデ? 内面:ナデ	胎土:1～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	河道2

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
深鉢	第22図 J-105	14	S7W1	青灰色砂礫層		胴部にむかい張り出す刻目突帯文(ヘラ),口唇に刻目(ヘラ)	外面:ナデ 内面:強いナデ(横方向)	胎土:1～3㎜大の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
深鉢	第22図 J-106	14	Ⅰ区 トレンチ内排土			刻目突帯文(ヘラ),口唇に刻目(ヘラ)	外面:ナデ 内面:ナデ(条痕の上から)	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第22図 J-107	14	Ⅱ区 トレンチ内			刻目突帯文,口唇に刻目	外面:ナデ 内面:ナデ,条痕	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第22図 J-108	14	S3W1	暗青灰色砂礫層		刻目突帯文,口唇に刻目	磨滅して不明	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	河道4
深鉢	第22図 J-109	14	S3W1	暗灰色砂礫層		刻目突帯文,口唇に刻目	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
深鉢	第22図 J-110	14	N3E1	赤褐～青灰色砂礫層		刻目突帯文,口唇に刻目	外面:二枚貝条痕 内面:二枚貝条痕	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	河道2
深鉢	第22図 J-111	14	N2E2	褐色砂礫層		刻目突帯文,口唇に刻目	内面:ナデ	胎土:1㎜以下の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
深鉢	第22図 J-112	14	N1E2	暗灰色砂質土(礫含)		刻目突帯文,口唇に刻目	外面:ナデ? 内面:ナデ?	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第22図 J-113	14	N1E2	暗青灰色砂礫層	口径 31.6	刻目突帯文	外面:上半 ナデ,下半ナデ? 内面:ヘラケズリ後ナデ	胎土:1～2㎜大の長石,石英粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第22図 J-114	14	N2E2	暗灰色砂礫層		刻目突帯文	外面:条痕とナデ? 内面:工具による強いナデか?	胎土:2㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第22図 J-115	14	N2E2	暗灰色砂質土及び砂礫層		刻目突帯文	外面:二枚貝条痕 内面:二枚貝条痕	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	
深鉢	第22図 J-116	14	トレンチ内	暗灰色砂礫層		刻目突帯文	外面:二枚貝条痕 内面:二枚貝条痕	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
深鉢	第23図 J-117	14	Ⅱ区 S6W1	青灰色砂礫層		刻目突帯文(貝殻?)	内面:条痕	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色～灰褐色	
深鉢	第23図 J-118	14	N1E0	暗青灰色砂礫層		刻目突帯文(貝殻?)	外面:ナデ 内面:ナデとケズリ?	胎土:2㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰色	
深鉢	第23図 J-119	14	N2E3	褐色砂礫層		刻目突帯文	外面:強いナデ 内面:二枚貝条痕	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黒灰色	
深鉢	第23図 J-120	14	N2E1	暗赤褐色砂層		刻目突帯文	外面:上半 ナデ,下半ナデ? 内面:上半 ナデ,下半条痕	胎土:1㎜強の白色及び透明な砂粒,金雲母を含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	河道2
深鉢	第23図 J-121	14	S3E1	暗青灰色砂礫層		刻目突帯文	外面:二枚貝条痕,ナデ 内面:二枚貝条痕,ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
深鉢	第23図 J-122	14	N3E1	暗青灰色砂層		刻目突帯文	条痕後ナデ?	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	河道2
深鉢	第23図 J-123	14	N1E2	暗灰色砂質土(礫)		刻目突帯文	外面:二枚貝条痕 内面:二枚貝条痕	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	外面に炭化物付着
深鉢	第23図 J-124	14	S3E0	青灰色砂礫層		刻目突帯文	外面:磨滅してはっきりしないがナデか? 内面:横方向にナデ,一部二枚貝条痕	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
深鉢	第23図 J-125	14	N2E2	暗灰色砂礫層		刻目突帯文	外面:強いナデ 内面:ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
深鉢	第23図 J-126	14	Ⅱ区 トレンチ内			刻目突帯文	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第23図 J-127	14	N1E2	暗灰色 砂質土		刻目突帯文	外面:二枚貝条痕	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
深鉢	第23図 J-128	14	S1E0	暗灰色 砂礫層		刻目突帯文	内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰～暗灰色	
深鉢	第23図 J-129	14	中央ベルト	褐色砂礫層～青灰色 砂礫層		刻目突帯文	外面:条痕,ナデ 内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第23図 J-130	14	Ⅱ区 S7W2	青灰色 砂礫層		刻目突帯文	内外面:磨滅	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第23図 J-131	14	S2W1	暗青灰色 砂礫層		刻目突帯文	外面:ナデ？	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	河道4
深鉢	第23図 J-132	14	Ⅱ区 S7W1	青灰色 砂礫層		突帯文	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第23図 J-133	14	Ⅰ区 トレンチ 排土	青灰色 砂礫層		突帯文	外面:ナデ？ 内面:ナデ？	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
深鉢	第23図 J-134	14	Ⅱ区 S6W1	青灰色 砂礫層		突帯文	外面:条痕 内面:ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	炭化物付着
深鉢	第23図 J-135	14	N4E2	青灰色 砂礫層		突帯文	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面の一部にススス付着。河道2
深鉢	第23図 J-136	14		暗青灰色 砂質土		突帯文	外面:ナデ？ 内面:ナデ？	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	炭化物付着
深鉢	第23図 J-137	14	N0E2 河道	暗灰色 砂礫層		突帯文	外面:ナデ 内面:非常に細かい条痕か？	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黒褐色	河道1
深鉢	第23図 J-138	14	N2E1	褐色 砂礫層		突帯文	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を少し含む 焼成:良好 色調:褐色	
深鉢	第23図 J-139	14	N1E1	暗灰色 砂層	口径 26.6	口縁部はゆるく短く外反し,端部近くの外面に貼付突帯をもつ 突帯上に刻目	外面:貝殻条痕とハケ目 内面:ハケ目後ナデ,指頭条痕が顕著	胎土:1㎜前後の白色,茶褐色,灰色砂粒及び金雲母をかなり含む 焼成:良好 色調:淡褐色	

2．弥　生　土　器

弥生土器は今回も出土量が多くコンテナ90箱を数えたが，全形をうかがえるものはほとんどなく，摩滅した小破片が大半を占めた。器形の判る破片をおおまかに時期別，器種別に分類し実測を行った。実測点数638点のうち，図示したものは558点である。内訳は，前期と考えられるもの266点，中期と考えられるもの270点，後期と考えられるもの84点である。

(1)　前期の土器（第24～39図　Y-1～266）

壺（Y-1～123）

壺としたものは広口壺，短頸壺，無頸壺が見られる。

広口壺は，形態と文様の違いによりⅦ類に分ける。

Ⅰ類（Y-1～16・23・25～30）は，口頸部界や頸胴部界に弱い段をもつものである。段はハケ目原体やヘラ先による押圧と削り取りによって作り出される。この段に沿って直線文，綾杉文，木の葉文，重弧文等が施されるものもある。器面調整は大半が内外面ヘラミガキで，ヘラミガキの下にハケ目の残るものもある。

Ⅱ類（Y-17～20）は，口頸部界や頸胴部界に段の代わりに沈線が施されるものである。

Ⅲ類（Y-21・22・24・34・35）としたものは，口頸部界や頸胴部界に削り出し状の突帯を設けるものである。Y-21・22・24は口頸部界に削り出し状の突帯を設け，そのうえに1～3条の沈線を引く。口縁部の形状は短く外反するもの（Y-21）と発達して大きく外反するもの（Y-22・24）とがある。Y-34・35は頸胴部界にハケ目原体による削り出し状の突帯を設け，その上に4～5条の沈線を引いている。器面調整はヘラミガキである。この類の頸胴部界には木の葉文，綾杉文，山形文等をもつものがあり，西川津遺跡[註1]他から出土している。

Ⅳ類（Y-23・32・33）は，口頸部界にハケ目原体による段を設け，その上部にヘラ描き直線文を施すものである。器面調整はハケ目とヘラミガキ，ナデにより行われる。

Ⅴ類は，口頸部界や頸胴部界に数条のヘラ描き直線文が施されるもので，口縁の形態により2種類に分けることができる。

Ⅴ－1類（Y-36～38・40・44）は，口縁部が短く外反するものである。端部無文のY-36・37と，端部に面をもち斜格子文，羽状文等を施すY-38・40・44がある。

Ⅴ－2類（Y-39・41～43・45～48）は，口縁部が大きく外反して開くものである。端部無文のものと，斜格子文，羽状文，直線文等をもつものがある。Y-47は口頸部界にハケ目原体で段を作り出し，その直下に現存で5条の貝殻腹縁による直線文が施されている。また，Y-48は9条におよ

ぶ直線文を施されたもので，その直下に突帯を付けたものである。

Ⅵ類（Y-49～51・53～55）は，頸部および胴部に貼り付け突帯をもつものである。Y-49は筒状の頸部に突帯1条をもち，口縁部をやや短めに外反させる。Y-50は筒状の頸部に2条，Y-51は頸胴部界と胴部に1条ずつの突帯をもつ。以上のものの器面調整はすべてヘラミガキである。Y-53は口頸部が大きく外反して開くもので，外面には耳状に湾曲した突起を貼り付けた土器である。耳状突起には直径6ミリの円孔を2カ所に穿孔している。頸下部外面には現存2条の刻み目突帯をもち，口頸部内面にも突帯が巡る。器面調整は外面に荒い縦方向のハケ目を，内面にナデを行う。耳状の突起をもつ土器は県内ではタテチョウ遺跡[註2]，西川津遺跡[註3]，布田遺跡[註4]で出土している。布田遺跡出土のものは，内面の突帯[註5]を伴っている。Y-54は扁球状の胴部に2条の刻み目突帯を貼り付けるものである。器面調整はハケ目とナデを行う。

Ⅶ類（Y-52・57）は，口縁部を短く外反させ，内傾する円筒状の頸部をもつものである。Y-52は頸部に直線文と円形刺突文をもっている。Y-57はY-52をやや大型にした無文のものである。

短頸壺（Y-62・63）は2点を図示した。ごく短く外反した口縁部をもち，なで肩で胴張りのする土器である。

Y-58・61・64は広口壺とも短頸壺ともいえないもので，口縁部はゆるく短く外反し，肩から胴部にかけて強く張るものである。内外面横方向のヘラミガキを施す。

無頸壺（Y-121～123）としたものは3点を図示した。

Y-121は，内外面とも横方向にていねいなヘラミガキを施されたもので，内湾する口縁部に直径5ミリの円孔が穿たれている。Y-122は端部外面に貼り付け突帯と沈線をもつもので，内面ヘラミガキである。Y-123は口縁部に直径7ミリの円孔2個が穿たれている。器面調整は，外面に斜め方向のヘラミガキを，内面上半にはハケ目，下半にはナデを行う。

Y65～120は壺胴部の文様の拓影を示したものである。綾杉文（Y-65～91）を表したもので，ヘラによるもの（Y-65～74）と貝殻腹縁によるもの（Y-75～91）がある。ヘラによるもののうちY-66～69・73は頸胴部界に段をもち，その直下に直線文とともに施されている。貝殻腹縁によるもののうちY-76～78・80は段を，Y-79は削り出し状の突帯を，Y-81は多条の沈線を，Y-83・84は貼り付け突帯をもつものであり，綾杉文はそれらの直下に直線文とともに施文される。

木の葉文（Y-92～97）をもつものは6点が見られた。無軸木の葉文は1点のみ（Y-95）で，他は有軸木の葉文をもつ。縦軸，斜軸の両者があり，直線文，羽状文，重弧文などと組み合わせて用いられている。Y-92は有軸木の葉文が直線文の下に並列しておかれる。

重弧文（Y-98～102）は5点を確認している。Y-98・102は段の直下に直線文とともに施文されるもの，Y-99は綾杉文・平行線文と組み合わせて用いられるものである。

山形文（Y-103～105）は3点が見られた。Y-104は段の直下に直線文とともに施されるもの，Y-105は山形文の中心に軸線をもつものである。

この他の文様としては鋸歯文（Y-106），斜格子文（Y-107・108），有軸羽状文（Y-110・111），削り出し突帯文（Y-112・113・115），直線文（Y-116・117），貼り付け突帯文（Y-118～120）などがある。

甕（Y-124～237）

甕は，その形態と文様の違いによりⅥ類に分類した。

Ⅰ類（Y-124～128）としたものは，口頸部界に弱い段をもつものである。口縁部は短く外反し胴部は張り出さない。段はハケ目原体やヘラで作り出される。器面調整は内外面ハケ目，口縁部ヨコナデである。

Y-130は段が逆に付いているもので，口縁端部は面をなす。

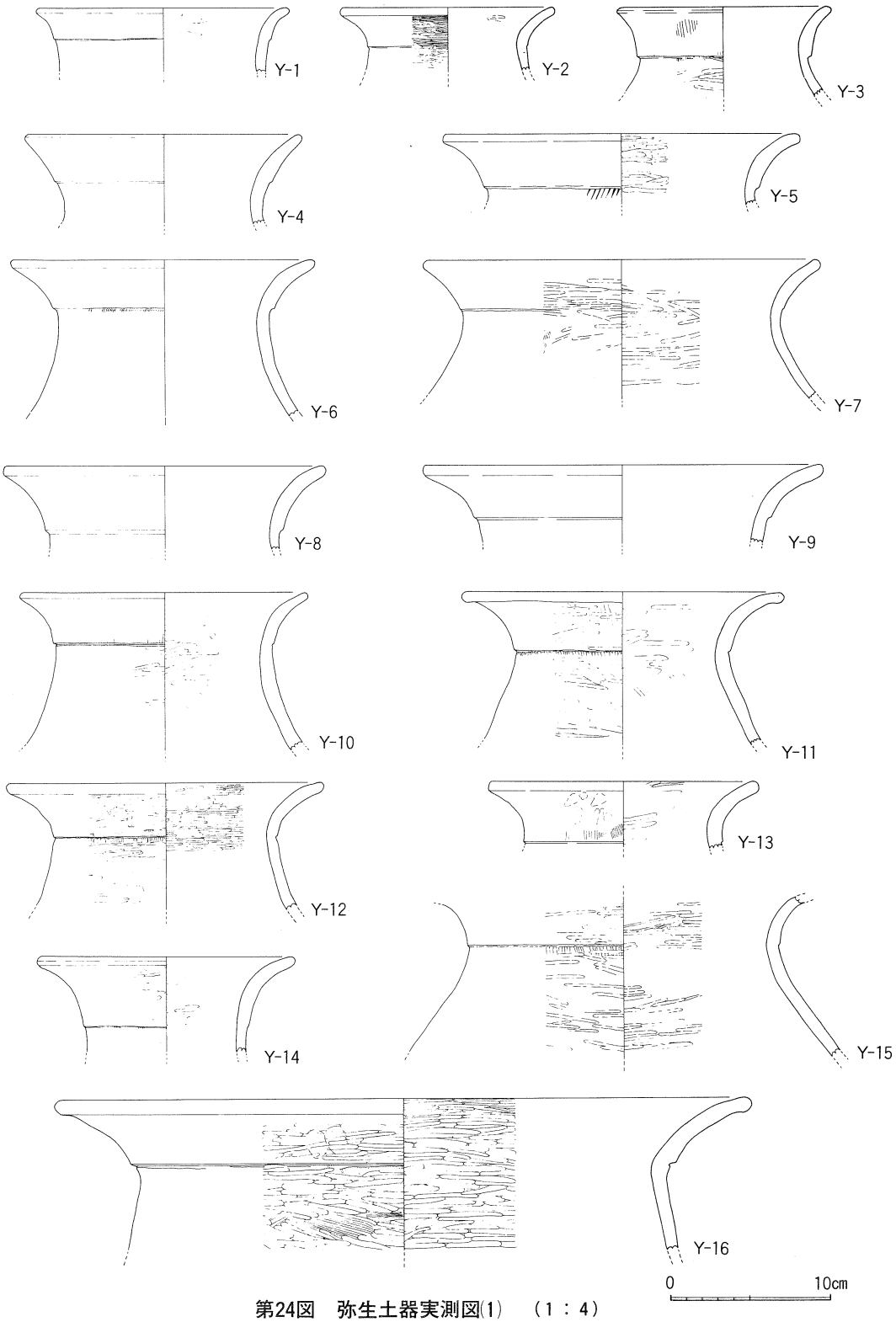
Ⅱ類（Y-129・131～161）は，Ⅰ類で段のあった部位に1～2条のヘラ描き直線文をもつものである。一部の土器には口縁端部に，ヘラやハケ目原体，貝などによる刻み目をもつものも見られる。器面調整は大半のものがハケ目とナデによるが，まれにヘラミガキによるもの（Y-143）もある。大型品は少ない。

Ⅲ類（Y-167～190・192）は口頸部界に，数条のヘラ描き直線文をもつものである。口縁部は短く外反し，口縁端部を刻むものが多い。胴部は，張り出さないものと，やや張り出すものがある。器面調整はハケ目とナデを行う。

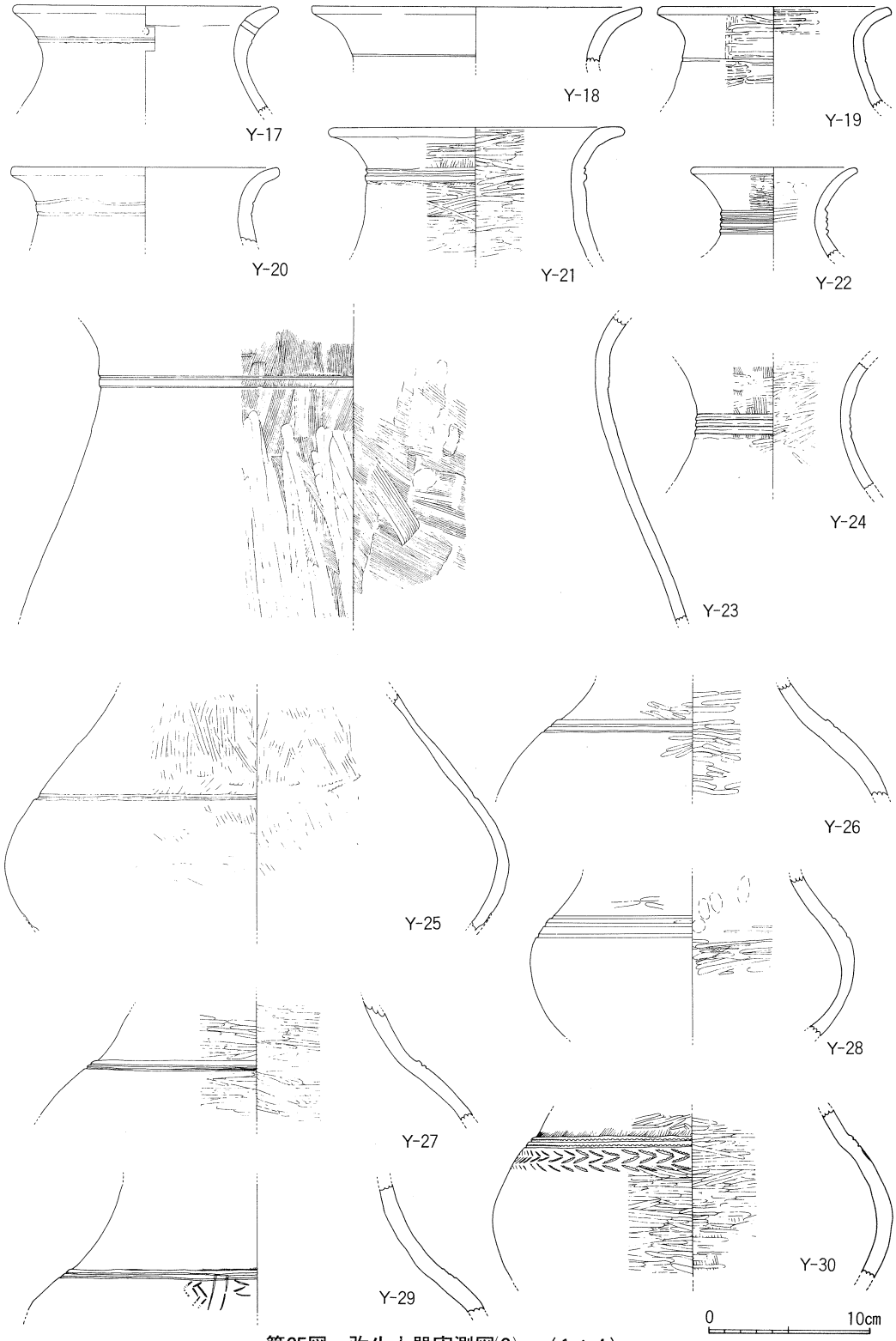
Ⅳ類（Y-191・193～196・203～205・209～216）は口縁部が短く外反し，口頸部界に多条のヘラ描き直線文をもつものである。これらの中には，直線文間や直線文直下に刺突文を加えるものもある。刺突文は竹管や棒状工具による円形・楕円形のもの，ヘラによる紡錘形・三角形状のもの等が見られ，変化に富む。胴部はやや張り出すものが大半である。器面調整はハケ目とナデによるが，196・197のようにヘラミガキするものもある。

Ⅴ類（Y-198～202）は逆「L」字状を呈す口縁をもち，頸部に数条から多条のヘラ描き直線文や刺突文をもつものである。器面調整はハケ目とナデを行う。

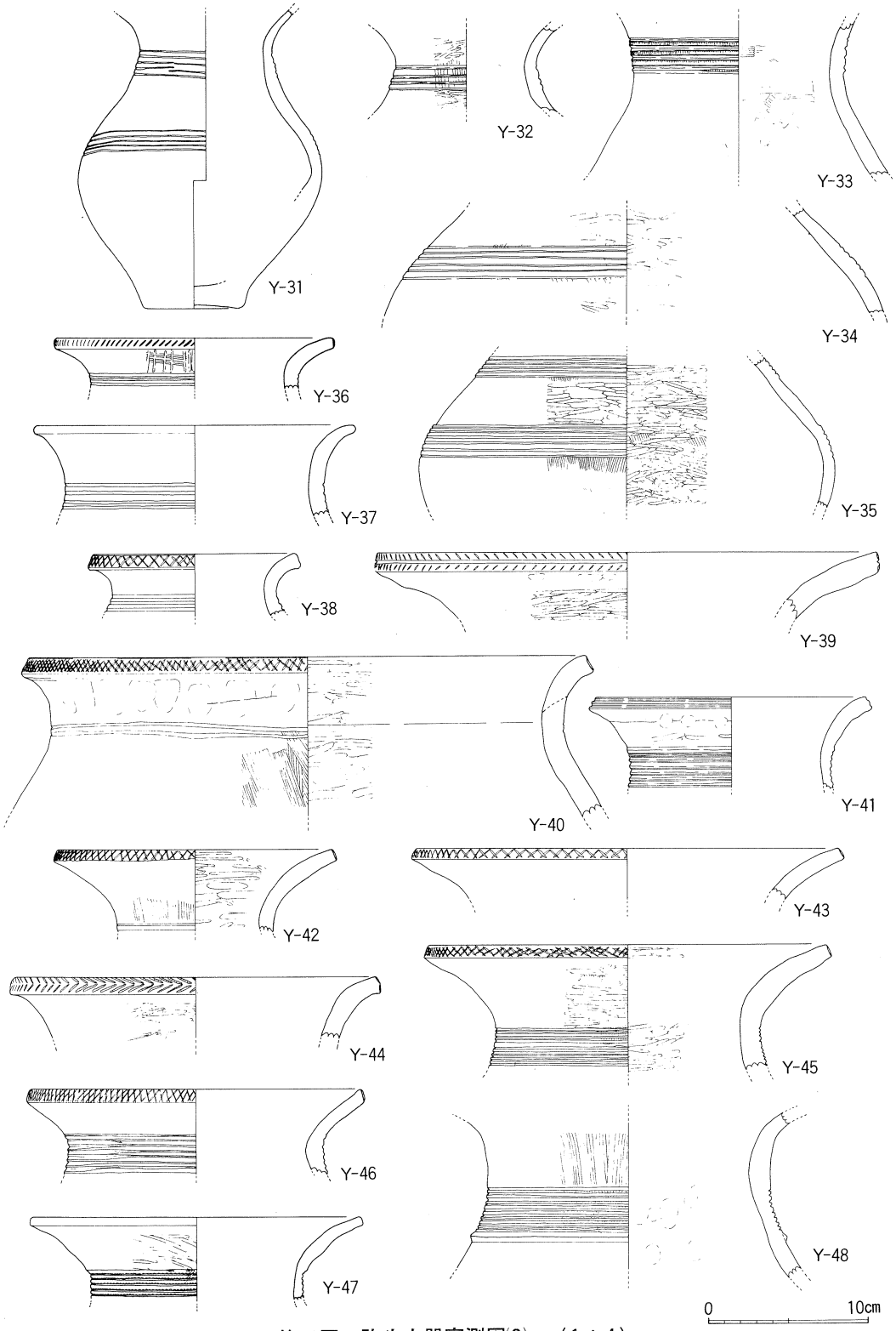
Ⅵ類（Y-163～166・206・207・217～237）は，口縁部を短く外反させ文様を施されないもの，もしくは，端部を刻むだけのものをこの類とする。胴部は張り出さないものと，やや張り出すものがある。器面調整はハケ目とナデで行われ，指頭圧痕が顕著である。2～3ミリ大の大粒の砂粒を含み，やや厚手のものが多く，中期のものとは異なった印象を受ける。



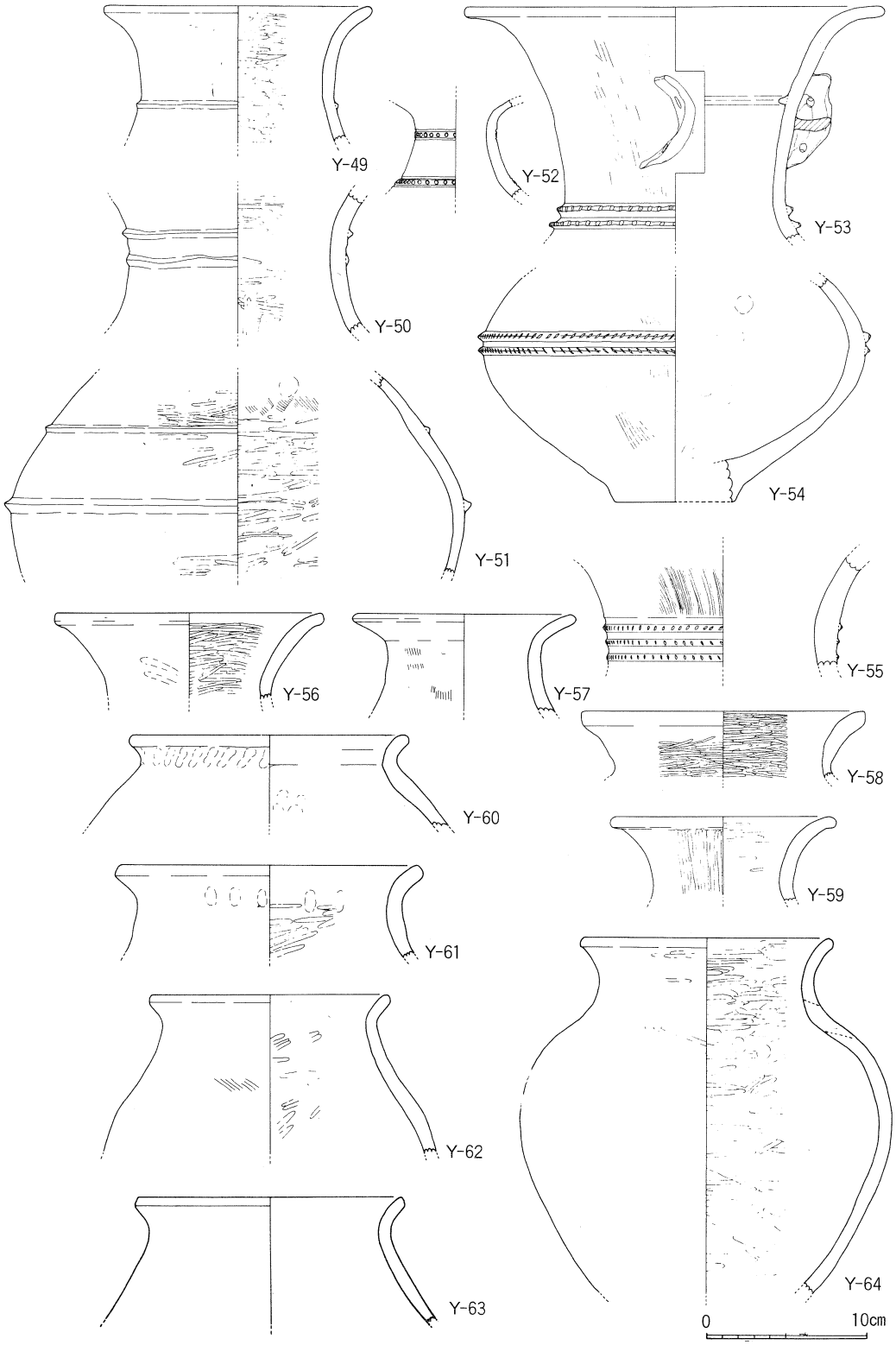
第24図　弥生土器実測図(1)　（1：4）



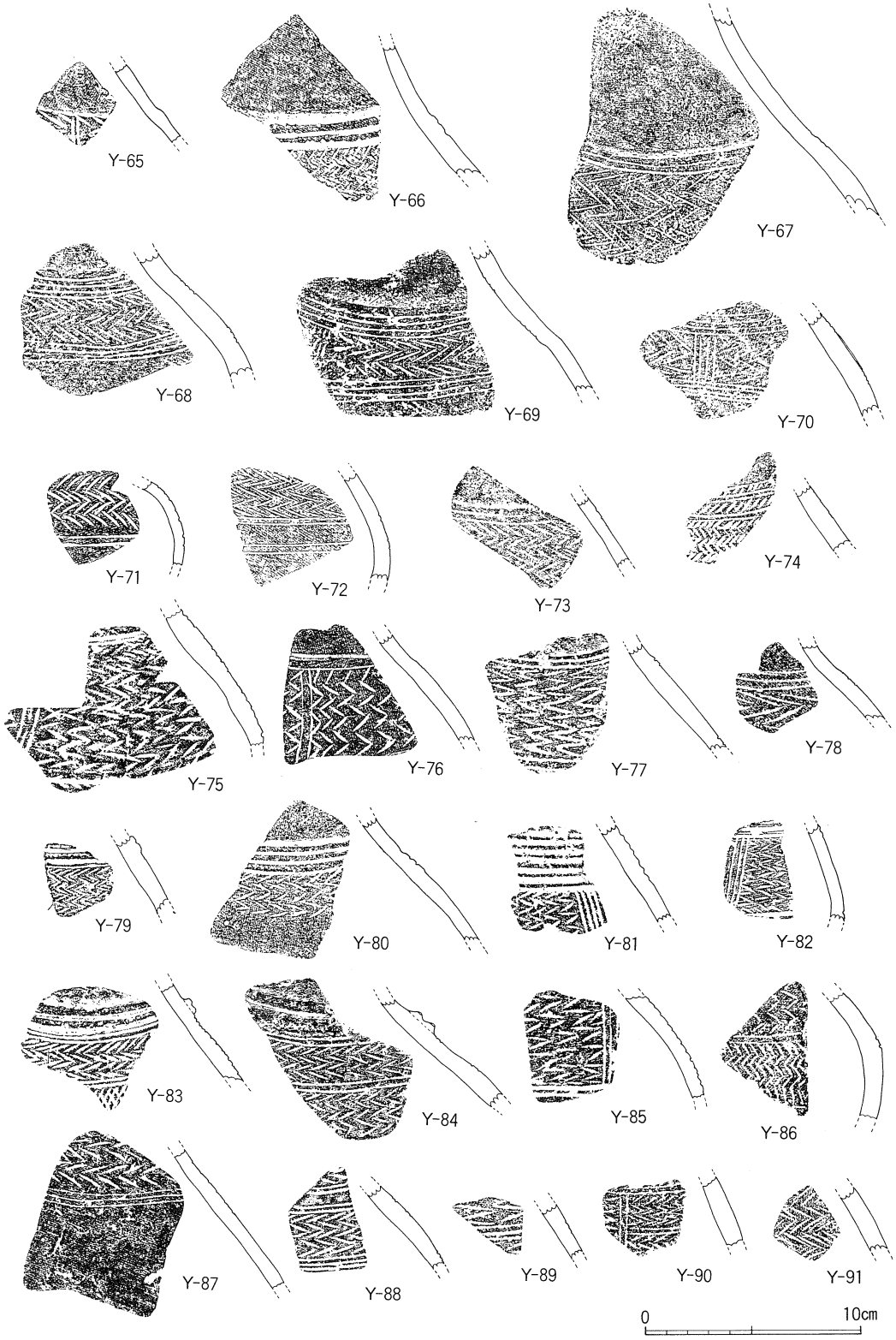
第25図　弥生土器実測図(2)　（1：4）



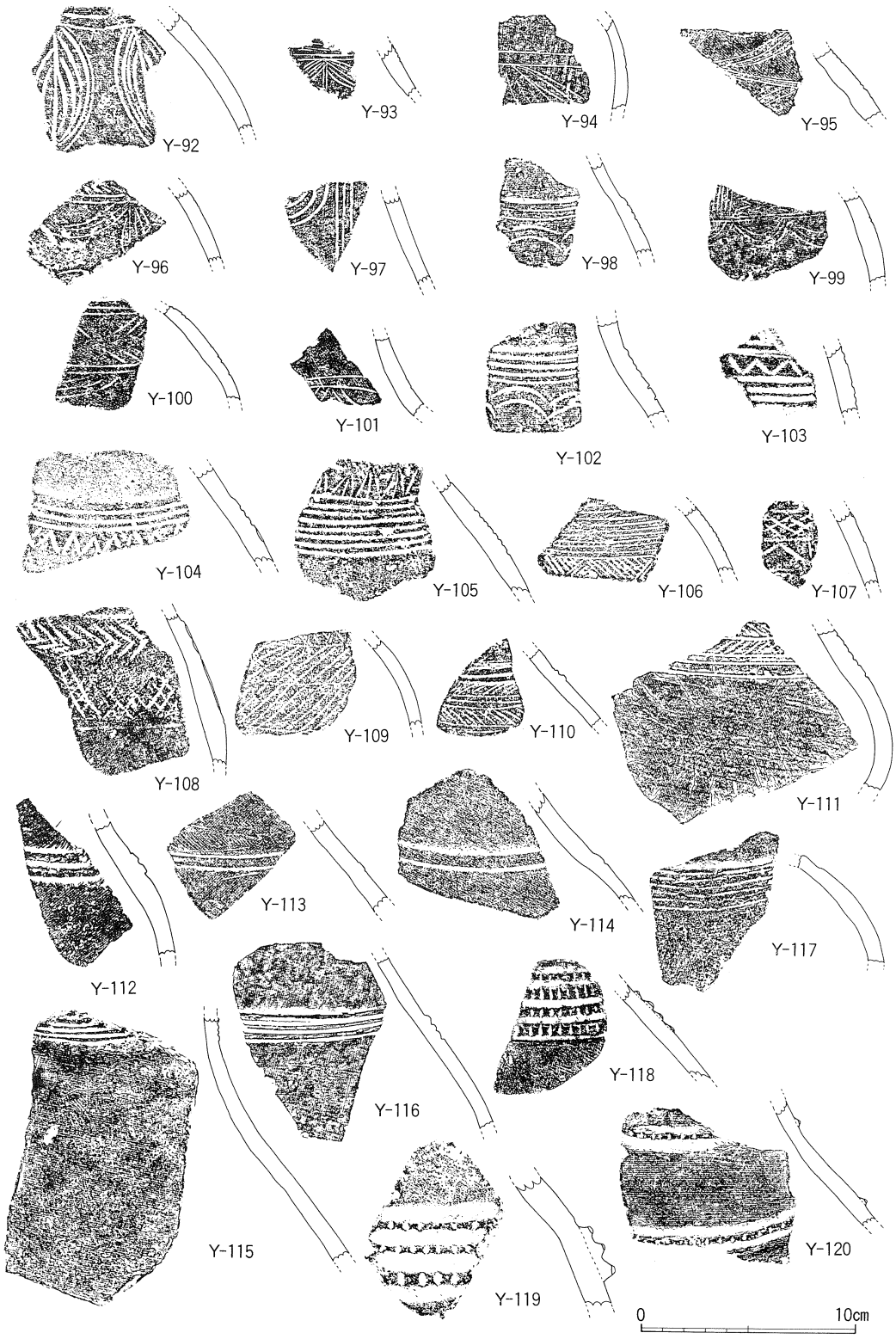
第26図　弥生土器実測図(3)　（1：4）



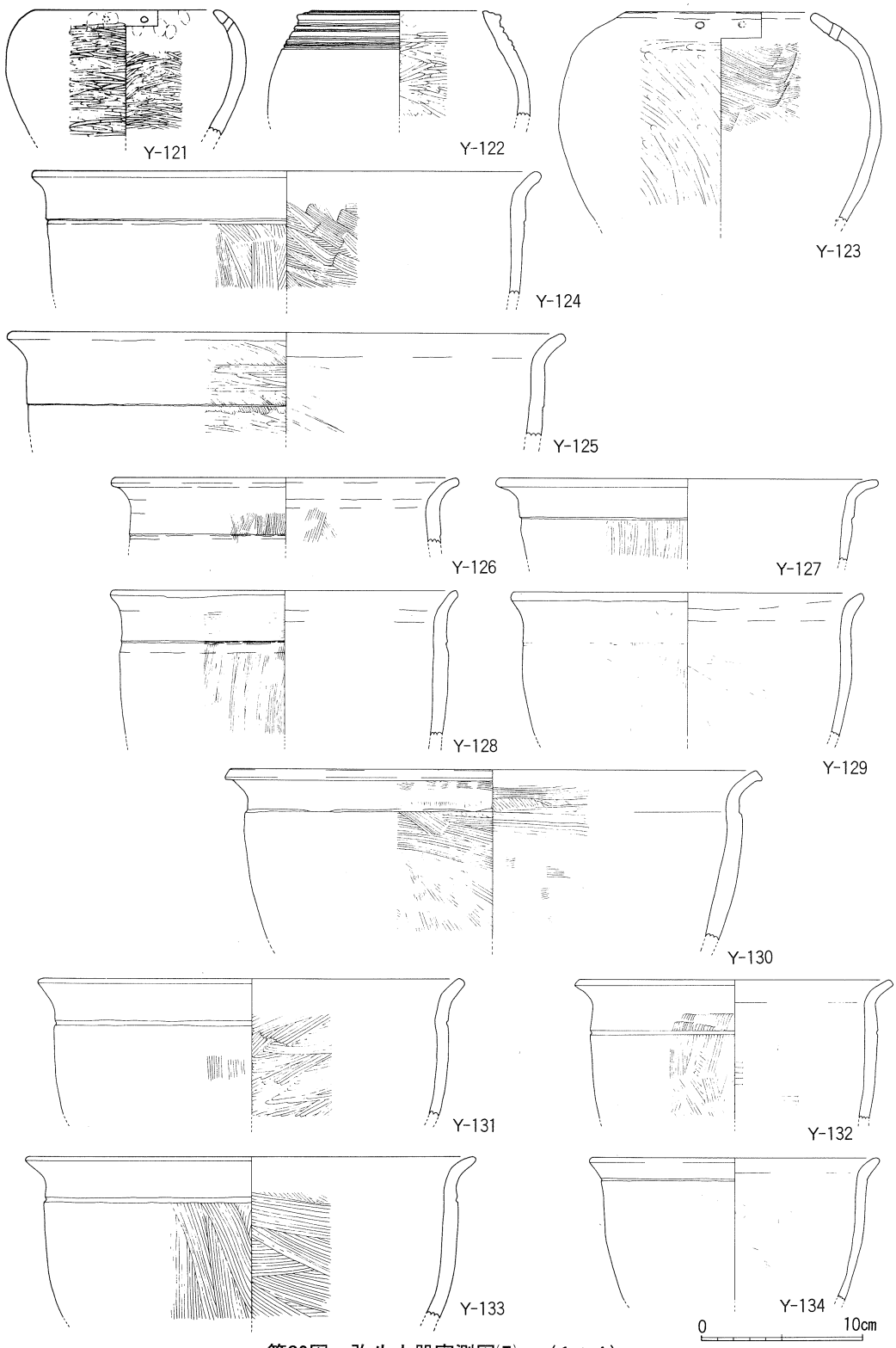
第27図　弥生土器実測図(4)　（1：4）



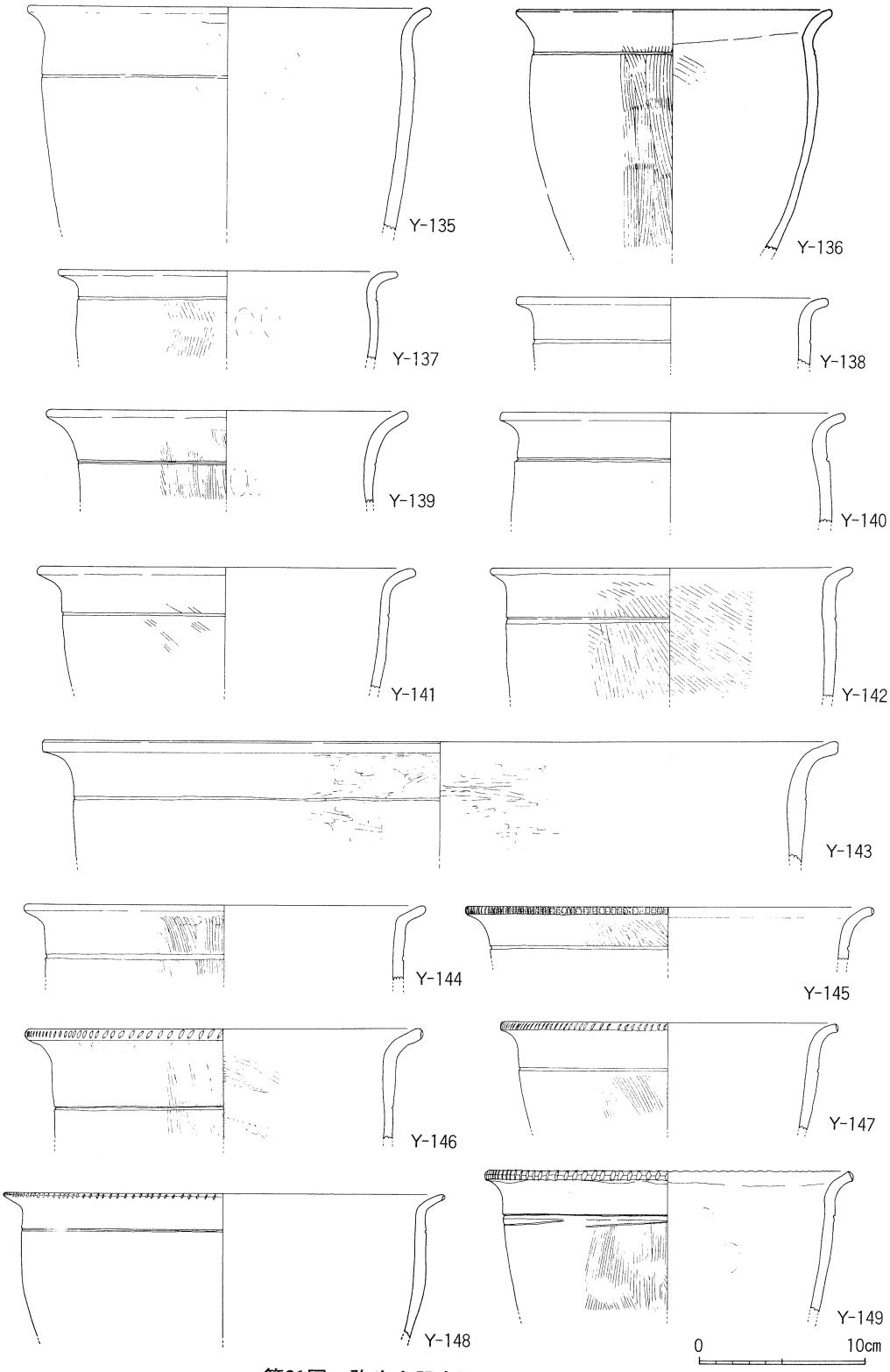
第28図　弥生土器実測図(5)　（1：4）



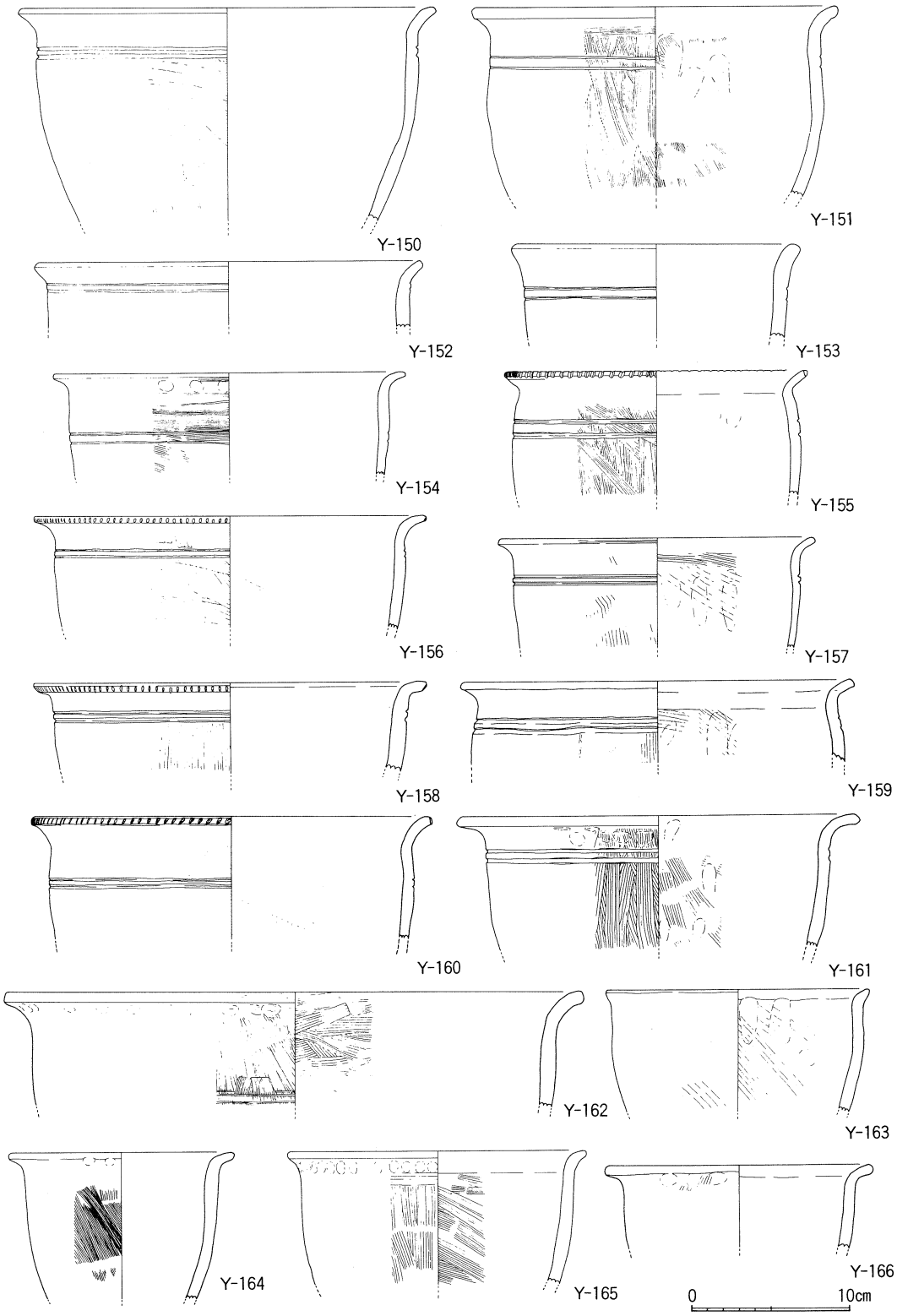
第29図　弥生土器実測図(6)　（1：4）



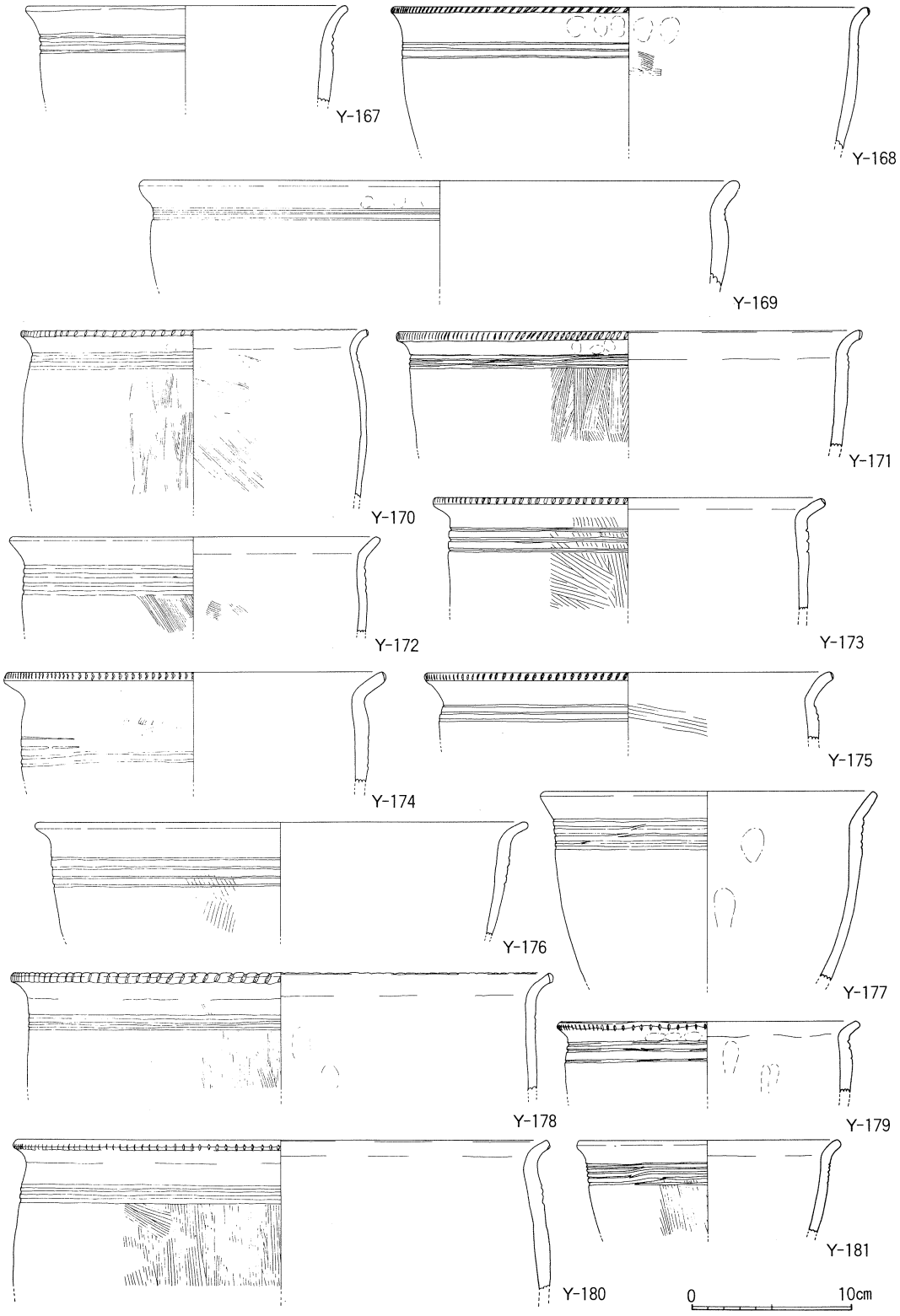
第30図　弥生土器実測図(7)　（1：4）



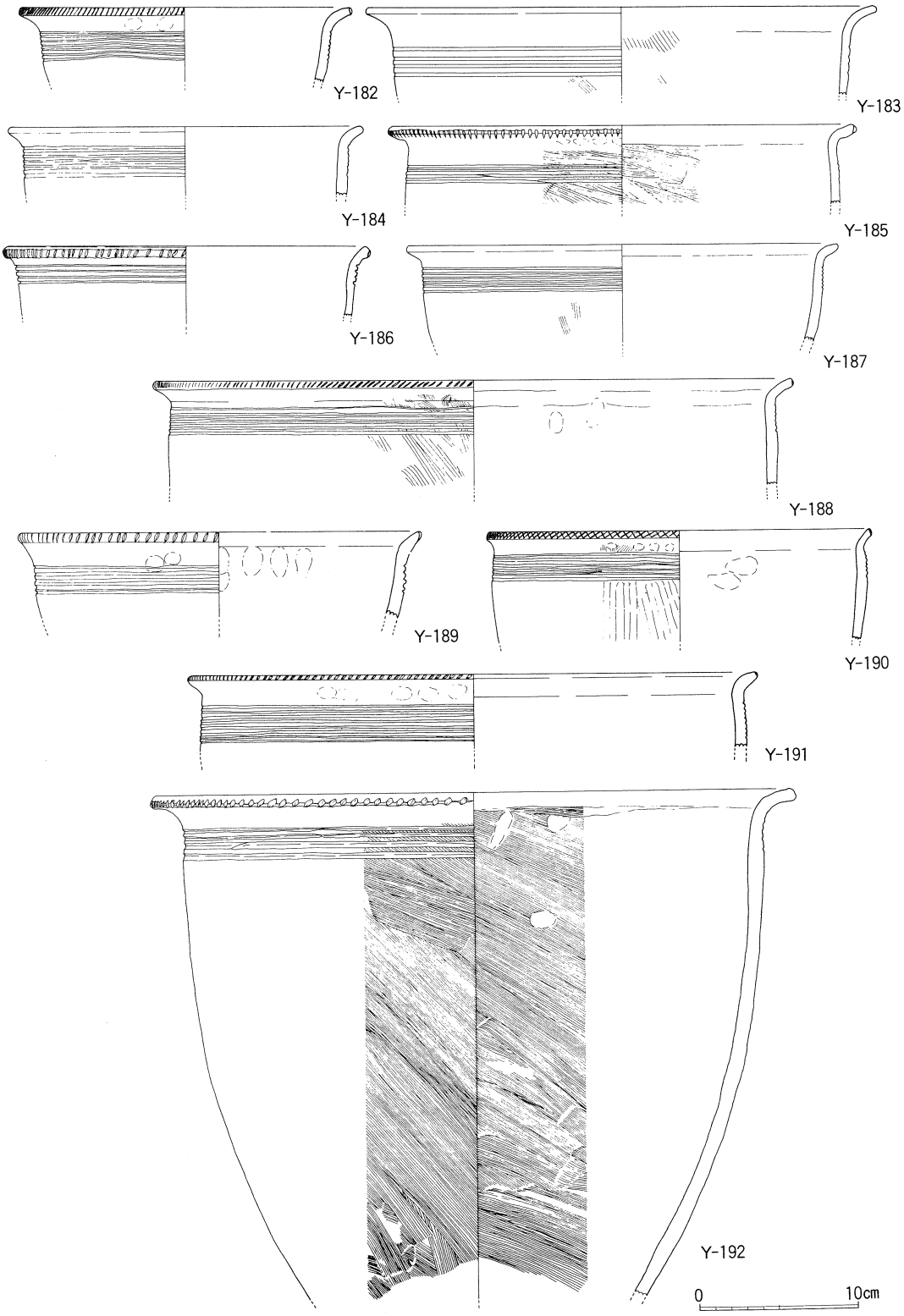
第31図　弥生土器実測図(8)　（1：4）



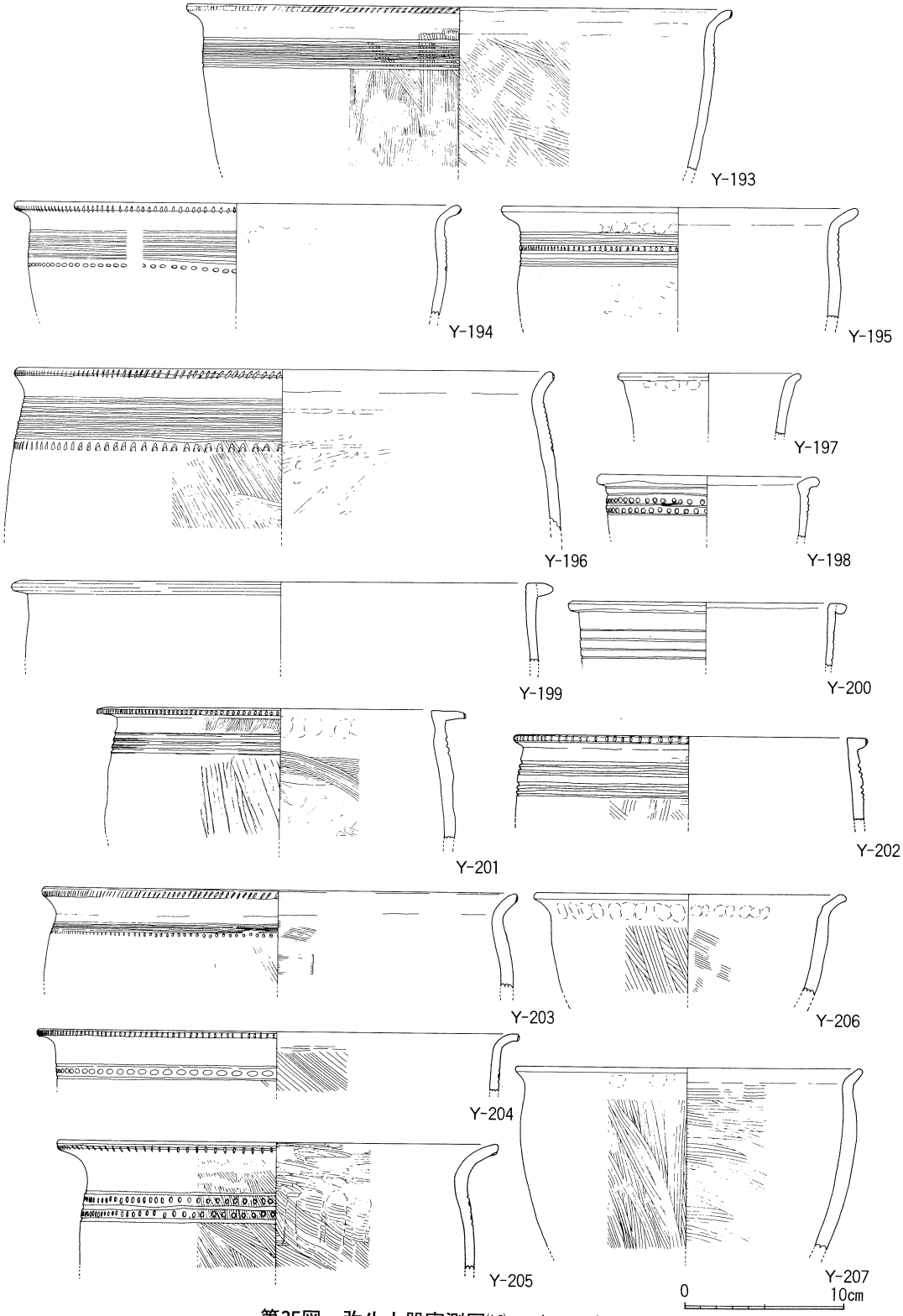
第32図　弥生土器実測図(9)　（1：4）



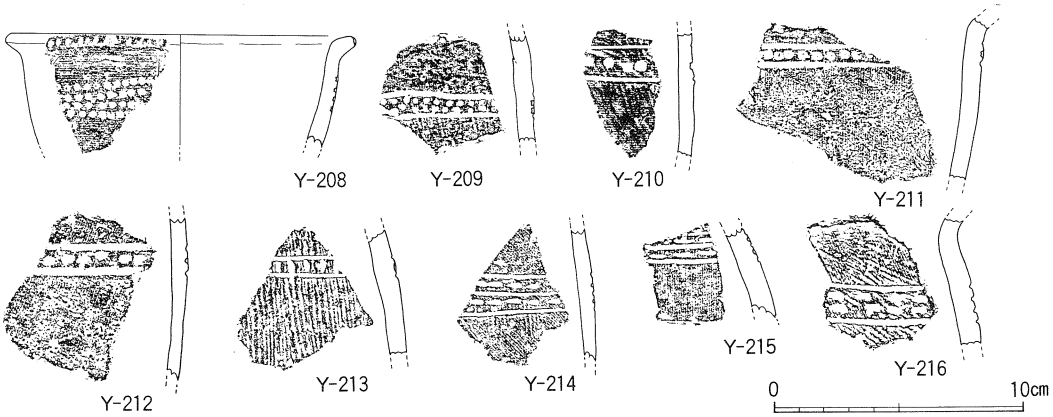
第33図　弥生土器実測図(10)　（1：4）



第34図　弥生土器実測図(11)　（1：4）



第35図　弥生土器実測図(12)　（1：4）



第36図　弥生土器実測図(13)　（1：4）

鉢（Y-208～247）

鉢には，口縁部が短く外反するもの（Y-208・238～240・242・244・247），短く屈曲するもの（Y-241・243・245），直口のもの（Y-246）がある。外反するものと直口のものの中には（Y-246・247）外面に偏平な把手を備えるものが見られる。器面調整は，Y-240・242・243がヘラミガキ，それ以外のものはハケ目とナデを行う。

蓋（Y-248～252）

蓋としたものには，壺用のものと甕用のものが見られた。

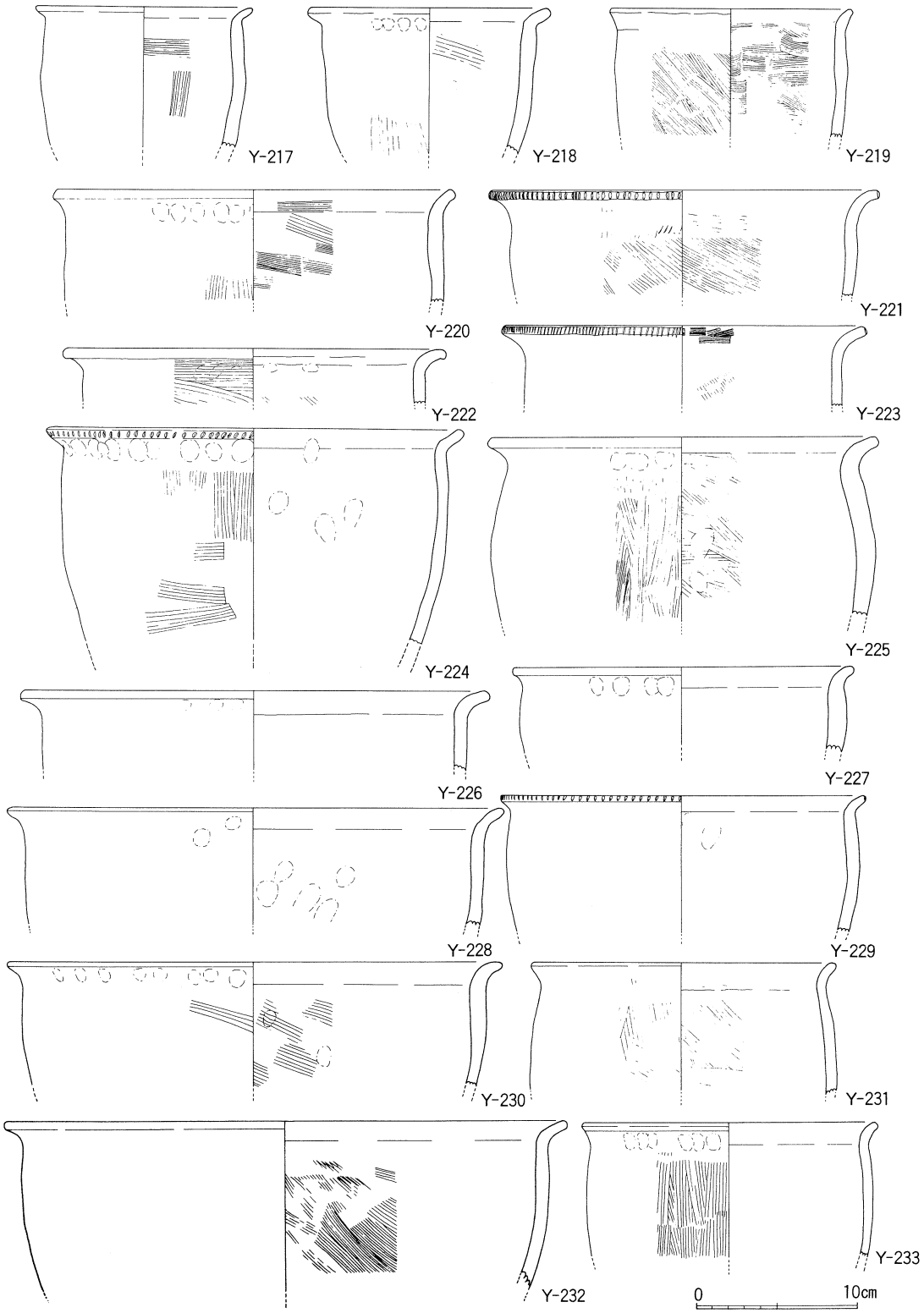
壺用の蓋はY-248のみである。天井部に乳頭状の突起を2個もつ。天井部と，笠形に開いていく部分との境には1条の沈線が施される。

Y-249～252は甕用の蓋である。天井部に平坦面をもち，末広がりになっている。Y-251はナデ調整，他は内外面ともヘラミガキが行われている。

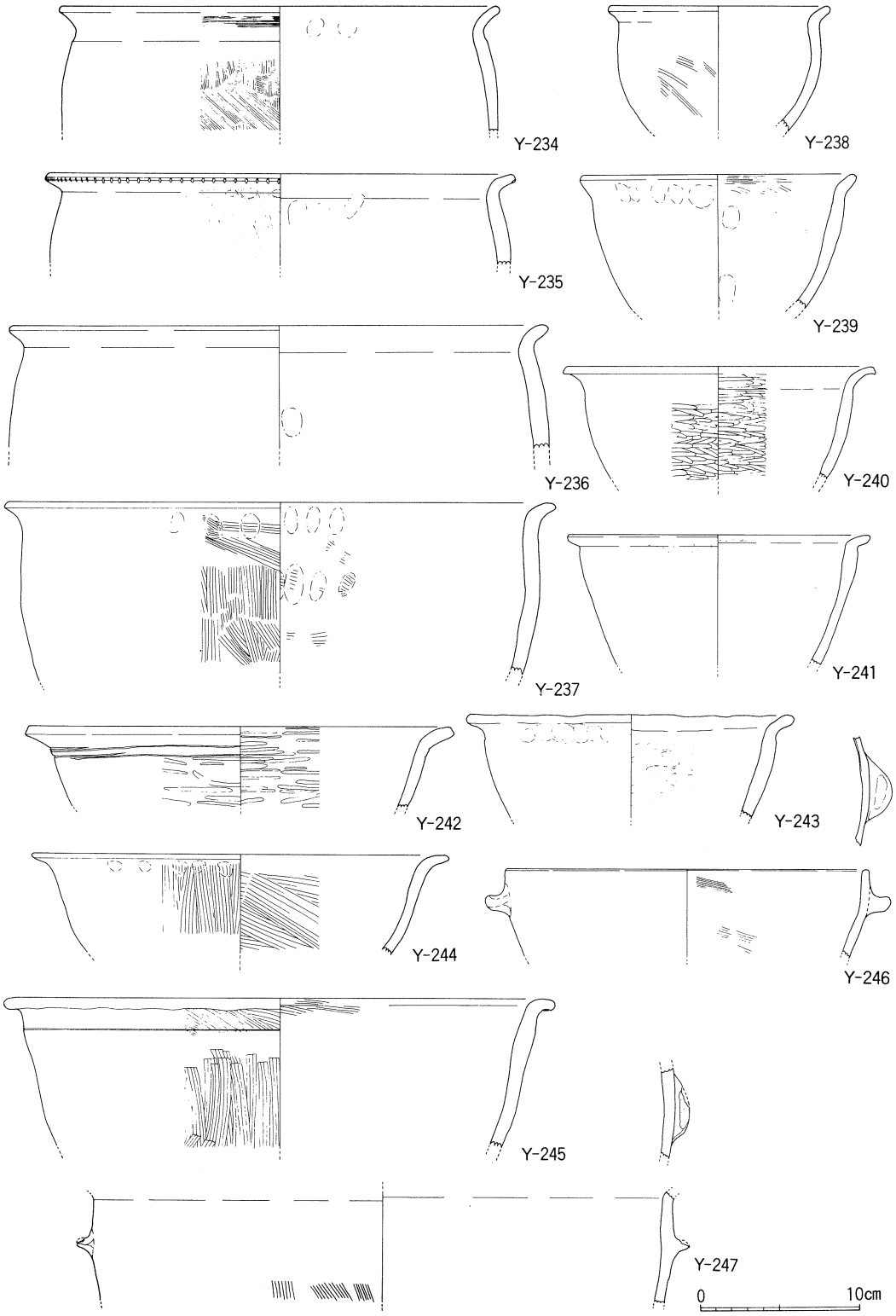
底部（Y-253～266）

Y-253～266には前期土器の底部と考えられるものを図示した。Y-256の底外面にはモミや，ワラと思われる植物の茎の圧痕が見られる。Y-265・266は焼成後に穿孔されている。

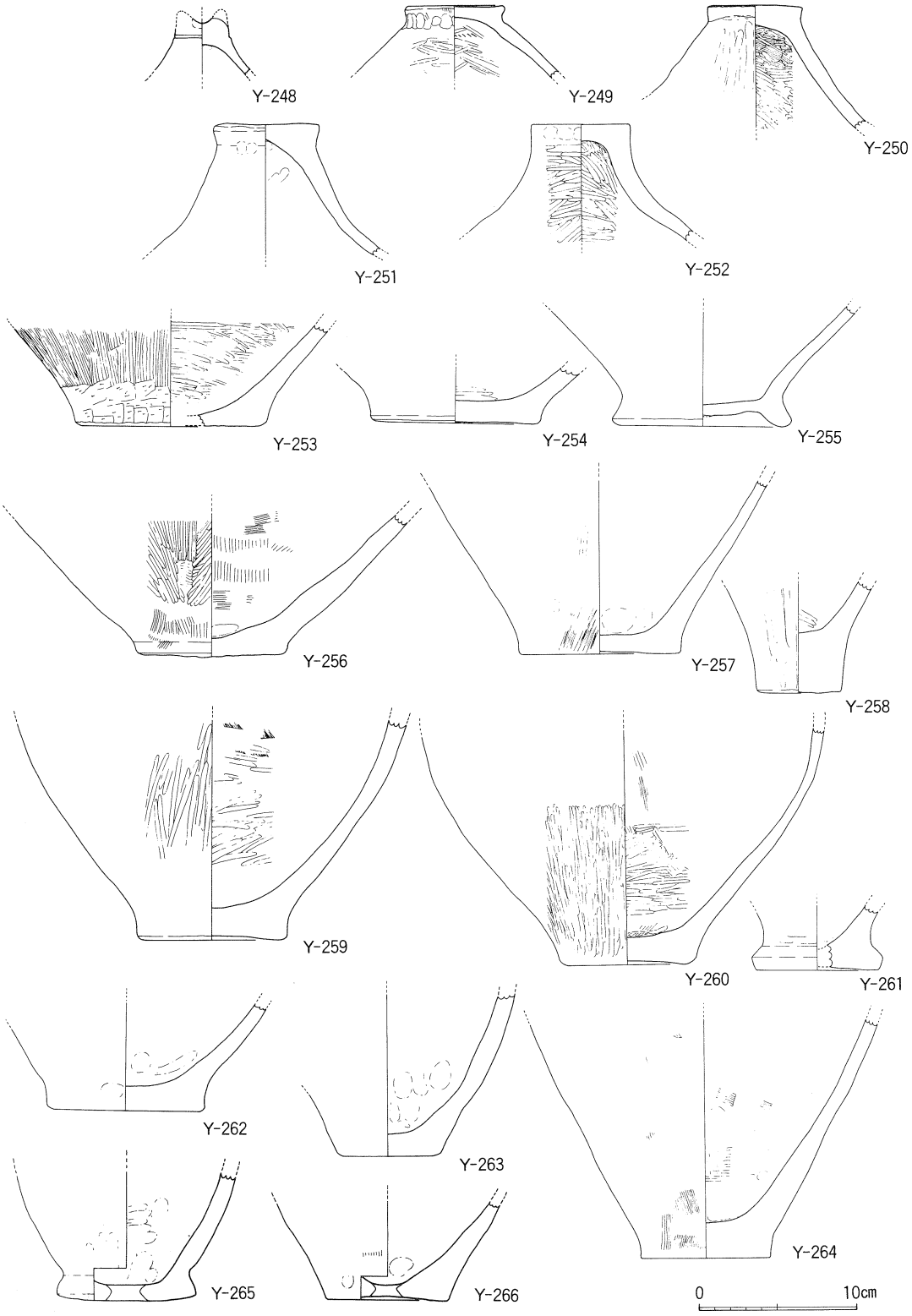
註1　『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅴ（海崎地区3）』　島根県教育委員会　1989年
註2　『タテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』　島根県教育委員会　1990年
註3　内田律雄氏の御教示による。
註4　『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』　島根県教育委員会　1983年
註5　壺の頸部内面に突帯が施される土器は，下関市綾羅木郷遺跡をはじめ，瀬戸内地方でみられる土器である。しかし実見した時の印象では，それらの土器群に付けられる突帯は蓋受けとしての機能が強く推定されるもので，この土器の突帯とは異なるもののようである。



第37図　弥生土器実測図(14)　（1：4）



第38図　弥生土器実測図(15)　（1：4）



第39図　弥生土器実測図(16)　（1：4）

(2) 中期の土器（第40～50図　Y-267～474）

広口壺，短頸壺，長頸壺，直口壺，甕，鉢，高坏等の器種がある。

壺（Y-267～346）

壺については，形態及び手法の特徴から７種類に分類した。

くし描き直線文をもつものをⅠ類としたが，口縁部の形態は様々であった。口頸部がゆるやかに外反して開き，多条のくし描き文と刺突文が施されるもの（Y-267），円筒状の頸部からごく短く外反する口縁部をもつもの（Y-268），逆「L」字状を呈す口縁部をもち，円筒状の頸部にくし描き文が施されるもの（Y-269）等が見られる。

Ⅱ類としたものは，口縁部が朝顔状に大きく開くもので，さらに３種に細分できる。

口縁端部が上下，又は下方にわずかに拡張するものをⅡ－１類（Y-271～273・274～280・308・309）とした。端部は無文のもの，刻み目をもつもの等があり，頸部には断面三角状の突帯文，指頭圧痕文帯をもつものもある。Ⅱ－２類（Y-289～296・298～304・306・307）としたものは，口縁端部が上下，又は下方に大きく拡張されたものである。端部内外面に斜行文，山形文，斜格子文，羽状文，刺突文，円形浮文，刻み目突帯文等様々な文様が施される。Ⅱ－３類（Y-297・305・310～313）としたものは，形態的にはⅡ－２類と変わらないが，口縁端部に凹線文が施されるものとした。Y-297・305・310・311は，Ⅱ－２類に使用されている文様と凹線文が合せて施されるものである。

「ハ」の字状に開く口縁部をもつものをⅢ類とした（Y-282～288）。口縁端部は拡張し水平，もしくは内傾する平坦面をもつ。Y-287・288は端部に円形浮文，斜格子文等が施文されている。口頸部外面の文様には山形文（Y-282），貼り付け突帯文（Y-283・286・287），刻み目突帯文（Y-284・288），凹線文（Y-285），波状文等が見られる。

Ⅳ類（Y-313～321・324）は円筒状の頸部から短く外反する口縁部をもつものである。口縁端部は内傾方向に拡張し，凹線文が施される他，頸部にも凹線文をもっている。さらにY-314は口縁端部の凹線文の上にハケ目原体による刻み目が，Y-321は円形浮文が施される。Y-323は以上の土器よりも口縁部が大きく反るものである。

Ⅴ類（Y-270・328・331）は短い逆「L」字状の口縁部と「ハ」の字に開く胴部をもつものである。Y-270の胴部外面には，くし描き直線文と波状文が施される。

Ⅵ類（Y-326・327）は胴部が強く張った，短頸の直口壺である。Y-326は口縁端部が平坦に作られ，外面にヘラによる刻み目を施される。Y-327はやや長めの口頸部をもつもので，端部上面に，わずかにくぼんだ面をもち，外側には刻み目を施している。器面調整は外面ハケ目，内面ナデを施

す。

Ⅶ類（Y-332～340）は口頸部が「く」の字状に緩く屈曲する壺である。口縁端部が丸く終わるものと面をなすものがある。Y-332は前者にあたるもので，胴部はあまり張り出さず長胴の傾向がある。器面調整は外面ハケ目，内面ナデ，口縁部ヨコナデを行っている。Y-333以下は後者のもので端部を拡張し，胴部が強く張る。器面調整は外面ハケ目，内面はハケメもしくはナデ，口縁部ヨコナデを施している。

Y-329は細頸の直口壺である。口縁端部は平坦に作られており，胴部にむかいソロバン玉状に張り出す器形になると思われる。細長い頸部には凹線５条が施される。外面ハケ目，内面ナデで調整され，口縁端部の内面には指頭圧痕が著しく，肩部には絞り目が見られる。出雲部ではあまり見かけないものである。

Y-341・342は口縁部が逆「ハ」の字状に大きく開くものである。口縁端部は拡張しており，Y-341には凹線文が施されている。またY-330は内面に漆が厚く付着したものである。内外面ヘラミガキで調整される。

第43図（Y-343～346）には壺胴部の文様の拓影を示した。いずれも，くし状工具により施文されている。Y-343は直線文と波状文，Y-344・345は直線文と斜格子文，Y-346は流水文である。

甕（Y-347～443）

甕は形態と手法の特徴から４種類に分類した。

Ⅰ類としたものは，くし描きによる直線文をもつもので，口縁部の形状から，さらに３種に細分できる。Ⅰ－１類（Y-347～352）は口縁部が短く外反するものである。頸部以下に３～５条単位のくし描き直線文を数回施し，一部のものには，その直下に三角形状の刺突文をもつものもある。胴部の張り出すもの（Y-348・349・351）と，張り出さないもの（Y-347・350・352）がみられる。器面調整はハケ目とナデを行う。Ⅰ－２類（Y-353・354）は口縁部がごく短く，「く」の字状に屈曲するものである。胴部は強く張り出している。Ⅰ－３類（Y-355・356）は口縁部が逆「L」字状を呈するものである。

Ⅱ類（Y-358～362）としたものは，口縁部がごく短く，屈曲気味に外反するもので，くし描き直線文をもたないものである。胴部はやや張り出している。ヘラによる刺突文をもつもの（Y-360）や棒状工具による刺突文をもつもの（Y-361）も見られる。器面調整はハケ目とナデによるが，ヘラミガキが施されるもの（Y-360）もある。

Ⅲ類は口頸部を「く」の字状に屈曲させたものであるが，屈曲部の度合い，口縁端部の形状によりさらに４種に細分できる。Ⅲ－１類（Y-363～370）は屈曲部内面に，はっきりした稜をもたな

いものである。Y-369だけは口縁端部に面をもつが，それ以外のものは丸く納められる。胴部はやや張り出している。Ⅲ－２類（Y-371～383）は屈曲部内面にはっきりした稜線をもち，口縁端部に小さな面をもつものである。胴部を強く張り出させたものが多い。Ⅲ－３類（Y-384～401）はⅢ－２類の口縁端部をやや拡張し，そこに１～２条の凹線を施したものである。凹線上にはさらに刻み目を施し装飾するものも見られる。胴部の形状は張り出すものが多い。Ⅲ－４類（Y-402～406）はⅢ－３類の口縁部をさらに拡張し，くり上げ状を呈するものである。端部外面には凹線や刻み目をもっている。胴部内面をヘラケズリするもの（Y-406）もある。

Ⅳ類（Y-407～425）は口頸部が「く」の字状に屈曲し，屈曲部外面に指頭圧痕文帯をもつものである。口縁端部は拡張されており，一部の土器には刻み目や凹線を施すものも見られる。

Ⅳ類甕としたものは，前述の壺Ⅶ類とよく似た形状をしている。この２種は前者が屈曲部内面に稜をもつのに対し，後者は同位置に面をもつと言う点で相違する。ここでは下山南通遺跡[註1]での分類を参考に前者を甕，後者を壺とした。

鉢（Y-426～443）

口縁部の形状から２類に分類し，口縁部が短く外反するものをⅠ類，直立または内湾するものをⅡ類とした。

Ⅰ類（Y-426～428）は口縁部が短く外反するもので，器面はハケ目とヘラミガキで調整する。

Ⅱ類（Y-429～443）は口縁部が直立または内湾し，端部に平坦面をもつものである。口縁部から胴部の外面には貼り付け突帯，くし描き波状文，刺突列点文，指頭圧痕文帯等で装飾される。器面は摩滅しているものが多く，大半のものは調整が見えないが，ハケ目またはナデによる調整が確認できるものもある。

高坏（Y-445～458）

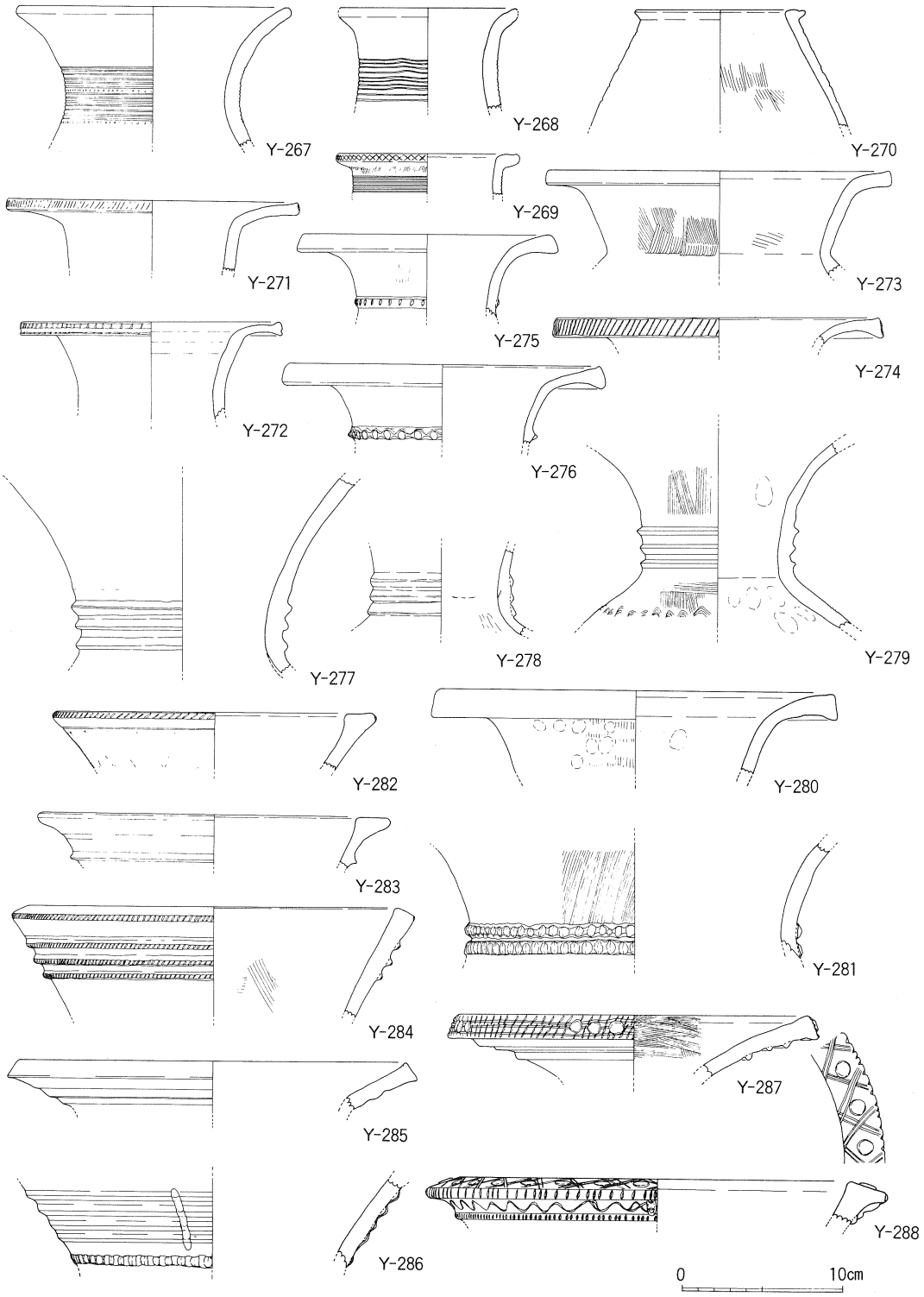
坏部の形態には５種類のものが見られる。

Ⅰ類（Y-445）は端部に水平な面をもつものである。口縁部を屈曲させ水平方向に延ばした形状になっている。

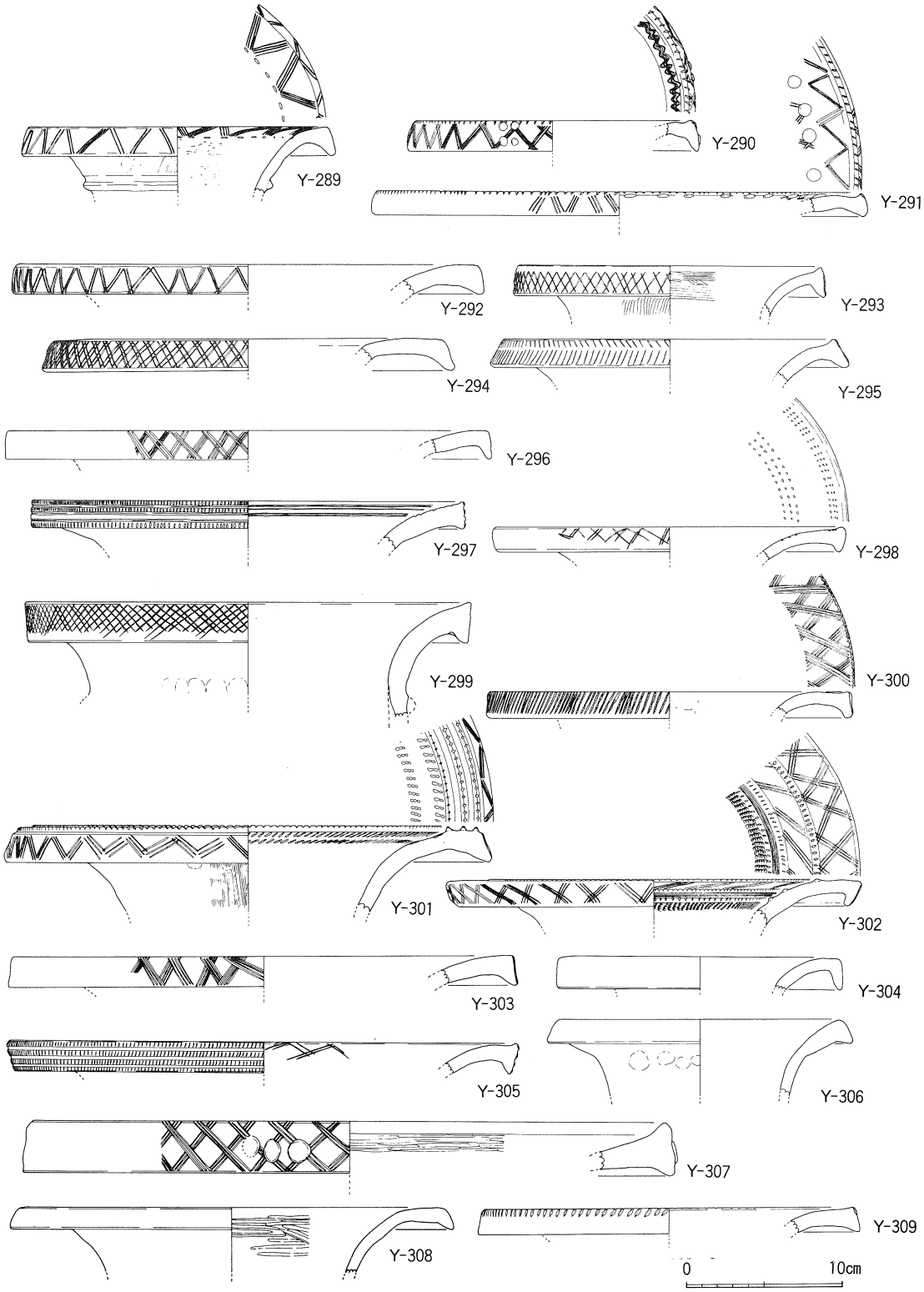
Ⅱ類（Y-444・446～449）は口縁端部を拡張した平坦面をもつものである。杯部は内湾し，器面はヘラミガキとナデにより調整される。

Ⅲ類（Y-452）は口縁部が逆「L」字状を呈し，平坦面をもつものである。平坦部分には縦に直径３～４ミリ大の円孔が穿たれる。

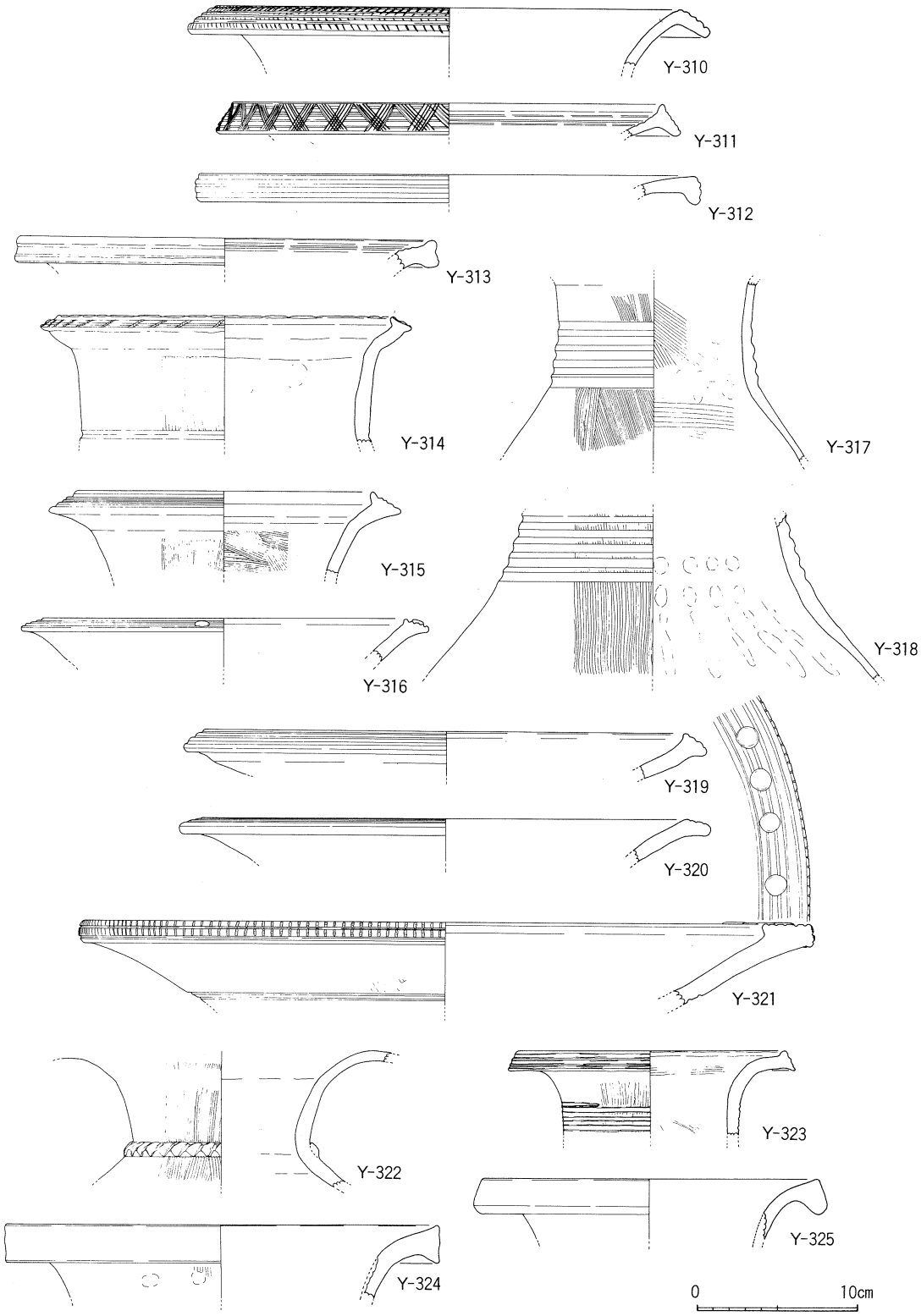
Ⅳ類（Y-453）は口縁部が短く内側に屈曲するものである。杯部の形状は緩やかに内湾する。外面



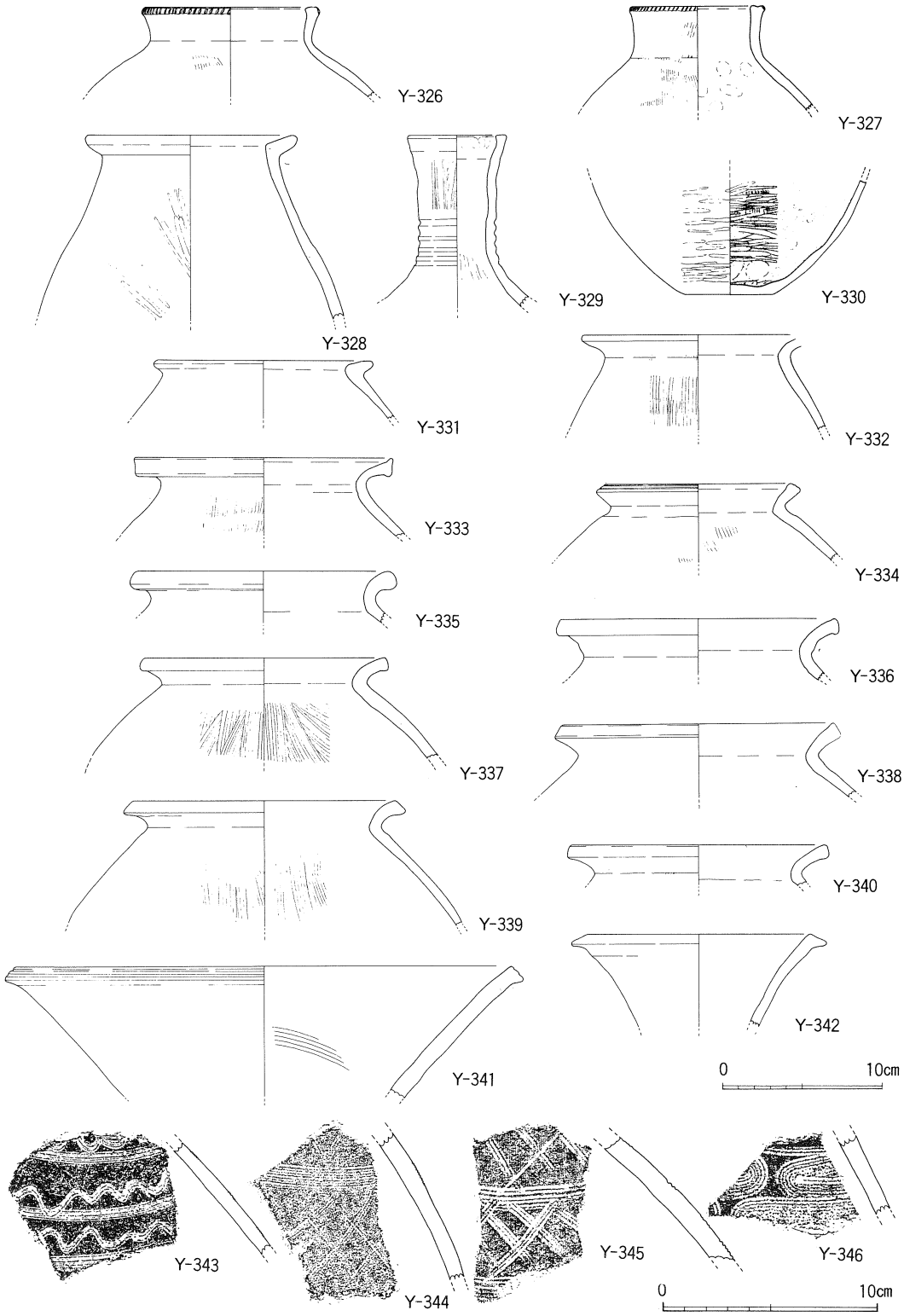
第40図　弥生土器実測図(17)　（1：4）



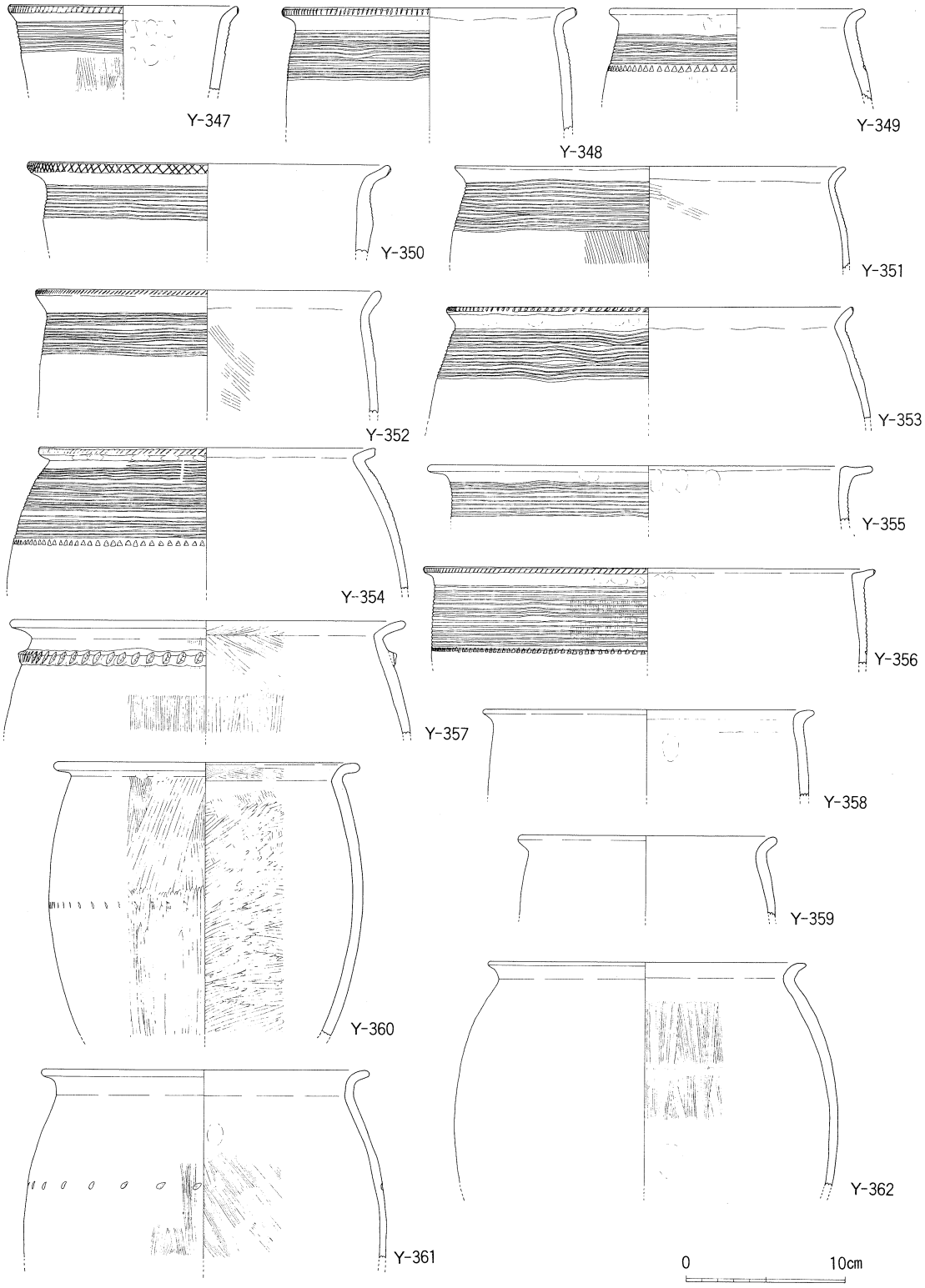
第41図　弥生土器実測図(18)　（1：4）



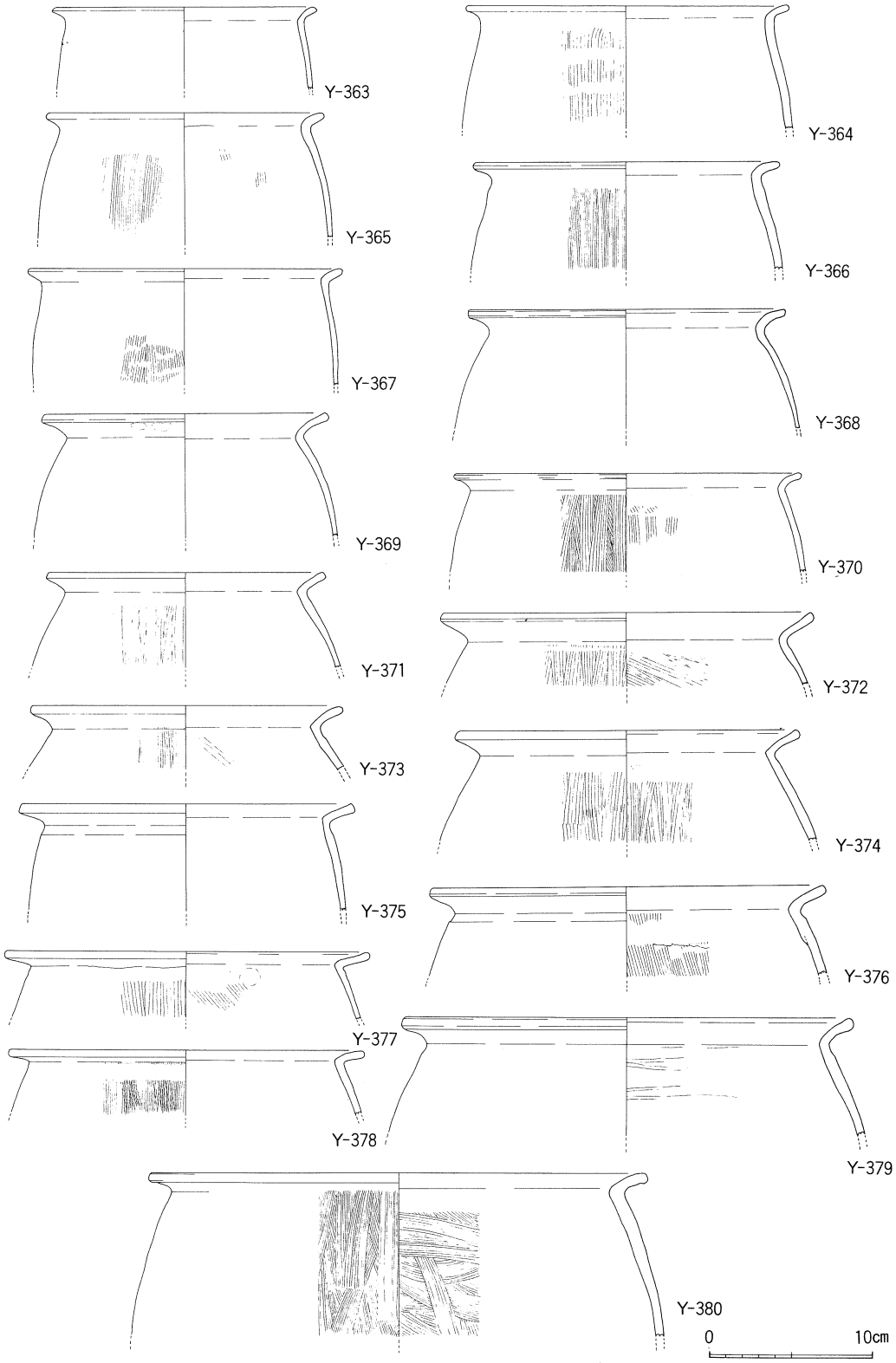
第42図　弥生土器実測図(19)　（1：4）



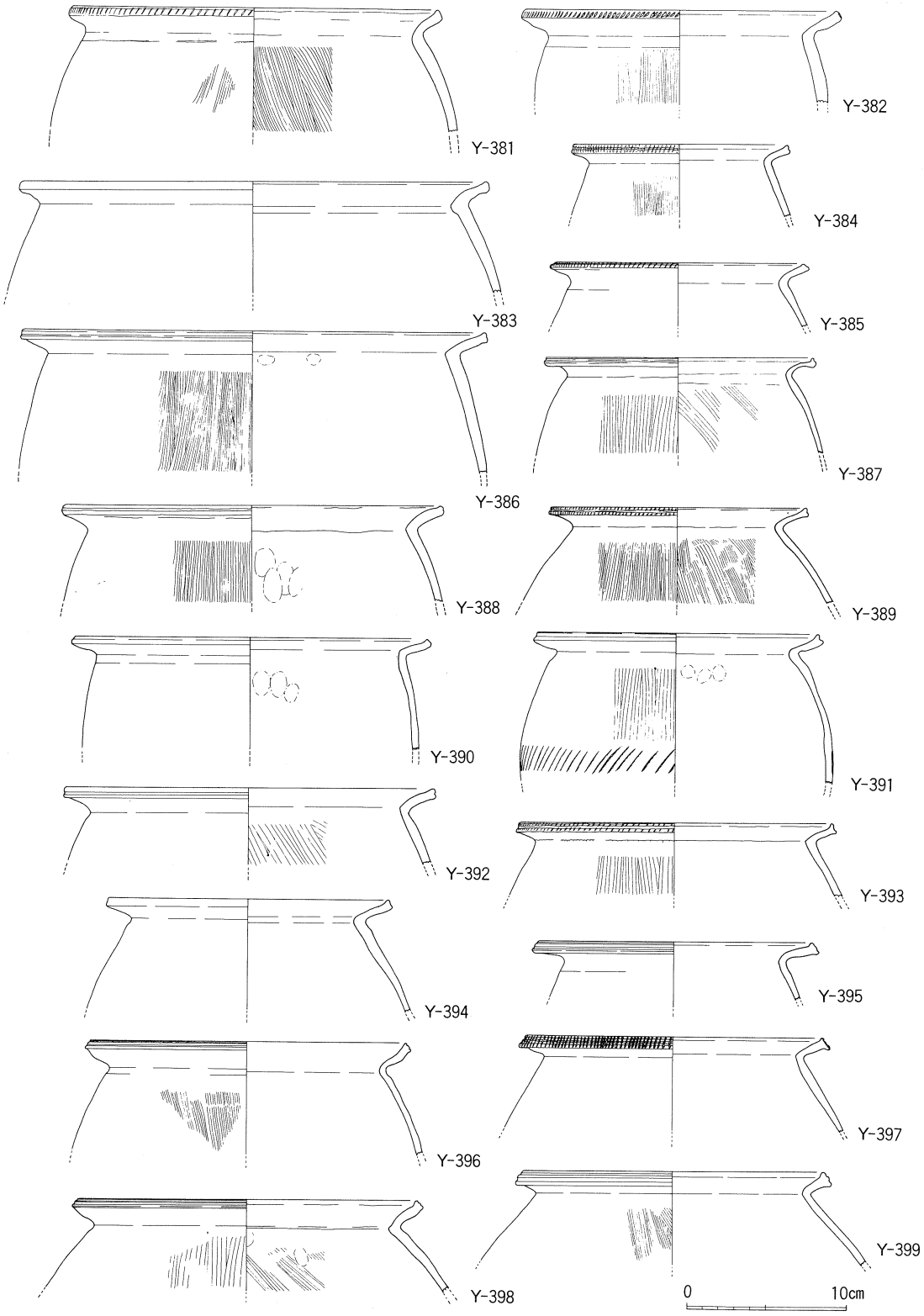
第43図　弥生土器実測図⑳　（1：4）



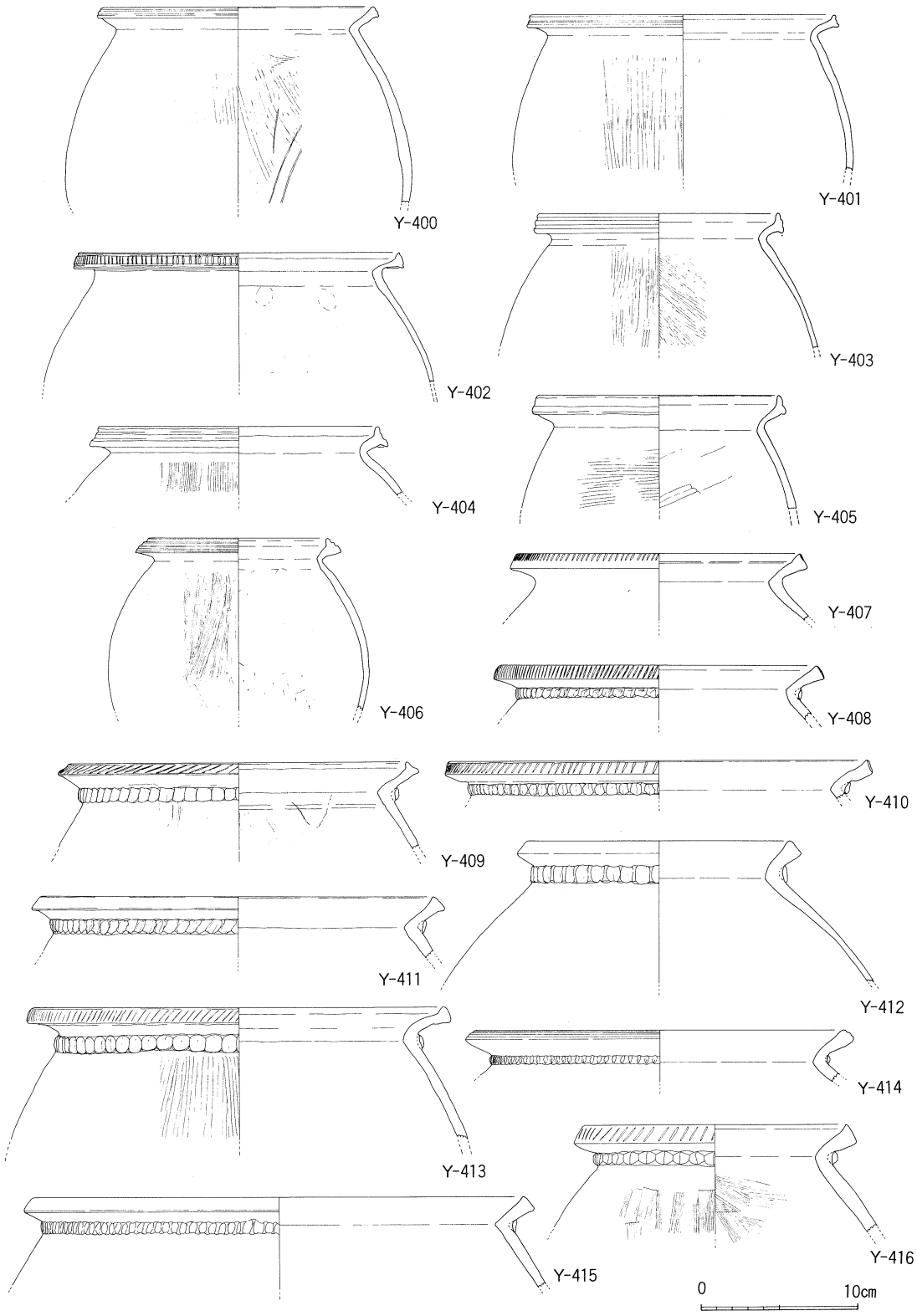
第44図　弥生土器実測図(21)　（1：4）



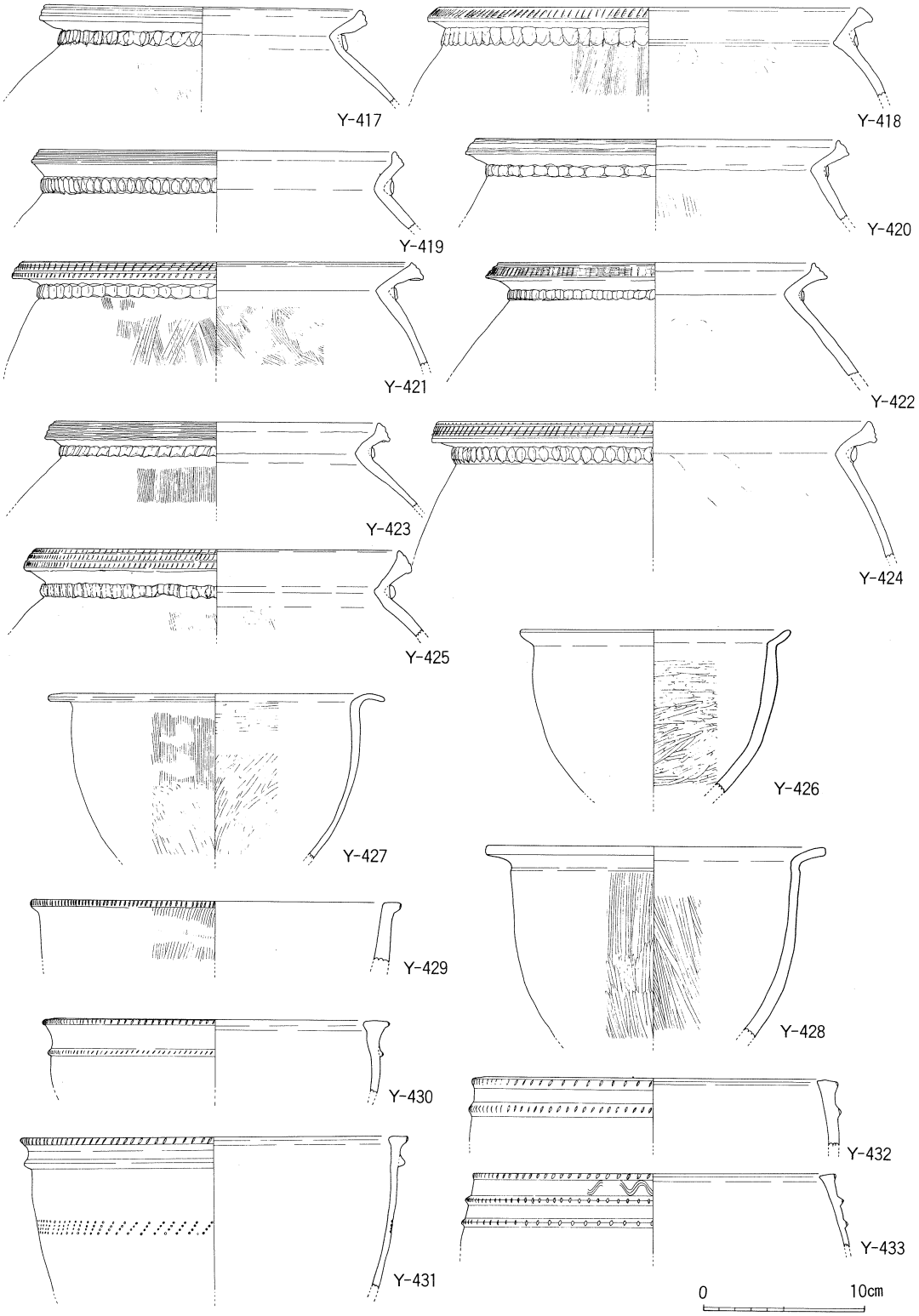
第45図　弥生土器実測図(22)　（1：4）



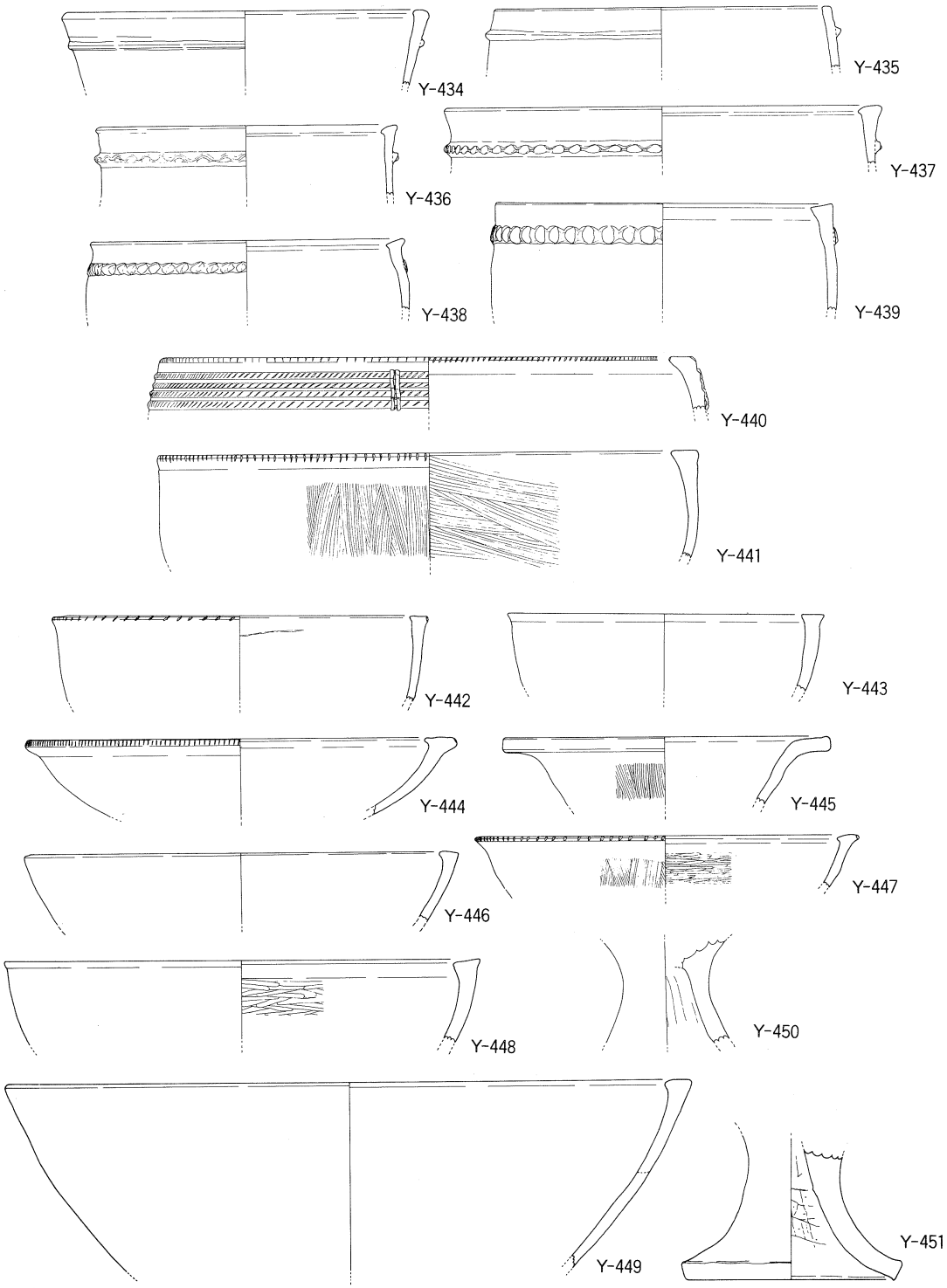
第46図　弥生土器実測図(23)　（1：4）



第47図　弥生土器実測図(24)　（1：4）

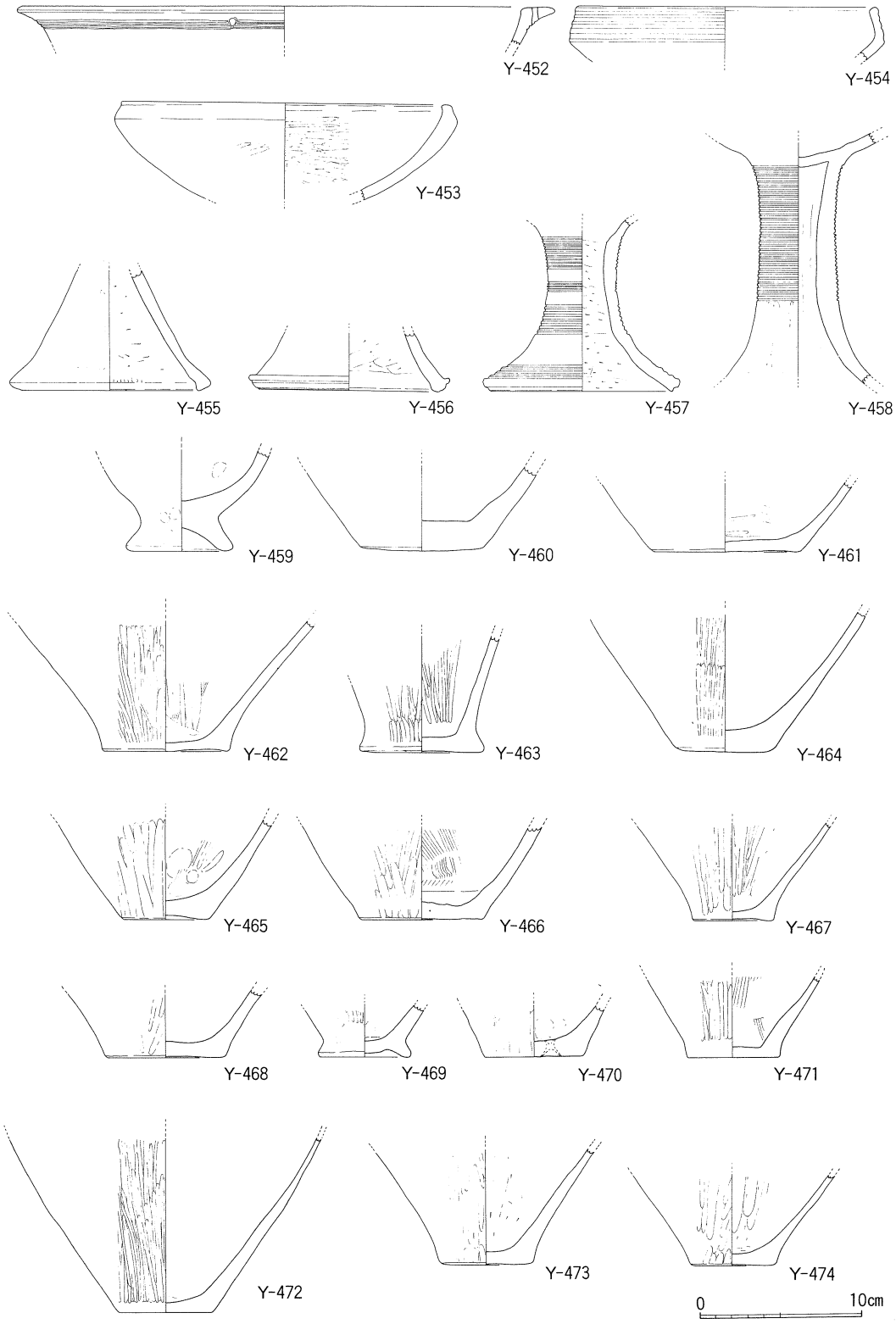


第48図　弥生土器実測図(25)　（1：4）



第49図　弥生土器実測図(26)　（1：4）

0　10cm



第50図　弥生土器実測図(27)　（1：4）

はヘラミガキ，内面はヘラケズリの後ヘラミガキが施される。胎土中には大粒の砂粒を含んでいる。

Ⅴ類（Y-454）は内傾する口縁部外面に凹線文をもつものである。凹線は4条施される。

Y-455～458は脚部を図示した。

Y-455は「ハ」の字状に開く脚部で，脚端部内面に段状のへこみをもっている。外面ヘラミガキ，内面ヘラケズリである。

Y-456は「ハ」の字状に開き，脚端部は段をなして外面に凹線2条が施されている。器面調整は摩滅のため外面は不明であるが，内面にはヘラケズリが見える。

Y-457は円筒状の筒部からゆるやかに開く裾部をもつもので，裾部外面には4条，脚端部には1条の凹線文を施す。筒部外面には多条のくし描き直線文が施される。内面は横方向のヘラケズリを施される。

Y-458は細長い円筒状の筒部からゆるやかに広がる裾部をもつものである。筒部外面には多条のくし描き直線文が施される。裾部外面はヘラミガキで調整され，内面にはしぼり目が見られる。

底部（Y-459～474）

Y-459は低脚付きのもので，内外面ナデ調整を行う。Y-470は底面にわずかに穿孔の痕跡を残すもので穿孔の位置は中心からやや外れている。Y-473・474は内面ヘラケズリの後，上半部にヘラミガキを施すものである。

前期のものに比べると，中期の底部は全般に薄作りで小さめのものが多い。器面調整は外面ヘラミガキ，内面ハケ目の後ヘラミガキ又はナデを施すものが大半である。

註1　『下山南通遺跡』　鳥取県教育文化財団　1986年

(3) 後期の土器（Y-475～558）

壺，甕，高坏，器台，蓋等の器種がある。甕の出土量が圧倒的に多い。

壺（Y-475～485）

複合口縁部の形状により4種類に分類する。

Ⅰ類（Y-475～477）としたものは，口縁端部を内傾させ上下にやや拡張する，いわゆるくりあげ口縁となるものである。端部外面には3～4条の凹線文が施されている。Y-475は口頸部が短く外反するもの，Y-476は長く外反するもの，Y-477は円筒状の頸部から緩く外反する口縁部をもつもので，いずれも内面頸部以下にヘラケズリを施す。

Ⅱ類（Y-478～480）は口縁端部が上下に拡張し，直立した複合状を呈するものである。端部外面には凹線文が施される。Y-478は口頸部が外傾して端部に至るもの，Y-479・480は円筒状の頸部から強く外反して端部にいたるものである。Y-480の内面ヘラケズリはかなり上部から行われている。

Ⅲ類（Y-481）は口縁端部を上方に拡張し，外傾した複合口縁となるものである。端部外面には凹線文が施される。

Ⅳ類（Y-487）は複合口縁部を外反させ，外面にくし描き直線文を施すものである。

Ⅰ～Ⅳ類に入らないもので，くりあげ状の口縁をもつ薄手・小形のもの土器が2点見られる（Y-483・484）。2点とも，口縁部外面に凹ませた面をもつ。Y-483は口頸部を外湾させ，内面にヘラミガキを，Y-484は内面頸部以下にヘラケズリを施す。

Y-485は最大径が上方にある小形壺である。外面下半にヘラミガキを，内面にヘラケズリを施される。

甕（Y-486～547）

甕は複合口縁の形状により，6種類に分けた。

Ⅰ類（Y-486～495）としたものは口縁端部をやや拡張して内傾させ，くりあげ口縁となるものである。端部外面には2～3条の凹線文が施される。胴部に刺突文をもつものもあり，刺突工具にはハケ目原体を使用するもの（Y-487）や，貝殻腹縁を使用するもの（Y-495）等がある。器面調整は外面上半ハケ目，下半ヘラミガキ，内面ヘラケズリを行っている。ヘラケズリの位置は，Y-491は屈曲部内面から削っているが，それ以外のものは屈曲部よりやや下がった位置から削っている。Y-495の内面ヘラケズリは筋状の痕跡を残す特異なものである。

Ⅱ類（Y-496～512）としたものは，口縁端部がⅠ類よりも大きく拡張され，内傾し，くりあげ状を呈するものである。端部外面には3～4条の凹線文が施される。Y-511・512は擬凹線文である。内面ヘラケズリの位置は屈曲部から行うものが圧倒的に多い。

Ⅲ類（Y-513～520）は，口縁端部を上下に拡張し，直立した複合状を呈するものである。端部外面に凹線文をもつもの（Y-513・517）と擬凹線文をもつもの（Y-514～516・518～520）がある。

Ⅳ類（Y-521～541）は，端部上端を厚く作ったもので，複合口縁部を直立させるもの，外傾させるもの，やや外反させるもの等がある。口縁部外面に擬凹線文を施すものが大半であるが，Y-535・536には多条のヘラ描き直線文が施されている。肩部から胴部に斜行刺突文をもつものもあり，刺突工具には棒状工具を使用するもの（Y-523），ハケ目原体を使用するもの（Y-528・538），貝殻腹縁を使用するもの（Y-536・539）等が見られる。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ヘラケズリによるものがほとんどであるが，Y-535・536の外面にはていねいなヘラミガキが施されている。内面ヘラケズリの位置は屈曲部内面から行うものがほとんどである。

Ⅴ類（Y-542～545）としたものは，複合口縁部が外反して長く伸びるものである。端部に丸みを帯び，外面には多条の擬凹線文が施されている。Y-545の胴部には，貝殻腹縁による押し引き状の刺突文が施されている。

Ⅵ類（Y-546・547）は，複合口縁部が外反もしくは外傾し，無文のものである。胴部の張り出しは少ない。Y-546の肩部には貝殻腹縁による羽状の刺突文が施される。

鉢（Y-548）

鉢は1点を図示した。くりあげ状の口縁をもち，甕を押し潰したような形状になっている。内面下半にヘラケズリを残している。

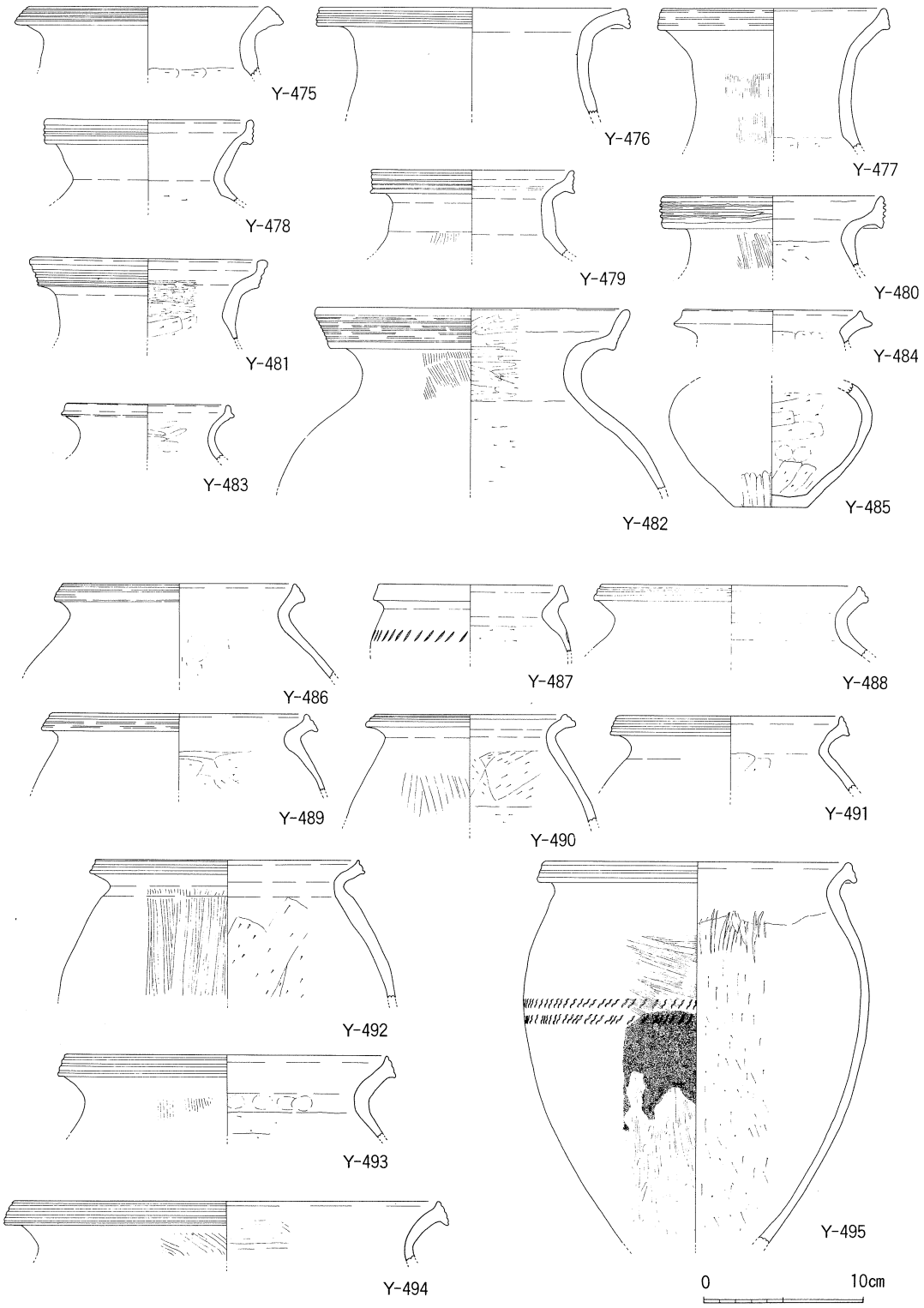
高坏（Y-549～551）

高杯は3点を図示した。Y-549は坏部が複合状を呈し長く外反するもので，外面に多条の平行線文を施している。脚部上方は細くすぼまっているが，欠損しているため下方の形状は判らない。坏部内面の調整はヘラミガキである。

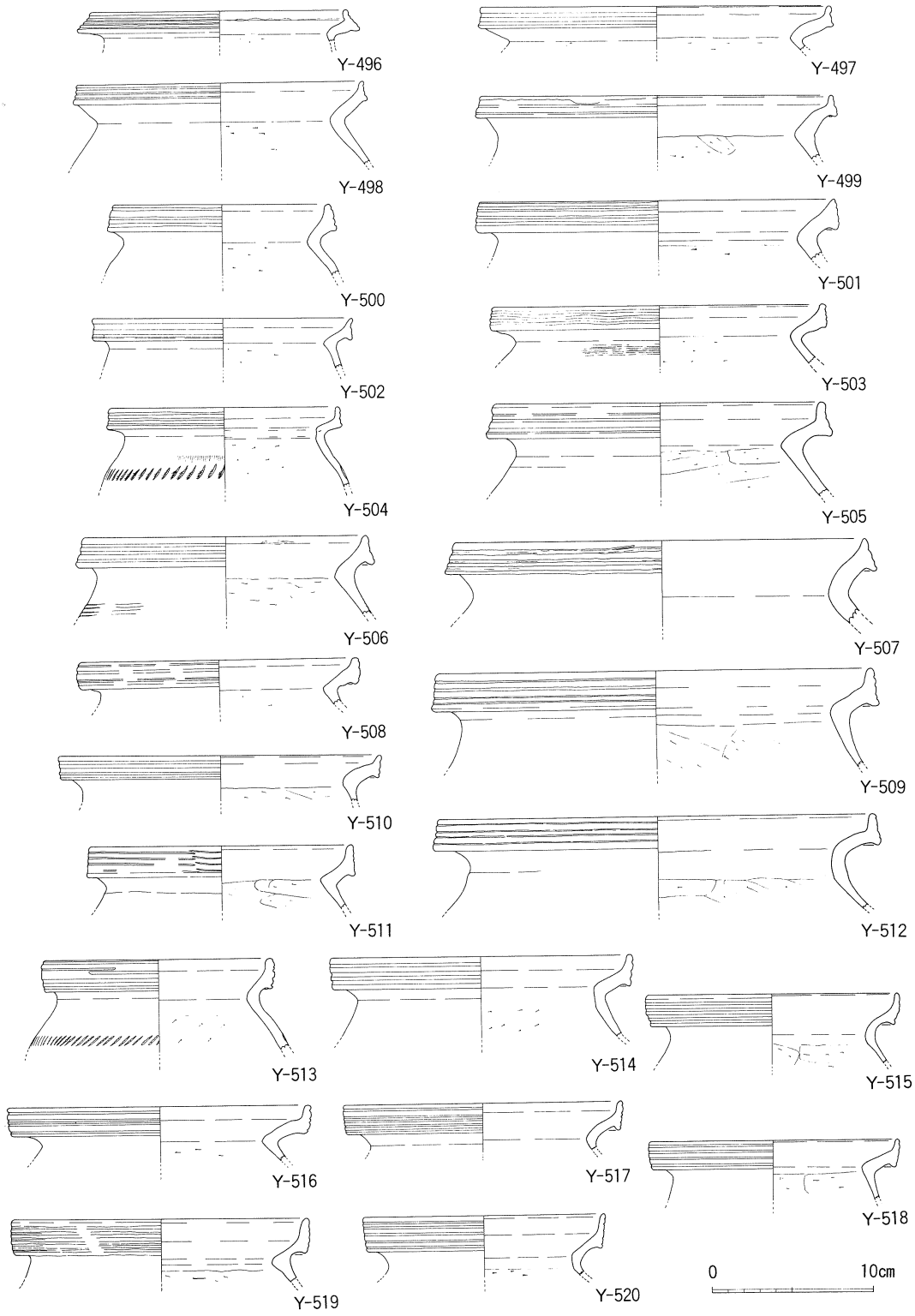
Y-550・551は複合状を呈する脚端部である。Y-550は平行直線文，Y-551は擬凹線文をもち，内面にはいずれもヘラケズリが施される。

器台（Y-552，553）

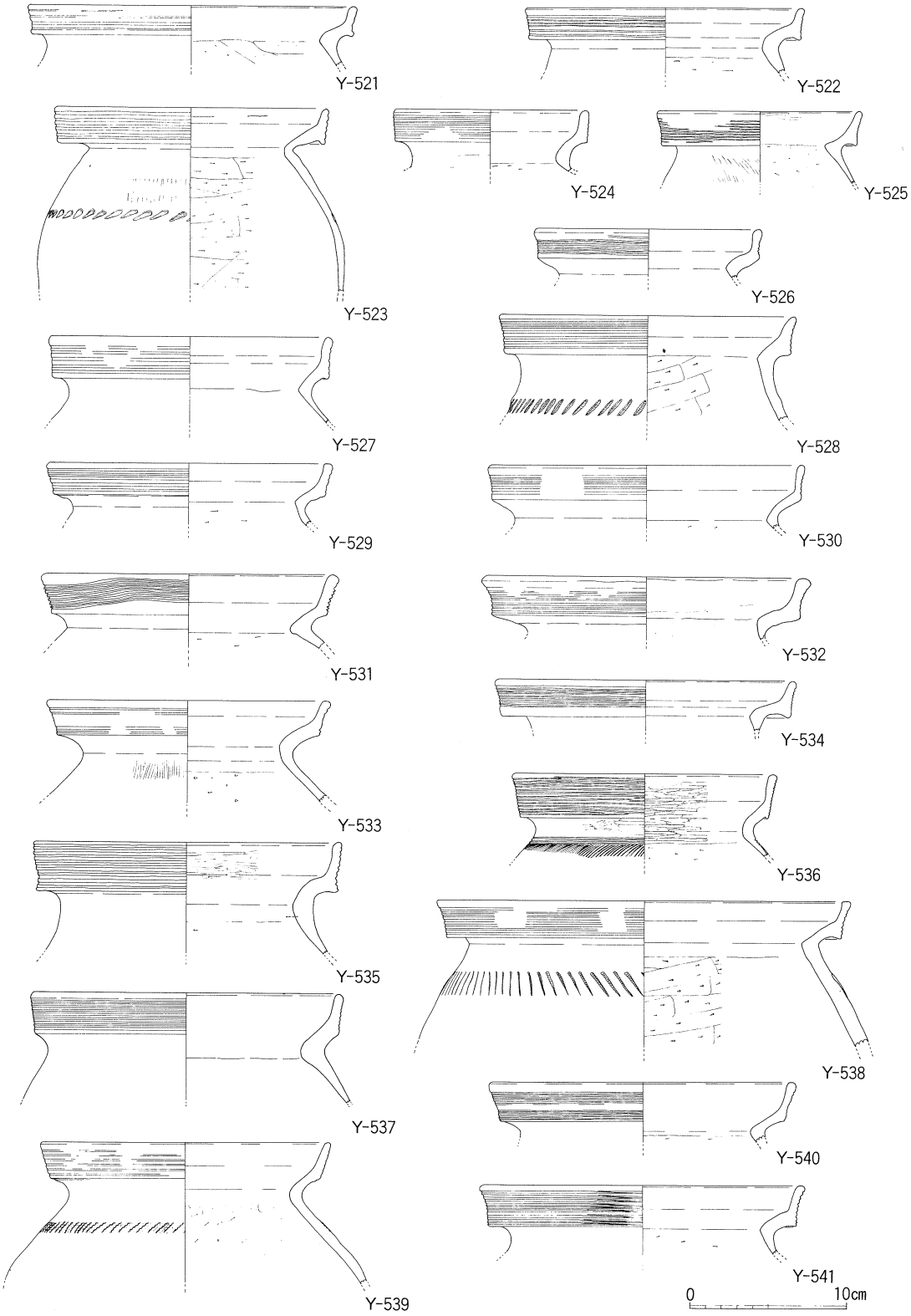
器台と考えられるものは，2点を図示した。Y-552は長く外反する複合状の脚台部である。外面に



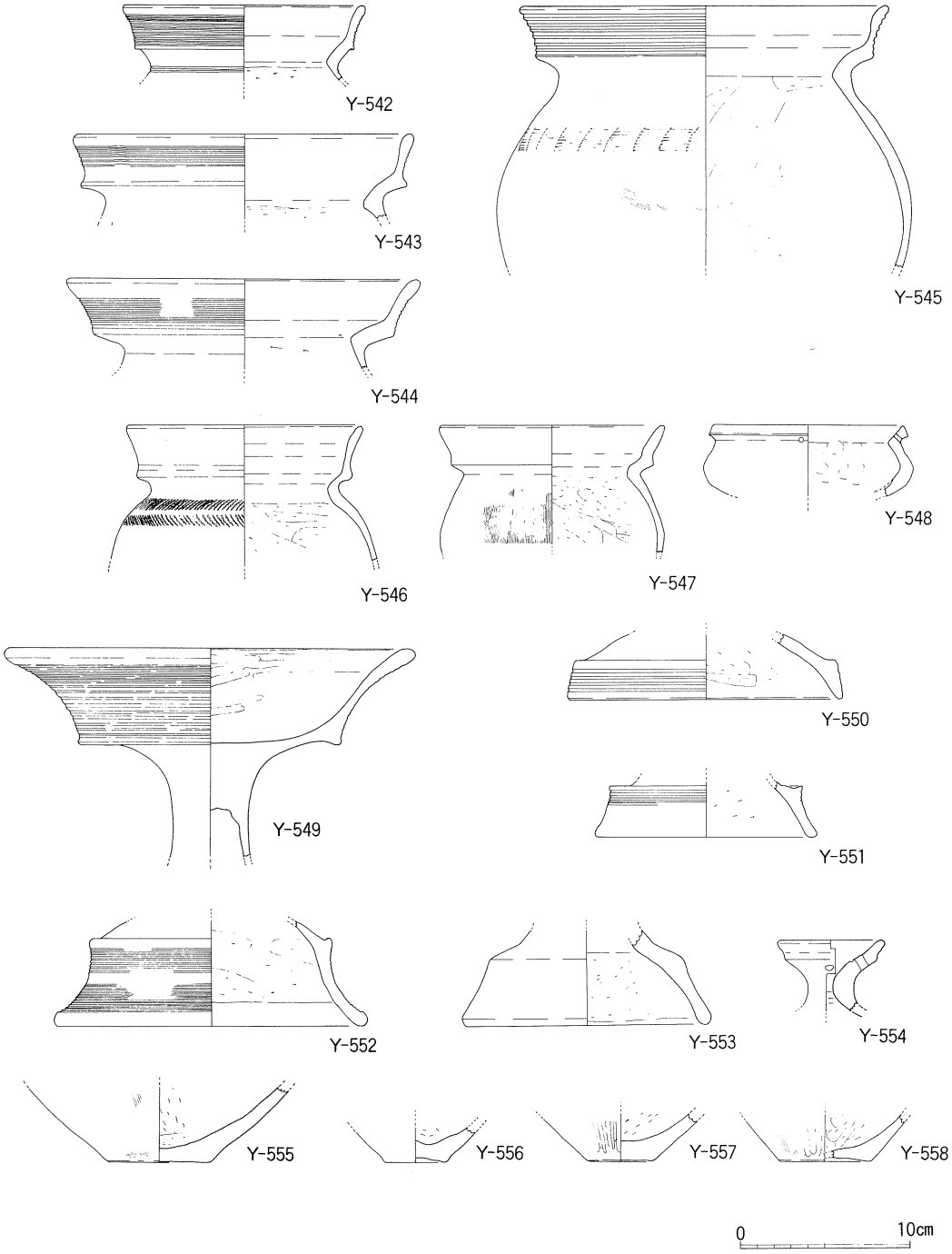
第51図　弥生土器実測図(28)　（1：4）



第52図　弥生土器実測図(29)　（1：4）



第53図　弥生土器実測図(30)　（1：4）



第54図　弥生土器実測図(31)　（1：4）

は多条のくし描き直線文が施され，一部ナデ消されている。内面はヘラケズリである。Y-553も複合状の脚台部である。この土器には外面の直線文を施されていないようである。摩滅しており外面は調整不明であるが，内面にはヘラケズリを残している。

蓋形土器（Y-554）

蓋形土器は１点のみを確認した。上部はやや外反気味の複合状を呈し，複合部直下に直径６ミリの円孔を２個対称の位置にあける。内部は直径６ミリの中空となる。器面調整は複合部ヨコナデ，屈曲部より上の内面はヘラケズリの後ナデ，屈曲部より下の内面はケズリ放しである。よく似た形態であるが内部が中空とならないものが，勝負遺跡SI14[註1]から出土している。また，矢野遺跡出土のもの[註2]は中空になっているが，複合部に凹線文をもち，やや古式のものと考えられる。

底部（Y-555～558）

小さい平底，もしくは上げ底気味の平底のものを４点図示した。いずれも胴部に向かって大きく開くもので，外面はハケ目とナデ，又は縦方向のヘラミガキ，内面にはヘラケズリが施される。

註１　『一般国道９号松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ』　島根県教育委員会　1990年
註２　田中義昭他　「出雲市矢野遺跡の発掘調査」『古代出雲文化の展開に関する総合的研究』
島根大学山陰地域研究総合センター　1989年

弥　生　土　器　観　察　表

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
壺	第24図 Y-1		S6W1	青灰色 砂礫層	口径 15.8	段	段はハケ目原体による。内外面共ヘラミガキ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:やや軟質 色調:乳灰褐色	
壺	第24図 Y-2	15	N2E2	褐色 砂質土	口径 13.0	段	段はハケ目原体による。細かいヘラミガキ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰色	
壺	第24図 Y-3	15	N2E2	暗灰色 砂礫層	口径 13.5	段	段はハケ目原体とヘラ,ハケ目後ヘラミガキ	胎土:1㎜未満の砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:明灰色	
壺	第24図 Y-4	15	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 17.2	段	磨滅して不明		河道4
壺	第24図 Y-5		S52年度調査区	埋土	口径 22.2	段	段はハケ目原体による。ヘラミガキ	胎土:密,小砂粒を含む 焼成:やや軟 色調:灰色	
壺	第24図 Y-6		S3E0	褐色 砂礫層	口径 19.2	段	段はハケ目原体による。口縁部ヘラミガキ,頸部以下ハケ目	胎土:2～3㎜大の砂粒 焼成:やや軟質 色調:淡褐色	河道4
壺	第24図 Y-7	15	N2E1	暗灰色 粘質土	口径 25.3	段	段はヘラによる 内外面:ヘラミガキ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰色	
壺	第24図 Y-8		S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 20.0	段	磨滅著しく不明	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良 色調:褐色	河道4
壺	第24図 Y-9	15	S3W1	暗青灰色 砂礫層	口径 25.0	段	磨滅著しく不明	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む	河道4
壺	第24図 Y-10	15	S6W1	青灰色 砂礫層	口径 18.2	段	段はヘラによる。ハケ目後ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:やや軟質 色調:明灰色	
壺	第24図 Y-11	15	S2E1	灰褐色 砂礫層	口径 20.4	段	段はハケ目原体による。ハケ目後ヘラミガキ	胎土:2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黄灰色	河道4
壺	第24図 Y-12	15	トレンチ内	灰褐色 砂礫層	口径 20.0	段	段はハケ目原体による 外面:ハケ目後ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	胎土:2㎜前後大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰黄色	
壺	第24図 Y-13	15	N4E2	暗青灰色 砂層	口径 16.8	段	ハケ目後ヘラミガキ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
壺	第24図 Y-14		I区 トレンチ内	排土	口径 16.3	段	段はハケ目原体による 内外面:ヘラミガキ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
壺	第24図 Y-15		N2E2	暗灰色 砂礫層		段	段はハケ目原体による 内外面:ヘラミガキ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰黄色	
壺	第24図 Y-16	15	トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 44.1	段	段はハケ目原体とヘラによる。ハケ目後ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰色	
壺	第25図 Y-17	15	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 15.8	沈線1条(ヘラ),沈線の直上に直線3㎜の円孔	ハケ目後ナデとヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒(白色,黒色)を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	口縁外面にスス付着。河道4
壺	第25図 Y-18		S5W1	青灰色 砂礫層	口径 20.5	沈線1条(ヘラ)	磨滅により不明	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
壺	第25図 Y-19	15	N1E2	褐色 砂質土	口径 14.5	沈線1条(ヘラ)	内外面:ヘラミガキ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第25図 Y-20	15	S6W1	青灰色 砂礫層	口径 16.2	沈線2条(ヘラ)	ナデか	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良 色調:暗灰褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
壺	第25図 Y-21	15	N1E2	褐色 砂礫層	口径 18.5	ハケ目原体とヘラで段をつけて削り出し状の突帯を設け,沈線1条を施す	外面:ハケ目後ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
壺	第25図 Y-22	15	N1E1	褐色 砂礫層	口径 10.3	頸部に削り出し状の巾広突帯を設け,その上に沈線3条	突帯はハケ目原体とヘラによる。ハケ目後ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
壺	第25図 Y-23	16	N1E1	青灰色 砂質土		段 段の直上にヘラによる沈線1条	段はハケ目とヘラによる 外面:ハケ目とヘラミガキ 内面:ナデとハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黄灰色～灰褐色	
壺	第25図 Y-24	15	N1E1	暗灰色 砂層		頸部にハケ目原体による削り出し状の段,その上部にヘラによる沈線3条	内外面:ハケ目後ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰色	
壺	第25図 Y-25	16	N2E2 トレンチ内	暗灰色 砂質土, 暗灰色 砂礫層		沈線1条(ヘラ)	ハケ目とナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第25図 Y-26	15	N2E2	暗青灰色 砂層		段 段の直下にヘラによる沈線文2条	段はヘラによる 内外面:ヘラミガキ	胎土:密,1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第25図 Y-27	15	I区 トレンチ内	砂礫層		段 段の直下に沈線2条(ヘラ)	段はヘラによる 内外面:ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰黄色	
壺	第25図 Y-28	15	N2E0 N2E1	暗赤褐色 砂層		沈線3条(ヘラ)	ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:乳灰色	
壺	第25図 Y-29					段 段の直下にヘラによる沈線2条,綾杉文,平行線文	磨滅により不明	胎土:1㎜大の白色砂粒を多量に含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
壺	第25図 Y-30	15	中央ベルト	褐色 砂礫層		段 段の直下に貝殻腹縁による沈線2条と綾杉文	段はハケ目原体による。ハケ目後ヘラミガキ		
壺	第26図 Y-31	16	N1E0	暗青灰色 砂礫層	底径 6.2	長胴型 頸部と肩部にヘラによる沈線5条ずつ	磨滅しているがヘラミガキか	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良 色調:灰褐色	外面下半に黒斑
壺	第26図 Y-32		S2E0	暗青灰色 砂礫層		ハケ目原体による段,その上部に3条の沈線(ヘラ)	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	胎土:2～3㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰色	河道4
壺	第26図 Y-33	17	トレンチ内	暗灰色 砂質土		ハケ目原体とヘラによる段,その上部にヘラによる沈線4条	内外面:ハケ目後ナデ	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰黄褐色	
壺	第26図 Y-34	17	S3W1 S4W1	灰褐色 砂礫層		巾広の削り出し突帯上にヘラによる沈線4条	突帯はハケ目原体とヘラによる。ハケ目後ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良 色調:灰褐色	
壺	第26図 Y-35	17	N2E0	青灰色 砂礫層		巾広の削り出し突帯上に沈線5条(ヘラ)	突帯はハケ目原体とヘラによる 外面:ハケ目後ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	河道2
壺	第26図 Y-36	17	N2E3	赤褐色 砂質土	口径 17.5	口縁端部は面をなす 口縁端部に刻み(貝か), 頸部に沈線残存3条(ヘラ)	ハケ目後ヘラミガキとナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良 色調:灰褐色	
壺	第26図 Y-37		S7E0	青灰色 砂礫層	口径 20.1	頸部に沈線(残存4条)	磨滅により不明	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良 色調:淡褐色	
壺	第26図 Y-38	17	N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 12.6	口縁端部は面をなし, 斜格子の刻み 頸部に沈線文(残存3条)		胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
壺	第26図 Y-39	17	N2E1	暗青灰色 砂層	口径 31.6	口縁端部は面をなし, 羽状の刻み(ヘラ)と沈線1条	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ?	胎土:2㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色,断面赤褐色	
壺	第26図 Y-40	17	N1E0	淡灰色 砂質土	口径 34.7	口縁端部にハケ目原体による斜格子の刻み, 頸部にヘラによる沈線文2条	外面:ハケ目後ナデ? 内面:ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	河道2
壺	第26図 Y-41	17	N2E2	暗灰色 砂礫層	口径 16.8	頸部に削り出し状の巾広突帯,現存で6条の沈線をめぐらす 口縁端部にヘラによる沈線2条	外面:ヘラミガキとナデ 内面:磨滅により不明	胎土:2㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
壺	第26図 Y-42		トレンチ内	暗灰色 砂礫層	口径 17.0	口縁端部に斜格子の刻み(貝殻腹縁),頸部にヘラによる沈線(残存2条)	外面:ハケ目後ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
壺	第26図 Y-43		I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 27.0	口縁端部に斜格子の刻み(ヘラ)	磨滅著しく不明	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良 色調:淡褐色	
壺	第26図 Y-44	17	S1E0	暗灰色 砂礫層	口径 23.0	口縁端部に羽状の刻目(ハケ目原体)	ハケ目後ヘラミガキ	胎土:2㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
壺	第26図 Y-45	17	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 24.7	口縁端部に斜格子の刻み(貝殻腹縁),頸部に多条の沈線文(ヘラ)	外面:ハケ目後ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	胎土:2㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河道4
壺	第26図 Y-46		中央ベルト	暗灰色 砂層	口径 20.6	口縁端部に斜格子の刻み,頸部にヘラによる沈線7条以上	ナデか	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黄灰色	河道2
壺	第26図 Y-47	17	I区 トレンチ内	排土	口径 20.2	ハケによる段 段の直下に貝殻腹縁による沈線文(残存5条)	ヘラミガキ	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第26図 Y-48	17	N1E1	褐色 砂質土		頸部に沈線文9条とその直下に貼付突帯文	外面:ハケ目	胎土:2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
壺	第27図 Y-49	17	S1E0	暗灰色 砂質土	口径 16.0	頸部に断面三角状の貼付突帯	内外面:ヘラミガキ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第27図 Y-50	17	I区	排土		頸部に貼付突帯2条	外面:ナデ 内面:ヘラミガキ	胎土:2㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
壺	第27図 Y-51	17	I区	青灰色 砂礫層		肩部と胴部に1条ずつの貼付突帯	内外面:ヘラミガキ		
壺	第27図 Y-52		N2E1	褐色 砂礫層		頸部と肩部にヘラ描き沈線にはさまれた円形の刺突文	磨滅により不明	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第27図 Y-53	18	I区 西側 トレンチ	青灰色 砂礫層	口径 25.6	耳付土器,頸下部には貼付突帯 頸部内面にも突帯	外面:荒いタテ方向のハケ目 内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第27図 Y-54	18	S1E0	青灰色 砂礫層	底径 7.4	胴部に2条の貼付突帯	一部にハケ目が残る。 内外面:ナデか	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:濃褐色	
壺	第27図 Y-55	17	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層		頸部に貼付突帯3条	外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰色	
壺	第27図 Y-56	17	N1E2	暗青灰色 砂質土	口径 15.3	長く外反する口縁	内外面:ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黒褐色	
壺	第27図 Y-57	17	N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 13.2	口縁部は短く外反し,頸部は締まる	口縁部:横方向のナデ 頸部内外面:ハケ目後ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第27図 Y-58	17	N0E1	褐色 砂質土	口径 17.5	口縁部はゆるく外反し,端部で面をなす	内外面:細かいヘラミガキ	胎土:密,1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
壺	第27図 Y-59	17	I区 トレンチ内	排土	口径 13.2	ゆるく長く外反する口縁部	内外面:ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第27図 Y-60	17	N2E0	暗灰色 粘質土	口径 16.8	口縁部は短く外反し,胴張りする	内外面:ナデか	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
壺	第27図 Y-61		トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 18.2	口縁部はゆるく短く外反し,端部で面をなす	外面:ヘラミガキか 内面:ヘラミガキ	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
壺	第27図 Y-62		トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 14.6	口縁部は短く外反,長胴形か	外面:一部にハケ目が残る 内面:ヘラミガキ	胎土:2㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黄灰色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
壺	第27図 Y-63	17	N1E3	褐色 砂質土	口径 16.4	口縁部は短く外反	内外面:ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色～暗灰褐色	
壺	第27図 Y-64	18	N1E2	暗灰色 砂質土	口径 15.2	口縁部はゆるく外反，胴張りする	内外面:ヘラミガキ	胎土:3～5㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第28図 Y-65	19	N2E2	暗灰色 砂礫層		段 ヘラによる綾杉文，平行線文	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
壺	第28図 Y-66	19	N0E0	暗灰色 粘土（砂礫混）		段 ヘラによる平行線文と綾杉文	外面:ヘラミガキ 内面:ハケ目とナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄灰色	
壺	第28図 Y-67	19	N1E2	褐色 砂質土		段 ヘラによる平行線文と綾杉文	外面:ヘラミガキか 内面:不明	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第28図 Y-68	19	S3E0	暗青灰色 砂層		段 ヘラによる平行線文と綾杉文	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
壺	第28図 Y-69	19	S3E1	灰褐色 砂礫層		段 ヘラによる平行線文，綾杉文，重弧文	外面:ヘラミガキ 内面:ナデか	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:茶褐色	河道4
壺	第28図 Y-70	19	S3E0	褐色 砂礫層		ヘラによる平行線文と綾杉文	ヘラミガキか	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道4
壺	第28図 Y-71	19	N2E2	暗灰色 砂礫層		ヘラによる平行線文と綾杉文	ナデ	胎土:2～4㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黄灰色～暗灰色	
壺	第28図 Y-72	19	N1E1	褐色 砂質土		ヘラによる平行線文と綾杉文	ハケ目とナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
壺	第28図 Y-73	19	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂礫層		弱い段 ヘラによる平行線文と綾杉文	磨滅により不明	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
壺	第28図 Y-74	19	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂礫層		ヘラによる平行線文，斜行文，綾杉文	ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡黄土色	
壺	第28図 Y-75	19	N3E1	赤褐色～青灰色 砂礫層		貝殻腹縁による平行線文と綾杉文		胎土:2～4㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	河道2
壺	第28図 Y-76	19	S2E0	暗青灰色 砂礫層		段 ヘラによる直線文，貝殻腹縁による綾杉文	内外面:ヘラミガキ	胎土:1㎜大の白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道4
壺	第28図 Y-77	19	S3E0	暗青灰色 砂礫層		段 貝殻腹縁による平行線文と綾杉文	ヘラミガキ	胎土:1～3㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色～淡褐色	河道4
壺	第28図 Y-78	19	N1E0	褐色 砂質土		弱い段 貝殻腹縁による平行線文と綾杉文	内外面:ヘラミガキ	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
壺	第28図 Y-79	19	S2E0	暗青灰色 砂層		削り出し状の突帯 突帯上に沈線（ヘラ），貝殻腹縁による直線文と綾杉文	ハケ目とナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黒灰褐色	河道4
壺	第28図 Y-80	19		褐色 砂礫層		削り出し状の突帯 突帯上にヘラによる沈線2条，その直下に貝殻腹縁による綾杉文	ヘラミガキ？	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
壺	第28図 Y-81	19	N4E1	暗灰褐色 粘質土		ヘラによる沈線文7条，貝殻腹縁による平行線文と綾杉文		胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰黄白色	河道3
壺	第28図 Y-82	19	N1E0	褐色 砂質土		ヘラによる沈線の間に貝殻腹縁による平行線文と綾杉文			
壺	第28図 Y-83	19	N2E2	褐色 砂礫層		貼付突帯 突帯上にヘラによる沈線，突帯直下に貝殻腹縁による平行線文，綾杉文，斜格子文		胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
壺	第28図 Y-84	19	S2E0	暗青灰色 砂礫層		貼付突帯 突帯上に沈線を引き2条突帯にして,ヘラで刻目。突帯直下に貝による平行線文と綾杉文		胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第28図 Y-85	19	N4E2	青灰色 砂礫層		貝殻腹縁による綾杉文と平行線文,その直下にヘラによる沈線	ナデ	胎土:1～4㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡橙褐色	河道2
壺	第28図 Y-86	19	N4E1	青灰色 砂礫層		貝殻腹縁による綾杉文と平行線文	ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黄灰色～暗灰色	河道2
壺	第28図 Y-87	19	N1E1	暗灰色 砂質土		貝殻腹縁による綾杉文と平行線文	内面:ハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:茶褐色	
壺	第28図 Y-88	19	N0E2 河道	暗灰色 砂礫層		貝殻腹縁による平行線文と綾杉文	ヘラミガキか	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道1
壺	第28図 Y-89	19	S3E0	暗青灰色 砂礫層		貝殻腹縁による綾杉文と平行線文	ヘラミガキ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第28図 Y-90	19	N1E1	褐色 砂質土		貝殻腹縁による綾杉文と平行線文		胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
壺	第28図 Y-91	19	排土			貝殻腹縁による綾杉文	ヘラミガキか	焼成:良好	
壺	第29図 Y-92	20		褐色 砂礫層		ヘラによる平行線文と貝殻腹縁による木の葉文	磨滅して不明	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄灰色	
壺	第29図 Y-93	20	S3W1	灰褐色 砂礫層		ヘラによる平行線文と木の葉文	ナデか	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河道4
壺	第29図 Y-94	20	N1E1	暗灰色 砂層		ヘラによる平行線文と木の葉文	ヘラミガキか	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
壺	第29図 Y-95	20	S52年度 調査区	埋土		ヘラによる木の葉文と平行線文	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰白褐色	
壺	第29図 Y-96	20	S3W1	暗青灰色 砂礫層		ヘラによる斜行文,平行線文,重弧文,木の葉文	ヘラミガキ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第29図 Y-97	20	N1E2	褐色 砂礫層		ヘラによる平行線文と木の葉文	内外面:ヘラミガキ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
壺	第29図 Y-98	20	S3E0	暗青灰色 砂礫層		段 ヘラによる平行線文と重弧文	内外面:ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道4
壺	第29図 Y-99	20	N3E1	青灰色 砂礫層		貝殻腹縁による平行線文,綾杉文,重弧文	ナデ	胎土:1～4㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰色	河道2
壺	第29図 Y-100	20	N5E1	暗灰褐色 粘質土		ヘラによる平行線文と重弧文	ナデか?	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 黒色,内 灰褐色	河道3
壺	第29図 Y-101	20	N3E1	暗青灰色 砂礫層		ヘラによる平行線文と重弧文	内外面:ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道2
壺	第29図 Y-102	20	N4E2	青灰色 砂礫層		段 ヘラによる沈線4条と,貝殻腹縁による重弧文	ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	河道2
壺	第29図 Y-103	20	N2E0	暗灰色 粘質土		ヘラによる平行線文と山形文	ナデか	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡桃褐色	
壺	第29図 Y-104	20	S2E0	暗青灰色 砂礫層		段 ヘラによる平行線文と山形文	ヘラミガキとナデか	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
壺	第29図 Y-105	20	N1E0	褐色 砂質土		ヘラによる山形文と平行線文	ナデか	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第29図 Y-106	20	N2E2 トレンチ内			ヘラによる平行線文と鋸歯文	ハケ目	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
壺	第29図 Y-107	20	S3E0	暗青灰色 砂礫層		斜格子文,貝殻腹縁による直線文,山形文	磨滅して不明	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第29図 Y-108	20	N1E1	褐色 砂質土		段 羽状文,斜格子文,平行線文	磨滅して不明	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色～暗褐色	
壺	第29図 Y-109	20	S3E0	暗青灰色 砂礫層		ヘラによる羽状文？	内面:ハケ目	胎土:1㎜前後の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河道4
壺	第29図 Y-110	20	N2E3	暗灰色 砂礫層		削り出し状の突帯 突帯上に沈線1条,ヘラによる平行線文と斜行文	内面:ヘラミガキ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 灰色,内 黒色	
壺	第29図 Y-111	20	N2E2	暗灰色 砂礫層		ヘラによる有軸羽状文と平行線文	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
壺	第29図 Y-112	20	S3E1	灰褐色 砂質土		削り出し状の突帯 突帯上に沈線1条(ヘラ)	ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道4
壺	第29図 Y-113	20	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂質土		削り出し状の突帯	外面:ハケ目後ヘラミガキ 内面:ハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
壺	第29図 Y-114	20	N2E2	暗灰色 砂礫層		段 段の直下にヘラによる沈線1条	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	胎土:1㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
壺	第29図 Y-115	20	N1E2	暗青灰色 砂質土		削り出し状の突帯 突帯上にヘラによる沈線4条以上	外面:ハケ目後ヘラミガキ 内面:ナデ,指頭圧痕	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第29図 Y-116	20	N2E2	暗灰色 砂礫層		段 段の直下にヘラによる平行線3条	外面:ヘラミガキ 内面:ハケ目後ヘラミガキとナデ	焼成:良好	
壺	第29図 Y-117	20	N2E3	褐色 砂礫層		段 段の直下に貝殻腹縁による平行線文6条	ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
壺	第29図 Y-118	20	N1E2	褐色 砂質土		貼付突帯上に刻み	ハケ目とナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第29図 Y-119	20	S2E0	暗青灰色 砂礫層		貼付突帯上をハケ目原体で刻む	外面:ハケ目とナデ 内面:ハケ目	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第29図 Y-120	20	N2E2 トレンチ内	暗灰色 砂礫層		貼付突帯2条,ヘラによる刻目	内外面:ハケ目後ヘラミガキ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
無頸壺	第30図 Y-121	21	N1E2	暗青灰色 砂質土	口径 11.1	口縁部は強く内湾,円孔が少なくとも1対	内外面:ヘラミガキ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄褐色	
無頸壺	第30図 Y-122	21	N2E2	暗灰色 砂礫層	口径 11.2	端部外面に貼付突帯,ヘラ描き沈線	外面:ナデか 内面:ヘラミガキ	胎土:1～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰色	
無頸壺	第30図 Y-123	21	N1E3	暗灰色 砂質土	口径 11.8	口縁部は内湾,少なくとも1対の円孔	外面:ヘラミガキ 内面:ハケ目	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第30図 Y-124	21	N2E2	暗灰色 砂礫層	口径 31.8	ヘラによる段	口縁部:ヨコナデ 胴部内外面:ハケ目	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 褐色,内 灰褐色	外面と内面の一部に炭化物付着
甕	第30図 Y-125	21	N2E1	暗灰色 砂礫層	口径 34.5	ハケ目原体で作り出した弱い段	外面:ハケ目後ヘラケズリ 内面:ハケ目後ヘラミガキか	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第30図 Y-126		N3E1	赤褐色～青灰色 砂礫層	口径 21.2	ハケ目原体による弱い段	口縁部:ヨコナデ 他は内外面:ハケ目	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
甕	第30図 Y-127	21	N0E0	青灰色 砂礫層	口径 23.7	ハケ目による段	口縁部:ナデ 胴部外面:ハケ目(タテ) 胴部内面:ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第30図 Y-128	21	N4E2	青灰色 砂礫層	口径 21.0	ハケ目原体で作り出した弱い段	外面:ハケ目 内面:ナデ	胎土:2～3㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:明茶褐色	河道2
甕	第30図 Y-129		N1E2	褐色 砂礫層	口径 22.2	ヘラによる浅い沈線1条	口縁部:ナデ 他はハケ目後ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	外面に炭化物付着
甕	第30図 Y-130	21	N1E2	褐色 砂質土	口径 32.7	ハケ目原体による段,胴部側を高くするもの胴は張り出さない	内外面:ハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外 暗褐色,内 明灰色	外面にスス付着
甕	第30図 Y-131		N1E2	褐色 砂礫層	口径 26.6	ヘラによる浅い沈線	口縁部:ナデ 胴部外面:ハケ目後ナデ 胴部内面:ヘラミガキ	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着
甕	第30図 Y-132	21	Ⅱ区 トレンチ内		口径 19.2	ヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 頸部以下内外面:ハケ目	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第30図 Y-133	21	トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 28.0	ヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 胴部内外面:ハケ目	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第30図 Y-134		S3W1	暗青灰色 砂礫層	口径 17.6	ヘラによる沈線1条	内外面:ハケ目後ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河道4
甕	第31図 Y-135		N2E2	暗灰色 砂礫層	口径 24.1	ヘラによる沈線1条	内外面:ハケ目後ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を多量に含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
甕	第31図 Y-136	21	N1E1	褐色 砂質土	口径 19.4	ヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 頸部外面:ハケ目(タテ) 頸部内面:ハケ目後ナデ		
甕	第31図 Y-137		トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 20.6	ヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第31図 Y-138	21	S6W1	青灰色 砂礫層	口径 18.6	ヘラによる沈線1条	ナデか	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面スス付着
甕	第31図 Y-139	21	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 21.9	ヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道4
甕	第31図 Y-140	21	S6W1	青灰色 砂礫層	口径 20.7	ヘラによる沈線1条	内外面:ハケ目後ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黄灰褐色	
甕	第31図 Y-141		N4E2	青灰色 砂礫層	口径 22.4	ヘラによる沈線1条	外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面スス付着 河道2
甕	第31図 Y-142		排土		口径 22.4	ヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 体部外面:ハケ目後ナデ 体部内面:ハケ目	胎土:2㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐灰色	
甕	第31図 Y-143	22	N1E2	暗灰色 砂質土	口径 48.4	口縁端部は面をなす。頸部にヘラによる沈線1条	口縁部:ハケ目後ナデ 頸～胴部内外面:ヘラミガキ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第31図 Y-144		トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 24.3	ヘラによる沈線1条	外面:ハケ目 内面:磨滅により不明	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良 色調:暗灰褐色	
甕	第31図 Y-145	22	Ⅰ区 トレンチ内		口径 24.4	口縁端部に刻目。頸部にヘラによる沈線1条	外面:ハケ目 内面:磨滅により不明	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良 色調:褐色	
甕	第31図 Y-146	22	S3E1	暗灰色 砂礫層	口径 24.1	口縁段部にハケ目原体による刻目。頸部にはヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 頸部以外内外面:ハケ目	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面の一部にスス付着 河道4

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第31図 Y-147		N2E1	褐色 砂礫層	口径 20.1	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にはヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ナデか	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良 色調:灰褐色	
甕	第31図 Y-148	22	N2E2	暗青灰色 砂層	口径 26.8	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 頸部以下内外面:ハケ目後ナデ	胎土:2㎜前後の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着 河道2
甕	第31図 Y-149	22	N1E1	褐色 砂礫層	口径 21.8	口縁端部に板状工具による刻目。頸部にヘラによる沈線が1条	外面:ハケ目 内面:ナデ	胎土:2㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面にスス付着
甕	第32図 Y-150		S5W1	青灰色 砂礫層	口径 26.3	ヘラ描き沈線2条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	外面上半と内面下半に炭化物厚く付着
甕	第32図 Y-151		N2E2	暗灰色 砂礫層	口径 22.7	ヘラ描き沈線2条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ハケ目後ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面にスス付着
甕	第32図 Y-152		S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 24.0	ヘラ描き沈線2条	ナデか	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良 色調:淡褐色	河道4
甕	第32図 Y-153	22	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 17.5	ヘラ描き沈線2条	外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第32図 Y-154	22	N1E1	褐色 砂質土	口径 22.0	ヘラ描き沈線2条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目(ヨコ) 頸部以下内面:ナデか	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
甕	第32図 Y-155		N2E2		口径 19.6	ヘラ描き沈線2条	口縁部:ナデ 内外面:ハケ目	胎土:2～3㎜大の砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着
甕	第32図 Y-156	22	排土		口径 24.7	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線2条	口縁部:ナデ 頸部以下内外面:ハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:やや暗灰色	
甕	第32図 Y-157	22	N1E2	暗青灰色 砂質土	口径 13.8	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線2条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰白色	
甕	第32図 Y-158	22	I区	青灰色 砂質土	口径 24.8	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線2条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ナデ	胎土:2～4㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面にスス付着
甕	第32図 Y-159		S52年度調査区	埋土	口径 24.4	ヘラ描き沈線2条	口縁部:ナデ 頸部以下ハケ目	胎土:1～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良 色調:外 明灰褐色,内 黒褐色	口縁外面にスス付着
甕	第32図 Y-160	22	N1E0	褐色 砂質土	口径 25.3	口縁端部に刻目(貝か)	口縁部:ナデ 頸部以下内外面:ハケ目	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色～暗褐色	
甕	第32図 Y-161	22	N4E1	暗青灰色 砂層	口径 25.4	ヘラ描き沈線2条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ハケ目後ナデ		内外面:炭化物付着 河道2
甕	第32図 Y-162	22	N4E1	青灰色 砂礫層	口径 36.4	ヘラ描き沈線2条	口縁部:ハケ目後ナデ 頸部以下内外面:ハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄灰色	河道2
甕	第32図 Y-163	22	N0E2	黒灰色 砂質土	口径 16.4	口縁部はごく短く外反	ハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
甕	第32図 Y-164	22	N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 14.0	口縁部は短く外反し,胴部は張り出さない	外面:ハケ目 内面:ナデか	胎土:2～4㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河道2
甕	第32図 Y-165	22	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 19.0	口縁部はごく短く外反	口縁部:ナデ 頸部以下ハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河道4
甕	第32図 Y-166	22	N1E1	暗灰色 砂質土	口径 16.9	口縁部は短く外反	ハケ目のちナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第33図 Y-167	22	S3E0	灰褐色 砂礫層	口径 20.1	ヘラ描き沈線3条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道4

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第33図 Y-168		S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 29.8	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線3条	内外面:ハケ目後ナデ	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道4
甕	第33図 Y-169	22	Ⅰ区 トレンチ		口径 27.4	ヘラ描き沈線3条	磨滅により不明	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良 色調:灰褐色	
甕	第33図 Y-170	22	N1E2	褐色 砂礫層	口径 22.0	口縁端部にハケ目原体による刻目。頸部にヘラ描き沈線3条	口縁部:ナデ 頸部以下内外面:ハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着
甕	第33図 Y-171		N1E1	褐色 砂質土	口径 29.0	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線3条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:磨滅により不明	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
甕	第33図 Y-172	22	N1E1	褐色 砂質土	口径 23.0	ヘラ描き沈線4条	口縁部:ナデ 頸部以下内外面:ハケ目	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
甕	第33図 Y-173	22	排土		口径 24.8	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線3条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡黄褐色	
甕	第33図 Y-174	22	N1E2	褐色 砂礫層	口径 23.7	口縁端部に貝による刻目。頸下部にヘラ描き沈線	内外面共ハケ目後ナデ	胎土:2㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第33図 Y-175	22	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 25.8	口縁端部に板状工具による刻目。頸部にヘラ描き沈線3条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:磨滅により不明 頸部以下内面:ハケ目	胎土:2㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明淡褐色	河道4
甕	第33図 Y-176		トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 30.6	ヘラ描き沈線4条	内外面:ハケ目後ナデ	胎土:2～3㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰黄色	
甕	第33図 Y-177	23	S3E0	暗青灰色 砂層	口径 22.8	ヘラ描き沈線5条	内外面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道4
甕	第33図 Y-178	23	N1E2	暗灰色 砂質土	口径 33.8	口縁端部にハケ目原体による刻目。頸部にヘラ描き沈線3条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ナデ	胎土:2㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第33図 Y-179		N1E2	暗青灰色 砂質土	口径 19.2	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線3条	ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
甕	第33図 Y-180	23	S2E1	暗青灰色 砂礫層	口径 34.0	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線3条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:磨滅により不明		頸部外面にスス付着 河道4
甕	第33図 Y-181	23	S3E0	暗灰褐色 砂層	口径 16.1	ヘラ描き沈線5条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:磨滅しているがナデか	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着 河道4
甕	第34図 Y-182	23	N3E1	赤褐色～青灰色 砂礫層	口径 20.6	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線7条	内外面:ナデ	胎土:2～4㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第34図 Y-183	23	トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 32.0	ヘラ描き沈線4条	口縁部:ナデ 頸部以下内外面:ハケ目後ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第34図 Y-184	23	Ⅰ区 トレンチ	青灰色 砂質土	口径 21.8	ヘラ描き沈線7条	ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良 色調:淡褐色	
甕	第34図 Y-185	23	N1E2	褐色 砂礫層	口径 29.0	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線4条	口縁部:ナデ 頸部以下内外面:ハケ目	胎土:2㎜大の砂粒を 焼成:良好 色調:明灰褐色	外面の一部にスス付着
甕	第34図 Y-186	23	N1E2	暗褐色 砂質土	口径 22.4	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線4条	内外面:ナデか	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着
甕	第34図 Y-187	23	N2E1	褐色 砂礫層	口径 26.9	ヘラ描き沈線6条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目後ナデ 頸部以下内面:ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第34図 Y-188	23			口径 39.8	口縁端部にハケ目原体による刻目。頸部にヘラ描き沈線6条	外面:ハケ目 内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第34図 Y-189		N2E1	暗青灰色 砂層	口径 25.0	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線5条	内外面:ナデ	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着 河道2
甕	第34図 Y-190	23	N2E1	暗青灰色 砂質土	口径 24.0	口縁端部に斜格子の刻目(ヘラ)。頸部にヘラ描き沈線6条	口縁部:ハケ目後ナデ 頸部以下外面:ヘラミガキ 頸部以下内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面にスス付着 河道2
甕	第34図 Y-191	23	N2E1	褐色 砂礫層	口径 36.0	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線8条	ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第34図 Y-192	24	N3E1	暗青灰色 砂層	口径 40.0	口縁端部にハケ目原体による刻目。頸部にヘラ描き沈線4条	口縁部:ナデ 頸部以下内外面:ハケ目	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
甕	第35図 Y-193	23	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 34.5	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線8条	口縁部:ナデ 頸部以下内外面:ハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	外面にスス少量付着
甕	第35図 Y-194	23	N0E2 河道	暗灰色 砂礫土	口径 28.2	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線7条と楕円形刺突文	内外面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道1
甕	第35図 Y-195	23	トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 22.4	6条のヘラ描き沈線と紡錘形の刺突文	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ヘラミガキ 頸部以下内面:ナデ	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着
甕	第35図 Y-196	23	S3E0	暗青灰色 砂層	口径 35.2	口縁端部にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線10条と三角状の刺突文	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ヘラミガキ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道4
甕	第35図 Y-197		N2E0	青灰褐色 砂礫層	口径 10.1	口縁部はごく短く外反,口径の小さなもの	ナデ	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河道2
甕	第35図 Y-198	23	I区 トレンチ内		口径 13.4	逆L字状口縁。頸部にヘラ描き沈線にはさまれた円形刺突文が2段	磨滅により不明	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
甕	第35図 Y-199	23	S3E0	暗灰褐色 砂層	口径 34.4	逆L字状口縁	内外面:磨滅により不明	胎土:1～5㎜大の砂粒を含む 焼成:良 色調:灰赤色	河道4
甕	第35図 Y-200	23		黒灰色 砂質土	口径 16.8	逆L字状口縁。頸部にヘラ描き沈線(残存4条)	内外面:ナデか	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第35図 Y-201	23	N2E2	暗灰色 砂礫層	口径 23.4	逆L字状口縁。頸部にヘラによる刻目。頂部にヘラ描き沈線3条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:荒いハケ目 頸部以下内面:細かいハケ目	胎土:2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着
甕	第35図 Y-202	23	N2E2	暗青灰色 砂質土	口径 22.4	逆L字状口縁。頸部にヘラによる刻目。頂部にヘラ描き沈線6条	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目後ナデ 頸部以下内面:ナデ	胎土:2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面炭化物付着
甕	第35図 Y-203	23	排土		口径 29.7	口縁端部に刻目(ヘラか)。頸部にヘラ描き沈線4条と円形刺突文(管状)	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目後ナデ 頸部以下内面:ハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第35図 Y-204	23	N1E2	暗灰褐色 砂質土	口径 30.4	口縁端部に貝殻腹縁による刻目。頸部にヘラによる2条の沈線,楕円形の刺突文	口縁部:ナデ 頸部以下内外面:ハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
甕	第35図 Y-205	23	N3E1	赤褐色～青灰色 砂礫層	口径 28.0	口縁端部外面にヘラによる刻目。頸部にヘラ描き沈線3条,円形の刺突文	口縁部外面:ハケ目後ナデ 口縁部内面:ヘラミガキ 頸部以下内外面:ハケ目	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
甕	第35図 Y-206	25	N2E2	暗灰色 砂礫層	口径 19.8	口縁部は外反	ハケ目後ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	外面にスス付着
甕	第35図 Y-207	25	N2E3	暗灰色 砂礫層	口径 21.7	口縁部は短く外反	口縁部:ヨコナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ハケ目後ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面にスス 内面に炭化物付着
鉢	第36図 Y-208	24	排土		口径 13.6	口縁端部に刻目 円形刺突文(4段)	ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第36図 Y-209	24	N1E2	暗青灰色 砂質土		ヘラによる平行沈線,竹管状工具による円形刺突文	外面:ハケ目 内面:ナデ	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第36図 Y-210	24	N3E1	暗青灰色 砂礫層		ヘラによる平行沈線の間に円形刺突文(竹管状工具)	ハケ目	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:乳灰色	河道2
甕	第36図 Y-211	24	N1E2	暗青灰色 砂質土		ヘラによる平行沈線の間に円形刺突文	ナデか	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第36図 Y-212	24	S2E0	灰褐色 砂礫層		ヘラによる平行沈線の間に楕円形の刺突文	ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第36図 Y-213	24	N5E1	暗灰褐色 粘質土		ヘラによる平行沈線の間に楕円形の刺突文	外面:ハケ目 内面:ナデか	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河道3
甕	第36図 Y-214	24	N1E2	褐色 砂礫層		ヘラによる平行沈線3条の間に楕円形の刺突文	ハケ目とナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:乳灰色	
甕	第36図 Y-215	24	N0E0	灰褐色 砂礫層		ヘラによる平行沈線と長楕円形の刺突文	ヘラミガキ	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄灰色	
甕	第36図 Y-216	24	N3E1	暗褐色 砂層		ヘラによる平行沈線に楕円形の刺突文2段	ハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面スス付着 河道2
甕	第37図 Y-217	25	N0E2 河道内	暗灰色 砂礫層		口縁部はごく短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道1
甕	第37図 Y-218	25	N0E0	暗灰色 砂礫層 粘土	口径 15.2	口縁部は短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:2㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第37図 Y-219	25	N3E1	赤褐色～青灰色 砂礫層	口径 15.1	口縁部は短くわずかに外反	口縁部:ナデ 他は内外面:ハケ目	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	内外面に炭化物付着 河道2
甕	第37図 Y-220	25	N1E1	褐色 砂質土	口径 25.3	口縁部はゆるく短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
甕	第37図 Y-221	25	N1E2	褐色 砂礫層	口径 24.0	口縁端部にヘラによる刻目	口縁部:ハケ目後ナデ 頸部以下ハケ目	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面スス付着
甕	第37図 Y-222	25	N1E2	暗灰色 砂質土	口径 23.4	口縁部は外反	外面:ハケ目 内面:ハケ目後ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第37図 Y-223	25	S52年度調査区	埋土	口径 22.4	口縁端部外面にヘラによる刻目	ハケ目後ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着
甕	第37図 Y-224	25	N1E0	暗灰色 砂礫層	口径 26.4	口縁端部外面にヘラによる刻目	外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色～暗褐色	外面にスス付着
甕	第37図 Y-225	25	N1E2	暗灰色 砂質土	口径 24.0	口縁部は短く外反,胴部はやや張る	口縁部:ナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ハケ目後ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面全体と内面の下半に炭化物付着
甕	第37図 Y-226		S3E1	暗青灰色 砂礫層	口径 28.9	口縁部短く外反	ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	外面に炭化物付着 河道4
甕	第37図 Y-227	25	N2E2	褐色 砂質土	口径 21.4	口縁部はごく短く外反	ナデか	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第37図 Y-228		N4E2	青灰色 砂礫層	口径 30.8	口縁部は外反	ナデか	胎土:1～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	河道2
甕	第37図 Y-229		排土		口径 23.0	口縁端部にヘラによる刻目	ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第37図 Y-230		N1E0	淡灰色 砂質土	口径 31.2	口縁部は短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:1～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	河道2

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第37図 Y-231	25	Ⅰ区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 18.6	口縁部はゆるく短く外反し,胴部はやや張り出す	ハケ目後ナデ	胎土:2㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第37図 Y-232		N2E1	褐色 砂礫層	口径 35.6	口縁部は短く外反	外面:ハケ目後ナデ 内面:ハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 淡褐色,内 黒灰褐色	
甕	第37図 Y-233	25	N0E2 河道内	褐色 砂礫層	口径 15.5	口縁部はごく短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	河道1
甕	第38図 Y-234	25	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 27.1	口縁部は外反し,胴部はやや張り出す	口縁部:ヨコナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ハケ目後ナデ	焼成:良好	河道4
甕	第38図 Y-235	25	N2E1	淡褐色 砂礫層	口径 29.4	口縁端部外面にヘラによる刻目。胴部はやや張り出す	ハケ目後ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄灰色	
甕	第38図 Y-236	25	N2E1	淡褐色 砂層	口径 33.6	口縁部は短く外反,胴部はやや張り出す	ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第38図 Y-237	25	N0E2 河道内		口径 34.4	口縁部は短く外反	外面:ハケ目 内面:ハケ目後ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄褐色	河道1
鉢	第38図 Y-238	26	N1E1	褐色 砂質土	口径 13.6	口縁部は短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	外面に黒斑
鉢	第38図 Y-239	26	N1E1	灰色 粘質土	口径 17.4	口縁部はゆるく短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰色	
鉢	第38図 Y-240	26	N3E1	赤褐色～青灰色 砂礫層	口径 19.2	口縁部は短く強く外反	ヘラミガキ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 淡黄灰色,内 黒褐色	河道2
鉢	第38図 Y-241	26	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 18.8	口縁部は屈曲して短い	ハケ目後ナデ	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道4
鉢	第38図 Y-242	26	N4E1	暗青灰色 砂層		ヘラ描き沈線2条	ヘラミガキ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	内面に黒斑 河道2
鉢	第38図 Y-243	26	N0E0	暗灰色砂礫混粘土	口径 20.0	口縁部は短く屈曲	外面:ナデ 内面:ナデとヘラミガキ	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄灰褐色	
鉢	第38図 Y-244	26	N1E1	褐色 砂質土	口径 26.0	口縁部は短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	
鉢	第38図 Y-245	26	N2E2	茶褐色 砂質土	口径 34.4	口縁部は短く強く外反し,頸部に細くて浅い沈線1条	口縁部:ハケ目後ナデ 体部外面:ハケ目 体部以下内面:ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 黒褐色,内 淡褐色	外面スス付着
鉢	第38図 Y-246	26	N1E1	暗灰色 砂質土	口径 22.6	直口の口縁。把手付	ハケ目後ナデ	胎土:2㎜大の砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢	第38図 Y-247	26	N1E2	褐色 砂礫層		把手付,口縁部は外反して伸びるか	外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黄褐色	
蓋	第39図 Y-248	26	排土			天井部に突起(2つ),天井部の直下にヘラによる沈線1条	ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
蓋	第39図 Y-249	26	N2E2	暗灰色 砂礫層	天井径 5.2	天井部は平坦	指頭圧痕 内外面:ヘラミガキ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
蓋	第39図 Y-250	26	N2E1	暗灰色 砂質土	天井径 6.0	天井部は平坦	内外面:ヘラミガキ	胎土:2㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	内面黒変
蓋	第39図 Y-251	26	N0E2 河道	暗灰色 砂礫層	天井径 6.7	天井部は平坦	内外面:ナデ,指頭圧痕	胎土:2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰色	河道1

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
蓋	第39図 Y-252	26	N2E2	暗灰色 砂礫層	天井径 6.2	天井部は平坦	内外面:ヘラミガキ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
底部	第39図 Y-253		N1E2	暗青灰色 砂質土	底径 11.3	しっかりした平底	外面:ハケ目 内面:ヘラミガキ 底部外面:ヘラケズリ	胎土:2～4㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰白色	
底部	第39図 Y-254	27	トレンチ内	暗灰色 砂質土	底径 10.6	しっかりした大きな平底	外面:ナデか 内面:ヘラミガキとナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外 灰色,内 淡褐色	外面に黒斑
底部	第39図 Y-255	27	N1E1	褐色 砂質土	底径 11.4		ナデか	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
底部	第39図 Y-256	27	N2E2	暗灰色 砂礫層	底径 9.2	しっかりした平底,底外面にモミやわらの圧痕	外面:ハケ目後ヘラミガキ 内面:ハケ目後ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 灰褐色～黒褐色,内 暗褐色	
底部	第39図 Y-257	27	N1E2	暗青灰色 砂礫層	底径 9.8	しっかりした平底	外面:ハケ目 内面:ナデ	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面に炭化物付着
底部	第39図 Y-258	27	トレンチ内	暗灰色 砂層	底径 5.4	小さめの厚い平底	内外面:ヘラミガキ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄褐色	外面の1/3黒変
底部	第39図 Y-259		中央ベルト	褐色 ～青灰色 砂礫層	底径 9.4	しっかりした平底	内外面:ヘラミガキ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黄灰色	
底部	第39図 Y-260		N0E3	黒灰色 砂質土	底径 7.3	しっかりした平底	内外面:ヘラミガキ	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黄灰色,内面灰色	底外面黒斑
底部	第39図 Y-261	27	S3E0	暗青灰色 砂礫層	底径 7.6	円盤状の平底	外面:ハケ目後ヘラミガキ 内面:ヘラミガキとナデ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
底部	第39図 Y-262	27	N1E1	褐色 砂質土	底径 9.9	しっかりした平底	外面:ナデ 内面:ヘラミガキ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
底部	第39図 Y-263	27	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	底径 6.6	しっかりした平底	外面:ナデか 内面:ハケ目後ナデ,指頭圧痕が著しい	胎土:1～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡桃灰褐色	河道2
底部	第39図 Y-264	27	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	底径 8.1	しっかりした平底	内外面:ハケ目後ナデ	胎土:1～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	
底部	第39図 Y-265	27	トレンチ内	暗灰色 砂層		底面に直径1.8㎝の孔	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ 穿孔は焼成前か	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
底部	第39図 Y-266	27	S2W1	暗青灰色 砂礫層	底径 7.7	底面に直径1.3㎝の孔	外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ 穿孔は焼成前	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第40図 Y-267	28	S3E1	暗青灰色 砂礫層	口径 16.8	口縁部はゆるく外反し,頸部にくし描き沈線文と三角形刺突文	ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第40図 Y-268		I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 10.8	口縁端部は短く外反し,筒状の頸部に4条のくし描き沈線文が3回以上	ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
壺	第40図 Y-269	28	S3E0	赤褐色 砂礫層	口径 11.0	逆L字口縁。端部にヘラによる斜格子の刻目。筒状の頸部にくし描き沈線	ハケ目とナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第40図 Y-270	28	N2E1	暗灰色 粘質土	口径 10.6	口縁端部は平坦面をもち,胴部にむかって広がる。くし描き沈線文と波状文が少なくとも3段	ハケ目後ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第40図 Y-271	28	S3W1	暗青灰色 砂層	口径 18.2	口縁部は屈曲気味に大きく開き,端部にヘラによる刻みをもつ	ハケ目後ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	河道4
壺	第40図 Y-272	28	S2E0	暗青灰色 砂層	口径 16.2	口縁部は大きく開き,端部にヘラによる刻目と沈線1条	ナデか	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
壺	第40図 Y-273	28	N0E2 河道		口径 21.0	口縁部は屈曲気味に開き，端部で面をなす	ハケ目とナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道1
壺	第40図 Y-274	28	N1E1	褐色 砂質土	口径 19.8	口縁端部は下方に拡張し，ハケ目原体による刻目	磨滅して不明	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	
壺	第40図 Y-275	28	N2E2	暗灰色 粘質土	口径 15.2	口縁部は大きく開き，端部はやや肥厚，頸部に刻みをもつ貼付突帯	ハケ目後ナデ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第40図 Y-276	28	N1E1	灰色 粘質土	口径 19.2	口縁部は肥厚，頸部外面に指頭圧痕文帯	ナデ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第40図 Y-277		S52年度 調査区	埋土		頸部貼付突帯3条	ハケ目後ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第40図 Y-278		N4E2	青灰色 砂礫層		頸部貼付突帯3条	外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:淡黄灰色	河道2
壺	第40図 Y-279	28	N2E3	褐色 砂礫層		頸部貼付突帯3条，肩部にくし描き沈線文と波状文	外面:ハケ目 内面:ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第40図 Y-280	28	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 24.3	口縁部は大きく開き，端部は上下に拡張	外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	
壺	第40図 Y-281	28	S3W1	暗青灰色 砂礫層		頸部に指頭圧痕文帯（残存2条）	外面:ハケ目 内面:ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黄茶褐色	河道4
壺	第40図 Y-282	28	N2E3	暗灰色 砂礫層	口径 20.0	口縁部は直線的に外傾し，端部は平坦，外面にヘラによる沈線と鋸歯文	磨滅して不明	胎土:密 焼成:良 色調:淡灰褐色	
壺	第40図 Y-283	28	N5E1	暗灰褐色 粘質土	口径 21.8	直線的に外傾してたちあがる口縁部片，端部は上面で平坦，貼付突帯	ナデ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道3
壺	第40図 Y-284	28			口径 22.9	直線的に外傾してたちあがる口縁部片，端部は平坦面をなし，貼付突帯3条	ハケ目後ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第40図 Y-285	28	N2E1	褐色 砂礫層	口径 23.9	外傾する口縁部，外面に凹線	磨滅		
壺	第40図 Y-286	28	N2E1	褐色 砂礫層		直線的に開く口縁部，断面三角形の貼付突帯とたて方向に粘土ひも貼付文，指頭圧痕文帯	磨滅して不明	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
壺	第40図 Y-287	28	トレンチ内	暗灰色 砂礫層	口径 21.5	やや外反しながら大きく開く口縁部，端部は斜方向に拡張し，板目による刻み。ヘラ描き沈線，円形浮文で飾られる。3条の貼付突帯	内面:ハケ目	胎土:白色微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第40図 Y-288	28	N2E0	暗灰色 粘質土	口径 24.0	直線的に外傾する口縁部，くし描きの斜格子文，円形浮文，刻み等で施文，外面はくし描き波状文，粘土ひも貼り付け，刻目突帯文等で飾る		胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:肌灰色	
壺	第41図 Y-289	29	S52年度 調査区	埋土	口径 19.0	ロート状の口縁部，端部は下方に拡張し，くしによる鋸歯文，内面にも鋸歯文，楕円形の刺突文，頸部外面には断面三角形の貼付突帯	外面:ハケ目 内面:ヘラミガキ	胎土:密 焼成:良好 色調:淡黄灰色	
壺	第41図 Y-290	29	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 17.6	口縁端部は下方に拡張し，くし描きの鋸歯文と円形浮文，内面にはくし描き波状文	外面:ナデ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第41図 Y-291	29	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 31.1	口縁端部は上下に拡張し，くしによる鋸歯文と上端に刻目。内面にくし描き鋸歯文2段，円形浮文	ナデ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第41図 Y-292		N1E2	暗灰色 砂質土	口径 29.5	口縁端部は下方に拡張し，くし描きの鋸歯文	ナデ	胎土:白色微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第41図 Y-293	30	排土		口径 19.2	口縁端部は上下に拡張し，ヘラによる斜格子文	ハケ目	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:肌灰色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
壺	第41図 Y-294	30	N3E1	暗青灰色 砂層	口径 25.0	口縁端部は下方に拡張し，くし描きの斜格子文	ナデか	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡黄灰色	河道2
壺	第41図 Y-295	30	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 21.0	口縁端部は上下に拡張し，ハケ目原体による羽状文	ナデか	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	
壺	第41図 Y-296	30	N2E1	褐色 砂礫層	口径 30.6	口縁端部は下方に拡張し，くし描きの斜格子文	ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
壺	第41図 Y-297	29	N1E1	青灰色 砂礫層	口径 27.5	口縁端部は上下にやや拡張し，凹線3条とヘラによる刻目。内面には凹線5条	ナデ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
壺	第41図 Y-298		N1E1	褐色 粘質土	口径 22.1	口縁端部は上下にやや拡張し，斜格子文，内面はくし状工具による刺突文	ナデか	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	内面の一部黒変
壺	第41図 Y-299	30	N3E1	青灰色 砂礫層	口径 28.4	口縁端部は大きく拡張，ヘラによる斜格子文，頸部に突帯の剝離痕	ナデ	胎土:1～2㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰色	河道2
壺	第41図 Y-300	29	N1E0	淡灰色 砂質土	口径 23.0	口縁端部は下方に拡張し，ハケ目原体による斜行文，内面はくし描きの斜格子文	外面:ナデ 内面:ヘラミガキ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄灰色	
壺	第41図 Y-301	28	N2E1	褐色 砂礫層	口径 30.2	口縁端部は下方に大きく拡張し，くし工具による鋸歯文，内面は刻目突帯文3条と具による斜行刺突文	外面:ハケ目後ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
壺	第41図 Y-302	29	N3E1	赤褐色 砂質土	口径 26.5	口縁端部は下方に拡張し，くし描きの斜格子文，内面は刻目突帯3条とくし描きの斜格子文，斜行文，先端が管状のくし状工具による斜行刺突文	外面:ハケ目後ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰色	河道2
壺	第41図 Y-303		N1E2	赤褐色 砂質土	口径 32.0	口縁端部は下方に拡張し，くし描きの鋸歯文	ナデか	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第41図 Y-304	30	N0E2		口径 18.0	口縁端部は下垂する	ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	河道1
壺	第41図 Y-305	29	S3W1	暗青灰色 砂礫層	口径 32.6	口縁端部は下方に拡張し，凹線3条とヘラによる刻み4段，内面くしによる斜格子文	ナデとハケ目	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第41図 Y-306		N2E0	赤褐色 砂質土	口径 17.8	ロート状に開く口縁部，端部は斜下方に拡張	ナデか	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	河道2
壺	第41図 Y-307	30	S1E0	暗灰色 砂礫層	口径 40.3	口縁端部は上下に拡張し，くしによる斜格子文と円形浮文が施される	外面:ナデ 内面:ヘラミガキ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡黄灰色	
壺	第41図 Y-308	30	N1E1	暗灰色 砂質土	口径 27.2	口縁端部は斜下方に下垂	外面:ハケ目後ナデ 内面:ヘラミガキ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	
壺	第41図 Y-309		S1E0	暗灰色 砂礫層	口径 23.6	口縁端部は下方に拡張し，上端にヘラによる刻目	外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第42図 Y-310	30		褐色 砂質土	口径 29.0	口縁端部は斜下方に拡張，端部外面に沈線4条と羽条の刻目	ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰茶色	
壺	第42図 Y-311	30	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 27.0	口縁端部は上下に大きく拡張し，沈線2条凹線3条，くしによる斜格子文，内面に凹線3条	ナデ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
壺	第42図 Y-312		排土		口径 31.2	口縁端部は下方に拡張し，凹線3条	ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第42図 Y-313	30	N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 26.0	口縁端部は上下に拡張し，巾広の凹面，内面には凹線	ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
壺	第42図 Y-314		排土		口径 21.0	円筒状の頸部，口縁端部は拡張し，不明瞭な凹線2条と板目による刻目。頸下部に凹線	外面:ハケ目 内面:ハケ目とナデ	胎土:1～2㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
壺	第42図 Y-315	30			口径 18.5	口縁端部は内傾して拡張し,凹線4条	口縁部:ヨコナデ 頸部以下ハケ目	胎土:密,微砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 淡桃灰色,内 灰色	
壺	第42図 Y-316	30	S52年度調査区	埋土	口径 25.7	口縁端部上面は平坦,凹線4条と円形浮文	ナデ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:黒褐色	
壺	第42図 Y-317	30	排土			頸部に凹線文(残存5条)	内外面:ハケ目		
壺	第42図 Y-318	30	N2E1	暗赤褐色砂層		頸部に凹線文(残存5条)	外面:ハケ目 内面:ナデ	胎土:1㎜前後の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
壺	第42図 Y-319	30	N1E1	褐色砂質土	口径 30.2	口縁端部は内傾して拡張し,凹線3条	ナデか	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
壺	第42図 Y-320		S3E0	灰褐色砂礫層	口径 33.6	口縁端部上面は平坦,凹線3条	ナデか	胎土:1㎜未満の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	河道4
壺	第42図 Y-321	30	Ⅱ区 トレンチ内		口径 46.2	口縁端部上面は平坦,凹線5条と円形浮文,端部外面には刻目と凹線2条	ナデか	胎土:1～2㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
壺	第42図 Y-322	30	N0E3	黒灰色砂質土		大きく開く口縁部,頸部にヘラによる圧痕文帯貼付	外面:ハケ目 内面:ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:肌灰色	
壺	第42図 Y-323	30	トレンチ内	暗青灰色砂礫層	口径 16.8	口縁端部は拡張し,凹線3条,頸部にも凹線	外面:ハケ目 内面:ハケ目後ナデ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
壺	第42図 Y-324		N0E3	黒灰色砂質土	口径 27.1	口縁端部は上下に拡張	ハケ目後ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第42図 Y-325		S4E0	灰褐色砂礫層	口径 21.0	口縁端部は斜下方に拡張し,肥大	口縁端部:ヨコナデ 外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ	胎土:密,微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第43図 Y-326	31	N1E0	暗青灰色砂礫層	口径 10.6	直口の壺,口縁端部は平坦面をなし,刻目をもつ(ヘラ),胴張り	外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
壺	第43図 Y-327	31	S3W1	暗青灰色砂礫層	口径 8.0	直口の壺,端部は凹面をなし,刻目をもつ(ヘラ)	外面:ハケ目 内面:ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第43図 Y-328	31	S3E0	赤褐色砂礫層	口径 13.1	やや内傾する逆L字状の口縁。胴部にむかってゆるやかに張り出す	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第43図 Y-329	31	S3E0	暗青灰色砂礫層	口径 6.2	長頸の直口壺,頸部に凹線5条,口縁端部は平坦	口縁部:ヨコナデ 頸部外面:ハケ目 頸部内面:ヘラケズリ後ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河道4
壺	第43図 Y-330	31	S3E0	暗青灰色砂礫層	底径 5.5	内面にうるしが厚く付着	外面:ヘラミガキ 内面:ハケ目後ヘラミガキ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第43図 Y-331	31	N2E2	褐色砂礫層	口径 13.6	口縁端部はやや内傾する平坦面をもつ	磨滅して不明	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
壺	第43図 Y-332	31	N1E1	赤褐色砂質土	口径 14.1	口縁端部は「く」の字状にゆるく屈曲	口縁端部:ヨコナデ 外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:明褐色	
壺	第43図 Y-333	31	S3E0	赤褐色砂礫層	口径 16.0	「く」の字状にゆるく屈曲する口縁部,端部は上下にやや拡張	口縁端部:ヨコナデ 外面:ハケ目 内面:ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	河道4
壺	第43図 Y-334		N2E1	褐色砂礫層	口径 11.4	「く」の字状にゆるく屈曲する口縁部,端部はやや肥厚し,面をなす	口縁端部ヨコナデ 胴部:ハケ目後ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
壺	第43図 Y-335		N2E2	褐色砂礫層	口径 15.4	口縁端部は肥厚	ナデか	胎土:1㎜前後の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
壺	第43図 Y-336		N1E0	淡灰色 砂質土	口径 16.8	「く」の字状にゆるく屈曲する口縁部，端部はやや拡張し，面をなす	口縁部：ヨコナデか	胎土：白色小砂粒を含む 焼成：良好 色調：明灰色	河道2
壺	第43図 Y-337	31	S3W1	暗青灰色 砂層	口径 14.8	「く」の字状に屈曲する口縁部，端部は下方にやや肥厚	口縁部：ヨコナデ 胴部：ハケ目	胎土：小砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：褐色	河道4
壺	第43図 Y-338		トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 16.8	「く」の字状にゆるく屈曲する口縁部，端部はやや拡張し，面をなす	ナデか	胎土：小砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：灰褐色	
壺	第43図 Y-339		トレンチ内	暗灰色 粘質土	口径 16.2	「く」の字状にゆるく屈曲する口縁部，端部は斜下方に肥大	口縁端部ヨコナデ 胴部：ハケ目	胎土：1㎜前後の砂粒を含む 焼成：良好 色調：淡灰黄色	
壺	第43図 Y-340	31	N2E1	淡褐色 砂層	口径 15.2	「く」の字状にゆるく屈曲する口縁部，端部はやや拡張し面をなす	口縁端部ヨコナデ 胴部：ハケ目後ナデ	胎土：白色小砂粒を含む 焼成：良好 色調：明灰褐色	
壺	第43図 Y-341	31	N2E0	赤褐色 砂質土	口径 30.8	外傾して伸びる口縁部片，端部は平坦面をなし，凹線2条	ハケ目後ナデ	胎土：1～4㎜大の砂粒を含む 焼成：良好 色調：淡赤灰色	河道2
壺	第43図 Y-342	31	N2E1	褐色 砂礫層	口径 13.8	やや外傾して伸びる口縁部片，端部は斜下方に拡張	磨滅により不明	胎土：白色微砂粒を含む 焼成：良好 色調：淡灰褐色	
壺	第43図 Y-343	31	N1E2	灰色 粘質土		くし描き波状文，同沈線文	内面：ヘラミガキ	胎土：1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：褐色	
壺	第43図 Y-344	31	N2E1	赤褐色 砂質土		くし描き沈線文，同斜格子文	ナデか	胎土：小砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：灰褐色	河道2
壺	第43図 Y-345	31	N3E1	灰色 砂質土		くし描き沈線文，同斜格子文	内面：ハケ目	胎土：1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：灰色	河道2
壺	第43図 Y-346	31	N0E2 河道			くし描き流水文	内面：磨滅して不明	胎土：1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：淡黄灰色	
甕	第44図 Y-347	32	N1E1	褐色 砂質土	口径 14.8	口縁端部外面にヘラによる刻目。4条単位のくし描き沈線（2回）	口縁部：ナデ 頸部以下外面：ハケ目 頸部以下内面：ナデ	胎土：1～3㎜大の砂粒を含む 焼成：良好 色調：褐色	
甕	第44図 Y-348	32	N1E0	淡灰色 砂質土	口径 18.4	口縁端部外面にヘラによる刻目。5条単位のくし描き沈線（3回）	ハケ目後ナデ	胎土：2～5㎜大の砂粒を含む 焼成：良好 色調：明灰褐色	河道2
甕	第44図 Y-349	32	トレンチ内	暗灰色 砂礫層	口径 16.2	3条単位のくし描き沈線（3回）と三角形の刺突文	外面：ハケ目とナデ 内面：ナデ	胎土：1～2㎜大の砂粒を含む 焼成：良好 色調：淡褐色	
甕	第44図 Y-350	32	N0E0	暗灰色 砂礫層	口径 23.2	口縁端部外面に板目による斜格子の刻目。頸部以下に5条単位のくし描き沈線文（2回）	ナデ	胎土：2㎜前後の砂粒を含む 焼成：良好 色調：外 灰白色，内 淡褐色	
甕	第44図 Y-351		中央ベルト	褐色～青灰色 砂礫層	口径 24.7	5条単位のくし描き沈線（3回）	口縁部：ヨコナデ 外面：ハケ目 内面：ハケ目後ナデ	胎土：2～3㎜大の砂粒を含む 焼成：良好 色調：褐色	
甕	第44図 Y-352	32	S3E0	暗青灰色 砂層	口径 22.0	口縁端部にヘラによる刻目。頸部以下に5条単位のくし描き沈線文（3回）	ハケ目後ナデ	胎土：2～3㎜大の砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	河道4
甕	第44図 Y-353		トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 25.6	口縁端部にヘラによる刻目。頸部以下に5条単位のくし描き沈線文（3回）	ナデ	胎土：2～5㎜大の砂粒を含む 焼成：良好 色調：淡褐色	
甕	第44図 Y-354	32	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂質土	口径 21.5	口縁部は短く屈曲し，端部にヘラによる刻目。頸部以下にくし描き沈線文（25条）と三角形の刺突文	ナデ	胎土：1～5㎜大の砂粒を含む 焼成：良好 色調：暗褐色	
甕	第44図 Y-355		N2E1	淡褐色 砂層	口径 28.2	逆L字状口縁。4条単位のくし描き沈線文（3回）	ナデ	胎土：1㎜前後の白色砂粒を含む 焼成：良好 色調：淡褐色	
甕	第44図 Y-356	32	N0E0	灰褐色 砂礫層	口径 28.6	逆L字状口縁。端部にヘラによる刻目。4条単位のくし描き沈線文（3回）	外面：ハケ目 内面：ナデ	胎土：1㎜大の砂粒を含む 焼成：良好 色調：褐色	外面にススが付着

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第44図 Y-357	32	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 24.7	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部直下には刻目(板目による)をもつ。貼付突帯	ハケ目後ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
甕	第44図 Y-358		N1E0	褐色 砂質土	口径 21.0	短く屈曲する口縁	ハケ目後ナデ	胎土:1㎜前後の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
甕	第44図 Y-359	32	N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 16.0	口縁部はゆるく外反	ナデか	胎土:1㎜前後大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
甕	第44図 Y-360	32	N1E2	赤褐色 砂質土	口径 19.0	口縁部は強く屈曲,胴部中ほどに付着状工具による刺突文	口縁部:ヨコナデ 頸部外面:上半 ハケ目,下半 ヘラミガキ 頸部内面:ハケ目後ヘ	ラミガキ	
甕	第44図 Y-361		N2E1	褐色 砂礫層	口径 20.4	口縁部は強く短く外反し,胴部は張り出す。胴部に刺突文	ハケ目後ナデ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第44図 Y-362		N2E2	褐色 砂礫層	口径 19.9	口縁部はごく短く外反し,胴部は張り出す	ハケ目とナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第45図 Y-363		N1E0	褐色 砂質土	口径 16.2	口縁部は短く外反	ナデか	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第45図 Y-364		I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 19.8	口縁部は短く外反,胴部はやや張り出す	外面:ハケ目 内面:ナデか	胎土:1㎜前後大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第45図 Y-365	32	N1E1	褐色 砂質土	口径 17.0	口縁部は短く外反,胴部はやや張り出す	外面:ハケ目 内面:ハケ目後ナデ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	頸部外面にスス付着
甕	第45図 Y-366	32	トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 18.5	口縁部は「く」の字状にゆるく屈曲	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ナデ	胎土:ガラス質の小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	外面にスス付着
甕	第45図 Y-367		トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 19.2	口縁部は屈曲して短く伸びる	外面:ハケ目 内面:磨滅して不明	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:やや軟質 色調:淡黄灰色	
甕	第45図 Y-368		N1E1	褐色 砂質土	口径 19.2	口縁部は「く」の字状にゆるく屈曲し,頸部は張り出す	ナデか	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第45図 Y-369	32	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 17.0	口縁部は「く」の字状にゆるく屈曲	ナデか	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰色	河道4
甕	第45図 Y-370	32	N3E2	赤褐色～青灰色 砂礫層	口径 21.0	口縁部は「く」の字状にゆるく屈曲	口縁部:ヨコナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ハケ目後ナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰褐色	スス付着 河道2
甕	第45図 Y-371	32	N2E2	褐色 砂礫層	口径 16.7	口縁部は「く」の字状に屈曲	口縁部:ヨコナデ 頸部外面:ハケ目 頸部内面:ナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着
甕	第45図 Y-372		S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 22.4	口縁部は「く」の字状にゆるく屈曲	口縁部:ヨコナデ 頸部以下:ハケ目	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第45図 Y-373		I区 トレンチ内	青灰色 砂質土	口径 19.1	「く」の字状に屈曲する口縁部	口縁部:ヨコナデ 頸部以下:ハケ目	焼成:良好	
甕	第45図 Y-374	32	N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 20.5	口縁部は「く」の字状に屈曲	口縁部～頸部:ヨコナデ 胴部:ハケ目	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着
甕	第45図 Y-375	32	N1E1	灰色 粘質土	口径 19.0	口縁部は「く」の字状にゆるく屈曲	口縁部:ヨコナデ 頸部以下:ハケ目	胎土:ガラス質の微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第45図 Y-376	32	S3E0	青灰色 砂礫層	口径 23.8	口縁部は「く」の字状に屈曲	口縁部～頸部:ヨコナデ 胴部:ハケ目後ナデ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道4
甕	第45図 Y-377	32	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 22.0	口縁部は「く」の字状に屈曲	口縁部:ヨコナデ 頸部:ハケ目	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	外面にスス付着

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第45図 Y-378	32	N2E3 トレンチ内	暗灰色 砂礫層	口径 21.8	口縁部は「く」の字状に屈曲	口縁部:ヨコナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ハケ目後ナデ		外面にスス付着
甕	第45図 Y-379		N2E3	赤褐色 砂質土	口径 27.0	口縁部は「く」の字状に屈曲,端部はやや肥厚	口縁部～頸部:ヨコナデ 胴部外面:ナデか 胴部内面:ヘラ状工具による横方向のナデがある	胎土:白色微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第45図 Y-380		N2E2	褐色 砂礫層	口径 30.2	口縁部は「く」の字状に屈曲	口縁部:ヨコナデ 頸部以下ハケ目	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第46図 Y-381		N1E1	褐色 砂質土	口径 23.2	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部にはヘラによる刻目	口縁部:ヨコナデ 胴部ハケ目	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第46図 Y-382	33	N1E1	灰色 粘質土	口径 19.6	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部にはヘラによる刻目	口縁部:ヨコナデ 頸部外面:ハケ目 頸部内面:ナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第46図 Y-383		N1E1	褐色 砂礫層	口径 29.4	口縁部は「く」の字状に屈曲	内外面:ナデか	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第46図 Y-384	33	N2E1	暗褐色 粘質土	口径 17.5	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は面をなし,凹線2条	口縁部:ヨコナデ 頸部外面:ハケ目 頸部内面:ナデ	胎土:ガラス質の小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第46図 Y-385		N2E3	赤褐色 砂質土	口径 15.6	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は面をなし,ヘラによる刻目と浅い凹線1条	ヨコナデとナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第46図 Y-386		N2E1	褐色 砂礫層	口径 29.0	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部に凹線1条	口縁部:ヨコナデか 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ナデ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第46図 Y-387	33	N2E3	暗灰色 砂質土 (礫含)	口径 16.9	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は上方につまみあげられ外面に凹線1条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ハケ目とナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:黒灰色	
甕	第46図 Y-388	33	N2E2	褐色 砂礫層	口径 23.8	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部に凹線1条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:乳褐色	
甕	第46図 Y-389		N1E1	暗灰色 砂質土	口径 16.0	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部にはヘラによる刻目と凹線1条	口縁部:ヨコナデ 胴部ハケ目	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着
甕	第46図 Y-390		I区 トレンチ		口径 22.3	口縁部は「く」の字状に屈曲	ナデか	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第46図 Y-391	33	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 17.7	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は上方にやや拡張し凹線1条,胴部斜行刺突文(貝か)	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ナデ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第46図 Y-392		トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 23.2	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部には凹線1条	口縁部:ヨコナデ 胴部ハケ目後ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第46図 Y-393	33	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 19.6	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は上方にわずかに拡張し,外面にはヘラによる刻目と凹線1条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ハケ目後ナデ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道2
甕	第46図 Y-394		N1E1	褐色 砂質土	口径 17.8	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は上方にやや拡張し,凹面をなす	口縁部:ヨコナデ 胴部ナデ	胎土:1mm未満の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	
甕	第46図 Y-395		N0E2 河道内		口径 17.2	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部はやや拡張し,凹線2条	口縁部:ヨコナデ 胴部ナデ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黄灰色	外面にスス付着 河道1
甕	第46図 Y-396	33	N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 20.0	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部には凹線2条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ナデ	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着
甕	第46図 Y-397	33	N2E3	赤褐色 砂質土	口径 18.8	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部はやや拡張し,板目による刻みと凹線2条	口縁部:ヨコナデ 胴部ナデ	胎土:1mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着
甕	第46図 Y-398		N0E2 河道内		口径 21.2	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部には凹線2条	口縁部:ナデ 胴部ハケ目	胎土:1mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	河道1

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第46図 Y-399		I区	排土	口径 18.9	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部はやや拡張し,凹線2条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ナデか	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第47図 Y-400		トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 17.0	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部には浅い凹線2条	口縁部:ナデ 胴部ハケ目	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡黄灰褐色	
甕	第47図 Y-401	33	N0E2 河道内	暗灰色 砂礫層	口径 19.0	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部はやや拡張し,凹線2条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:荒いハケ目 胴部内面:ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道1
甕	第47図 Y-402	33	トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 20.0	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部はやや拡張し,ヘラによる刻目と凹線2条	口縁部:ヨコナデ 胴部ハケ目後ナデ	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第47図 Y-403	33	N1E1	暗灰色 粘質土	口径 12.8	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は上下に拡張し,凹線2条	口縁部:ヨコナデ 胴部ハケ目	胎土:白色微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第47図 Y-404	33	S3E0	赤褐色 砂礫層	口径 13.4	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は面をなし,凹線1条とヘラによる刻目	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ハケ目後ナデ	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面にスス付着 河道4
甕	第47図 Y-405		N2E1	淡褐色 砂層	口径 15.2	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部やや拡張し,凹線1条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目後ナデ 胴部内面:ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰白色	外面黒変
甕	第47図 Y-406	33	I区 トレンチ	暗青灰色 砂礫層	口径 13.0	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は斜上方に拡張し凹線4条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:上半 ハケ目,下半 ヘラミガキ 胴部内面:上半 ナデ,	下半 ヘラケズリ	
甕	第47図 Y-407	33	N4E0	暗灰褐色 粘質土	口径 17.8	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部はやや拡張し,板目による刻目	ナデか	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道3
甕	第47図 Y-408		N2E2	褐色 砂礫層	口径 19.8	口縁部は「く」の字状に屈曲し,指頭圧痕文帯,口縁端部にヘラによる刻目	ナデか	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第47図 Y-409	33	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 21.2	口縁部は「く」の字状に屈曲し,指頭圧痕文帯,口縁端部は凹面をなし,ハケ目原体による刻目	口縁部:ヨコナデ 胴部内外面:ハケ目	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第47図 Y-410		N0E1	灰色 粘質土	口径 26.2	口縁部は「く」の字状に屈曲し,指頭圧痕文帯,口縁端部にヘラによる刻目	口縁部:ヨコナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:黒褐色	外面にスス付着
甕	第47図 Y-411		N0E1	褐色 砂質土	口径 24.6	「く」の字状口縁部,屈曲部外面に指頭圧痕文帯	ヨコナデ,ナデ	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
甕	第47図 Y-412	33	N1E2	赤褐色 砂質土	口径 26.2	口縁部は「く」の字状に屈曲し,指頭圧痕文帯,口縁端部にハケ目原体による刻目	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ナデ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡黄白色	
甕	第47図 Y-413	33	N2E2	褐色 砂礫層	口径 25.8	口縁部は「く」の字状に屈曲し,指頭圧痕文帯,口縁端部にヘラによる刻目	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ナデか	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第47図 Y-414	33	I区 トレンチ		口径 23.2	口縁部は「く」の字状に屈曲し,くし状工具で押圧したような細めの圧痕文帯,口縁端部に凹線2条	磨滅により調整不明	胎土:1〜2㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
甕	第47図 Y-415		S2W1	暗青灰色 砂層	口径 31.0	口縁部は「く」の字状に屈曲し,指頭圧痕文帯,口縁端部はやや拡張し面をなす	口縁部:ヨコナデ 胴部内外面:ナデ	胎土:白色微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第47図 Y-416		N0E1	褐色 砂質土	口径 16.4	「く」の字状口縁部,屈曲部外面に指頭圧痕文帯,口縁端部に刻目	口縁部:ヨコナデ 胴部ハケ目	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第48図 Y-417	33	S2E0	暗青灰色 砂層	口径 18.7	口縁部は「く」の字状に屈曲し,指頭圧痕文帯,口縁端部凹線2条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目後ナデ 胴部内面:ナデ		河道4
甕	第48図 Y-418	33	I区 トレンチ	青灰色 砂質土	口径 16.5	口縁部は「く」の字状に屈曲し,指頭圧痕文帯,口縁端部にハケ目原体による刻目	磨滅若しくは調整不明	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:やや軟質 色調:明灰褐色	
甕	第48図 Y-419		N1E0	淡灰色 砂質土	口径 22.2	口縁部は「く」の字状に屈曲し,指頭圧痕文帯,口縁端部に凹線3条	ナデか	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	河道2

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第48図 Y-420		N1E1	褐色 砂質土	口径 22.7	「く」の字状に屈曲する口縁部,指頭圧痕文帯,口縁端部に2条の凹線	口縁部:ヨコナデ 胴部ハケ目後ナデ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第48図 Y-421	33	N2E1	赤褐色 砂質土	口径 24.4	「く」の字状に屈曲する口縁部,指頭圧痕文帯,口縁端部にヘラによる刻目と凹線3条	口縁部:ヨコナデ 胴部ハケ目	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
甕	第48図 Y-422	33	N2E1	暗灰色 砂質土	口径 19.6	口縁部は「く」の字状に屈曲し,指頭圧痕文帯,口縁端部にヘラによる刻目と凹線3条	口縁部:ヨコナデ 胴部ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黒褐色	
甕	第48図 Y-423	33	N2E1	褐色 砂礫層	口径 20.2	口縁部は「く」の字状に屈曲し,指頭圧痕文帯,口縁端部に凹線3条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第48図 Y-424		I区 トレンチ	暗青灰色 砂質土	口径 27.0	口縁部は「く」の字状に屈曲し,指頭圧痕文帯,口縁端部にヘラによる刻目と凹線3条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:磨滅して不明 胴部内面:ハケ目後ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	
甕	第48図 Y-425	33	N0E2 河道		口径 22.8	口縁部は「く」の字状に屈曲し,指頭圧痕文帯,口縁端部に凹線2条とハケ目原体による刻目が3段	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ハケ目後ナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰色	河道1
鉢	第48図 Y-426	34	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 16.7	口縁部は屈曲して短く伸びる	外面:ナデか 内面:ヘラミガキ	胎土:密,白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
鉢	第48図 Y-427	34	N3E1	青灰色 砂礫層	口径 21.0	口縁部は屈曲	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:上半 ハケ目,下半 ヘラミガキ 胴部内面:ヘラミガキ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面にスス付着 河道2
鉢	第48図 Y-428		トレンチ内	暗灰色 砂礫層	口径 20.9	口縁部は「く」の字状に屈曲	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:上半 ハケ目,下半 ヘラミガキ 胴部内面:ハケ目	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢か	第48図 Y-429	34	N1E1	赤褐色 砂質土	口径 21.0	逆L字状口縁。端部にハケ目原体による刻目	外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ		
鉢	第48図 Y-430	34	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 21.8	口縁端部は平坦,端部外面はヘラによる刻目。外面に刻目突帯	ナデ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
鉢	第48図 Y-431		N2E2	褐色 砂礫層	口径 24.2	口縁端部は平坦,端部外面にヘラによる刻み,外面に貼付突帯,胴部に刺突列点文	外面:磨滅 内面:ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢	第48図 Y-432	34	I区 トレンチ		口径 22.7	口縁端部は平坦,端部外面にヘラによる刻目。外面に刻目突帯	ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢	第48図 Y-433	34	N2E2	褐色 砂礫層	口径 22.6	内傾する口縁片,端部は外面に刻目(ヘラ),外面にはくし描き波状文,刻目突帯が2条	ナデか	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	
鉢	第49図 Y-434		トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 22.4	外面に貼付突帯	ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
鉢	第49図 Y-435	34	N1E1	褐色 砂質土	口径 20.4	内傾する口縁部片,端部は平坦,外面に貼付突帯	ナデか	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢	第49図 Y-436	34	N1E0	淡灰色 砂礫層	口径 18.4	外面に指頭圧痕文帯	ナデか	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
鉢	第49図 Y-437	34	N1E0	淡灰色 砂質土	口径 26.8	口縁端部は平坦,外面に指頭圧痕突帯	ナデか	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:乳灰色	河道2
鉢	第49図 Y-438	34	I区 トレンチ		口径 19.0	内湾気味に伸びる口縁部片,端部はやや内傾する平坦面,外面に指頭圧痕文帯	磨滅により調整不明	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	
鉢	第49図 Y-439	34	I区 トレンチ		口径 20.6	やや内湾する口縁部片,端部は内傾気味の平坦面,指頭圧文帯	外面:ナデ 内面:磨滅して不明	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢か	第49図 Y-440	34	S52年度 調査区		口径 32.4	口縁端部は内側に拡張して上面は平坦,両端に刻み,平坦面にくし状工具による刺突列点文,外面には刻目突帯が少なくとも4条,たて方向に粘土ひもが貼り付けられる	内外面:ナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
鉢	第49図 Y-441	34	N0E2 河道	暗灰色 砂礫層	口径 33.2	口縁端部は平坦,外側に刻目(ヘラ)	内外面:ハケ目	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道1
鉢	第49図 Y-442		トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 23.2	口縁端部は平坦面をなし,外側にヘラによる刻目	磨滅して調整不明	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
鉢	第49図 Y-443	34	Ⅰ区 トレンチ		口径 19.2	口縁端部は平坦面をなす	ナデ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
高坏	第49図 Y-444	34	N2E1	褐色 砂礫層	口径 25.8	口縁端部は内外に拡張し平坦面,端部外面にヘラによる刻目。内面に黒灰色のうるしが一部残存		胎土:密 焼成:良好 色調:淡褐色	
高坏	第49図 Y-445	34	N0E2 河道	暗灰色 砂礫層	口径 20.0	口縁部は屈曲して平坦に伸びる	口縁部:ヨコナデ 外面:ハケ目 内面:ハケ目後ナデ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道1
高坏	第49図 Y-446		トレンチ	暗灰色 砂礫層	口径 26.6	口縁端部は拡張して,平坦面をなす	ナデか	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
高坏	第49図 Y-447	34	S3E1	灰褐色 砂質土	口径 23.4	口縁端部は内外に拡張し平坦面をなす。端部外面にヘラによる刻目	口縁部:ヨコナデ 外面:ハケ目 内面:ヘラミガキ	胎土:密 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
高坏	第49図 Y-448	34	S2E1	暗青灰色 砂層	口径 29.2	口縁端部は拡張し,やや内傾気味の平坦面	ヘラミガキ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
高坏	第49図 Y-449		N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 42.2	口縁端部は内側に拡張し,平坦面をなす	ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道2
高坏	第49図 Y-450		S3W1	暗青灰色 砂礫層		「ハ」の字に開く脚部片	内面:しぼり目	胎土:1～2㎜大の砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
高坏	第49図 Y-451	35	N1E1	褐色 砂質土	底径 12.6	ロート状に開く脚部,厚手	外面:磨滅 内面:ヘラケズリとナデ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
高坏	第50図 Y-452	34	S3W1	暗青灰色 砂礫層	口径 33.5	口縁部は逆L字状を呈し,平坦部分に垂直に径3~4㎜大の円孔が穿たれる。円孔の中程より下の部分にくし描き沈線がめぐる	ナデか	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
高坏	第50図 Y-453	34	Ⅰ区	暗灰色 砂礫層	口径 20.5	内湾する坏部,口縁端部はやや内傾	外面:一部ヘラミガキか 内面:ヘラケズリ後ヘラミガキ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
高坏	第50図 Y-454	34	N2E1	青灰褐色 砂礫層	口径 18.5	口縁端部は内傾し,外面に凹線4条	磨滅して調整不明	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
高坏	第50図 Y-455	34	N3E1	赤褐色 砂層	底径 12.6	「ハ」の字形に開く脚部片	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
高坏	第50図 Y-456	34	N1E1	赤褐色 砂質土	底径 11.0	「ハ」の字形に開く脚部片,脚端に凹線2条	外面:磨滅 内面:ヘラケズリ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
高坏	第50図 Y-457	35	S3W1	暗青灰色 砂層	底径 11.4	脚柱部・脚端部に多条の凹線文	外面:ナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
高坏	第50図 Y-458	34	S3E0	暗青灰色 砂礫層		多条のくし描き沈線文	外面:ヘラミガキ 内面:しぼり目	胎土:密 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
底部	第50図 Y-459	35	N2E3	赤褐色 砂質土	底径 6.7	「ハ」の字形に開く低脚附きの壺か鉢?	ヘラケズリ後ナデ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
底部	第50図 Y-460		S1E0	暗灰色 砂礫層	底径 7.6	厚手の平底	磨滅により調整不明	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
底部	第50図 Y-461	35	N1E2	褐色 砂質土	底径 9.0	平底,うす手	外面:磨滅して不明 内面:ハケ目後ヘラミガキ	胎土:白色小砂粒を多く含む	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
底部	第50図 Y-462		N2E1	暗灰色 粘質土	底径 8.0	平底,胴部にむかって大きく開く	内外面:ヘラミガキ		
底部	第50図 Y-463	35	トレンチ内	暗灰色 砂層	底径 7.8	平底	内外面:ヘラミガキ	胎土:密 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
底部	第50図 Y-464	35	N1E0	暗青灰色 砂礫層	底径 6.2	平底	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ後ナデ	胎土:2～3㎜大の砂粒を少量と小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
底部	第50図 Y-465				底径 5.2	やや上げ底,外面にうるし状のもの付着	外面:ヘラミガキ 内面:ハケ目後ナデ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
底部	第50図 Y-466		トレンチ内	暗灰色 砂層	底径 7.8	平底	外面:ヘラミガキ 内面:ハケ目とナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
底部	第50図 Y-467	35	N1E0	褐色 砂質土	底径 5.0	小さめの平底,うす手	内外面:ヘラミガキ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
底部	第50図 Y-468		N2E2	赤褐色 砂質土	底径 7.6	平底	外面:ヘラミガキ 内面:ナデか	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
底部	第50図 Y-469	35	S2E0	暗青灰色 砂礫層	底径 5.5	上げ底の小さい底部	外面:指頭圧痕,ヘラミガキ 内面:ナデ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
底部	第50図 Y-470	35	S3E0	暗青灰色 砂層	底径 6.0	底部に焼成前の穿孔あり,中心からずれている	外面:ハケ目後ヘラミガキ 内面:ナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
底部	第50図 Y-471	35	I区	排土	底径 5.6	小さめの平底	外面:ヘラミガキ 内面:ハケ目後ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
底部	第50図 Y-472	35	N1E1	赤褐色 砂質土	底径 5.8	平底,内外面に灰黒色の塗料状のものが一面に付着,内面にはさらに炭化物のかたまりが点々と付着	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキか	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
底部	第50図 Y-473		I区 トレンチ	暗青灰色 砂質土	底径 5.8	平底	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ後ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
底部	第50図 Y-474		S2E0	暗青灰色 砂層	底径 5.4	平底	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ後ヘラミガキとナデ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道4
壺	第51図 Y-475	36	N1E1	赤褐色 砂質土	口径 14.6	口縁端部は肥厚し内傾,凹線4条	外面:ヨコナデ 内面:ナデ。頸部以下ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
壺	第51図 Y-476	36	I区 トレンチ	青灰色 砂質土	口径 18.8	頸部は直立気味に長く伸び,口縁部で強く外反,口縁端部は拡張して凹線3条	外面:ナデ 内面:磨滅して不明	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第51図 Y-477	36	S3W1	灰褐色 砂礫層	口径 13.7	頸部は直立して長く伸び,口縁部でやや外反,端部は拡張して内傾し,凹線3条	外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ。頸部以下ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:乳灰色	河道4
壺	第51図 Y-478	36	N1E1	褐色 砂礫層	口径 12.5	口縁部は上下に拡張して複合口縁となり,凹線3条	頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
壺	第51図 Y-479		N2E2	褐色 砂礫層	口径 12.4	口縁端部は上下に拡張して複合口縁となり,凹線4条	内外面:ハケ目後ヨコナデ。頸部以下ヘラケズリ		
壺	第51図 Y-480	36	N2E2	褐色 砂礫層	口径 13.6	複合口縁。凹線4条	外面:ハケ目 内面:ナデ。頸部以下ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明褐色	
壺	第51図 Y-481	36	S6W1	青灰色 砂礫層	口径 14.0	複合口縁。凹線4条	外面:ヨコナデ 内面:頸部 細かいヘラミガキ,頸部以下 ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
壺	第51図 Y-482	36	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 19.1	複合口縁部は外反気味で,くし描き沈線が施される	外面:ハケ目 内面:口縁～頸部 ヘラミガキ,頸部以下 ヘラケズリ後ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
壺	第51図 Y-483	36	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 10.1	口縁端部は内傾して凹面をなす	口縁部:ヨコナデ 頸部内面:ヘラミガキ	胎土:金色の微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第51図 Y-484		S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 11.0	口縁端部は内傾して凹面をなす	口縁部:ヨコナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第51図 Y-485	37	S2E0	暗青灰色 砂礫層	底径 4.6	平底の小壺	外面:上半 磨滅して不明,下半 ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道4
甕	第51図 Y-486	36	N1E1	褐色 砂質土	口径 14.2	口縁部は「く」の字状に屈曲し,端部は拡張し内傾,浅い凹線3条	口縁部:ヨコナデ 頸部以下外面:磨滅 頸部以下内面:ヘラミガキとナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黒灰褐色	
甕	第51図 Y-487	36	トレンチ内	暗灰色 砂礫層	口径 11.2	口縁部は「く」の字状に屈曲し,端部は拡張し内傾,胴部にハケ目原体による斜行刺突文	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
甕	第51図 Y-488	36	S52年度 調査区		口径 16.0	口縁部は「く」の字状にゆるく屈曲,端部に凹線2条	口縁部:ヨコナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第51図 Y-489	36	S3E0	暗青灰色 砂層	口径 15.6	口縁部は「く」の字状にゆるく屈曲,端部は拡張し内傾,凹線3条	胴部外面:ナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河道4
甕	第51図 Y-490	36	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 11.8	口縁部は「く」の字状にゆるく屈曲,端部は拡張し内傾,凹線2条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	口縁外面にスス付着。河道4
甕	第51図 Y-491	36	N1E1	褐色 砂質土	口径 13.8	口縁部は「く」の字状に屈曲,端部は拡張し内傾,凹線3条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ナデか 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:密,小砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着
甕	第51図 Y-492	36	N1E2	赤褐色 砂質土	口径 16.2	口縁部は「く」の字状にゆるく屈曲,端部はやや拡張し内傾,凹線2条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第51図 Y-493	36	N3E1	赤褐色～青灰色 砂礫層	口径 19.8	口縁端部は拡張して内傾,凹線3条	口縁部:ヨコナデか 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河道2
甕	第51図 Y-494	36	トレンチ内	灰褐色 砂層	口径 26.0	「く」の字状にゆるく屈曲する口縁部片,端部は拡張し内傾,凹線4条	ヨコナデ,ハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:乳灰色	
甕	第51図 Y-495	37	N1E2	暗灰色 砂質土 (礫含)	口径 18.6	口縁部は「く」の字状にゆるく屈曲,端部は拡張し内傾,凹線2条,胴部に貝殻腹縁による斜行刺突文2段	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:上半 ハケ目,下半 ヘラミガキ 胴部内面:細い工具によるケズリが筋状に入る	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡～暗褐色	外面にスス付着
甕	第52図 Y-496	37	S3E0	暗灰褐色 砂層	口径 15.7	口縁端部は斜上方に拡張し内傾,凹線4条	口縁部:ヨコナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面にスス付着 河道4
甕	第52図 Y-497	37	N2E1	褐色 砂礫層	口径 21.5	口縁部は「く」の字状に屈曲,端部は上方に拡張してやや内傾気味,凹線2条	ヨコナデ,頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:淡黄灰色	
甕	第52図 Y-498	37	N1E1	褐色 砂質土	口径 17.6	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は拡張し内傾,凹線3条	口縁部:磨滅して不明 頸部以下外面:磨滅 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第52図 Y-499		I区 トレンチ	砂質土	口径 21.6	口縁部は「く」の字状に屈曲,端部は上下に拡張してやや内傾する。凹線2条	口縁部:ヨコナデ 内面:頸部以下ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第52図 Y-500	37	S3E0	暗灰色 砂層	口径 13.2	口縁部は「く」の字状に屈曲,端部は拡張し内傾,凹線3条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	河道4
甕	第52図 Y-501	37	S3E0	暗赤褐色 砂礫層	口径 28.2	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は拡張しやや内傾,凹線4条	口縁部:ヨコナデ 胴部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第52図 Y-502		N1E1	褐色 砂質土	口径 15.9	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は上下に拡張し内傾,凹線3条	口縁部:ヨコナデ 胴部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
甕	第52図 Y-503	37	トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 20.3	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は拡張し内傾,凹線4条	ヨコナデ,頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第52図 Y-504	37	S3W1	暗青灰色 砂層	口径 14.0	「く」の字状にゆるく屈曲する口縁部,端部は上方に拡張し内傾,凹線3条,胴部にはハケ目原体による押引状の斜行文	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目とナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
甕	第52図 Y-505		N4E1	暗灰色 粘質土	口径 20.2	口縁端部は上方に拡張しやや内傾,凹線3条	口縁部:ヨコナデ 頸部内面:以下ヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道3
甕	第52図 Y-506	37	S3W1	暗青灰色 砂礫層	口径 17.4	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は上下に拡張し内傾,凹線3条が施される	口縁部内面:ヘラミガキとナデ 頸部外面:くし描き沈線 頸部内面:ヘラケズリ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	外面にススト付着 河道4
甕	第52図 Y-507		N2E2	褐色 砂礫層	口径 25.4	「く」の字状に屈曲する口縁部,端部は上下に拡張し内傾,凹線3条が施される	ヨコナデ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第52図 Y-508		S3E0	暗青灰色 砂礫層 ～砂層	口径 17.0	「く」の字状口縁。端部は上下に拡張し直立,凹線が施される	ヨコナデ,ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第52図 Y-509	37	S3W1	暗青灰色 砂礫層	口径 26.8	口縁端部は上下に拡張しやや内傾,4条の凹線	ヨコナデ,ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河道4
甕	第52図 Y-510		N2E2	褐色 砂礫層	口径 19.8	口縁端部は上下に拡張し,凹線3条	ヨコナデ,ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	外面ススト付着
甕	第52図 Y-511		S3E0	暗青灰色 砂礫層 ～砂層	口径 16.0	口縁端部は上下に拡張し,外面にくし描き沈線が施され後ヨコナデ	ヨコナデ,ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道4
甕	第52図 Y-512	37	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 26.8	頸部～口縁部ゆるく屈曲,口縁端部は上下に拡張してやや内傾,外面に4条の擬凹線文	口縁部:ヨコナデ 頸部以下外面:ナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:2㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第52図 Y-513	38	S1E0	暗灰色 砂礫層	口径 13.8	口縁部は複合状を呈し,外面に凹線4条,胴部外面に斜行刺突文(貝か)	口縁部:ヨコナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗黄灰色	
甕	第52図 Y-514	38	S3E0	暗灰色 粘質土	口径 18.6	口縁部は複合状を呈し,外面に擬凹線3条	口縁部:ヨコナデ 内面:頸部以下ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にススト付着 河道4
甕	第52図 Y-515	38	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 15.4	口縁部は複合状を呈し,外面に擬凹線4条	口縁部:ヨコナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第52図 Y-516	38	N2E1	褐色 砂礫層	口径 18.4	口縁部は複合状を呈し,外面に擬凹線文	口縁部:ヨコナデ 内面:頸部以下ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第52図 Y-517	38	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 17.2	口縁部は複合状を呈し,外面に凹線5条	頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰色	河道4
甕	第52図 Y-518	38	N1E0	褐色 砂質土	口径 15.4	口縁部は複合状を呈し,外面に擬凹線4条	頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第52図 Y-519	38	N2E1	褐色 砂礫層	口径 18.0	口縁部は複合状を呈し,外面に擬凹線6条	口縁部:ヨコナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
甕	第52図 Y-520	38	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 14.8	口縁部は複合状を呈し,外面に擬凹線5条	口縁部:ヨコナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	外面にススト付着 河道4
甕	第53図 Y-521		N1E1	褐色 砂質土	口径 20.5	複合口縁部は短く外傾し,外面に擬凹線4条	口縁部:ヨコナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	外面にススト付着
甕	第53図 Y-522		N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 17.4	複合口縁部は短く直立し,外面に擬凹線文	口縁部:ヨコナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道2
甕	第53図 Y-523	38	N0E1	褐色 砂質土	口径 17.1	複合口縁部は直立し,擬凹線5条,胴部外面には棒状工具による斜行刺突文	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にススト付着
甕	第53図 Y-524		N2E2	褐色 砂礫層	口径 12.2	複合口縁部は短く直立し,外面に擬凹線文	口縁部:ヨコナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第53図 Y-525	38	I区 トレンチ	青灰色 砂礫層	口径 12.8	複合口縁部はやや外反し,外面にくし描き沈線施文後ヨコナデ	口縁部内面:ヘラミガキとナデ 胴部外面:ハケ目 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第53図 Y-526		S2E0	暗青灰色 砂層	口径 14.0	複合口縁部は短く直立し,外面に擬凹線文	ヨコナデ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰色	河道4
甕	第53図 Y-527		I区 トレンチ	暗青灰色 砂礫層	口径 17.4	複合口縁部は直立し,外面に擬凹線5条	口縁部:ヨコナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	外面にススが付着
甕	第53図 Y-528	38	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 18.6	複合口縁。外面には擬凹線文6条,胴部外面ハケ目原体による斜行刺突文	口縁部:ヨコナデか 胴部外面:ナデ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第53図 Y-529		N1E1	褐色 砂質土	口径 17.8	複合口縁部はやや外傾し,外面に擬凹線6条	口縁部:ヨコナデか 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第53図 Y-530		N2E2	褐色 砂礫層	口径 19.6	複合口縁部は直立気味で,外面に擬凹線	口縁部:ヨコナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
甕	第53図 Y-531	38	N2E1	暗灰色 粘質土	口径 18.2	複合口縁部は外傾し,外面にくし描き沈線	口縁部:ヨコナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第53図 Y-532		N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 20.0	複合口縁部は外反し,外面に擬凹線文7条	口縁部:ヨコナデ一部ヘラケズリ 内面:頸部以下ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第53図 Y-533	38	S6W1	青灰色 砂礫層	口径 17.8	複合口縁部はやや外反し,外面に擬凹線文	口縁部:ヨコナデ 頸部以下外面:ハケ目 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	外面に炭化物厚く付着
甕	第53図 Y-534		N0E1	褐色 砂質土	口径 18.5	複合口縁部はやや外傾し,外面に擬凹線文	口縁部:ヨコナデ 内面:頸部以下ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面にススが付着
甕	第53図 Y-535	38	トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 19.6	複合口縁部は直立気味,外面にヘラ描き沈線9条	口縁部内面:ヘラミガキ 内面のヘラケズリは屈曲部より下に下がる	胎土:密,微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄灰色	
甕	第53図 Y-536	38	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 16.4	複合口縁部はやや外傾し,外面にヘラ描き沈線12条,肩部にヘラ描き沈線3条と斜行刺突文(貝か)	口縁部:ヘラミガキ 頸部内面:ヘラミガキ ヘラケズリは屈曲部より下に下がる	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰色	
甕	第53図 Y-537		トレンチ内	暗灰色 砂質土 ～砂礫層	口径 19.4	複合口縁部は直立気味で,外面に8条の擬凹線文	頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
甕	第53図 Y-538	38	I区 トレンチ	暗青灰色 砂質土	口径 26.3	複合口縁部はやや外反し,外面に擬凹線6条,胴部外面にはハケ目原体による押引状の斜行文	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	口縁外面にスス付着
甕	第53図 Y-539	38	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 18.2	複合口縁部は外傾し,外面に擬凹線文,胴部外面には貝殻腹縁による斜行刺突文	口縁部:ヨコナデ一部ヘラミガキ 胴部外面:ハケ目後ナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着 河道4
甕	第53図 Y-540		N2E1	暗灰色 粘質土	口径 19.0	複合口縁部は外傾し,外面に擬凹線文	口縁部:ヨコナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にススが付着
甕	第53図 Y-541	38	N1E1	褐色 砂礫層	口径 20.0	複合口縁部は外反し,外面に9条以上の擬凹線文	口縁部:ヨコナデ 内面:頸部以下ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:淡褐色	外面にススが付着
甕	第54図 Y-542	39	I区 トレンチ	青灰色 砂質土	口径 13.8	複合口縁部は外反し,外面にくし描き沈線,頸部外面にも沈線	口縁部:ヨコナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第54図 Y-543	39	N2E1	褐色 砂礫層	口径 19.4	複合口縁部は長く外反し,外面に平行沈線	口縁部:ヨコナデ 頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:密,1㎜大の砂粒少量を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	外面にススが付着
甕	第54図 Y-544	39	N2E2	褐色 砂礫層	口径 20.3	複合口縁部は外反して長く,外面には擬凹線文	頸部以下内面:ヘラケズリ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第54図 Y-545	39	I区 トレンチ	暗青灰色 砂礫層	口径 21.6	複合口縁部は外反し,外面に貝殻腹縁による平行沈線,胴部外面にも貝殻腹縁による押引状の斜行文	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目後ナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	外面にススが付着

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第54図 Y-546	39	S2E0	暗青灰色 砂層	口径 13.8	複合口縁部は外反し，肩部はなだらか 貝殻腹縁による羽状の刺突文	口縁部内外面:ヨコナデ 肩部以下内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰色	外面にスス付着。河道4
甕	第54図 Y-547	39	N0E3	黒灰色 砂質土	口径 12.8	複合口縁部は外傾し，端部は丸い。突出部の稜は鋭い	口縁部:ヨコナデ 体部外面:細かいハケ目(タテ) 体部内面:ていねいなヘラケズリ	胎土:白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	一部黒変
鉢	第54図 Y-548	39	N2E2	褐色 砂質土	口径 11.2	口縁端部は肥厚して内傾，径2㎜の円孔，胴部は甕をおしつぶしたような形態	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ナデ 胴部内面:上半 指頭圧痕，下半 ヘラケズリ	胎土:1㎜大の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
高坏	第54図 Y-549	39	N2E2	褐色 砂礫層	口径 24.0	坏部は複合口縁状を呈し，外面に多条の平行線文が施される。頸部はよくしまる	坏部内面:ヘラミガキ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
高坏脚部	第54図 Y-550	39	N2E2	褐色 砂礫層	底径 16.2	脚端部は複合状を呈し，平行沈線4条が施される	内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
高坏脚部	第54図 Y-551	39		褐色 砂礫層	底径 12.8	複合状を呈する脚端部片，外面に擬凹線文	内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
器台	第54図 Y-552	39	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 18.4	脚台部片，長い複合状を呈す。外面に多条のくし描き沈線を施し，一部ナデ消し	内面:ヘラケズリ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
器台	第54図 Y-553	39	N1E0	暗青灰色 砂礫層	底径 14.0	脚台部片，複合状を呈し，無文	外面:磨滅により調整不明 内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
蓋形土器?	第54図 Y-554	39	S2W1	暗青灰色 砂礫層	口径 6.3	複合状，円孔(2個)，内部は直径6㎜の中空	複合部:ヨコナデ 上半 内面:ヘラケズリ 後ナデ 下半 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黄褐色	河道4
底部	第54図 Y-555	39		褐色 砂礫層	底径 6.2	平底，胴部にむかって大きく開く	外面:ハケ目とナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
底部	第54図 Y-556	39	トレンチ内	暗青灰色 砂層	底径 3.6	上げ底気味の小さな平底	外面:ナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
底部	第54図 Y-557	39	S2E0	暗青灰色 砂層	底径 4.0	平底，胴部にむかって大きく開く	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
底部	第54図 Y-558	39	N0E0	暗灰色 粘土 (砂礫混)	底径 5.3	上げ底気味の平底，胴部にむかって大きく開く	外面:ハケ目後ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	

3．土　　師　　器

土師器は90年，91年あわせてコンテナ約20箱分が出土したが，小片が多く，全形のわかるものは少なかった。310点について実測を行い，うち274点を図示した。古墳時代初頭から前期に属すると考えられるものは90年の遺物包含層，91年Ⅰ区の遺物包含層，河道４から主に出土しており，河道２や上層の粘質土にも含まれていた。また古墳時代中期以降奈良時代頃までに属すると考えられるものは，大半が河道２からの出土品であった。

(1)　古墳時代初頭から前期の土器（第55～65図　H-1～199）

壺，小形丸底壺，直口壺，甕，注口土器，高坏，鼓形器台，低脚坏，甑形土器など多くの器種が見られる。この時期の壺甕類のうち，いわゆる山陰型と言われるものは複合口縁の土器である。今回出土量の多かった甕の複合口縁部の形状からその特徴を分類してみると４類に分けられる。

Ⅰ類は口縁部が外反しヨコナデ仕上げ，端部を薄く引き出したものと丸みをもつものがある。屈曲部は引き出され，肩部はなだらかである。

Ⅱ類は口縁部が外反して長く伸び，強いヨコナデが施され，端部を薄く引き出したものである。屈曲部は鋭く突出し，肩部は張り気味である。小さな平底もしくは平底気味の丸底をもつ。

Ⅲ類は口縁部が外反，又は外傾してやや短いもので，端部にわずかに平坦面をもつものである。屈曲部は鋭く突出し，肩部が張る。

Ⅳ類としたものは外傾，又は直立気味でやや短い口縁部をもつものである。端部ははっきりした平坦面をもっており，内外に肥厚するものもある。屈曲部は強く引き出されるが，丸みをおびて鈍い稜をもつものが多い。

Ⅰ類・Ⅱ類は庄内式併行期の土器と考えられ，弥生土器とすべきものかもしれない。Ⅳ類が布留式併行期の小谷式にあたるもの，Ⅲ類はその中間的な特徴をもつものと考えられる。

壺（H-1～23）

H-1は上記Ⅱ類の特徴をもつもので，屈曲部が鋭く突出している。頸部にはハケ目原体による有軸の羽状文が施され，肩部には横方向のハケ目が入る。

H-2は口縁部が外反し，突出部の引き出されるⅠ類の特徴をもつものである。

H-3はⅡ類の特徴を有し，外面ハケ目，内面ヘラケズリが施されている。

H-4は口縁部を欠くが，複合口縁になると思われるものである。なで肩でうす作りの胴部をもっている。

H-5～7はⅢ類の特徴をもつもので，H-5の頸部には，ハケ目原体による有軸の羽状文が施されている。

H-8・10・12はⅣ類の特徴をもつものである。

H-9はやや厚手の土器ではあるが，Ⅲ類に含まれるものであろうか。

H-13は複合口縁部が，急傾斜をもって外反する土器である。

H-14は複合口縁をもつ小形丸底壺である。胴上部にハケ目原体による斜行刺突文が施される。H-15・16も同様のものであろうか。

H-17は口縁部が短く外反する半球状の鉢である。内外面とも細かいハケ目が施されており，内面底部付近には漆が厚く付着している。

H-18・19は短く外傾する口縁をもつ小形丸底壺である。

H-20は複合口縁の直口壺，H-21は単純口縁の直口壺である。

H-22は瓶形の胴部をもつものである。外面はナデ，内面頸部以下はヘラケズリが行われている。

H-23は，ほとんど無頸で，胴部の張り出すものである。把手がついていたと考えられる痕跡を残す。

注口土器（H-24～26）

H-24は複合口縁Ⅲ類の特徴をもつが，肩部はなで肩になり，胴部上半に注口を差し込んで付けるものである。肩から胴部にはくし描き直線文が3帯と，貝殻腹縁による斜行刺突文が施される。器面の調整は口頸部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ヘラケズリを施し，ごく薄手に作られている。

H-25は注口部分の破片で，ていねいなヘラミガキが施される。

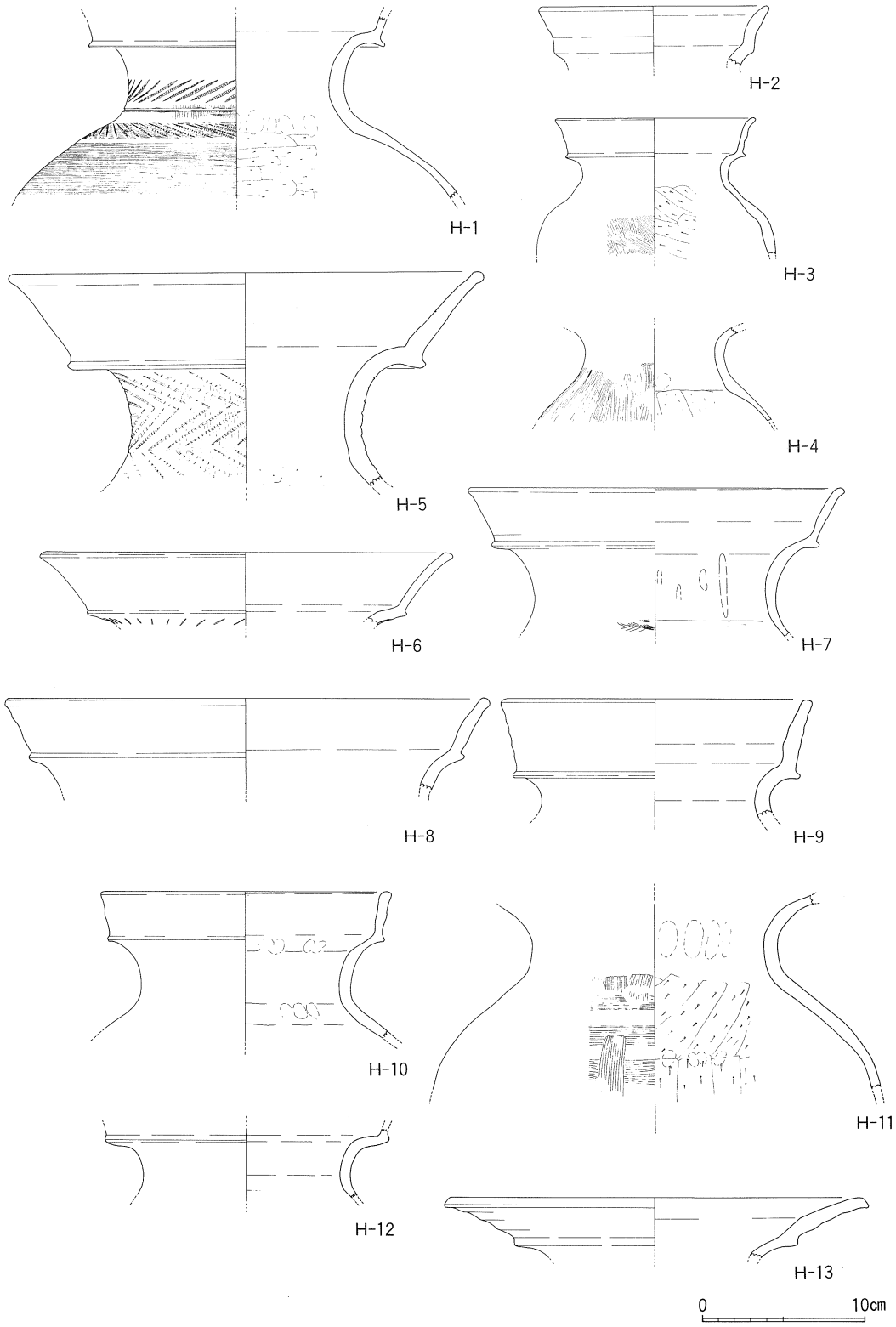
H-26は注口取り付け部分の胴部片である。外面は摩滅のため調整不明，内面はヘラケズリが施され，薄手に作られる。

甕（H-27～124）

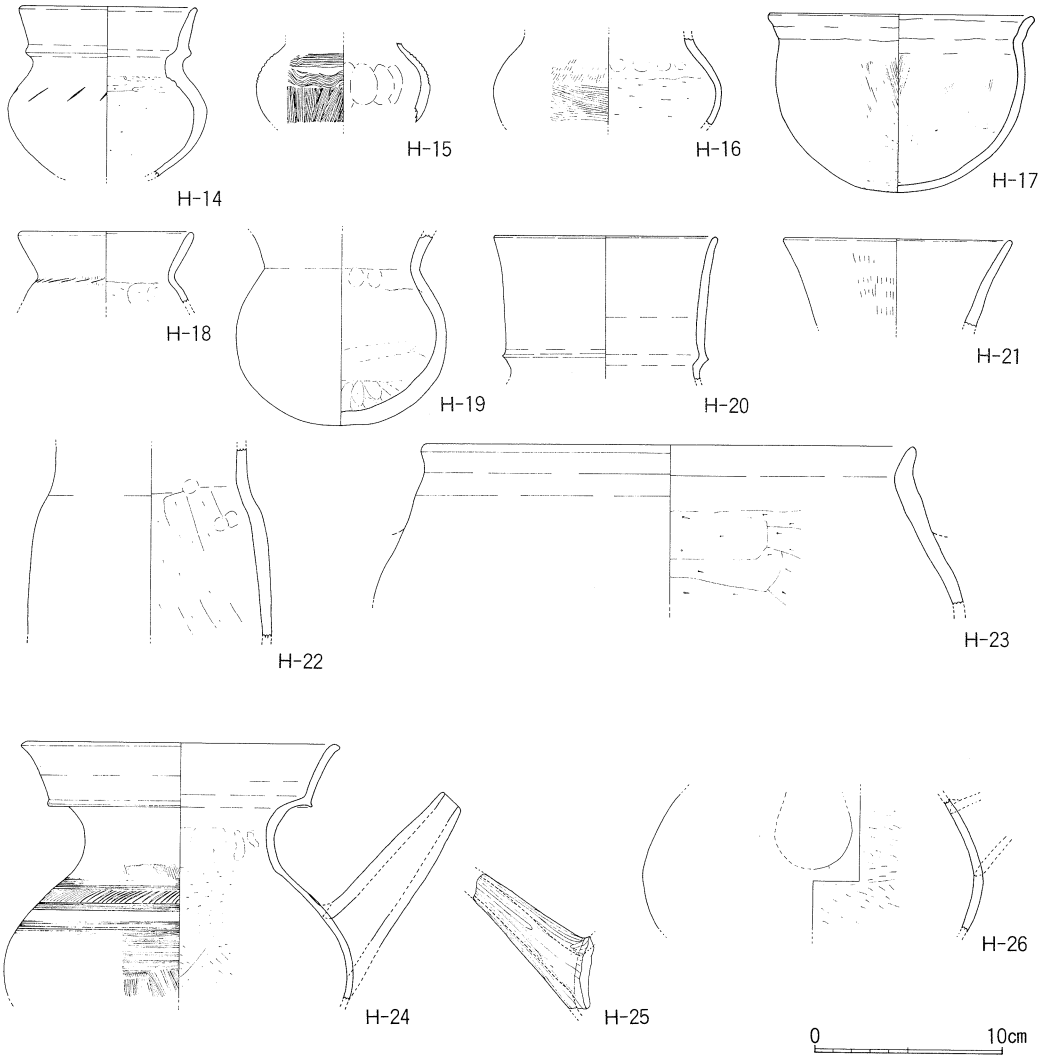
前述の類別に従って掲載した土器を見ていく。

Ⅰ類の特徴をもつものはH-27～30である。H-28・30は内面のヘラケズリ位置が頸屈曲部内面からであり，弥生後期からの手法を色濃く残すものと言える。また，H-29は肩部にくし描き直線文と波状文が，H-30は斜行刺突文が施されている。

H-31～71はⅡ類の特徴をもつものである。肩部に施文されるものが多く，貝殻腹縁による斜行刺突文とくし描き直線文（H-31・32・56），ハケ目原体による斜行刺突文とくし描き直線文（H-43・58），ヘラによる斜行文（H-61），くし描き直線文や波状文（H-33・34・36・37・44～46・47・49



第55図　SK-03出土遺物実測図(2)



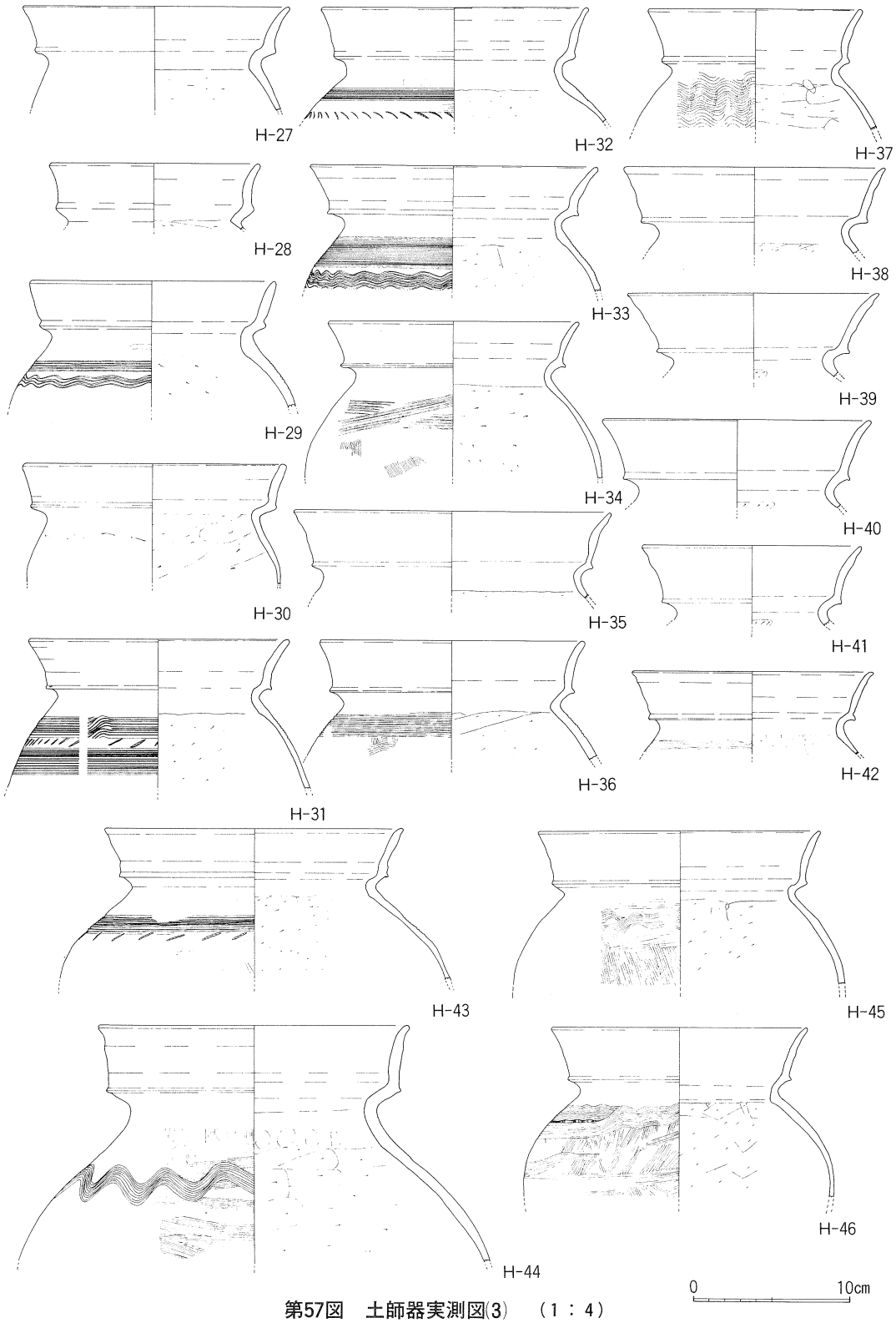
第56図　土師器実測図(2)　（1：4）

・51～53）等が見られる。

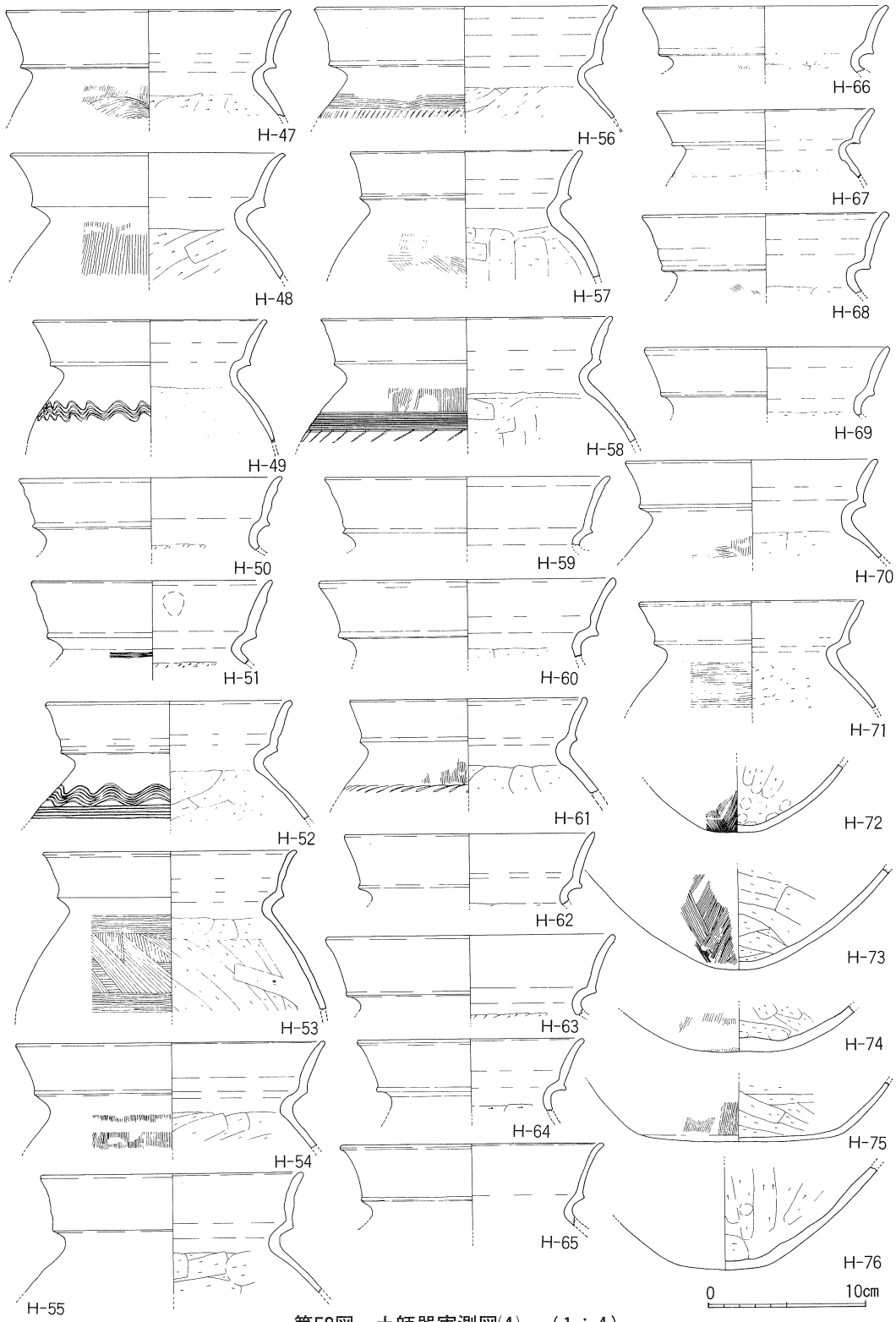
H-73～76はⅠ類・Ⅱ類の底部と考えられるものである。小さな平底もしくは平底気味の小さな丸底をもつが，H-75のように大きな平底をもつものも見られる。外面にはハケ目，内面にはヘラケズリと指頭圧痕が見られ，薄手に仕上げられている。

Ⅲ類の特徴をもつものはH-77～95である。肩部に施される文様には，ヘラによる斜行刺突文（H-85），くし描き直線文（H-86・87），くし描き波状文（H-79・90・93）等があるが，貝によって施文されるものは見られない。

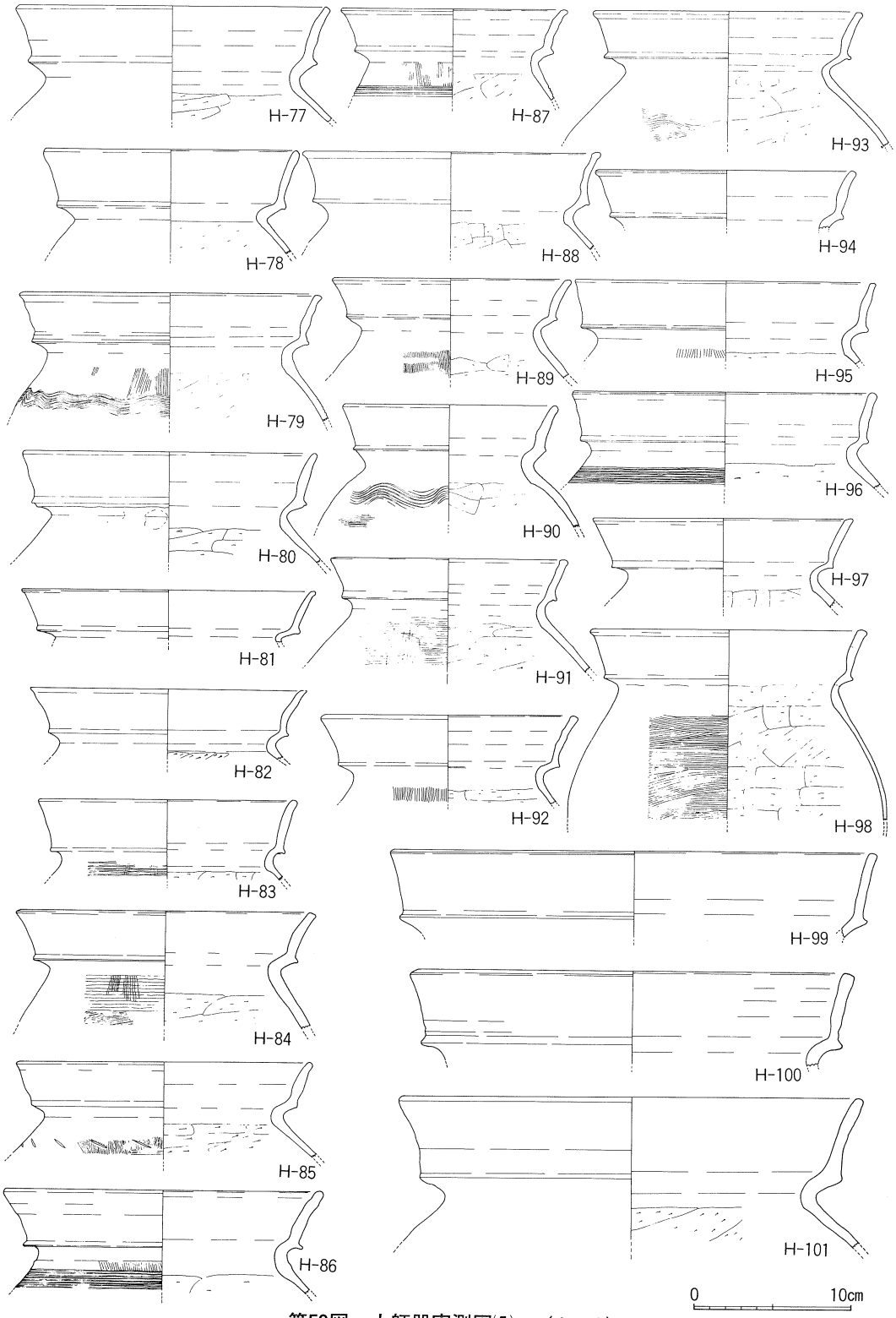
Ⅳ類の特徴をもつものとしてはH-96～123がある。布留式の影響によると言われる口縁端部を内側に肥厚させるものは，H-116～118・123がある。肩部に施される文様には，くし状工具による斜



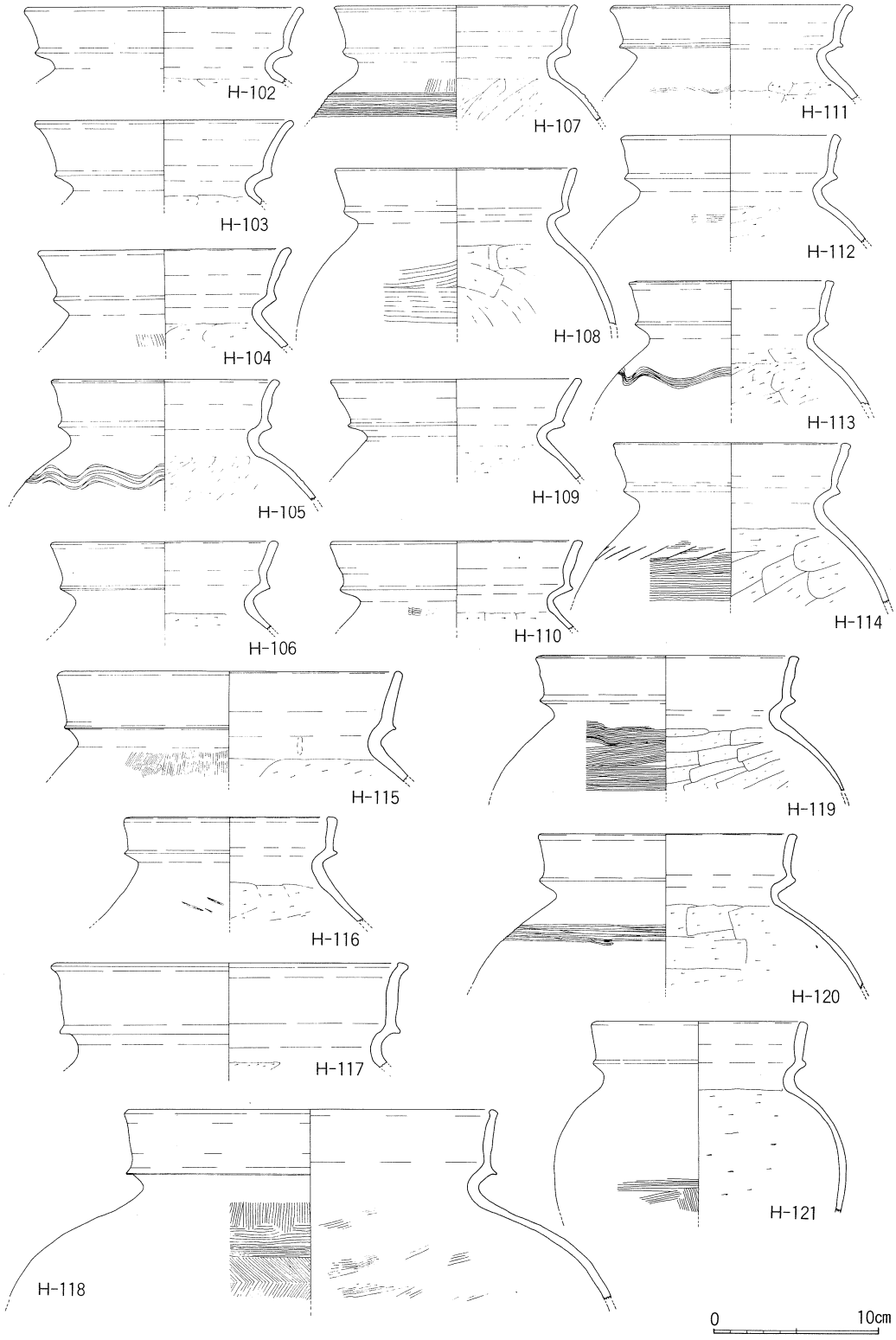
第57図　土師器実測図(3)　（1：4）



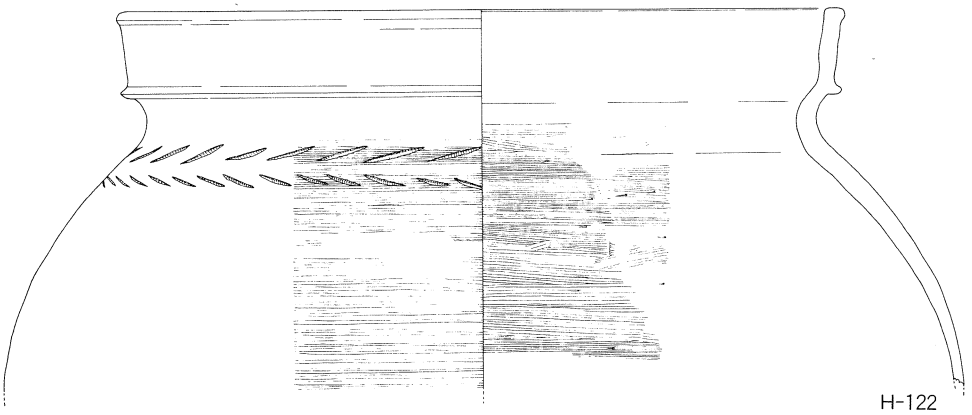
第58図　土師器実測図(4)　（1：4）

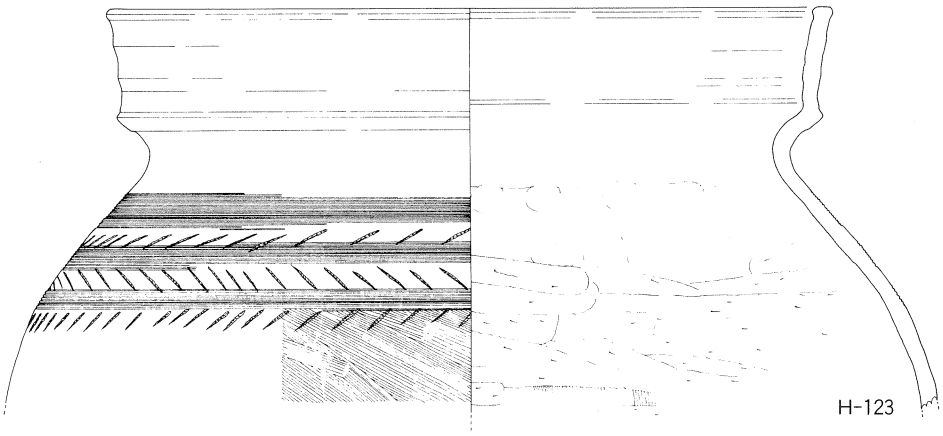


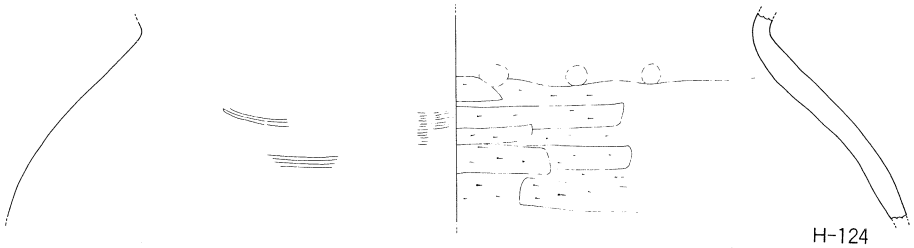
第59図　土師器実測図(5)　（1：4）

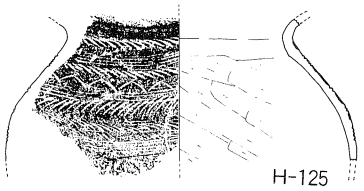


第60図　土師器実測図(6)　（1：4）



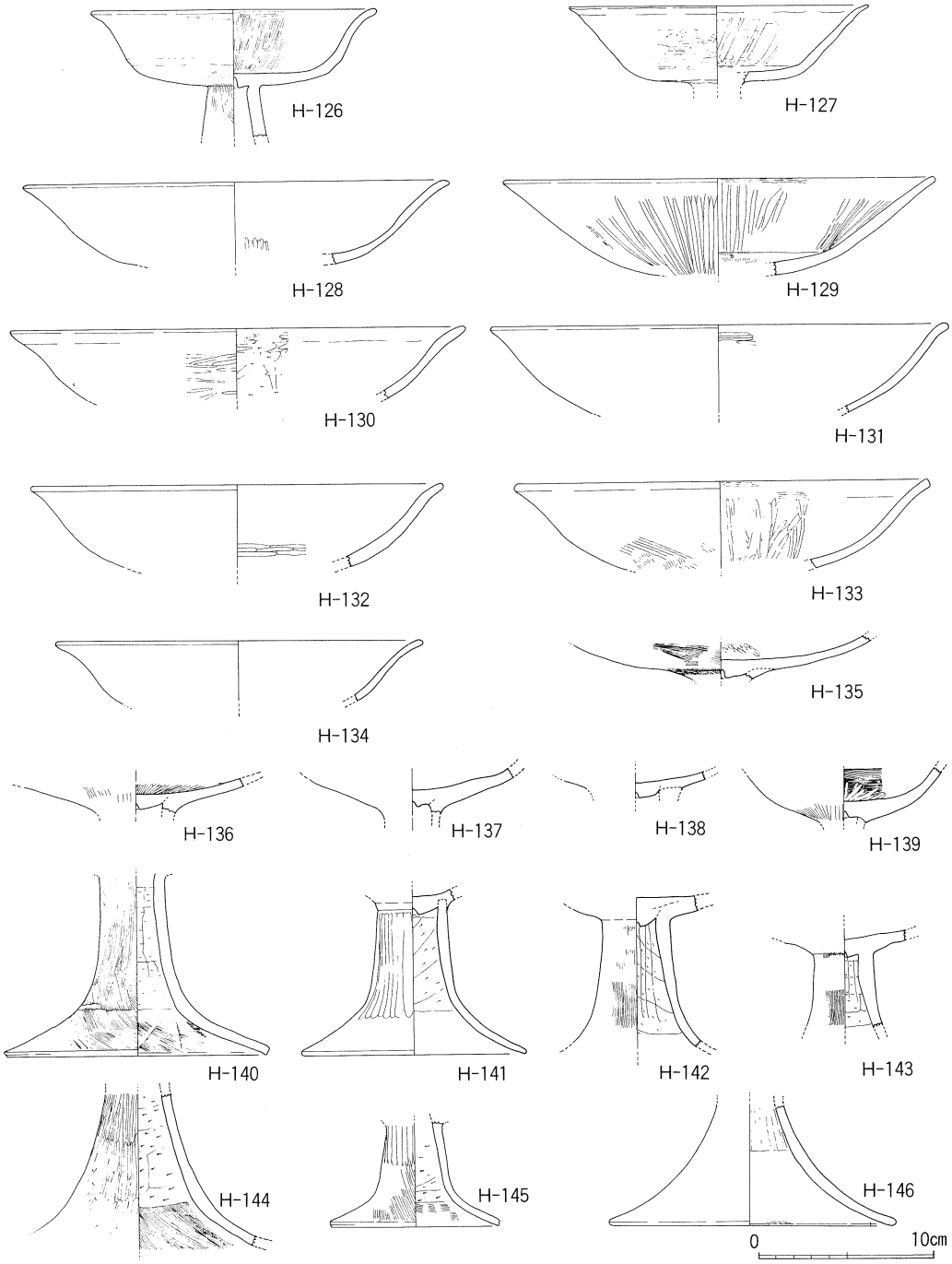






0 10cm

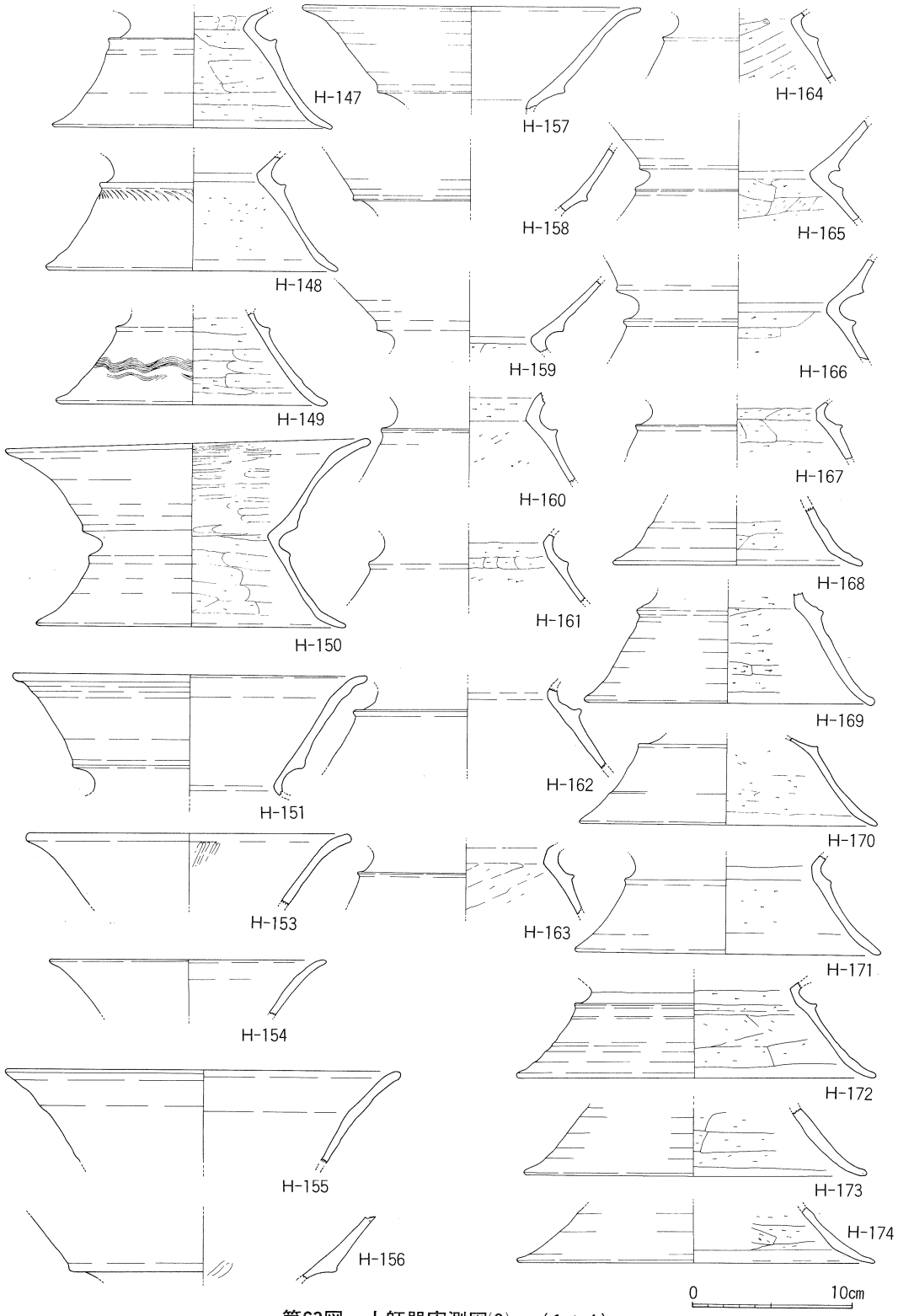
第61図　土師器実測図(7)　（1：4）



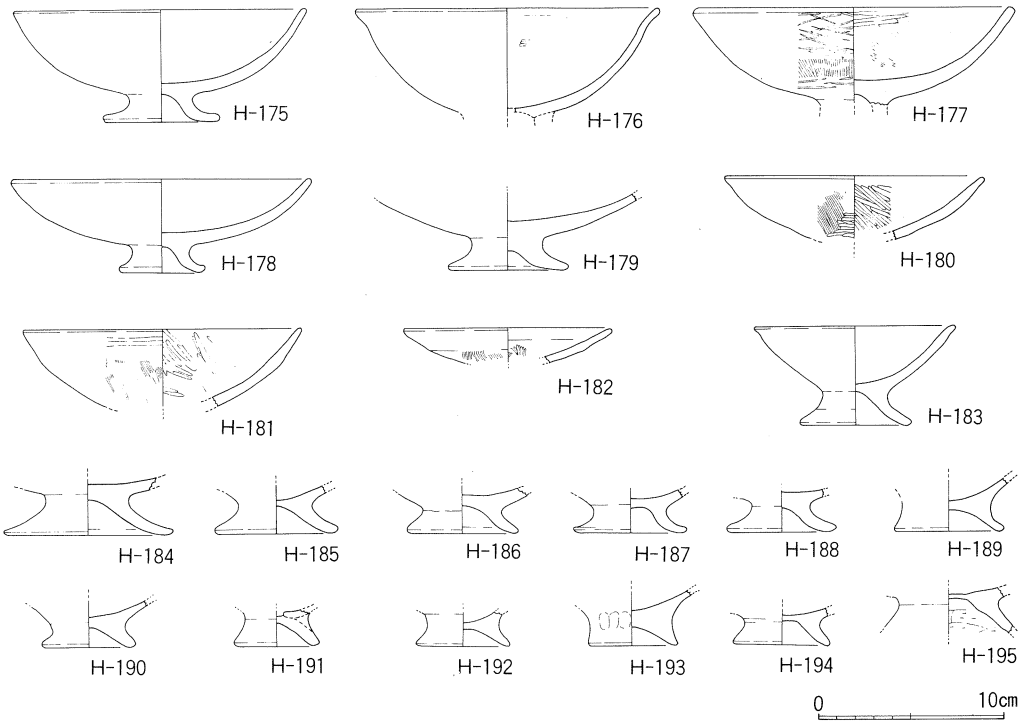
第62図　土師器実測図(8)　（1：4）

行刺突文（H-114），くし描き波状文（H-111・113），くし描き直線文（H-120）等が見られるが，大形品を除いて，施文される割合は低くなるようである。

H-122・123は口径38cmをこえる大形品である。H-122は肩部にハケ目原体による羽状の施突文を



第63図　土師器実測図(9)　（1：4）



第64図　土師器実測図(10)　（1：4）

施文される。器面の調整は口縁部ヨコナデ，胴部外面ヨコハケ，内面ヘラケズリの後ヨコハケにより行われる。H-123は肩部にハケ目原体による羽状文と直線文が施されている。器面調整は口頸部ヨコナデ，胴部外面ハケ目，内面上半ナデ，下半ハケ目の後ヘラケズリにより行われる。

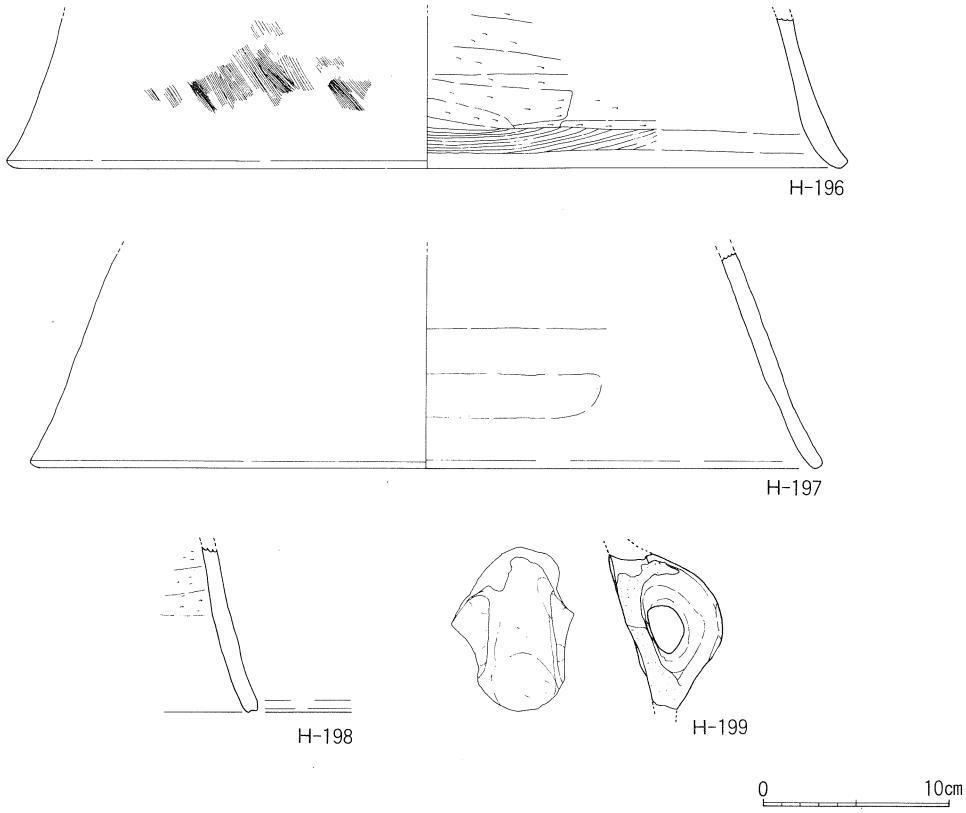
H-125は口縁部を欠くもので，全体の器形は判らないが，肩部から胴部にかけて斜行刺突文，くし描き直線文，山形文等が交互に施されている。鍵尾A－5号墓[註1]出土の直口台付壺の文様に酷似しており，弥生土器の可能性も考えられる。

高坏（H-126～146）

全形のわかるものは一点も見られず坏部片，脚部片がほとんどであるが，それぞれの特徴をつなぎ合わせて全形を想像する。坏部は丸みを帯びた体部から，ゆるやかに外反して口縁端部に達し，脚部は円筒状の筒部から，やはりゆるやかに広がって端部に至るものであろう。内部には円盤が充塡され，中央に刺突痕をもつ，といった形状になる。

鼓形器台（H-147～174）

H-150が，全形のわかる唯一のものである。器受部径23.1cm，脚台部径19.6cm，器高11.5cmを測



第65図　土師器実測図(11)　（1：4）

る。筒部は著しく縮約が進み，受部径に比して器高の低いものとなっている。小谷式併行のものと考えられる。

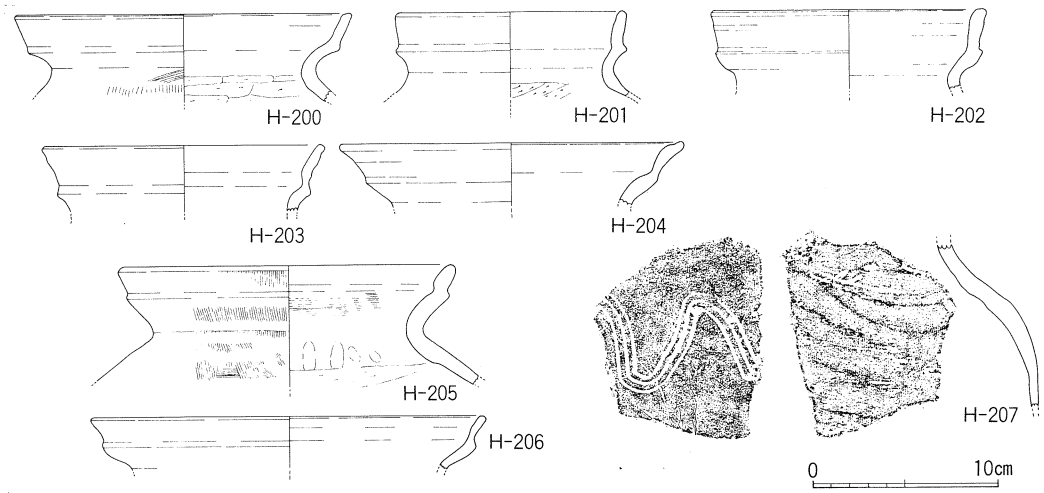
他の個体もおおむね似た形状をもつが，特徴的なものも何点かは見られる。

H-148は脚台部外面の上部に斜行刺突文，H-149は脚台部外面中程にくし描き波状文が施される。後者の類例として，出雲山持川川岸遺跡[註2]出土のものが上げられる。またH-147は脚台上端の突出部が鋭く出るもので，底径に対する脚台高の高さを見るとH-150よりはずっと高く，筒部の径も小さい。これらH-147～149の土器はH-150よりもやや古い要素を持つと言えるかもしれない。

低脚坏（H-175～195）

全形のわかるものはH-175・178・183である。

H-175・177～180は口径の大きさ，坏部の深さ等の違いはあるが，ごく一般的に見られるものである。H-176は坏部が深く口縁端部が外反するもの，H-181・182は外面にかすかな稜を持つもの，H-182は口径が小さく浅い坏部のもの，H-183は口径が小さく坏部の深いものである。



第66図　土師器実測図(12)　（1：4）

H-184～195は脚部片である。H-184のように大きく開くもの，H-189・191のように小さく開くもの，H-193のように直立気味となるものなどさまざまある。H-194・195は坏底部が薄く作られている。

これらの低脚坏の器面調整は大半のものが坏部内外面にハケ目とヘラミガキ，脚部内外面にヨコナデを施すが，H-195のみは，脚部内面にヘラケズリを施され，異色のものとなっている。同様の手法を用いるものは，夫敷遺跡第Ⅳ調査区下層の遺物中[註3]に見ることができる。

甑形土器（H-196～199）

甑形土器については，近年の発掘成果である勝負遺跡SI－14[註4]の例もあり，「垂下して使用する土器」との考え方[註5]に従って実測を行った。

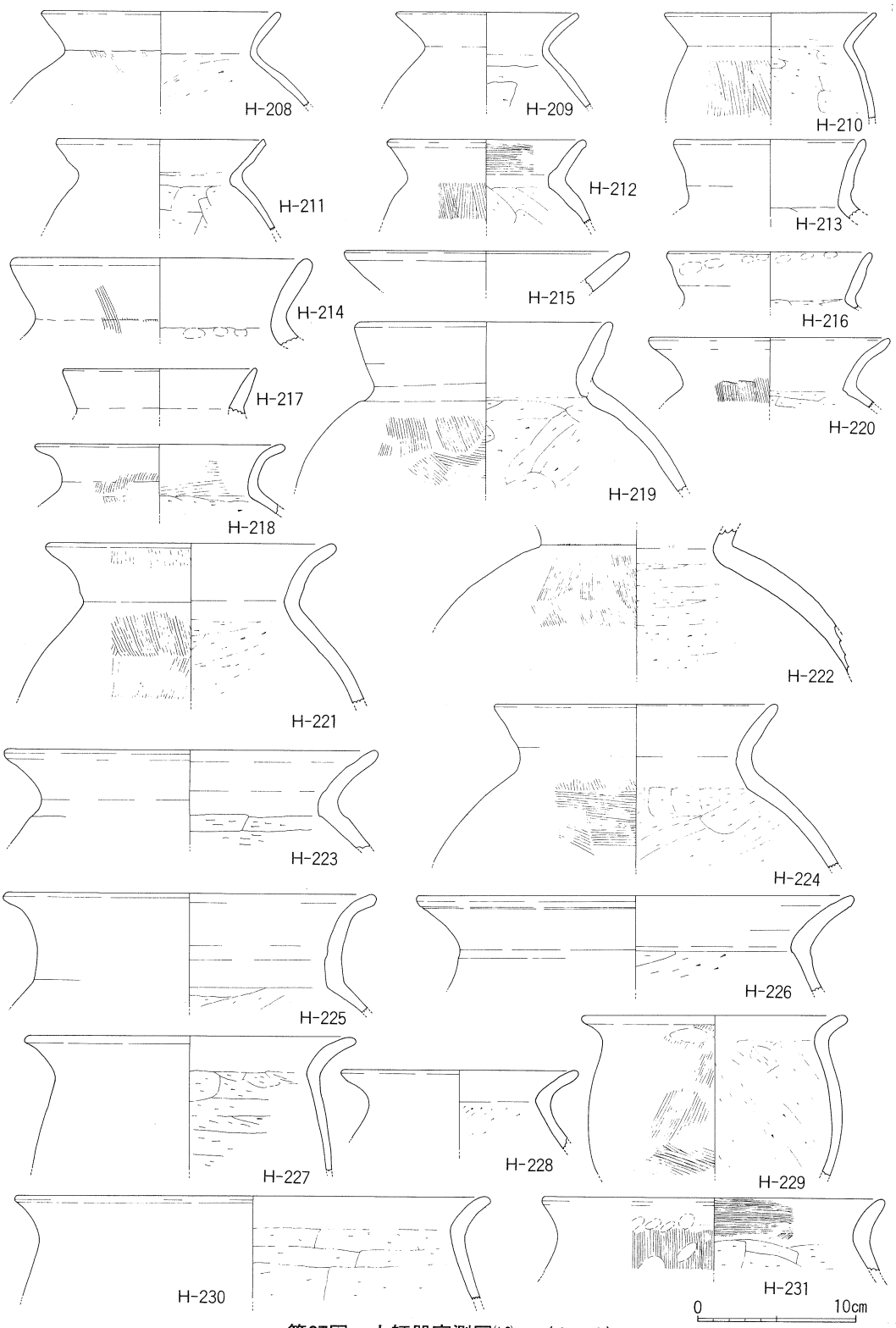
H-196・197はいずれも裾部径40cmをこえる大形品で，ゆるやかに開く裾部付近の破片である。外面にはハケ目とナデ，内面にはヘラケズリ，端部にはヨコナデを施している。H-198も同様のものであろうか。H-199は，縦に付く把手で，差し込んで付けられる。

(2)　古墳時代中期～奈良時代の土器（第66～70図　H-200～274）

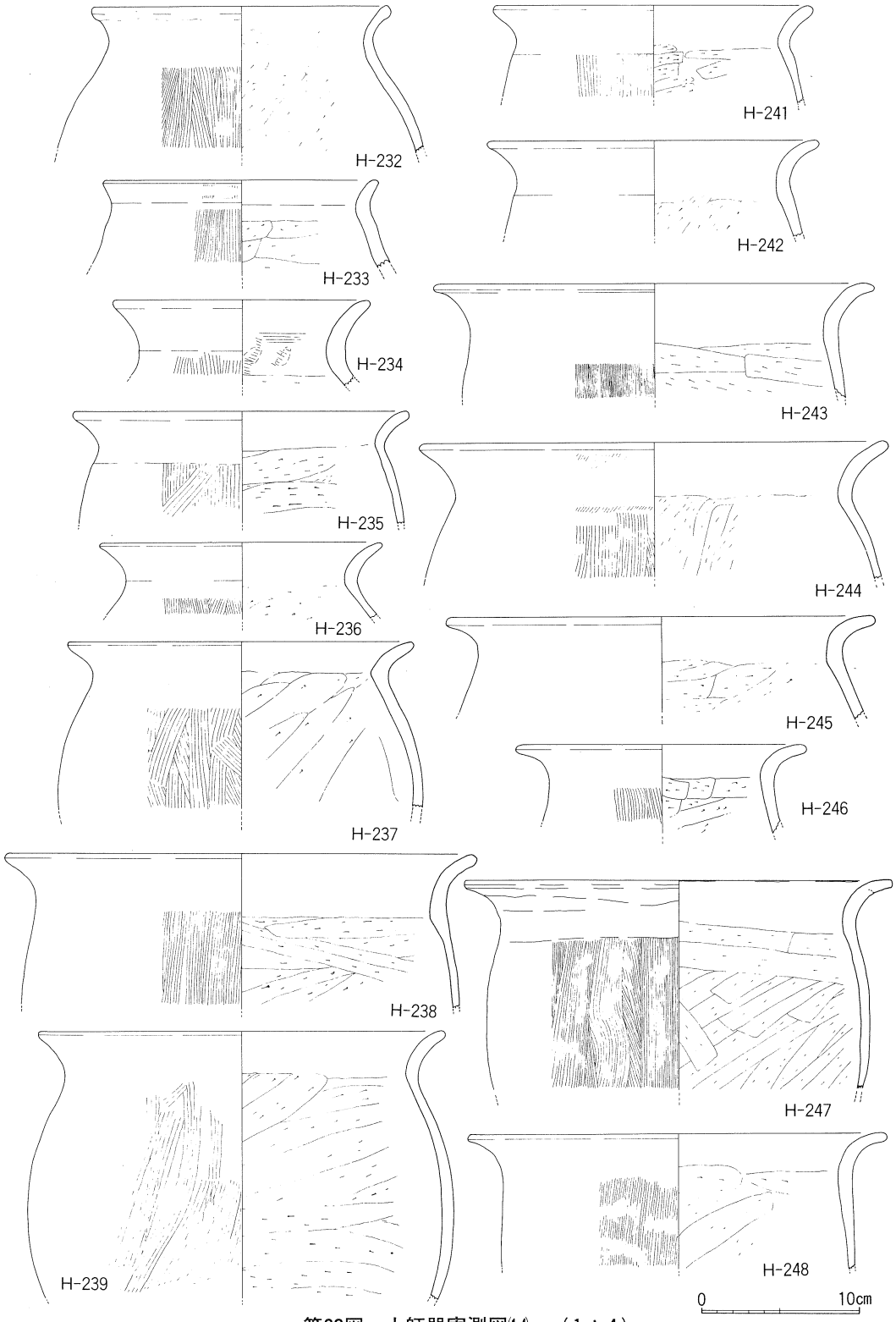
壺，甕，高坏，坏，甑，竈等の器種がある。壺と甕の区別は難しい。

退化した複合口縁をもつ壺・甕（H-200～207）

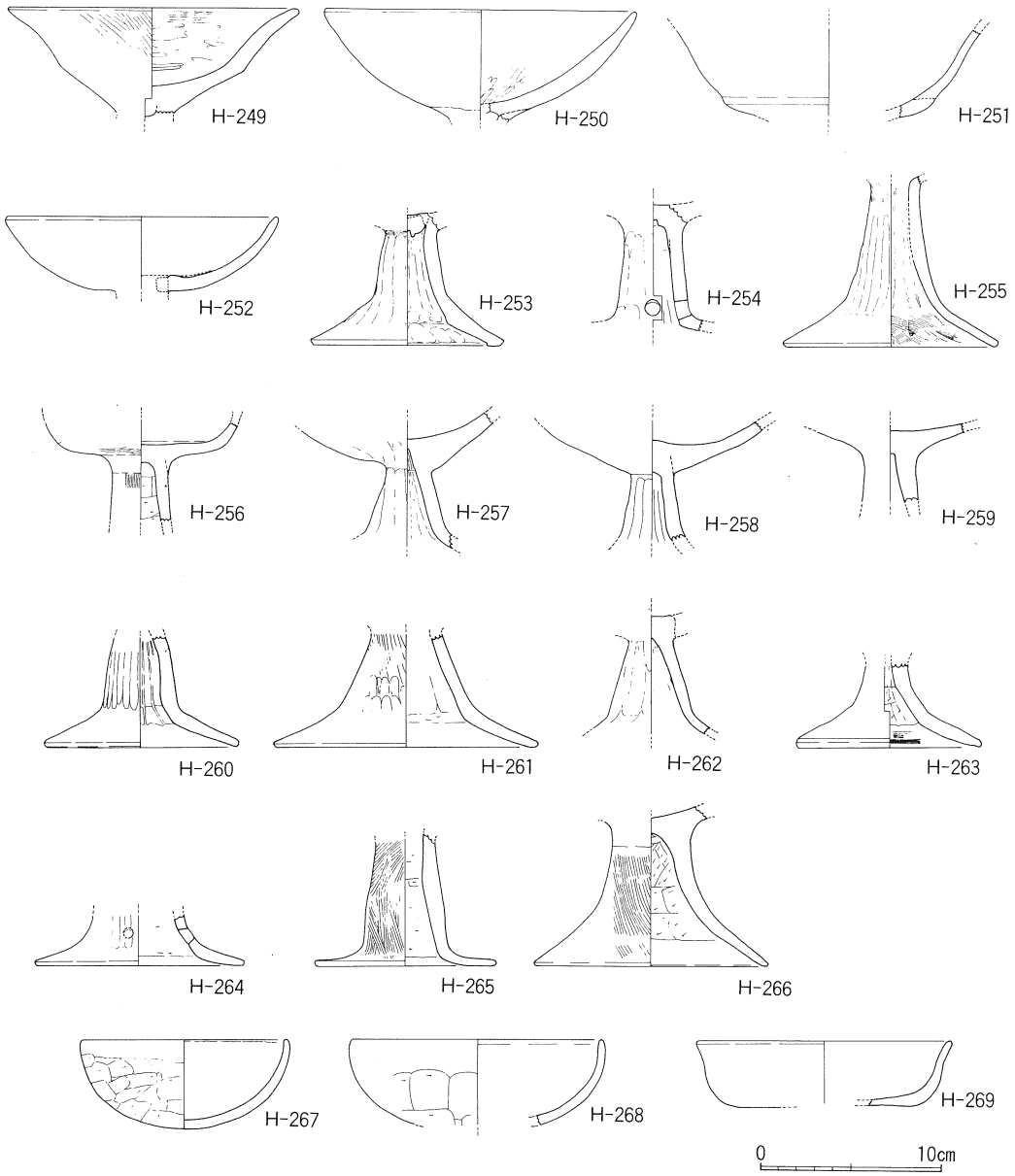
複合口縁部は短く外傾し，突出部はだれて下ぶくらみするものも見られる。従来の，いわゆる大東式にあたるもので，大角山遺跡[註6]・夫敷遺跡第Ⅳ調査区中層[註7]などで見られるものである。



第67図　土師器実測図(13)　（1：4）

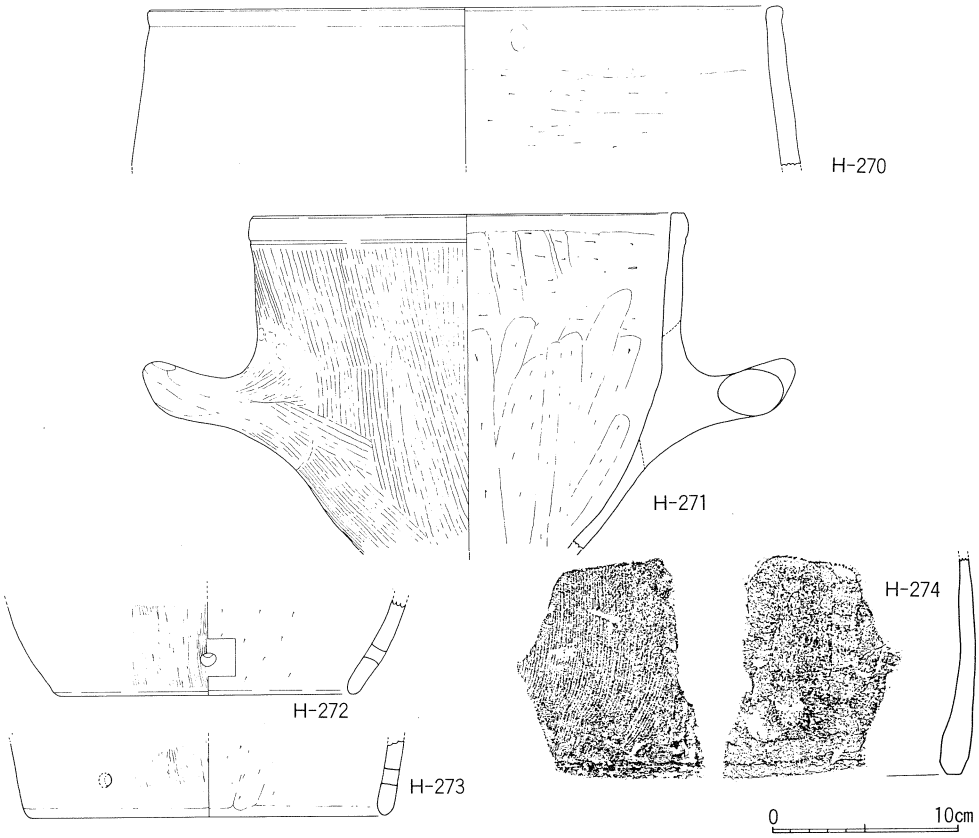


第68図　土師器実測図(14)　（1：4）



第69図　土師器実測図(15)　（1：4）

H-207は胴部に荒いくし状工具を使用した波状文が施されるもので，口縁部は失われている。外面はナデ，内面はヘラケズリを施すが，そのヘラケズリは非常に凹凸の激しいものである。ヘラケズリの荒さ，器壁の厚み，肩の張り具合等から見ると大東式併行あたりのものではないかと思われる。



第70図　土師器実測図(16)　（1：4）

単純口縁をもつ壺・甕（H-208～248）

口縁部の形状から4種に分類した。

Ⅰ類（H-208～212・223）は「く」の字状に屈曲する口頸部をもち，胴部が張り出すものである。口縁外面にかすかな稜を持つものと持たないものがある。

Ⅱ類（H-213～217・219・224）は口縁部が外傾して伸びるもので，外面に不明瞭な稜線を持つものが多い。内面ヘラケズリは屈曲部よりも下がった位置から行われる。

Ⅲ類（H-218・220・221・225）は口頸部が外反して伸び，端部近くでさらに強く反るものである。胴部は強く張り出している。

Ⅳ類（H-226・227・229～231・234～248）は口頸部が緩く外反し，胴部の張り出しが口縁以上にならないもの又はやや張り出す程度に止まるものである。屈曲部内面からヘラケズリされ，明瞭な稜線をもつ。

Ⅰ～Ⅳの分類に入らないものにH-232・233がある。短頸の壺形とでもいうべきもので，なで肩，胴張りの形状を呈す。

Ⅰ～Ⅲ類は大角山遺跡・夫敷遺跡中層～上層等で見られるものであり，古墳時代中期頃の土器と考えられる。Ⅳ類は古墳時代後期以降のものであろう。

高坏（H-249～266）

H-249は坏底部が内湾し，口縁部との境から外反するため，外面に稜を持つものである。内部には肥厚した粘土が充塡されるが，刺突痕は見られない。

H-250・252は，坏部がゆるやかに内湾しつつそのまま口縁端部に至るものである。H-250は底外面の形状からすると，低脚坏の可能性もあるが器壁の厚さから高坏と考えた。

H-251は底体部界に段をもつものである。

H-253～255は脚部である。内部に刺突痕をもつ肥厚した粘土を充塡するもので，その痕跡が見えないものであっても，充塡するであろうと考えられるものを含めた。内面には絞り目が見られ，H-249～252のような坏部をもつものに組み合うと考えられる。H-254の筒部下端には円孔が穿たれている。

H-256は平たい底から内湾して立ち上がる坏部をもち，円筒状の脚筒部が付くものである。筒部内面にはヘラケズリが施される。

H-257～259は碗形の坏部をもつもので，坏部と脚部を別に作り接合部外面を粘土で補強している。坏部は摩滅が進んでいるが，脚部外面にはわずかにヘラミガキが残り，内面には絞り目が見られる。H-260～262も同様のものであろうか。

H-263は細い筒部から連続的に大きく開く脚部で脚高は低い。

H-264は筒部下端に円孔をもつもの，H-265は裾部が水平に開くもの，H-266は太い筒部からゆるやかに開くものである。

坏（H-267～269）

H-267は半球状の坏で，外面には手持ちのヘラケズリとナデが，内面には多方向のナデが施される。H-268はH-267よりも偏平な形をしており，やはり外面に手持ちのヘラケズリが見られる。これらの坏の類例は夫敷遺跡中層出土遺物中に多くみられる。

H-269は平たい底部と外反する口縁部をもつ坏で，内面には赤色顔料が塗られている。

甑（H-270～273）

H-270は甑の口縁部と考えられるもので，やや内傾する。端部は平坦に作られ，外面に沈線状のへこみをもつ。口縁部内外面にヨコナデ，胴部内面にヘラケズリを施す。

H-271は胴部に牛角状の把手を，差し込んでつけられるものである。外面には荒いハケ目，内面にはヘラケズリを施している。

H-272・273は甑底部の小破片と見られ，端部近くに円孔がみられる。同様の例は，薦沢Ａ遺跡の遺物中[註8]に多く見られ，古墳時代後期頃のものと考えられる。

竈（H-274）

H-274は移動式の竈の底部から胴部にかけての破片と見られる。端部は厚く作られ，ヘラで面取りされている。外面はハケ目，内面はヘラケズリが施される。

註１　山本清 「山陰の土師器」『山陰古墳文化の研究』 1971年
註２　『島根県埋蔵文化財発掘調査報告　第Ⅷ集』 島根県教育委員会　1981年
註３　『国道９号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ（夫敷遺跡）』 島根県教育委員会　1989年
註４　『一般国道９号松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ』 島根県教育委員会　1990年
註５　谷若倫郎 「山陰系「コシキ形土器」の垂下使用法」『愛媛考古学　第９号』 1986年
註６　『大角山遺跡発掘調査報告書』 島根県教育委員会　1988年
註７　註３に同じ
註８　『薦沢Ａ遺跡・薦沢Ｂ遺跡・別所遺跡』 松江市教育委員会　1988年

土　師　器　観　察　表

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
壺	第55図 H-1	40		表採		複合口縁 頸部～肩部にハケ目原体による羽状文，ヘラによる沈線文	頸部～肩部外面：ヨコハケ 頸部～肩部内面：ヘラケズリ	胎土：1㎜未満の砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	
壺	第55図 H-2	40	N2E1	褐色 砂礫層	口径 14.4	複合口縁	ヨコナデ	胎土：密 焼成：良好 色調：明灰褐色	
壺	第55図 H-3	40	N1E1	灰色 粘質土	口径 12.6	複合口縁	口縁部外面：ヨコナデ 胴部外面：ハケ目 胴部内面：ヘラケズリ	胎土：密 焼成：良好 色調：灰褐色	
壺	第55図 H-4	40	N1E2	暗青灰色 砂質土		肩はあまり張らない	胴部外面：ハケ目（タテ） 胴部内面：ヘラケズリ	胎土：1㎜大の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：明灰褐色	
壺	第55図 H-5	40	N2E1	赤褐色 砂質土	口径 29.2	複合口縁 頸部にハケ目原体による羽状文，沈線文	口縁部内外面：ヨコナデ 頸部外面：ハケ目（タテ）後施文 頸部内面：ナデ	胎土：1㎜未満の砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰白色	赤砂
壺	第55図 H-6	40	N1E2	暗灰色 砂質土	口径 24.8	複合口縁 頸部にハケ目原体による斜行文	ヨコナデ	胎土：1㎜未満の砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	暗砂
壺	第55図 H-7		S2E0	灰褐色 砂礫層	口径 23.2	複合口縁	口縁部：ヨコナデ	胎土：白色小砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	河道4
壺	第55図 H-8		N2E3	赤褐色 砂質土	口径 30.3	複合口縁	ヨコナデ	胎土：密 焼成：良好 色調：明灰褐色	
壺	第55図 H-9	40	S1E0	暗灰色 砂礫層	口径 19.4	複合口縁	ヨコナデ	胎土：密 焼成：良好 色調：明灰色	
壺	第55図 H-10	40	N5E1	暗灰色 砂質土	口径 17.4	複合口縁	ヨコナデ	胎土：白色小砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：明灰褐色	河道3
壺	第55図 H-11	40	N1E1	暗灰色 砂質土			胴部外面：ハケ目 胴部内面：ヘラケズリ	胎土：1㎜大の砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰色	
壺	第55図 H-12	40	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層		複合口縁の下端から頸部にかけての破片	ナデ	胎土：密 焼成：良好 色調：明灰色	
壺	第55図 H-13	40	N2E2	褐色 砂礫層	口径 25.6	複合口縁。非常に大きく開く	ヨコナデ	胎土：小砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：淡褐色	
小形丸底壺	第56図 H-14	41	I区	青灰色 砂質土	口径 9.6	複合口縁 ハケ目原体による斜行文	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：磨滅 胴部内面：ヘラケズリ		
壺	第56図 H-15	41	N1E1	褐色 砂質土		小形壺の胴部片 くし描き沈線文と波状文	外面：ハケ目 内面：指頭圧痕，ナデ	胎土：微砂粒を含む 焼成：良好 色調：暗灰色	
壺	第56図 H-16	41	S3E0	暗青灰色 砂礫層		小形壺の胴部	外面：ハケ目 内面：ヘラケズリ	胎土：1㎜未満の砂粒を含む 焼成：良好 色調：褐色	河道4
小形丸底壺	第56図 H-17	40	N2E1	褐色 砂礫層	口径 14.0 器高 9.4	半球状の体部に軽く外傾する短い口縁がつく。内面に厚くうるしが残る	口縁部内外面：ヨコナデ 体部内外面：ハケ目	胎土：1㎜前後の白色砂粒を含む 焼成：良好 色調：明灰褐色	
小形丸底壺	第56図 H-18	41	N1E2	赤褐色 砂質土	口径 9.0	口縁は外傾し，胴はあまり張らない 頸部にヘラ状工具による斜行文	口縁部内外面：ヨコナデ 胴部外面：ナデ 胴部内面：ヘラケズリ	胎土：白色小砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	
小形丸底壺	第56図 H-19	41	N3E1	青灰色 砂礫層		球形，丸底	外面：ナデか 内面：強いナデ	胎土：2㎜未満の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：淡灰褐色	河道2

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
直口壺	第56図 H-20	41	排土		口径 11.7	複合口縁	調整不明	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第56図 H-21	41	N1E1 ～N1E0	褐色 砂質土	口径 12.0	直口壺の口縁部か	外面:ハケ目後ヨコナデ 内面:ヨコナデか	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外 乳褐色,内 灰褐色	
壺	第56図 H-22	41	N2E0	暗灰色 粘質土		ずん胴で胴長の壺か	外面:ナデ 内面:頸部以下ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:乳灰白色	
壺?	第56図 H-23	41	排土		口径 25.8	無頸に近い短頸の壺形で,とってがつくと思われる	口縁部内外面:ヨコナデ 胴部外面:ナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
注口土器	第56図 H-24	41	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 16.9	複合口縁。非常に薄手,胴部に注口 肩～胴部にくし描き沈線文3段と斜行刺突文	口縁部～頸部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰白色	
注口	第56図 H-25	41	S2E0	暗灰色 砂礫層			外面:ヘラミガキ	胎土:密 焼成:良好 色調:淡灰褐色	外面下半にスス付着。河道4
注口土器	第56図 H-26	41	N0E1	灰色 粘質土		胴部の破片	外面:調整不明 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良 色調:外 黒灰褐色,内 淡灰褐色	
甕	第57図 H-27	42	N1E0	淡灰色 砂質土	口径 16.9	複合口縁部は外反し,突出部の稜は鋭い。ナデ肩で薄づくりの体部	磨滅により調整不明	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む(含金雲母) 焼成:やや不良 色調:灰色	河道2
甕	第57図 H-28	42	N1E1	褐色 砂質土	口径 13.2	複合口縁部は外反する	磨滅著しいが一部ヨコナデが残る	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:やや軟 色調:灰褐色	
甕	第57図 H-29	42	S3E0	暗青灰色 砂層	口径 15.7	複合口縁部は外傾して伸びる 肩部にくし描き沈線文と波状文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目後ナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第57図 H-30	42	N0E3	黒灰色 砂質土	口径 16.8	複合口縁部は外反気味,ナデ肩で薄づくり 肩部に斜行刺突文(二枚貝か)	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目後ナデ,施文 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	外面にスス付着
甕	第57図 H-31	42	S3W1	暗青灰色 砂礫層	口径 16.4	複合口縁部は外反し,突出部は鋭い。ナデ肩で薄づくり 肩部にくし描き沈線文と斜行刺突文(貝殻腹縁によるか)	口縁部:ヨコナデ 肩部内面:以下:ていねいなヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:やや暗灰色	体部外面に炭化物付着。河道4
甕	第57図 H-32	42	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 16.9	複合口縁部は外反する。体部は薄づくり 肩部に沈線文と斜行刺突文(貝殻腹縁によるか)	口縁部:強いヨコナデ 体部外面:ハケ目後ナデ 体部内面:ていねいなヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第57図 H-33	42	S3E0	赤褐色 砂礫層	口径 18.4	複合口縁部は外反し,シャープなつくり 肩部にくし描き沈線文と波状文	口縁部:強いヨコナデ 肩部以下内面:ていねいなヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第57図 H-34	42	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 15.8	複合口縁部は外反し,シャープなつくり 肩部にくし描き沈線文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目とナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	外面にスス付着
甕	第57図 H-35		N2E1	暗青灰色 砂質土	口径 19.8	複合口縁部は外反し,シャープなつくり	内外面:ヨコナデ 肩部内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の微砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰白色	外面に炭化物付着
甕	第57図 H-36	42	S2E1	暗青灰色 砂層	口径 16.6	複合口縁部は外反し,突出部は鋭い 肩部にくし描き沈線文と波状文	口縁部:ヨコナデ 肩部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道4
甕	第57図 H-37	42	N2E0 N2E1	暗赤褐色 砂層	口径 13.4	複合口縁部は外反し,ナデ肩で薄づくり 肩部にくし描き波状文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ヘラケズリ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	外面にスス付着。河道2
甕	第57図 H-38	42	N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 16.6	複合口縁部は外反し,シャープなつくり	ヨコナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着
甕	第57図 H-39	42	トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 16.0	複合口縁部は長く外反する。突出部は鋭い	ヨコナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第57図 H-40	42	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 17.1	複合口縁部は長く外反する。突出部は鋭い	ヨコナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着。河道4
甕	第57図 H-41	42	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 14.0	複合口縁部は長く外反し,突出部の稜は鋭い	ヨコナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:暗灰色	
甕	第57図 H-42	42	N2E1	褐色 砂礫層	口径 15.3	複合口縁部は外反し,シャープなつくり	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:明褐灰色	外面にスス付着
甕	第57図 H-43	42	S2E1	暗灰褐色 砂層	口径 18.9	複合口縁部は外反し,シャープなつくり 肩部にくし描き沈線文と斜行刺突文(原体はくし状工具)	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第57図 H-44	42	S3E0	暗灰褐色 砂礫層	口径 19.6	複合口縁部は直立気味で,端部近くで外反する 肩部にハケ目原体による波状文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第57図 H-45	42	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 17.9	複合口縁部は外反し,シャープなつくり ハケ目原体による波状文,沈線文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ていねいなヘラケズリ	胎土:1～3㎜大の砂粒を少し含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
甕	第57図 H-46	42	S2E1	灰褐色 砂礫層	口径 16.2	複合口縁部は外反し,シャープなつくり 肩部にくし描き波状文	口縁部内外面:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ていねいなヘラケズリ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着。河道4
甕	第58図 H-47	43	N3E1	赤褐色～青灰色 砂礫層	口径 17.8	複合口縁部は長く外反 肩部にくし描き波状文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目後ナデ施文 体部内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:乳灰色	口縁部外面に炭化物付着。河道2
甕	第58図 H-48		N5E1	暗灰色 粘質土	口径 16.8	複合口縁部は長く外反し,ナデ肩で薄づくり	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:明灰茶色	河道3
甕	第58図 H-49	43	N2E2	褐色 砂礫層	口径 14.4	複合口縁部は外反し,ナデ肩で薄づくり 肩部にくし描き波状文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第58図 H-50		N1E1	褐色 砂質土	口径 16.3	複合口縁部は外反気味	口縁部:強いヨコナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰色	
甕	第58図 H-51		N1E0	褐色 砂質土	口径 15.1	複合口縁部は長く外傾	口縁部:ヨコナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第58図 H-52	43	N4E2	青灰色 砂礫層	口径 15.4	複合口縁部はやや外反気味,ナデ肩で薄づくり 肩部にくし描き波状文と沈線文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ナデ 体部内面:ヘラケズリ		河道2
甕	第58図 H-53	43	N2E2	褐色 砂質土	口径 15.6	複合口縁部は外反	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面の一部にスス付着
甕	第58図 H-54		S2E0	暗青灰色 砂層	口径 19.5	複合口縁部は外反	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目とナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第58図 H-55		N2E2	暗灰色 粘質土	口径 16.4	複合口縁部は外反,体部は薄づくり	口縁部:ヨコナデ 体部外面:調整不明 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜以下の白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第58図 H-56	43	S3W1	暗青灰色 砂礫層	口径 19.0	複合口縁部は長く外反 肩部に斜行刺突文(貝か),くし描き沈線文	口縁部:ヨコナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第58図 H-57	43	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 14.6	複合口縁部は外反,やや厚手	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良 色調:乳灰色～淡褐色	河道4
甕	第58図 H-58	43	S2E0	暗青灰色 砂層	口径 18.3	複合口縁部は外反,薄づくり クシ状工具による沈線文と斜行刺突文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目後ナデ 体部内面:横方向を中心としたていねいなヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着。河道4
甕	第58図 H-59		N1E0	褐色 砂質土	口径 18.0	複合口縁部は外反,突出部は鋭い	ヨコナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:淡褐色	外面にスス付着

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第58図 H-60	43	N1E0	淡灰色 砂質土	口径 18.6	複合口縁部は外反，突出部は鋭い	口縁部：ヨコナデ	胎土：白色微砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：淡灰褐色	河道2
甕	第58図 H-61	43	N1E1	暗灰色 砂質土	口径 14.8	複合口縁部は外反気味 肩部にヘラによる斜行文	口縁部：ヨコナデ	胎土：白色微砂粒 焼成：良好 色調：灰褐色	外面に炭化物付着
甕	第58図 H-62	43	N1E1	褐色 砂質土	口径 15.7	複合口縁部は長く外反し，突出部は鋭い	ヨコナデ	胎土：1㎜以下の砂粒を多く含む 焼成：良 色調：褐色～淡褐色	
甕	第58図 H-63		N1E1	褐色 砂質土	口径 18.2	複合口縁部は長く外反	ヨコナデ	胎土：密 焼成：良 色調：灰褐色	
甕	第58図 H-64	43	N1E1	褐色 砂質土	口径 14.2	複合口縁部は外反し，端部でさらに強く反る。突出部は非常に鋭い	口縁部：ヨコナデ	胎土：ガラス質の小砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：灰褐色	外面にスス付着
甕	第58図 H-65	43			口径 16.6	複合口縁部は長く外反し，突出部は鋭い	口縁部：ヨコナデ	胎土：ガラス質の小砂粒を含む 焼成：良好 色調：淡褐色	外面にスス付着
甕	第58図 H-66			褐色 砂礫層	口径 15.4	複合口縁部は外反	口縁部：ヨコナデ 体部外面：ハケ目後ナデ 体部内面：ヘラケズリ	胎土：1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成：良 色調：灰褐色	
甕	第58図 H-67	43	N1E1	褐色 砂質土	口径 13.8	複合口縁部は外反気味 肩部にくし描き沈線文	口縁部：ヨコナデ 体部外面：ヨコナデ 体部内面：ヘラケズリ	胎土：白色小砂粒を含む 焼成：良好 色調：明白茶色	
甕	第58図 H-68	43	S2W1	暗青灰色 砂礫層	口径 15.4	複合口縁部は外反	口縁部：ヨコナデ 体部外面：ハケ目 体部内面：ヘラケズリ	胎土：白色小砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：灰褐色	外面に炭化物付着。河道4
甕	第58図 H-69	43		褐色 砂礫層	口径 15.4	複合口縁部は外反	ヨコナデ	胎土：1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：淡褐色	外面にスス付着
甕	第58図 H-70		S3E0	暗灰褐色 砂層	口径 15.0	複合口縁部はやや外反	口縁部：ヨコナデ 体部外面：ハケ目とナデ 体部内面：ヘラケズリ	胎土：密 焼成：良好 色調：灰褐色	河道4
甕	第58図 H-71	43	N1E0	淡灰色 砂質土	口径 14.2	複合口縁部はやや外反	口縁部：強いヨコナデ 体部外面：ヨコ方向のハケ目 体部内面：ていねいなヘラケズリ	胎土：1～2㎜大のガラス質の砂粒を含む 焼成：良好 色調：淡灰褐色	外面にスス付着。河道2
底部	第58図 H-72		I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	底径 3.7～4.0	小さな平底	外面：ハケ目 内面：ヘラケズリ，指頭圧痕	胎土：密，微砂粒を含む 焼成：良好 色調：褐色～黒褐色	外面にスス付着。河道2
底部	第58図 H-73	43	N2E1	褐色 砂礫層		平底気味の小さな丸底	外面：ハケ目とナデ 内面：ヘラケズリ	胎土：1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：灰褐色	
底部	第58図 H-74		N2E1	褐色 砂礫層		平底気味の丸底	外面：ハケ目とナデ 内面：ヘラケズリと指頭圧痕	胎土：1㎜大の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：淡黄褐色	
底部	第58図 H-75	43	N0E1	褐色 砂質土	底径 12.8	大きな平底，薄づくり	外面：ハケ目とナデ 内面：ヘラケズリ	胎土：小砂粒を含む 焼成：良好 色調：暗灰褐色	
底部	第58図 H-76	43	S2E0	暗青灰色 砂層		平底気味の丸底	外面：ナデ 内面：ヘラケズリ	胎土：1㎜大の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：淡灰褐色	河道4
甕	第59図 H-77	44	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 15.6	複合口縁部は外反，端部は面をなす	口縁部：ヨコナデ 体部外面：ハケ目 体部内面：ヘラケズリ	胎土：密，1㎜未満の白色砂粒を含む 焼成：良好 色調：淡褐色	外面にスス付着
甕	第59図 H-78		N2E1	暗灰色 粘質土	口径 15.4	複合口縁部は外反気味，端部でわずかに面をなす	口縁部：ヨコナデ 体部外面：ハケ目とナデ 体部内面：ヘラケズリ	胎土：1㎜大の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：明灰茶色	
甕	第59図 H-79	45	S2E1	褐色 砂層	口径 19.0	複合口縁部は外反して伸び，端部でわずかに面をなす 肩部くし描き波状文	口縁部：ヨコナデ 体部外面：ハケ目後ナデ，施文 体部内面：ヘラケズリ	胎土：密 焼成：良好 色調：明灰色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第59図 H-80		トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 18.2	複合口縁部は外反し，端部で面をなす	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目後ナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	外面に炭化物付着
甕	第59図 H-81		N3E1	赤褐色～青灰色 砂礫層	口径 18.5	複合口縁部は外傾し，端部で外反	ヨコナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色～暗灰色	河道2
甕	第59図 H-82		N0E1	褐色 砂質土	口径 17.5	複合口縁部は外反し，突出部の稜は鋭い	口縁部:強いヨコナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第59図 H-83	44	トレンチ内	暗灰色 粘質土	口径 16.0	複合口縁部は外反して伸び，端部で平坦面をなす 肩部くし描き沈線文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目後ナデ，施文 体部内面:ヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰白色	
甕	第59図 H-84	44	N1E0	淡灰色 砂質土	口径 16.2	複合口縁部は外反し，端部は平坦 肩部くし描き沈線文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目(ヨコ)，施文 体部内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗茶褐色	河道2
甕	第59図 H-85		N1E2	褐色 砂礫層	口径 18.2	複合口縁部は外反気味，端部で面をなす 肩部に斜行刺突文(ヘラ？)	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ヘラケズリ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
甕	第59図 H-86	44	中央ベルト	褐色～青灰色 砂礫層	口径 19.8	複合口縁部は外反し，突出部は鋭い 肩部くし描き沈線文	口縁部:強いヨコナデ 体部外面:ハケ目後施文 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道2
甕	第59図 H-87	44	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 14.2	複合口縁部は外反し，端部で面をなす 肩部くし描き沈線文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目とナデ，施文 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河道4
甕	第59図 H-88	44	トレンチ内	暗灰色 砂礫層	口径 18.6	複合口縁部は外反して伸び，端部で平坦面をなす	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ナデ，施文 体部内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	外面の一部にスス付着
甕	第59図 H-89	44	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂質土	口径 15.1	複合口縁部は外反，端部で面をなす	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰色	
甕	第59図 H-90	44	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 13.6	複合口縁部は外反して伸び，端部で面をなす 肩部くし描き波状文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目とナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:密，2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	外面にスス付着
甕	第59図 H-91		N0E2	赤褐色 砂質土	口径 14.2	複合口縁部は外傾，端部で平坦面をなす	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目(タテ→ヨコ) 体部内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰白色	
甕	第59図 H-92		I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 15.7	複合口縁部は外反し，端部で平坦面をなす	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目(タテ) 体部内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色～暗褐色	外面にスス付着
甕	第59図 H-93	45	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 16.7	複合口縁部は外反気味，端部で平坦面をなす 肩部くし描き波状文と沈線文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目とナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 黒褐色，内 茶褐色	河道4
甕	第59図 H-94		N1E0	暗灰褐色 砂層	口径 15.8	複合口縁部は外反し，端部で平坦面をなす	ヨコナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
甕	第59図 H-95		I区 トレンチ内	青灰色 砂質土	口径 18.8	複合口縁部は外反気味に伸び，端部で面をなす	口縁部:ヨコナデ 体部外面:タテハケ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面に炭化物付着
甕	第59図 H-96	44	N1E1	褐色 砂質土	口径 18.4	複合口縁部は外反気味，端部で平坦面 肩部くし描き沈線文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ナデ，施文 体部内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面に炭化物少量付着
甕	第59図 H-97	44	N1E0	淡灰色 砂質土	口径 16.4	複合口縁部は外傾，端部でわずかに面を持つ	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	河道2
甕	第59図 H-98	44	N1E1	褐色 砂礫層	口径 17.0	複合口縁部は外反，端部で平坦面をなす。ナデ肩で薄づくり	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目(ヨコ) 体部内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第59図 H-99	44	I区 トレンチ内	排土	口径 30.2	複合口縁部は外傾，端部は平坦	ヨコナデ	胎土:1㎜大の白色粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄灰色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第59図 H-100	44	N2E2	褐色 砂礫層	口径 27.0	複合口縁部はやや外反,端部で平坦面	ヨコナデ	胎土:1㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第59図 H-101	45	トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 29.4	複合口縁部は外反して伸び,端部で少し面をなす	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ヨコナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
甕	第60図 H-102		N1E1	灰色 粘質土	口径 16.9	複合口縁部は短く外反し,端部で面をなす	ヨコナデ,ヘラケズリ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第60図 H-103		S3W1	暗青灰色 砂礫層	口径 15.5	複合口縁部は外反して伸び,端部近くでさらに反る	口縁部:ヨコナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良 色調:褐色～暗褐色	外面にスス付着。河道4
甕	第60図 H-104	44	S1E0	灰褐色 砂礫層	口径 15.4	複合口縁部は外反気味,端部で平坦面,突出部は鈍い	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目とナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良 色調:淡褐色	
甕	第60図 H-105	44	N1E1	灰色 粘質土	口径 13.4	複合口縁部は外反,端部で平坦面,突出部は強く出るが丸い 肩部にくし描き波状文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目後ナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の白色粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第60図 H-106	44	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 13.2	複合口縁部は外反,端部で平坦面	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜以下の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰白色	
甕	第60図 H-107	44			口径 15.4	複合口縁部は外反,端部で平坦面,突出部は強く出るが丸味を帯び,下ぶくらみ 肩部くし描き沈線文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目とナデ,施文 体部内面:ヘラケズリ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰白色	
甕	第60図 H-108		N2E2	褐色 砂礫層	口径 14.7	複合口縁部は短く外反,端部で平坦面,突出部の稜は鈍い	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目とナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第60図 H-109	44	排土中		口径 15.6	複合口縁部は外傾して伸び,端部で平坦面をなす	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ヨコナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良 色調:灰褐色	
甕	第60図 H-110	44	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 15.6	複合口縁。端部は平坦面	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	外面にスス付着,内面に炭化物付着
甕	第60図 H-111	44	I区 トレンチ内		口径 14.2	複合口縁部は外反,端部で平坦面 肩部にくし描き波状文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ヨコナデ,施文 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着
甕	第60図 H-112		N2E1	褐色 砂礫層	口径 13.0	複合口縁部は短く外傾,端部で平坦面,突出部は強く出る	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第60図 H-113	44	N1E1	灰色 粘質土	口径 11.6	複合口縁部は外反,端部で平坦面,突出部は下ぶくらみ 肩部にくし描き波状文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目とナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:白色微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第60図 H-114		N0E1	褐色 砂質土	口径 13.8	複合口縁部は外傾,端部は平坦 肩部にくし状工具による斜行刺突文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目(ヨコ) 体部内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
甕	第60図 H-115	44	N3E1	赤褐色 砂質土	口径 21.3	複合口縁部は外傾し,端部で平坦面をなす	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目(タテ) 体部内面:ヘラケズリ	胎土:密,1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡黄灰色	河道2
甕	第60図 H-116		N2E1	褐色 砂礫層	口径 12.6	複合口縁部は直立して短く伸び,端部で平坦面 肩部にヘラ状工具による斜行刺突文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ナデ,施文 体部内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰褐色	
甕	第60図 H-117		I区 S1E0	暗灰色 砂質土	口径 22.0	複合口縁部は直立後外反,端部は平坦面をなし,内側に肥厚する	ヨコナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む(金色の雲母多) 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第60図 H-118		N1E1	暗灰色 粘質土	口径 22.6	複合口縁部はやや直立し,端部で面をなす。端部内面は肥厚	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ハケ目後ナデ	胎土:ガラス質の微砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗黄褐色	
甕	第60図 H-119	44	N0E1	褐色 砂質土		複合口縁部は外傾,端部は平坦面	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目(ヨコ) 体部内面:ヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第60図 H-120	44	N1E0	褐色 砂質土	口径 15.4	複合口縁部はやや外反,端部で平坦面をなす 肩部に直線文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケとナデ,施文 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰茶色	
甕	第60図 H-121	44	N1E0		口径 12.4	複合口縁部は直立気味,端部で平坦面をなす。突出部は丸味を帯び,胴部は球形	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ていねいな横方向のヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	河道1
甕	第61図 H-122	45	S2W1	暗青灰色 砂礫層	口径 38.0	複合口縁部は直立気味,端部は平坦 肩部に板目による羽状の刺突文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ヘラケズリ 後ヨコハケ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第61図 H-123	45	S2E0	青灰色 砂層	口径 38.6	複合口縁部はやや外反気味,端部は平坦,端部内面は肥厚,突出部は鈍く下ぶくらみ 肩部に板目による羽状文と沈線文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目後ナデ,施文 体部内面:ハケ目後ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒(金色の雲母を含)を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色～褐色	河道4
甕	第61図 H-124	45	N1E1	褐色 砂質土	頸部径 33.6	肩～胴部の破片	外面:ハケ目とナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺か甕	第61図 H-125	45	S3W1	暗青灰色 砂層		外面に斜行刺突文,くし描き沈線文,山形文等が交互に施される	内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河道4
高坏	第62図 H-126	46	N1E0	褐色 砂質土	口径 16.6	平坦気味の底部,外面に段を持ち口縁部は外反,脚筒部内面に刺突痕	坏部外面:ハケ目の上からヨコナデ 内面:ヘラミガキ 脚部外面:ハケ目 内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:淡褐色	
高坏	第62図 H-127	46	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 17.4	平坦気味の底部,口縁端部外反	坏底部外面と口縁部内外面:ナデ 体部内外面:ヘラミガキ	胎土:1㎜程度の白色砂粒を少量含む 焼成:良好	
高坏	第62図 H-128		I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 24.8	口縁やや外反	内外面共磨滅著しいが,内面の一部にヘラミガキが残る	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良 色調:乳灰色	
高坏	第62図 H-129	46	N1E2	褐色 砂質土	口径 24.7	大きく開く坏部片	内外面:ヘラミガキ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色(内面は暗灰褐色)	
高坏	第62図 H-130	46	N1E0	淡褐色 砂質土	口径 26.1	やや外反して大きく開く坏部	口縁端部近くの内外面:ヨコナデ 体部外面:ヘラミガキ 体部内面:ヘラケズリ後ヘラミガキとていねいなナデ	胎土:1㎜未満の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 淡黄灰色,内 暗灰黄色	河道2
高坏	第62図 H-131		N1E0	褐色 砂質土	口径 26.5	体部は丸味をもち,口縁端部近くで外反	内外面共磨滅著しいが,内面の一部にヘラミガキ(ヨコ)が残る	胎土:透明な微砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色～暗褐色	
高坏	第62図 H-132		N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 23.7	口縁端部外反気味に大きく開く	内面の一部にヘラミガキが残る	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰褐色	河道2
高坏	第62図 H-133		N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 23.6	口縁部外反気味	外面:上半 ヨコナデ,下半 ハケ目 内面:ヘラミガキ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道2
高坏	第62図 H-134		S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 20.9	口縁部外反	磨滅して不明	胎土:密 焼成:良好 色調:暗灰色	河道4
高坏	第62図 H-135	46	I区 トレンチ内			脚筒部内面に刺突痕	外面:ハケ目 内面:ヘラミガキ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
高坏	第62図 H-136		N1E1	褐色 砂質土		脚筒部内面に刺突痕	坏部外面:ハケ目 坏部内面:ヘラミガキ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	
高坏	第62図 H-137	46	N0E1	褐色 砂質土		脚筒部内面に刺突痕	内外面共磨滅	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	
高坏	第62図 H-138	46	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層		脚筒部内面に刺突痕	外面:ナデ 内面:ヘラミガキ	胎土:密 焼成:良好 色調:外 灰褐色,内 黒灰褐色	
高坏	第62図 H-139	46	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層		丸味を帯びる坏部,脚筒部内面に刺突痕	外面:ハケ目	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰色	河道2

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
高坏	第62図 H-140	47	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	底径 15.0	円筒状の長い脚筒部から大きく開いて脚端部に至る	外面:ハケ目 内面:筒部ヘラケズリ,以下ハケ目	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
高坏	第62図 H-141	47	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	底径 12.8	長い円筒状の脚筒部より脚端部にむかってゆるやかに大きく開く。脚筒部内面に刺突痕	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰色	
高坏	第62図 H-142	47	N1E0	淡灰色 砂質土		ゆるやかに開く脚筒部,内面に刺突痕	外面:ハケ目 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰色	河道2
高坏	第62図 H-143	47	トレンチ内	青灰色 砂礫層		円筒状の脚部片,脚内面中央刺突痕	外面:ハケ目とナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒をわずかに含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
高坏	第62図 H-144	47	N0E2			ゆるやかに広がる脚部の破片	外面:ヘラミガキ 内面:上半 ヘラケズリ,下半 ハケ目	胎土:密 焼成:良好 色調:灰色	河道1
高坏	第62図 H-145	47	N2E2	褐色 砂礫層	底径 9.7	円筒状の脚筒部よりゆるやかに広がって脚端部に至る	外面:上半 ヘラミガキ,下半 ハケ目 内面:上半 ヘラケズリ,下半 ハケ目	胎土:1㎜大の砂粒を若干含む 焼成:良好 色調:淡肌色	
高坏	第62図 H-146	47	トレンチ内	暗灰色 粘質土	底径 16.6	ロート状に大きく開く脚部	外面:ハケ目(タテ)後ていねいなナデ 内面:しぼり痕	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	
鼓形器台	第63図 H-147	48	I区 トレンチ内	排土	底径 17.5	筒部から脚台部の破片	外面:ヨコナデ 内面:筒部以下ヘラケズリ	胎土:1～2㎜大の砂粒(白色,半透明)を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
鼓形器台	第63図 H-148	48	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	底径 18.5	筒部から脚台部の破片 脚台部上端に斜行刺突文	外面:ヨコナデ 上台部内面:ナデ 脚台部内面:ヘラケズリ後ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒(白色,透明)を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
鼓形器台	第63図 H-149	48	S2W1 S3W1	暗青灰色 砂礫層	底径 17.2	脚台部外面にくし描波状文	外面:ヨコナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色～暗褐色	河道4
鼓形器台	第63図 H-150	47	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 23.1 器高 11.5 底径 19.6	ほぼ完形,器高低く筒部は縮約のすすんだもの	外面:ヨコナデ 内面:上台部 ヘラミガキ(ヨコ),筒部以下 ヘラケズリ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
鼓形器台	第63図 H-151	48	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 22.2	筒部から上台部の破片	内外面共磨滅	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
鼓形器台	第63図 H-153	48	N2E1	褐色 砂礫層	口径 20.0	上台部の破片	外面:ヨコナデ 内面:ヘラミガキ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 暗灰褐色,内 淡灰褐色	
鼓形器台	第63図 H-154		N3E1	赤褐色～青灰色 砂礫層	口径 17.2	上台部の破片	ヨコナデ,ナデ	胎土:1㎜大の砂粒(白色,透明)を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色～肌色	河道2
鼓形器台	第63図 H-155		S1E0	暗灰色 砂礫層	口径 24.5	上台部の破片	内外面共磨滅	胎土:微砂粒(白色,透明)を多く含む 焼成:良 色調:灰褐色	
鼓形器台	第63図 H-156	48	N2E2	暗灰色 粘質土		筒部から上台部	外面:ヨコナデ 内面:磨滅しているが一部ヘラミガキが残る	胎土:白色微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	
鼓形器台	第63図 H-157	48	N2E1	褐色 砂礫層	口径 20.8	筒部から上台部の破片	外面:ヨコナデ 内面:磨滅	胎土:1㎜未満の砂粒(白色,透明)を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
鼓形器台	第63図 H-158	48	N2E1	暗青灰色 砂質土		筒部から上台部の破片	外面:ヨコナデ 内面:ナデか	胎土:微小な白色粒 焼成:良好 色調:灰白色	河道2
鼓形器台	第63図 H-159		N1E0			筒部から上台部の破片		胎土:1㎜未満の砂粒(白色,透明)を多く含む 焼成:良 色調:淡灰褐色	河道2
鼓形器台	第63図 H-160	48	N1E0	暗青灰色 砂礫層		筒部から脚台部の破片	外面:ヨコナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の白色粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色～褐色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
鼓形器台	第63図 H-161	48	S3E0	暗青灰色 砂礫層 ～砂層		筒部から脚台部の破片	外面:ヨコナデ 上台部内面:ヘラミガキか 筒部以下内面:ヘラケズリ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河道4
鼓形器台	第63図 H-162		I区 トレンチ内	排土		筒部から脚台部の破片	内外面共磨滅	胎土:密 焼成:良好 色調:やや暗灰色	
鼓形器台	第63図 H-163		I区	排土	筒部径 11.6	筒部から脚台部の破片	外面:一部ヨコナデが残る 内面:脚台部:ヘラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒(白色,透明)を多く含む 焼成:良 色調:灰褐色	
鼓形器台	第63図 H-164		N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層		筒部から脚台部の破片	外面:ヨコナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒(白色,半透明)を多く含む 焼成:やや不良 色調:淡灰褐色	河道2
鼓形器台	第63図 H-165	48	I区 トレンチ内	排土	筒部径 11.2	縮約のすすんだ筒部	外面:ヨコナデ 内面:上台部 ヘラケズリ後ナデ,脚台部 ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色～灰褐色	
鼓形器台	第63図 H-166	48	I区 トレンチ内	青灰色 砂質土	筒部径 12.6	筒部付近の破片	外面:磨滅 内面:上台部 ミガキ又はナデ,筒部 ナデ,脚台部 ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鼓形器台	第63図 H-167		I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	筒部径 10.8	筒部から脚台部にかけての破片	外面:ヨコナデ 内面:筒部以下ヘラケズリ	胎土:1mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鼓形器台	第63図 H-168		I区	排土	底径 15.5	脚台部の破片	外面:ヨコナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
鼓形器台	第63図 H-169	48	トレンチ内	暗灰色 砂層	底径 17.7	筒部から脚台部の破片	外面:ヨコナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒(白色,透明)を多く含む 焼成:良好 色調:淡肌色	
鼓形器台	第63図 H-170	48	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	底径 18.8	筒部から脚台部の破片	外面:ヨコナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒(白色,透明,黒色)をかなり多く含む 焼成:良 色調:淡灰褐色	
鼓形器台	第63図 H-171	48	N1E1	灰色 粘質土	底径 21.0	筒部から脚台部の破片	外面:ヨコナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
鼓形器台	第63図 H-172	48	I区 トレンチ内	砂質土	底径 22.4	筒部から脚台部の破片	外面:ヨコナデ 筒部以下内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
鼓形器台	第63図 H-173		トレンチ内	暗灰色 砂層	底径 21.2	脚台部の破片	外面:ヨコナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm前後の透明砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡肌色	
鼓形器台	第63図 H-174	48	N3E1	暗青灰色 砂層	底径 22.2	脚台部の破片	外面:ヨコナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒(白色,透明)を多く含む 焼成:良好 色調:灰色(外面の一部に黒斑)	河道2
低脚坏	第64図 H-175	48	N2E2	褐色 砂礫層	口径 15.4 器高 6.0 底径 5.9	坏部は内湾,脚部は開く	脚部:ヨコナデ 坏部内面:底部:ナデ 他は調整不明	胎土:1mm前後の砂粒を多量に含む 焼成:良好 色調:淡褐色～黒灰色	
低脚坏	第64図 H-176	49	N1E0	褐色 砂質土	口径 16.3	底部から体部は内湾し,口縁端部は外反	外面:ナデか 内面:磨滅しているが一部ハケ目が残る	胎土:小砂粒(白色,透明)を含む 焼成:良好 色調:褐色	
低脚坏	第64図 H-177	49	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 16.6	丸味のある底部よりゆるやかに内湾	外面:ハケ目後ヘラミガキ 内面:ハケ目の上からナデ,一部ヘラミガキ	胎土:1mm未満の小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
低脚坏	第64図 H-178	48	N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 15.6 器高 5.0 底径 4.1	坏部は内湾して伸び,浅い	調整不明	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良 色調:外 灰色,内 暗灰色	
低脚坏	第64図 H-179	48	N1E1	褐色 砂質土	底径 6.0	坏部はゆるやかに内湾,脚部は広がる	脚部外面:ヨコナデ 他は調整不明	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良 色調:灰褐色	
低脚坏	第64図 H-180	49	S2E1	暗青灰色 砂層	口径 13.9	体部はゆるやかに内湾し,そのまま口縁端部に至る	口縁端部内外面:横方向のナデ 外面:ハケ目とヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰褐色	河道4

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
低脚坏	第64図 H-181	49	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 14.8	ゆるやかに内湾して伸び,そのまま端部に至る	外面:ハケ目とナデ 内面:ヘラミガキ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道4
低脚坏	第64図 H-182	49	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 11.0	小形の浅い坏部	口縁端部内外面:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ヘラミガキ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
低脚坏	第64図 H-183	48		褐色 砂質土	口径 10.8 器高 5.3 底径 6.1	口径の小さい割に,坏部が深く。脚高も高い	ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良 色調:淡灰色	
低脚坏	第64図 H-184	48	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	底径 9.0	大きく開く脚部片,比較的高い	脚部:ヨコナデ	胎土:1㎜未満の小砂粒を多量に含む 焼成:良 色調:淡灰褐色	
低脚坏	第64図 H-185	48	S3E0	暗青灰色 砂礫層	底径 6.5	脚部片	調整不明	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良 色調:淡褐色	河道4
低脚坏	第64図 H-186		N2E2	褐色 砂礫層	底径 5.8	脚部片	ヨコナデか	胎土:小砂粒を含む 焼成:良 色調:灰褐色	
低脚坏	第64図 H-187	48	中央ベルト	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	底径 6.0		ヨコナデ	胎土:1㎜未満の小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰色	河道2
低脚坏	第64図 H-188	48	N1E0	褐色 砂質土	底径 5.9	脚部片	ヨコナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良 色調:淡灰褐色	
低脚坏	第64図 H-189	48	S6W1	青灰色 砂礫層	底径 5.7	脚部片	坏部内面:ヘラケズリ後ナデか 脚部内外面:ナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良 色調:灰褐色	
低脚坏	第64図 H-190	48	S2E0	暗青灰色 砂礫層	底径 5.0	脚部片	脚部内外面:ヨコナデ 坏部内面:ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
低脚坏	第64図 H-191		S3W1	暗青灰色 砂礫層	底径 4.6	底径の小さな脚部片	内外面:ヨコナデ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
低脚坏	第64図 H-192	48	排土		底径 5.1	脚部片	ヨコナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
低脚坏	第64図 H-193		I区 トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	底径 4.6	脚部はあまり開かず直立気味	ナデ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	
低脚坏	第64図 H-194	48	排土		底径 5.0	「ハ」の字に開く脚部片	坏部内面:ナデ 他は調整不明	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良 色調:褐色	
低脚坏か	第64図 H-195		排土			「ハ」の字に開く脚部片	脚部内面:ヘラケズリ 脚部外面:ヨコナデ 坏部内面:ナデ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:乳白褐色	
甑形土器	第65図 H-196	50	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	底径 44.0	ゆるやかに開く底部片	外面:ハケ目とナデ 内面:ヘラケズリ,端部近くに荒いハケ目が残る 端部内外面:ヨコナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甑形土器	第65図 H-197	50	N3E1	赤褐 ～青灰色 砂礫層	口径 41.2	「ハ」の字に開く端部片	外面:調整不明 内面:ヘラケズリ後ナデか	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道2
甑形土器	第65図 H-198	50	N1E1	褐色 砂質土		ゆるやかに開く底部片	端部内外面:ヨコナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良 色調:灰褐色	
甑形土器	第65図 H-199	50	排土			とって	ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
甕	第66図 H-200	51	N3E1	暗青灰色 砂礫層	口径 17.8	複合口縁部は短く外傾し,端部で平坦,突出部は鈍い	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第66図 H-201	51	N4E2	青灰色 砂礫層	口径 12.2	複合口縁部は直立気味に短く,端部で平坦,稜は鈍い	ヨコナデ,ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
甕	第66図 H-202	51	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 14.4	複合口縁部は短く外傾し,突出部は大きく下ぶくらみ,器壁厚い	ヨコナデ	胎土:1㎜大の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河道2
甕	第66図 H-203	51	N4E1	暗青灰色 砂礫層	口径 15.0	複合口縁部は外傾し,端部で面をなす。突出部の稜はだれて鈍い	ヨコナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道2
甕	第66図 H-204	51	N3E1	暗灰色 砂層	口径 18.3	複合口縁部は退化して,稜は鈍い	ヨコナデ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰色	河道2
甕	第66図 H-205	51	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 17.4	複合口縁部は退化し,稜は鈍い。器壁厚く,胴張りする	口縁部:ヨコナデ 頸部～体部外面:ハケ目一部ヨコナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を多量に含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
甕	第66図 H-206	51	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 24.8	複合口縁部は短く外反し,突出部の稜は鈍く下ぶくらみ	ヨコナデ	胎土:1～2㎜大 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
甕	第66図 H-207	51	S2E0	暗青灰色 砂礫層		厚手の体部片,胴張りくし状工具による波状文	外面:ナデ,施文 内面:荒いヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
甕	第67図 H-208	51	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 14.8	「く」の字に屈曲する口縁	肩部外面:ハケ目わずかに残る 肩部～胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1～5㎜大の砂粒を多く含む 焼成:やや不良 色調:淡褐色	河道2
甕	第67図 H-209		N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 11.3	「く」の字に屈曲する口縁	口縁部内外面:ナデ 胴部外面:ナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1～3㎜大の白色砂粒を多く含む 焼成:ふつう 色調:淡褐色	河道2
甕	第67図 H-210	51	N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 13.2	口縁部「く」の字に屈曲	口縁部内外面:ヨコナデ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外 褐色(スス),内 淡褐色	
甕	第67図 H-211	51	N2E3	赤褐色 砂質土	口径 12.8	口縁部「く」の字に屈曲	口縁部内外面:ヨコナデ	胎土:白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰茶色	
甕	第67図 H-212	51	N4E2	青灰色 砂礫層	口径 12.1	「く」の字に屈曲する口縁	口縁部外面:ヨコナデ 口縁部内面:ハケ目 肩～胴部外面:ハケ目 肩～胴部内面:ヘラケズリ	胎土:白色の微砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道2
甕	第67図 H-213		N4E1	青灰色 砂礫層	口径 11.9	口縁部軽く外傾	内外面:ヨコナデ	胎土:微砂粒(白色・透明)を多く含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	河道2
甕	第67図 H-214		N1E0	淡灰色 砂質土	口径 18.2	単純口縁。外傾する	ハケ目とナデ	胎土:1㎜未満の白色・透明・金色等の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰色	河道2
甕	第67図 H-215	51	N4E1	暗青灰色 砂礫層	口径 17.7	外傾する口縁。端部内面が浅くくぼむ	ヨコナデとナデ	胎土:1～6㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色(外面炭化物)	河道2
甕	第67図 H-216		N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 12.8	口縁外傾	ヨコナデ,ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:乳灰色	河道2
甕	第67図 H-217		N4E2	青灰色 砂礫層	口径 12.0	口縁外傾	内外面:ヨコナデ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道2
甕	第67図 H-218	51	N2E1	暗青灰色 砂層	口径 15.2	口縁部は外傾後,端部近くで外反	口縁部:ヨコナデ 外面:タテハケ 内面:ヘラケズリ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外 黒褐色(スス),内 黄茶褐色	河道2
甕	第67図 H-219	52	N3E1	暗灰色 砂礫層	口径 16.3	単純口縁。外傾	口縁部:ヨコナデ,外面:ハケ目 内面:ヘラケズリ	胎土:1～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色(一部黒灰色)	河道2
甕	第67図 H-220	51	N2E1	暗赤褐色 砂層	口径 15.1	単純口縁	口縁部:ヨコナデ,外面:ハケ目(タテ) 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色(外面の一部黒変)	河道2

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第67図 H-221	51	N3E1 杭列		口径 17.6	単純口縁。端部近くで外反	ヨコナデ,ハケ目,ヘラケズリ	胎土:2㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
甕	第67図 H-222		N1E0	暗青灰色砂礫層	口径 12.0	口縁部を欠く。胴はよく張る	外面:ハケ目(タテ) 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色(内面に黒斑)	
甕	第67図 H-223		N2E1	暗赤褐色砂層	口径 23.2	単純口縁。外反気味	口縁部:ヨコナデ 外面:ナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道2
甕	第67図 H-224		N3E0	暗灰色砂質土	口径 17.4	単純口縁。外傾	口縁部:ヨコナデ 外面:タテハケ後ヨコハケ 内面:ヘラケズリ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多量に含む 焼成:良好 色調:白灰褐色	河道2
甕	第67図 H-225	51	N3E1	赤褐色～青灰色砂礫層	口径 22.8	口縁部は軽く外反し,端部近くでより強く反る	口縁部:ヨコナデ 外面:ナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の小砂粒を含む 焼成:良好 色調:茶灰色(外面にスス)	河道2
甕	第67図 H-226	51			口径 27.2	口縁部外反	口縁部:ヨコナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
甕	第67図 H-227	51	N2E1	赤褐色砂質土	口径 20.1	口縁部外反	口縁部:ヨコナデ 外面:タテハケ後ナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道2
甕	第67図 H-228		N3E1	赤褐色～青灰色砂礫層	口径 14.6	口縁部外反	ナデ,ヘラケズリ	胎土:白色微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
甕	第67図 H-229	52	N2E1	暗赤褐色砂層	口径 16.8	単純口縁。外反	口縁部:ヨコナデ 外面:タテハケ 内面:ヘラケズリ	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道2
甕	第67図 H-230	51	N2E1	赤褐色砂質土	口径 29.2	口縁部軽く外反	口縁部:ヨコナデ 外面:ナデ 内面:頸部以下ヘラケズリ	胎土:白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色(外面の一部黒変)	河道2
甕	第67図 H-231		N2E2		口径 21.2	口縁部軽く外反	口縁部:ハケ目とナデ 外面:ハケ目 内面:ヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第68図 H-232	52	N2E1	青灰褐色砂礫層	口径 18.4	口縁部短く外反	口縁部:ナデ 外面:ハケ目 内面:ヘラケズリ	胎土:白色の微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明褐色,内面灰褐色	河道2
甕	第68図 H-233		N3E1	赤褐色～青灰色砂礫層	口径 16.9	口縁部短く外反,ナデ肩で胴張り	口縁部:ハケ目後ナデ 外面:ハケ目(タテ) 内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:暗灰色	河道2
甕	第68図 H-234	52	N2E0	暗灰色粘質土	口径 15.7	単純口縁。外反	口縁部:ハケ目の上からヨコナデ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:乳白色	
甕	第68図 H-235	52	N3E1	青灰色砂礫層	口径 20.8	口縁部外反	口縁部:ヨコナデ 外面:ハケ目 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
甕	第68図 H-236		N2E1	暗灰色粘質土	口径 17.4	単純口縁。外反	口縁部:ヨコナデ 外面:ハケ目(タテ) 内面:ヘラケズリ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色(一部灰赤色)	
甕	第68図 H-237		N3E1	赤褐色～青灰色砂礫層	口径 21.6	単純口縁。外反	口縁部:ヨコナデ 外面:ハケ目 内面:ヘラケズリ		河道2
甕	第68図 H-238		N4E1	暗灰色粘質土	口径 29.1	単純口縁。外反	口縁部:ヨコナデ 外面:タテ方向のハケ目 内面:ヘラケズリ	胎土:1～4㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色(外面スス)	河道3
甕	第68図 H-239	52	N2E3	暗灰色粘質土	口径 25.4	単純口縁。外反	口縁部:ヨコナデ 外面:ハケ目(タテ) 内面:ヘラケズリ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色～橙灰色	
甕	第68図 H-241		N3E1	赤褐色～青灰色砂礫層	口径 19.7	口縁部外反	口縁部:ナデ 外面:ハケ目 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色一部橙色	河道2

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第68図 H-242		N2E0	暗灰色 粘質土	口径 20.4	単純口縁。外反	口縁部:ヨコナデ	胎土:1㎜未満の透明砂粒を多量に含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第68図 H-243	52	N2E0	暗灰色 粘質土		単純口縁。外反	口縁部:ヨコナデ 外面:ハケ目(タテ) 内面:ヘラケズリ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡橙褐色	
甕	第68図 H-244	52	N2E0	暗灰色 粘質土	口径 28.4	単純口縁。外反	口縁部:ハケ目(タテ),ヨコナデ 外面:ハケ目(タテ) 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜未満の砂粒を微砂粒を多量に含む 焼成:良好 色調:淡褐色～暗灰褐色(断面,橙褐色)	
甕	第68図 H-245	52	N2E1	暗灰色 粘質土	口径 26.4	単純口縁。強く外反	口縁部:ヨコナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色(外面スス)	
甕	第68図 H-246	52	N2E1	暗赤褐色 砂層	口径 17.4	口縁部強く外反	口縁部:ナデ 外面:ハケ目 内面:ヘラケズリ	胎土:1㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道2
甕	第68図 H-247	52	N2E1	暗灰色 粘質土	口径 26.8	単純口縁。外反	口縁部:ヨコナデ 外面:ハケ目(タテ) 内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の微砂粒を多く含む 焼成:良好,やや歪む 色調:明黄褐色,胴部内面黒変	
甕	第68図 H-248	52	N2E1	暗灰色 粘質土	口径 26.0	口縁部強く外反	外面:ハケ目(タテ) 内面:ヘラケズリ	胎土:1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色～褐色	
高坏	第69図 H-249	53	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 15.7	外面に段をもち,口縁部は外反する	外面:上半 ハケ目とナデ,下半 ナデ 内面:ヘラミガキ	胎土:1㎜以下の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
高坏	第69図 H-250		N2E3	赤褐色 砂質土	口径 16.9	ゆるやかに内湾する坏部	外面:磨滅 内面:ヘラミガキ	胎土:1～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
高坏	第69図 H-251	53	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層		坏底部は丸底状を呈し,外面に段	外面:磨滅 内面:ヘラミガキか	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰色	河道2
高坏	第69図 H-252		N3E1	青灰褐色 砂礫層 暗青灰色 砂層	口径 14.7	椀形の坏部	内外面共磨滅	胎土:1～3㎜大の白色砂粒を若干含む 焼成:良 色調:淡灰色	河道2
高坏	第69図 H-253	53	N3E1	青灰色 砂礫層	底径 10.6	脚筒部内面に刺突痕	外面:ヘラミガキとナデ 内面:しぼり痕,指おさえ痕	胎土:密 焼成:良好 色調:淡黄灰色	河道2
高坏	第69図 H-254	53	排土中			脚筒部から屈曲して大きく開く。筒部に円形の透かし,刺突痕をもつ	外面:粗いヘラミガキ 内面:しぼり目	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰褐色	
高坏	第69図 H-255	53	N1E0	淡灰色 砂質土	底径 11.5	長い脚筒部よりゆるやかに大きく開く	外面:ハケ目,ヘラミガキ,ナデ 内面:しぼり痕,ハケ目	胎土:1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:白味を帯びた淡褐色	河道2
高坏	第69図 H-256	53	N5E1	暗灰(褐)色 粘質土		平坦気味の坏底部,脚筒部円筒状	坏部外面:ハケ目 坏部内面:ナデ 脚柱部外面:ハケ目とナデ 脚柱部内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:乳灰色	河道3
高坏	第69図 H-257	53	N4E1	青灰色 砂礫層		坏底部は丸味をもつ	外面:ヘラミガキ	胎土:1㎜未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐灰色	河道2
高坏	第69図 H-258		N2E1	暗赤褐色 砂層		丸味をもつ坏底部,脚筒部はやや開き加減	坏部内外面:磨滅 脚部外面:ヘラミガキ 内面:しぼり痕	胎土:1㎜未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	河道2
高坏	第69図 H-259		N4E2	青灰色 砂礫層			内外面:磨滅	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
高坏	第69図 H-260		N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	底径 10.2	円筒形の脚筒部から大きく開く	外面:ヘラミガキ 内面:しぼり痕	胎土:1～5㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色(断面茶色)	河道2
高坏	第69図 H-261		排土中		底径 14.6	「ハ」の字に開く脚筒部からさらに大きく開く	脚筒部外面:上半 ハケ目,下半 ヘラミガキ 脚端部外面:ナデ 脚端部内面:一部ヘラケズリを残す	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:肌灰色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
高坏	第69図 H-262	53	N2E1	暗赤褐色 砂層		やや開き気味の脚筒部から，脚端部にかけてさらに大きく開く	外面：ヘラミガキ 内面：しぼり痕	胎土：密 焼成：良好 色調：灰褐色	河道2
高坏	第69図 H-263	53	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	底径 10.0	やや開いた短い脚筒部よりさらに大きく開く	外面：風化 内面：脚筒部ヘラケズリ	胎土：密 焼成：良好 色調：灰色	河道2
高坏	第69図 H-264	53	N2E0	赤褐色 砂質土	底径 11.2	脚筒部に円形の透かし	外面：脚筒部：ヘラミガキ 内面：脚筒部：ヘラケズリ 脚端部：ナデ	胎土：密，小砂粒をごく少量含む 焼成：良好 色調：橙黄褐色	河道2
高坏	第69図 H-265	53	N2E1	暗灰色 粘質土	底径 10.0	円筒形の長い脚筒部より水平に屈曲して脚端部に至る	脚筒部外面：ハケ目 脚筒部内面：ヘラケズリ 脚端部外面：ヨコナデ 脚端部内面：ナデ	胎土：1㎜未満の白色砂粒を少量含む 焼成：良好 色調：褐色	
高坏	第69図 H-266	53	I区 トレンチ内	青灰色 砂質土	底径 12.8	ゆるやかに開く脚部	外面：ハケ目 内面：ヘラケズリ	胎土：1㎜前後の白色砂粒を多く含む 焼成：良 色調：暗灰褐色	
坏	第69図 H-267	53	N3E1	赤褐色 砂質土	口径 11.0 器高 4.9	半球形の坏，口縁端部は内湾	口縁部：ヨコナデ 体部外面：ヘラケズリ 体部内面：刷毛状工具による多方向のナデ	胎土：密 焼成：良好 色調：淡橙褐色	河道2
坏	第69図 H-268	53	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 13.5	体部～口縁部内湾	体部外面：ヘラケズリ 後ナデ 口縁部：ヨコナデ	胎土：1㎜大の砂粒を含む 焼成：良好 色調：淡黄灰色	河道2
坏	第69図 H-269	53	表採		口径 13.8	底部は平，口縁部は外反気味，内面に赤色顔料塗布	ナデ	胎土：密 焼成：良好 色調：淡肌色	
甑	第70図 H-270	54	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 33.6	口縁部やや外傾	外面：ナデ 内面：上半 ナデ，下半ヘラケズリ	胎土：1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：淡褐色	
甑	第70図 H-271	54	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 22.9	牛角状の把手，口縁部外面に沈線，端部は平坦につくる	外面：ハケ目 内面：ヘラミガキ	胎土：2㎜前後の砂粒を多量に含む 焼成：良好 色調：灰褐色	河道2
甑	第70図 H-272	54	排土		底径 15.5	底部の破片，直径9㎜の円孔	外面：ハケ目（タテ） 内面：ヘラケズリ	胎土：1～2㎜大の砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰色	
甑	第70図 H-273	54	N2E0	暗灰色 粘質土	底径 18.8	底部の破片，直径8㎜の円孔	外面：ハケ目 内面：ヘラケズリ		
かまど	第70図 H-274	54	N2E3	赤褐色 砂質土		底部破片	外面：ハケ目 内面：ヘラケズリ 端部は面取り	胎土：1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：淡褐色	

4．近畿系土器・瓦質土器

近畿系土器としたものは，近畿地方からの搬入品と考えられるものと，近畿地方の土器製作技法を使って当地で作ったと思われるものの両者を含んでいる。タタキをもつ直口壺，甕，小形丸底壺，布留式甕，器台等の器種が見られる。

直口壺（E-1～3）

E-1は口径13.2cm，器高31.2cmを測る直口壺である。軽く外傾する口縁部をもち，胴部は張り出している。底部は丸みを帯びた小さな台状を呈し，正立させることはできない。胴部は荒い平行タタキにより成形される。胴部下半5分の1位まではタタキが螺旋状に回り，その上部で一旦水平方向に変わる。その後，斜め右上がりの不連続なタタキが何回か施され，頸部に至る。分割成形されていると考えられる。器面の調整は口縁部ヨコナデ，外面は肩の一部に乱雑なヘラミガキ，胴部最大径から下半の一部にヘラケズリが施され，内面上半はナデ，下半は放射状のハケ目が施される。最大径下寄りに焼成後あけたと思われる縦6cm，横6cm以上の円孔がある。外面下半には，一面にススが付着している。

E-2は形態的にはE-1とほぼ同様のもので，胴部下半を欠いている。口径は13.2cmを測る。胴部はやはり右上がりのタタキで成形されているが，縦方向の2種類のハケ目で調整され一部にタタキの痕跡を残すのみとなっている。内面は指頭圧痕が顕著でありやや下がった位置からはハケ目が見られる。口縁部には細いヘラミガキが乱雑に施されている。

E-3は口径約15cmと，やや大形になる。頸部の屈曲部分がなだらかに作られているため，E-1・2と違い，頸の締まらない印象を受ける。胴部下半を欠くが，残存する胴部上半にはタタキは認められない。肩部に横方向のハケ目が施され，内面は頸部よりやや下がった位置からヘラケズリが施される。口縁部はヨコナデとナデで調整され，一部にハケ目が残る。

甕（E-4～10）

E-4は頸部から胴部外面にタタキ目の見られるもので，口頸部が「く」の字状に屈曲し，胴部を張り出させたものである。口縁部はヨコナデされ，端部は丸く終わる。内面は工具によるナデが行われ，ヘラケズリは見られない。

E-5は口頸部が「く」の字状に屈曲したもので，端部は内側に肥厚気味になっている。内面の頸部以下には荒いハケ目が施される。

E-6・7は口縁部が直線的に開いた後，わずかに内湾し，端部内面が肥厚気味になるものである。

頸部以下の内面はヘラケズリが施される。

E-8は口縁部が内湾気味に開くもので，端部は内外に肥厚して平坦面をもつ。胴部は細かいタタキによって成形されたものとみられ，一部にその痕跡が残る。全体の形状は長胴形である。口縁部は横方向のハケの後ヨコナデ，胴部外面は細かい縦方向のハケの後，肩部に横方向のハケ，内面は指頭圧痕状のくぼみが顕著で肩部以下にヘラケズリが施される。

E-9は口縁部が内湾して開くもので，端部は丸みを帯びて内側に肥厚する。肩部はよく張り，球形の胴部となる。口縁部はヨコナデ，胴部外面ハケ目，内面ヘラケズリが施され，器壁は薄い。

E-10は内湾気味に開く口縁部の小片で，端部は内傾し段をなす。

小形丸底壺（E-11）

E-11は外傾する口縁部と球形の胴部をもつほぼ完形のものである。口径9.4cm，器高10.7cmを測る。胴部外面上半には水平方向の荒いタタキ目がみられ，ハケによって部分的に消されている。内面は底部から放射状に強くナデ上げられる。肩部には粘土の接合痕とみられる亀裂が走り，全体に調整の雑さが目につく。

器台形土器（E-12）

器受部は逆「ハ」字状に開くもので，端部は複合状を呈する。内部は中空で円筒状の筒部からゆるやかに開くが，裾部以下を欠き全形は判らない。受部外面はナデ，内面は細かいヘラミガキ，脚部外面は縦方向のヘラミガキ，内面はヘラケズリが施される。

瓦質土器（E-13）

外面には目の詰まった細かい平行タタキが交差して施され，内面にはナデが施される瓦質の焼きの土器である。粘土紐のつなぎ目を水平におくと，炭化物の付着した部分が内面の中心に位置し，底部付近のかなり大きな丸底の破片であることが判る。

以上，E-1～13の土器の形態と手法について簡単に述べたが，それぞれの土器について若干の検討をしておく。

E-1は近畿地方からの搬入品とみられるものである。タタキによって分割成形する技法は近畿地方において第V様式期に盛行し，庄内式併行期にもV様式系の手法として，主に甕に残るといわれている。[註1] E-2もE-1と同様の形態をもつものであるが，外面のタタキをハケ目で消しており，やや後出的な要素をもつものかも知れない。

E-3の直口壺に似たものは，九重遺跡[註2]・神原神社古墳[註3]・松本1号墳[註4]の出土品の中に見られ，かな

りの時期幅をもつ。九重遺跡のものはタタキで成形した後，外面は入念なヘラミガキが行われ，内面はヘラケズリされる。この土器は，器壁の厚い平底になっている。神原神社古墳出土のものは口縁端部が内外に肥厚し，はっきりした平坦面をもっていることから，E-3の壺よりも後出的なものと考えられる。神原神社古墳出土土器の胴部下半にはタタキの痕跡が一面に残っているが，E-3は胴部下半を欠損しており，タタキの存在を確認できない点が残念である。E-3は直口口縁の土器であること，E-3の前後に置けると考えられる土器が，タタキ成形であることをもって近畿系土器の扱いとしたが，壺の内面をヘラケズリする技法や，肩部に施された横方向のハケ目は近畿ではほとんど見られないといわれており，山陰の土器の系譜の中でとらえるべきものかもしれない。

E-4の甕もE-1の壺と同様の胎土をもち，第Ⅴ様式系統の技法によって作られたもので，搬入品と考えられる。器腹の張る形態になり，E-1の壺も併せて庄内式早葉併行と考えられる。

E-5～10は布留系の甕である。E-5の内面頸部以下に施される荒いハケ目は庄内式から布留式への過渡期的なものの模倣と考えられ，最も古相を示すものである。E-8は搬入品と目される唯一の布留甕で，布留式中段階のものと考えられる。E-9はE-8よりもやや後出的なもの，E-10は布留式新段階併行のものと考えられる。

E-11の小形丸底壺は，荒い水平方向のタタキをもつ庄内大和型の特徴をふまえて作られている。器形は布留式期にも見られるものである。

E-12の器台形土器は器形・手法と言う点においては近畿地方のものであるが，胎土は在地のものかもしれない。

E-13は瓦質の丸底広口壺と考えられ，朝鮮半島で作られた可能性の高いものである。出土地点は河道4の堆積土中であるが，この流路から出土している他の遺物の下限は古墳時代前期と考えられるので，この土器も布留式併行期の内にあるものと考えたい。上限は韓国の出土例からすると弥生時代終末期と考えられる。[註5] もし半島製のものとすればどういう経路をたどってこの地まで運ばれて来たのか非常に興味のもてる所である。

E-1～13の土器群は庄内式早葉併行から布留式新段階までの幅をもつものである。搬入品と考えられるものも数点あり，物と技術の交流がこの間に朝酌川周辺地域で連続して行われていたということができよう。

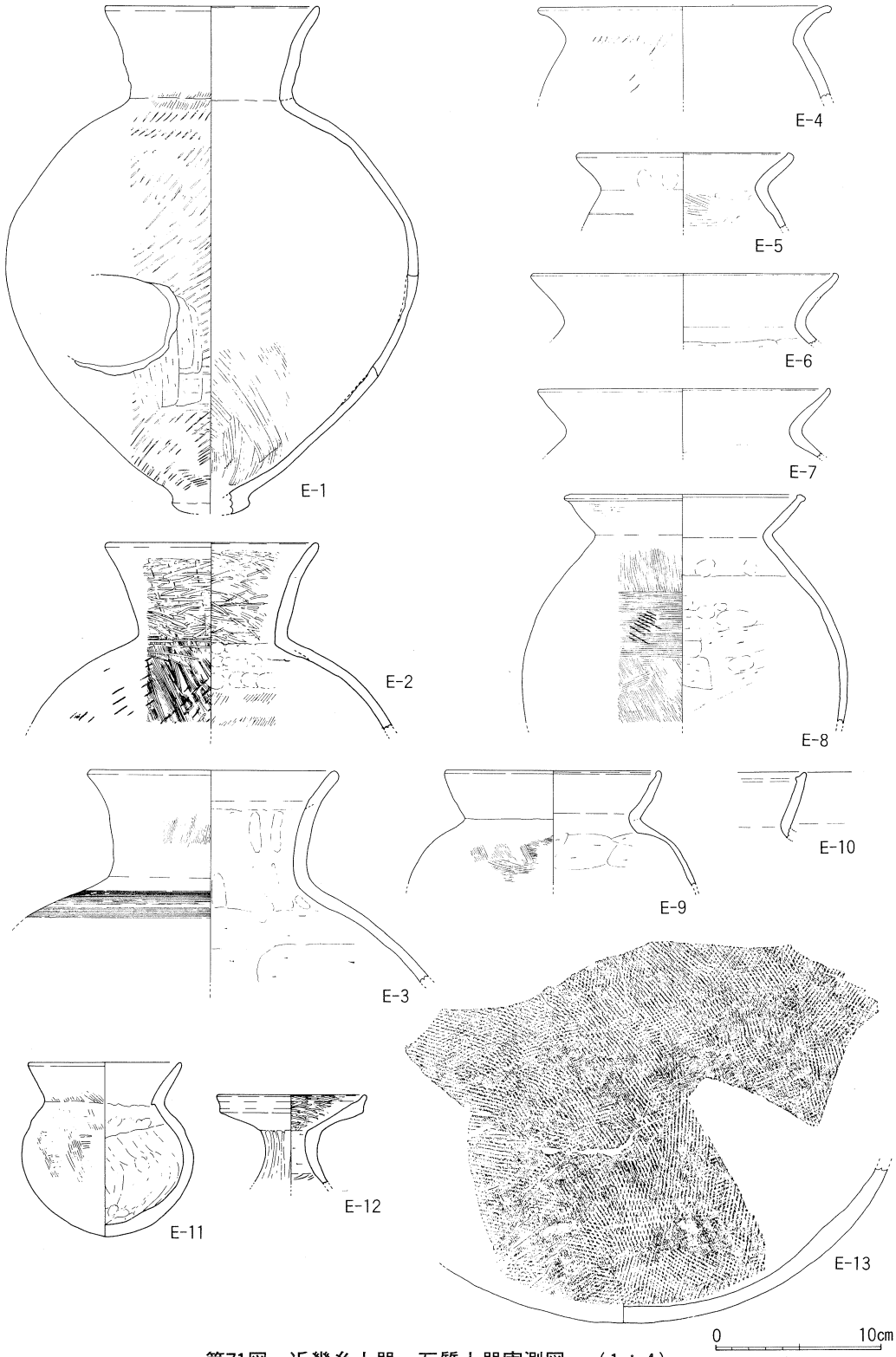
註1　豊中市の柳本照男氏のご好意により，E-1と同様の形態と技法をもつ壺を整理中の穂積遺跡出土品の中に実見することができた。第Ⅴ様式末期のものとのことであった。

註2　内田才・東森市良・近藤正 「島根県安来平野における土壙墓」『上代文化』 36　1996年

註3　前島己樹・松本岩雄 「島根県神原神社古墳出土の土器」『考古学雑誌』 62－3　1976年

註4　山本清 『松本古墳調査報告』 島根県教育委員会　1963年

註5　西谷正氏より韓国中部忠清北道の清州に出土例があるとの御教示を受けた。



第71図　近畿糸土器，瓦質土器実測図　（1：4）

近畿系瓦質土器観察表

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
直口壺	第71図 E-1	55	N1E2	赤褐色 砂質土	口径 13.2 器高 31.2	直口の口縁。胴部は張る。小さな底部，胴部に焼成後の穿孔	口縁部：ナデ 体部外面：右あがりの叩き一部ヘラケズリ 体部内面：上半 ナデ，下半 放射状のハケ目	胎土：密，1㎜未満の砂粒を含む 焼成：良好 色調：外 灰色，内 黒灰色	外面下半にススが付着
直口壺	第71図 E-2	55	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 13.2	わずかに外反する直口の口縁。胴部はよく張る	口縁部：ハケ目後細かいヘラミガキ 体部外面：右上がりの叩きの上からハケ目とヘラミガキ 体部内面：指頭圧痕とハケ目	胎土：小砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：黄灰褐色	
直口壺	第71図 E-3	55	S2W1	灰褐色 砂礫層	口径 15.5	直口の口縁。端部近くでわずかに外反，胴部は張る	口縁部外面：ハケ目（タテ）後ヨコナデ 口縁部内面：上半 ヨコナデ，下半 ナデ 肩部外面：ヨコナデ，胴部内面：ヘラケズリ	胎土：1㎜未満の白色砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：灰褐色	河道4
甕	第71図 E-4	56	中央ベルト	暗青灰色 砂層	口径 18.0	口縁部は「く」の字状に屈曲して外反，ナデ肩	口縁部：ヨコナデ，体部外面：右上がりの叩き後ナデ 体部内面：ヘラ状工具によるナデ	胎土：1～2㎜大の砂粒を白色砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	外面にスス付着 河道2
甕	第71図 E-5	56	S52年度調査区	埋土	口径 12.8	「く」の字に屈曲する口縁部，端部内面はわずかに肥厚	口縁部：ヨコナデ 頸部以下内面：荒くて強いハケ目	胎土：1～3㎜大の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：外 灰褐色，内 黒灰色	外面にスス付着
甕	第71図 E-6	56	N3E1	暗灰色 砂礫層	口径 18.6	「く」の字に屈曲する口縁部，端部内面はわずかに肥厚	口縁部：ヨコナデ 体部内面：ヘラケズリ	胎土：1㎜前後の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：灰褐色	河道2
甕	第71図 E-7	56	N3E1	赤褐色 砂礫層	口径 17.8	「く」の字に屈曲する口縁部，端部内面はわずかに肥厚	口縁部：ヨコナデ 体部内面：ヘラケズリ	胎土：1㎜未満の白色小砂粒を含む 焼成：良 色調：灰褐色	河道2
甕	第71図 E-8	56	N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 13.8	「く」の字に屈曲する口縁部，端部は平坦面をなし，内外に肥厚	口縁部：ハケ目後ヨコナデ 叩きで形成し，外面は細かいハケ目 内面：ヘラケズリ	胎土：1～2㎜大の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：淡褐色	外面にスス付着
甕	第71図 E-9	56	N2E1	暗青灰色 砂層	口径 13.4	口縁端部内面わずかに肥厚，胴張りのする薄づくりの体部	口縁部：ヨコナデ 体部外面：ハケ目 体部内面：ヘラケズリ	胎土：1～2㎜大の砂粒を含む 焼成：良好 色調：淡灰肌色	河道2
甕	第71図 E-10	56	N3E1	青灰色 砂礫層		口縁部の小片，端部内面肥厚，斜めの面をなす	ヨコナデ	胎土：1㎜前後の砂粒を含む 焼成：良好 色調：暗灰色	河道2
小形丸底壺	第71図 E-11	55	N2E1	暗灰色 砂質土 上面	口径 9.4 器高 10.7	外傾する口縁。球形の体部，丸底	外面：水平方向の叩きの上から縦方向のハケ目 内面：放射状に強くナデあげる	胎土：1㎜前後の砂粒を多量に含む 焼成：良 色調：淡灰褐色	
器台	第71図 E-12	55	N1E0	淡灰色 砂質土	口径 9.0	複合状を呈する上台部	上台部内面：細かいヘラミガキ 脚部外面：ヘラミガキ 脚部内面：ヘラケズリ	胎土：密，小砂粒を含む 焼成：良好 色調：乳灰色	
丸底広口壺	第71図 E-13	55	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層		丸底，瓦質，外面は細かい平行叩きが多方向に施される。内面はナデ仕上，内面に炭化物付着		胎土：密，1㎜前後の砂粒を含む 焼成：良好，瓦質 色調：灰褐色	

5．須　　恵　　器

須恵器は河道２の堆積土と，河道２が最後に埋まったとき周辺に同時に堆積した赤褐色砂質土，その上層の暗褐色粘質土，および河道３の堆積土から出土しており，完形を保つものが多数を占めた。出土総点数は86点あり，すべてを実測し，うち81点を掲載した。第74図（SU-42～57）が河道３の出土須恵器のすべてであり，それ以外のものは河道２，赤褐色砂質土，暗褐色粘質土から出土したものである。

(1)　古墳時代の須恵器（第72図　SU-1～14，第75図　SU-65）

山本編年Ⅰ期に属すると考えられるものはSU-1・2・3・6である。

坏蓋（SU-1・2）

SU-1は口縁部が直立し，天井部との境に鋭い稜をもつものである。口唇内面は段をなす。口径11.8cm，器高4.5cmを測る。天井部にはていねいな回転ヘラケズリを，ほぼ全面に施す。SU-2は小破片あるがSU-1と同様のものであろう。

坏身（SU-3・6）

SU-3は立ち上がり部が内傾から，直立して高く伸び，口唇内面に段をもつものである。受部は水平方向に延びる。SU-6も同様のものの小破片である。

山本編年Ⅲ期に属すると考えられるものはSU-4・5・7～11・12・65である。

坏蓋（SU-4・5）

SU-5は口縁部と天井部との境に２条の沈線を巡らし，その間に不明瞭な稜を作り出すものである。口唇内面には沈線が巡り，天井部外面にはていねいな回転ヘラケズリを施す。

SU-4は，やはり２条の沈線による不明瞭な稜をもつものである。SU-5との相違点は，口縁部が開き気味になり，口唇内面の沈線もくぼみ状に浅い点である。

坏身（SU-7～11）

SU-8・9は内傾する比較的高い立ち上がりをもち，受部は水平方向に出るものである。底部外面に回転ヘラケズリを施し，全体に丸みを帯びる。SU-7・10・11も同様のものである。

蓋（SU-12）

口縁部と天井部の境に浅い１条の沈線が巡るものである。壺と組み合わされる蓋と考えられる。内外面とも回転ナデ調整である。

高坏（SU-65）

脚部の小破片である。透かしと２条の沈線をもつ。内外面とも回転ナデ調整である。

山本編年Ⅳ期に属すると考えられるものはSU-13・14である。

坏蓋（SU-13）と坏身（SU-14）があるが，両者とも口縁部を欠く。SU-13の天井部は回転ヘラ切りの後ナデ，SU-14の底部は回転ヘラ切りの後ナデ調整が施される。

(2) 奈良～平安時代の須恵器

（第72～75図　SU-15～59，第75図　SU-61～63，第75～77図　SU-66～81）

坏蓋（SU-15～18）

SU-16・18は輪状つまみの付くものである。口縁端部は下垂する。天井部外面には回転ヘラケズリが施された後，低いつまみが貼り付けられる。SU-15・17も同じ作りのものであるが，やや器高が高くなる。

高台付坏（SU-19～25）

SU-21は内湾する坏部に「ハ」の字に開く比較的高い高台を付けるもの，SU-19は同様の坏部に直立気味の高台を付けるものである。また，SU-20・23・25は口縁部が内湾せずにそのままのびるものである。底部はSU-21・23が静止糸きりの後回転ナデ，SU-19は回転糸きりの後回転ナデ調整を行う。

SU-24は直線的に開く口縁部をもち，平坦な底部端に低い高台を付けるものである。底部は回転糸きりを行い，切り放し後の調整は行わない。

無高台の坏（SU-26～55）

無高台の坏は口縁部の形状から３種に分類した。即ち，口縁部にくびれをもつものをⅠ類，体部は内湾するが口縁部が内湾せずにそのまま伸びるものをⅡ類，口縁部が直線的に開くものをⅢ類とする。

Ⅰ類は，さらに３種に細分できる。

Ⅰ－1類（SU-26～34）は，体部が内湾し，口縁部をくびれさせ，内面に稜をもった，底部の平らな坏である。切り離しはいずれも回転糸きりによって行われ未調整のままである。

Ⅰ－2類（SU-35～38）は体部の内湾度が低く，口縁部外面をくびれさせるが，内面には明瞭な稜をもたないものである。底部外面は回転糸きりを行うが，切り放し後の調整は行わず，平らになっている。

Ⅰ－3類（SU-39・40）としたものは，くびれ部内面を肥厚させ段をなすものである。小形ながら厚手の土器である。

SU-46も全形はこの類に似るが，端部内面の形状は肥厚するのみであいまいである。

Ⅱ類（SU-41）は口縁部が内湾せず，そのまま延びるものである。SU-41の1点のみが出土している。体部は浅く，底部は糸きりされて平らである。

Ⅲ類は口縁部が直線的に開くもので，2種に細分できる。

Ⅲ－1類（SU-43・46）は底部から丸みをもって口縁部へ達し，底体部界に稜線をもたないものである。口径と底径の差はさほど大きくない。底部外面は回転糸きりで，外縁がナデ調整される。

Ⅲ－2類（SU-47～55）は底径が縮小し口縁部が大きく開くものである。底体部界ははっきりした稜線をもって屈曲する。器壁は薄く，成形時の回転による器面の凹凸が顕著である。底部は回転糸きりされる。

高台付きの碗（SU-56）

器壁は薄く，成形時の回転による器面の凹凸が顕著である。底部は回転糸きりされ，高台が付く。端部を欠くが「ハ」の字に開く，高い高台のようである。

皿（SU-57～59）

口縁部が短く外反するもの（SU-58・59）と，直線的に大きく開くもの（SU-57）の2種類が見られる。

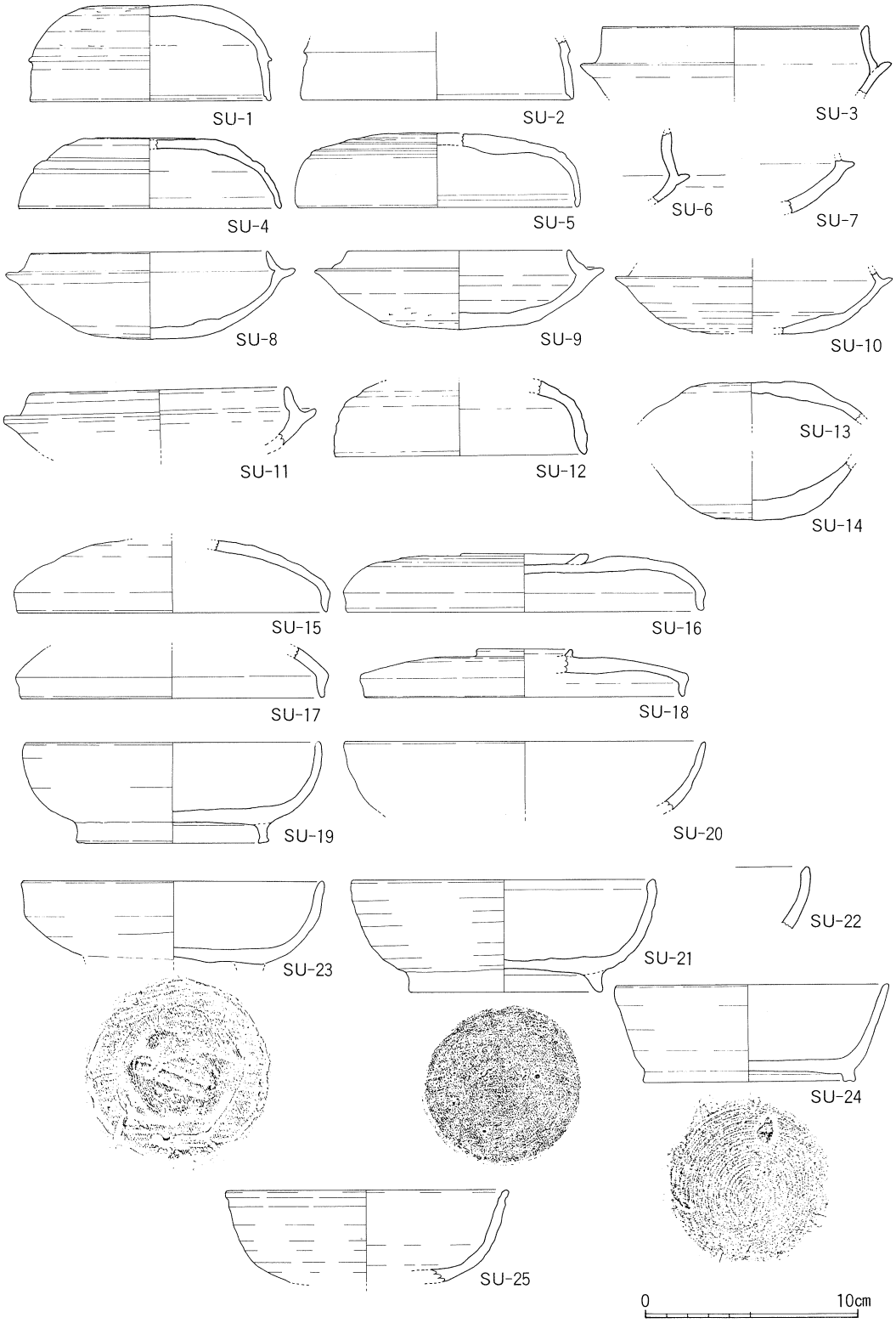
盤（SU-61～63）

SU-61は底部外縁よりかなり内側に高台の付くもので，底部外面は回転ナデ調整される。

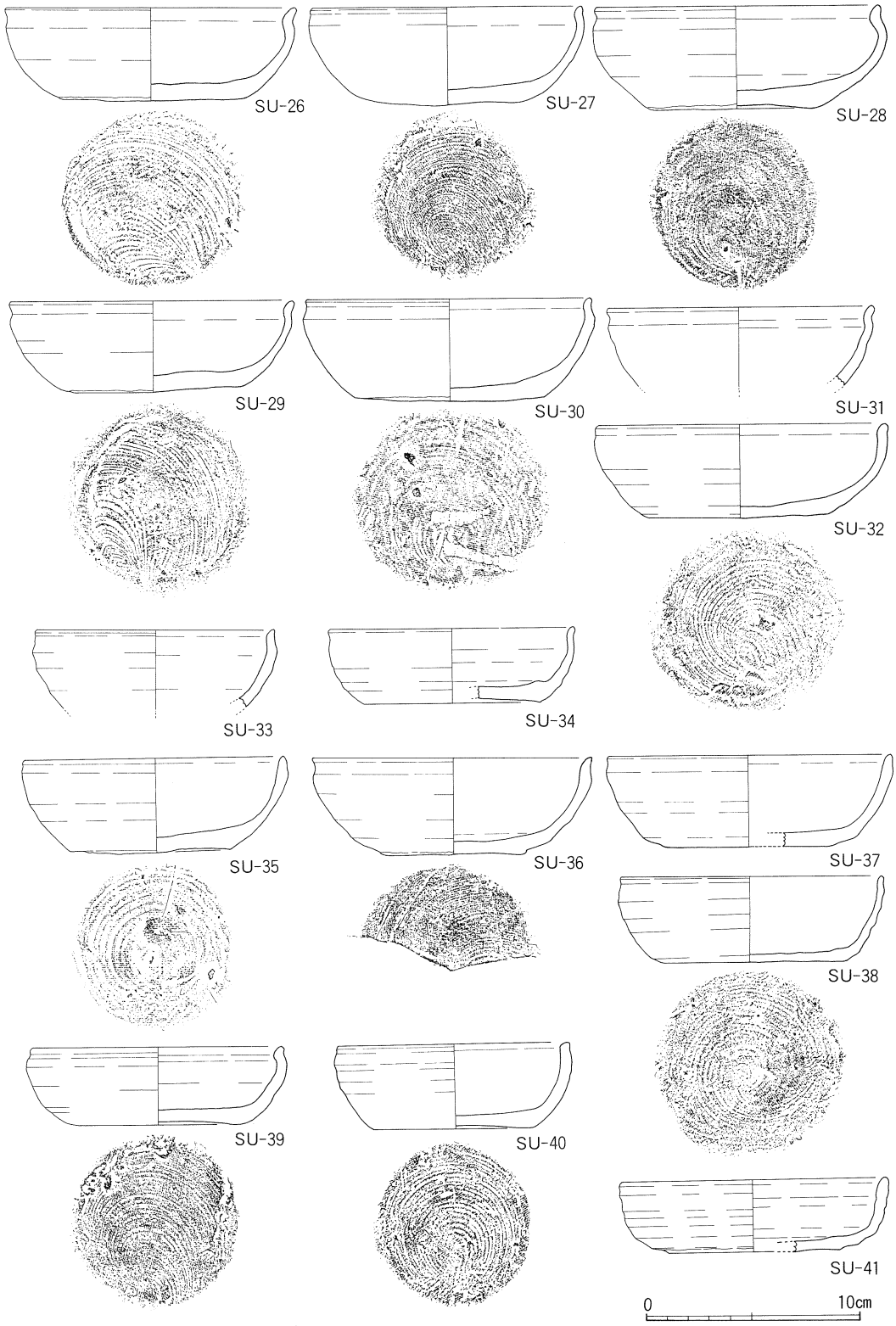
SU-62・63は底部外縁に高台の付くもので，底部外面は回転糸きりの後調整を行っていない。

長頸壺（SU-68～75）

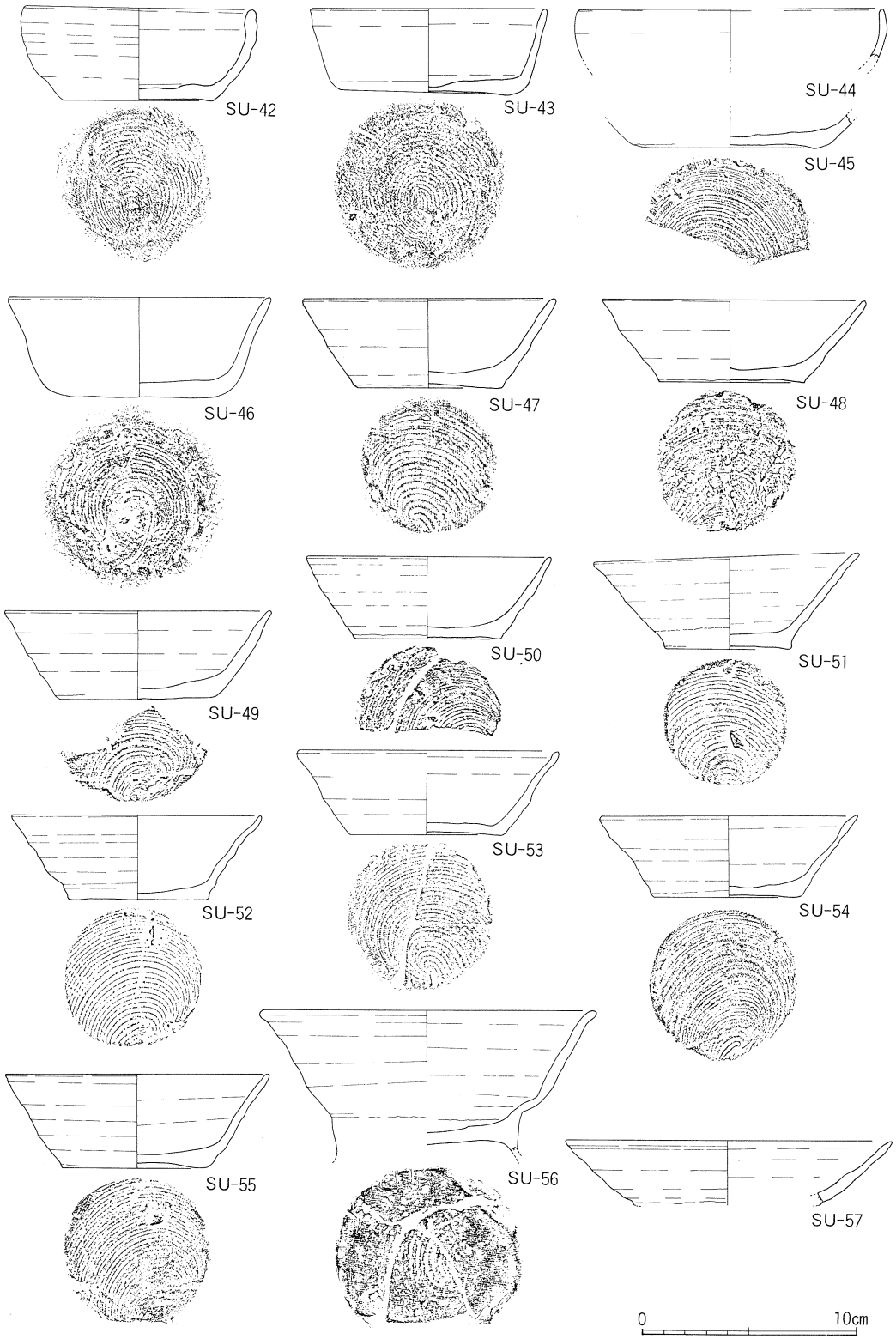
SU-68は肩部が強く張り，胴部との境が丸く作られるものである。「ハ」の字に開くしっかりし



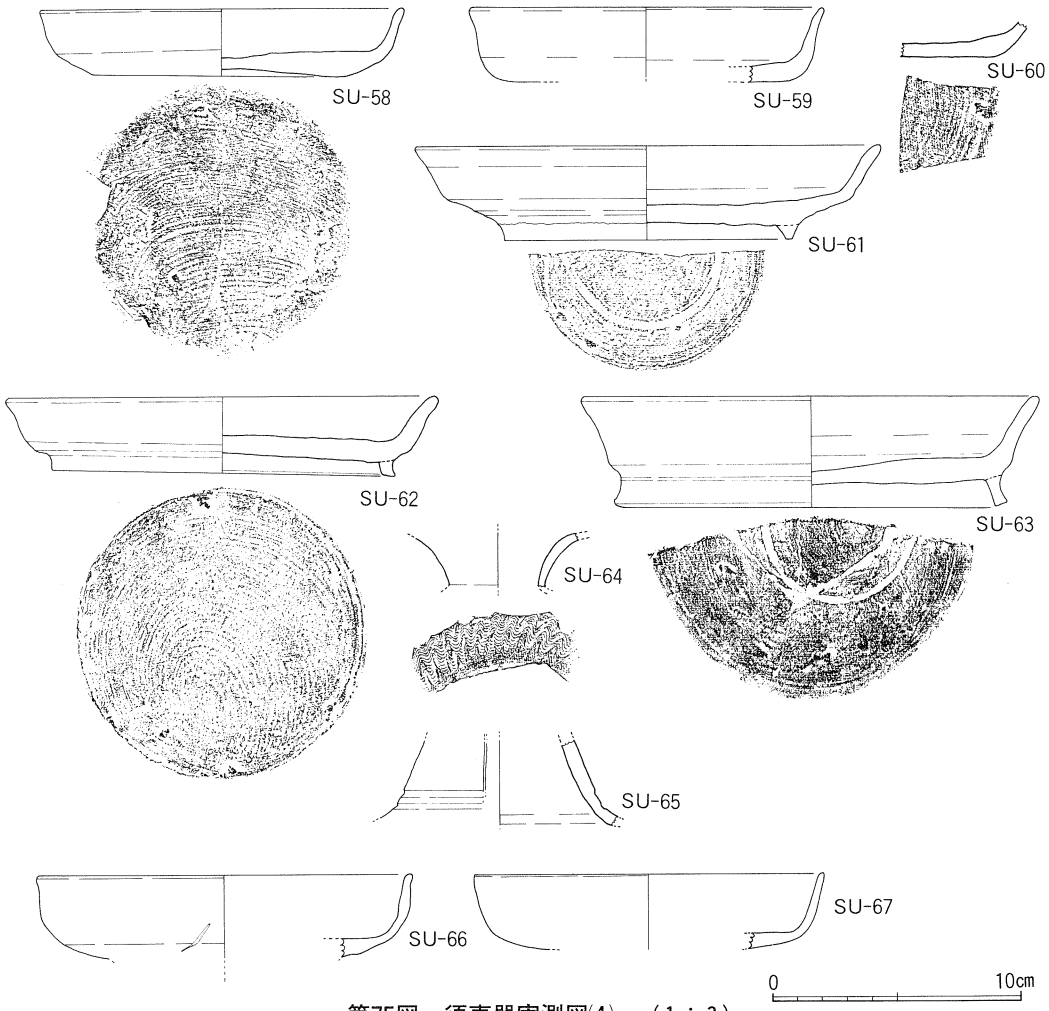
第72図　須恵器実測図(1)　（1：3）



第73図　須恵器実測図(2)　（1：3）



第74図　須恵器実測図(3)　（1：3）



第75図　須恵器実測図(4)　（1：3）

た高台が付けられる。底部外面は静止糸きりの後回転ナデが施される。

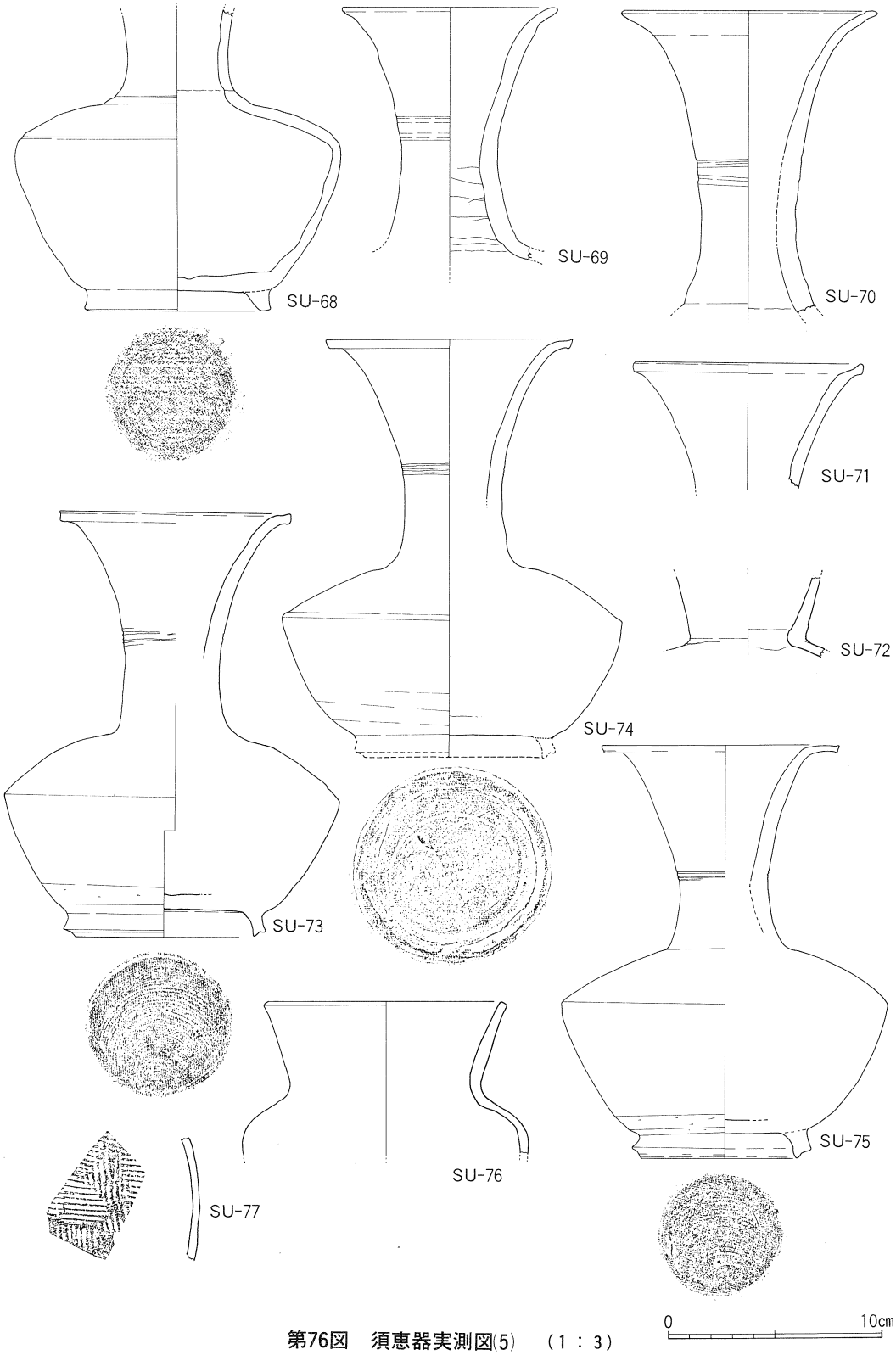
SU-69・70は口頸部のみ残存するもので，端部は面をなさず，丸みをもって終わるものである。SU-68のようなタイプに付くものと考えられる。

SU-73～75は肩部が強く張り，胴部との境に明瞭な稜線をもって屈曲するものである。口縁端部は直立又は外傾する平坦面をもっている。高台は「ハ」の字に開き，内端が接地する。底部はSU-11が糸きりの後回転ナデ調整，SU-10・12が回転糸きり未調整である。

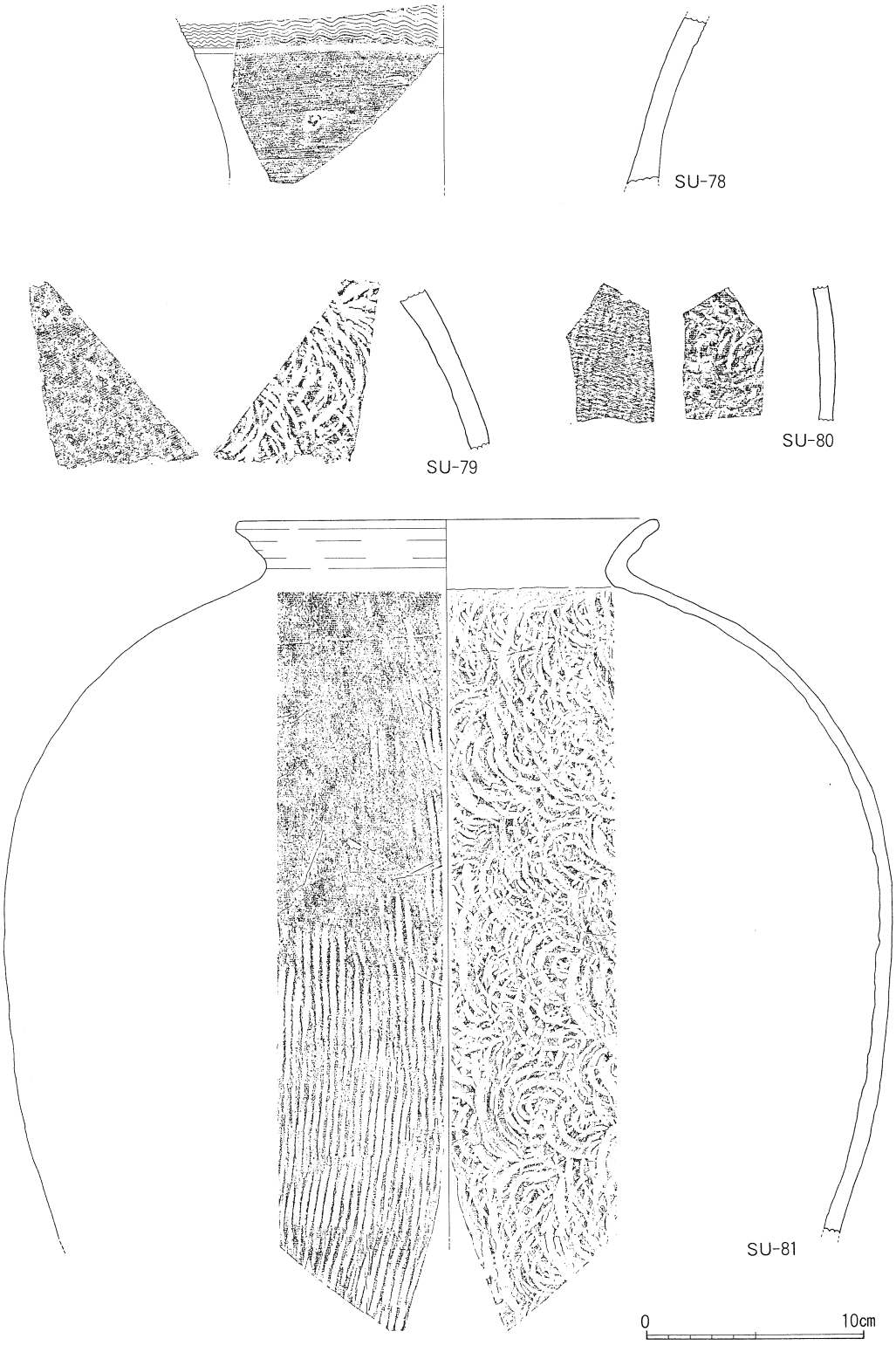
広口壺（SU-76）

肩の張る土器で白黄色の自然釉がかかっている。口縁部は回転ナデ，胴部はナデ調整である。

SU-77は壺胴部の破片と考えられる。薄手で外面平行タタキ，内面ナデのもの。



第76図　須恵器実測図(5)　（1：3）



第77図　須恵器実測図(6)　（1：3）

甕（SU-78～81）

SU-78は長頸の甕の頸部に波状文と沈線を施すものである。

SU-79は肩部の破片で，外面には緑色の自然釉が一面にかかり，内面には円弧の押し当て具痕が残る。

SU-80は胴部片であろう。

SU-81は口径19.6cm，胴部最大径40.8cmを測る大甕である。口頸部が「く」の字状に屈曲し，胴部が張り出すものである。口頸部回転ナデ，胴部外面平行タタキ，内面同心円タタキが施される。

以上見てきたように，今回出土の須恵器のうち古墳時代に属するものは15点と少なく，しかも小片のものが多いが，奈良時代以降のものは完形の土器が多数を占め，調査区の周辺に遺構が存在する可能性が考えられる。

奈良時代以降の須恵器のうち，８世紀代と考えられるものは河道２とその上層から多く出土し，10世紀にかかるかと考えられるものは河道３から出土している。後者にあたるものは無高台の坏Ⅲ－２類（SU-47～55），高台付きの碗（SU-56），Ⅲ（SU-57）等である。これらと同様の形態を示すものは神田遺跡Ⅰ区SK01，[註2] 長峯遺跡[註3]等から出土しており，その時期は10世紀前葉と考えられている。

註１　山本清　「山陰の須恵器」『山陰古墳文化の研究』　1971年

註２　『北松江幹線新設工事松江連絡線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』　島根県教育委員会　1987年

註３　『中竹矢１号墳・長峯遺跡』　松江市教育委員会　1987年

須　恵　器　観　察　表

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
坏蓋	第72図 SU-1	57	N2E1	赤褐色 砂質土	口径 11.3 器高 4.5	器高は高く，天井部は平坦，直立する口縁部との境に鋭い稜，口唇内面に段	天井外面のほとんどをていねいなヘラケズリ，その他は回転ナデ	胎土：密，1～4㎜大の白色砂粒を若干含む 焼成：良好，堅緻 色調：青灰色	河道2
坏蓋	第72図 SU-2	57	N2E1	赤褐色 砂質土	口径 12.7	口縁部は直立気味に高く伸び，天井部との境に稜をもつ。口唇部内面に段	回転ナデ	胎土：密，1㎜以下の白色砂粒を少量含む 焼成：良好，堅緻 色調：淡青灰色	河道2
坏身	第72図 SU-3	57	N3E1	暗青灰色 砂層	口径 12.4 受部径 14.6	たちあがりは高く内傾後直立，口唇内面に段	回転ナデ	胎土：密，白色小砂粒を少量含む 焼成：良好 色調：淡灰褐色	河道2
坏蓋	第72図 SU-4	57	N1E0	淡灰色 砂質土	口径 12.2 器高 3.3	天井部と口縁部の境に沈線2条	天井部外面：ていねいなヘラケズリ 天井部内面：多方向ナデ その他は回転ナデ	胎土：密，白色小砂粒を少量含む 焼成：良好 色調：灰茶褐色	河道2
坏蓋	第72図 SU-5	57	N2E0	暗灰色 粘質土	口径 13.0	天井部と口縁部の境に沈線2条，口唇内面に沈線	天井部外面：ていねいな回転ヘラケズリ 天井部内面：ナデ それ以外は回転ナデ	胎土：密，1㎜前後大の白色砂粒を若干含む 焼成：良好 色調：淡青灰色	
坏身	第72図 SU-6	57	N2E0	暗灰色 粘質土		受部は水平，たちあがりは垂直気味に高く伸びる	回転ナデ	胎土：密 焼成：良好 色調：暗青灰色	
坏身	第72図 SU-7	57	N2E1	暗青灰色 砂層	受部径 15.0	受部は水平，たちあがりを欠く	回転ナデ	胎土：密 焼成：良好 色調：灰色	河道2
坏身	第72図 SU-8	57	N3E1	青灰色 砂礫層	口径 11.0 器高 4.1 受部径 13.6	たちあがりは内傾し比較的高い	底部外面：回転ヘラケズリか 底部内面：ナデ その他は回転ナデ	胎土：密，1㎜前後の白色砂粒を若干含む 焼成：良好 色調：灰色～暗灰色	河道2
坏身	第72図 SU-9		N3E1	青灰色 砂礫層	口径 10.3 器高 3.7 受部径 13.5	たちあがりは内傾して伸び比較的高い	底部外面：回転ヘラケズリか 底部内面：ナデ その他は回転ナデ	胎土：密 焼成：良好 色調：灰色	河道2
坏身	第72図 SU-10	57	排土		受部径 13.0	たちあがりは内傾して伸びる	底部外面：回転ヘラケズリ 底部内面：ナデ その他は回転ナデ	胎土：密 焼成：良好 色調：外 黒灰色，内 青黒色	
坏身	第72図 SU-11	57	N3E2	赤褐色～青灰色 砂礫層	口径 12.0 受部径 14.6	たちあがりは内傾して比較的高い	回転ナデ	胎土：密 焼成：やや良好 色調：灰白色	河道2
蓋	第72図 SU-12	57	N4E2	青灰色 砂礫層	口径 13.6	天井部と口縁部の境に不明瞭な沈線，壺の蓋か	回転ナデ	胎土：1㎜未満の白色砂粒を少量含む 焼成：良好 色調：灰褐色	河道2
坏蓋	第72図 SU-13	57	表採	暗灰色 粘質土			天井部回転ヘラ切り後多方向ナデ	胎土：密，微小な白色砂粒を若干含む 焼成：良好 色調：淡灰青色	
坏身	第72図 SU-14	57	N3E1	赤褐色～青灰色 砂礫層		丸味を帯びた底部	底部回転ヘラ切り一部ナデ	胎土：密，1㎜前後大の白色砂粒を少量含む 焼成：良好 色調：淡灰色	河道2
坏蓋	第72図 SU-15	57	中央ベルト	暗青灰色 砂層	口径 14.4	天井中央部は残っていないが，つまみが付くであろう。器高はかなり高い。口縁端部は下垂	天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ 天井内外面：ナデ その他は回転ナデ	胎土：1㎜前後の砂粒を若干含む 焼成：良好 色調：灰色	河道2
坏蓋	第72図 SU-16	57	N1E0 しがらみ状遺構		口径 16.6 器高 2.7	天井部に低めの輪状つまみ，口縁端部は下垂	天井部外面：回転ヘラケズリ 天井部内面：多方向ナデ その他は回転ナデ	胎土：密 焼成：良好，堅緻 色調：外 淡黒灰色，内 暗灰色	河道2
坏蓋	第72図 SU-17	57	N3E1	暗赤褐色 砂層	口径 14.2	端部は下垂し，断面三角形状	回転ナデ	胎土：密，1～2㎜前後の白色砂粒を含む 焼成：良好 色調：淡青灰色	河道2
坏蓋	第72図 SU-18	57	N3E2	暗青灰色 砂層	口径15.0 器高 2.25	天井部に低い輪状つまみ，口縁端部は下垂	天井部外面：回転ヘラケズリ 天井部内面：ナデ その他は回転ナデ	胎土：密 焼成：良好 色調：青灰色	河道2
高台付坏	第72図 SU-19	58	N2E2	暗灰色 砂質土	口径13.7 器高 4.75 底径 9.0	体部はゆるやかに内湾，細めの比較的高い高台	底部外面：回転糸切り後ナデ 底部内面：多方向ナデ その他は回転ナデ	胎土：密，1㎜未満の白色砂粒をかなり含む 焼成：良好，堅緻 色調：外 暗青灰色～暗灰色，内 淡青灰色	河道2
坏	第72図 SU-20	57	N1E0	暗赤褐色 砂層	口径 18.6	口縁部の小破片，高台の付くタイプのものか	回転ナデ	胎土：密 焼成：良好 色調：灰色	河道2

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
高台付坏	第72図 SU-21	58	中央ベルト	暗青灰色砂層	口径14.1 器高 5.25	体部は内湾,上げ底の底部端に高台を付ける	底部静止糸切り後回転ナデ	胎土:密,1㎜前後の白色砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:暗灰色	河道2
坏	第72図 SU-22	57	S52年度調査区	埋土		口縁部の小破片	回転ナデ	胎土:密,微小な白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗青灰色	
高台付坏	第72図 SU-23	58	N4E2	暗灰色砂礫層	口径 14.0	体部は内湾,高台は剝離	底部外面:静止糸切り,高台貼付け後回転ナデ	胎土:1～7㎜大の砂粒をかなり多く含む 焼成:良好 色調:灰色	河道2
高台付坏	第72図 SU-24	58	N2E1	暗褐色粘質土	口径 12.8 器高 4.6 底径 10.0	口縁部は外傾して伸びる。上げ底気味の底部端に低い高台	底部外面:回転糸切り	胎土:密,1～4㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	
坏	第72図 SU-25	57	N2E1	暗灰色粘質土	口径 13.2	口縁部は外傾,口縁部外面沈線状に深くくぼむ	回転ナデ	胎土:白色微砂粒をわずかに含む 焼成:良好 色調:明青灰色	
坏	第73図 SU-26	58	N2E1	暗赤褐色砂層	口径 13.8 器高 4.4	口縁部がくびれ,内面にかすかな稜,底部は平	底部外面:回転糸切り	胎土:密,1～3㎜大の白色砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:淡青灰色～暗青灰色	河道2
坏	第73図 SU-27	58	N3E1	赤褐色砂質～砂礫層	口径 12.6 器高 4.6	体部は内湾し,口縁部でわずかにくびれる。底部は平	底部外面:回転糸切り	胎土:密 焼成:良好 色調:淡青灰色	河道2
坏	第73図 SU-28	58	N3E1	暗青灰色砂層	口径 13.2 器高 4.8	体部は内湾し,口縁部でくびれて,内面にかすかな稜,やや上げ底	底部外面:回転糸切り痕	胎土:密,1～2㎜大の砂粒を若干含む 焼成:良好 色調:淡青灰褐色～淡黒褐色	河道2
坏	第73図 SU-29	58	N2E1	暗赤褐色砂層	口径 13.4 器高 4.3	体部は内湾し,口縁部でくびれる。底部は平	底部外面:回転糸切り	胎土:密,1～3㎜大の白色砂粒を若干含む 焼成:良好 色調:灰色	河道2
坏	第73図 SU-30	58	N2E1	暗赤褐色砂層	口径 13.2 器高 4.8	口縁部はくびれて,内面にかすかな稜,底部は平	底部外面:回転糸切り 底部内面:多方向ナデ	胎土:密,1㎜未満の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰色	河道2
坏	第73図 SU-31		N2E1	暗青灰色砂層	口径 12.3	口縁部のくびれるタイプ	回転ナデ	胎土:密,1㎜未満の白色砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:灰色～青灰色	河道2
坏	第73図 SU-32	58	N2E1	暗赤褐色砂層	口径 13.7 器高 4.4	口縁部はわずかにくびれて内面にかすかな稜,底部は平	底部外面:回転糸切り	胎土:密,1㎜までの白色砂粒を若干含む 焼成:良好 色調:灰色～青灰色	河道2
坏	第73図 SU-33			暗赤褐色砂層	口径 11.2	口縁部はわずかにくびれて内面でかすかな稜	回転ナデ	胎土:密 焼成:やや軟質 色調:淡灰色	河道2
坏	第73図 SU-34		N2E0	暗灰色砂質土	口径 11.4 器高 3.5 底径 8.2	口縁部のくびれるタイプ。やや上げ底	底部外面:回転糸切り 底部内面:多方向ナデ,それ以外は回転ナデ	胎土:1㎜未満の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
坏	第73図 SU-35	58	N3E1	暗赤褐色砂層	口径 12.2 器高 4.5 底径 7.6	平坦な底部,口縁部外面は軽くくびれるが内面は稜をもたない	底部外面:回転糸切り	胎土:密,1㎜未満の白色砂粒を含む 焼成:良 色調:暗青灰色	河道2
坏	第73図 SU-36	58	N3E1	赤褐色～青灰色砂礫層	口径 13.0 器高 4.5	体部は内湾し,口縁部でわずかにくびれる。底部は平	底部外面:回転糸切り	胎土:密,1～5㎜大の砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道2
坏	第73図 SU-37			暗赤褐色砂層	口径 13.2	口縁部はわずかにくびれる	底部回転糸切り	胎土:密,1㎜未満の白色砂粒を若干含む 焼成:良好 色調:暗灰色	河道2
坏	第73図 SU-38	58	N3E1	赤褐色砂層	口径 12.2 器高 4.1	体部は内湾気味に伸び,口縁端部近くでごくわずかにくびれる。器壁はうすい	底部回転糸切り	胎土:密 焼成:良好 色調:青灰色	河道2
坏	第73図 SU-39	58	N2E1	暗灰色粘質土	口径 11.8 器高 3.7 底径 7.8	口縁部はくびれ,内面に稜を持つ。やや上げ底	底部外面:回転糸切り	胎土:密,1㎜前後の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰青色～灰褐色	
坏	第73図 SU-40	58	N3E0	暗灰色粘質土	口径 9.8 器高 4.0 底径 7.6	口縁端部内面に稜,やや上げ底	底部回転糸切り	胎土:1～3㎜大の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗青灰色～暗褐色	
坏	第73図 SU-41	58	N4E2	暗灰色砂礫層	口径 12.2	浅めの坏,底部は平	底部外面:回転糸切り	胎土:白色小砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:青灰色	河道2

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
坏	第74図 SU-42	59	N5E1	暗灰色 砂礫層	口径 10.5 器高 4.4 底径 6.9	平坦な底部,口縁内面にかすかな稜	底部外面:回転糸切り	胎土:1～2㎜大の砂粒(白色,灰色) 焼成:良好 色調:青灰色	河道3
坏	第74図 SU-43	59	N4E1	淡褐色 砂質土	口径 11.0 器高 4.0 底径 7.6	平坦な底部よりやや丸味をもってたちあがり,外傾して伸びる	底部外面:回転糸切り	胎土:0.5～3㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良 色調:暗灰色	河道3
坏	第74図 SU-44	59	N4E1	暗灰色 粘質土	口径 14.0	内湾する口縁部の小破片	回転ナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:えび茶色～灰色	河道3
坏	第74図 SU-45	59	N4E2	暗灰色 粘質土	底径 7.8	上げ底気味の底部より内湾してたちあがる	底部外面:回転糸切り	胎土:密 焼成:やや軟 色調:淡灰色	河道3
坏	第74図 SU-46	59	N4E1	淡褐色 砂質土	口径 12.2 器高 4.6 底径 7.4	平坦な底部より丸味をもってたちあがり,やや外反して口縁端部に至る	底部外面:回転糸切り	胎土:密,1㎜未満の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色,暗灰色	河道3
坏	第74図 SU-47	59	N3E1 N4E1	暗褐色 粘質土	口径 11.6 器高 4.1 底径 6.6	やや上げ底の底部より直線的に外傾してたちあがる	底部外面:回転糸切り	胎土:1㎜未満の砂粒を若干含む 焼成:やや軟 色調:淡褐色,淡橙色	河道3
坏	第74図 SU-48		N3E1	暗褐色 粘質土	口径 12.3 器高 3.9 底径 6.8	平坦な底部より直線的に外傾ししてたちあがる	底部外面:回転糸切り	胎土:密,小砂粒を若干含む 焼成:やや軟 色調:淡橙褐色	河道3
坏	第74図 SU-49		N5E1	暗灰色 粘質土	口径 12.4 器高 4.1 底径 7.2	平坦な底部より直線的に外傾ししてたちあがる	底部外面:回転糸切り	胎土:密,1㎜未満の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	河道3
坏	第74図 SU-50		N4E1	暗褐色 粘質土	口径 11.3 器高 3.8 底径 6.8	平坦な底部より直線的に外傾ししてたちあがる	底部外面:回転糸切り	胎土:密 焼成:やや軟 色調:淡褐色～淡橙色	河道3
坏	第74図 SU-51	59	N5E1	暗灰色 粘質土	口径 12.4 器高 4.2 底径 5.9	上げ底気味の底部より直線的に外傾してたちあがり	底部外面:回転糸切り	胎土:密,1～3㎜大の砂粒をごく少量含む 焼成:良好 色調:乳灰白色	河道3
坏	第74図 SU-52	59	N4E1	暗灰色 粘質土	口径 11.6 器高 3.9 底径 5.4	平坦な底部より外傾してたちあがる	底部外面:回転糸切り	胎土:1㎜以下の砂粒を少量含む 焼成:やや軟 色調:灰白色	河道3
坏	第74図 SU-53	59	N5E1	暗褐色 粘質土	口径 12.2 器高 3.9 底径 7.0	上げ底気味の底部より外傾してたちあがる	底部外面:回転糸切り	胎土:密,1㎜以下の白色砂粒を若干含む 焼成:やや軟 色調:暗青灰色	河道3
坏	第74図 SU-54	59	N4E1	暗灰緑色 粘質土	口径 11.8 ～12.4 器高 3.8 底径 7.0	平坦な底部より外傾してたちあがる	底部外面:回転糸切り	胎土:密,白色小砂粒を少量含む 焼成:軟 色調:淡褐色	河道3
坏	第74図 SU-55	59	N4E1	暗灰緑色 粘質土	口径 12.2 器高 4.4 底径 6.8	上げ底,口縁部は外傾してたちあがる	底部外面:回転糸切り	胎土:密,白色微砂粒を少量含む 焼成:軟 色調:淡褐色	河道3
高台付坏	第74図 SU-56	59	N5E1	暗灰緑色 粘質土	口径 15.6	外傾して伸びた後,端部で外反,高台付	底部外面:回転糸切り	胎土:1～2㎜大の砂粒をかなり多く含む 焼成:軟 色調:淡灰褐色～淡灰橙色	河道3
皿?	第74図 SU-57	59	N5E1	暗灰色 粘質土	口径 15.1	坏と皿の中間的な深さをもつ	内外面:回転ナデ	胎土:小砂粒を若干含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道3
皿	第75図 SU-58	61	N3E1	赤褐色 砂層	口径 14.6 器高 2.7	上げ底	底部に糸切り痕	胎土:密 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色,底部は茶褐色	河道2
皿	第75図 SU-59	61	N2E1	暗褐色 粘質土	口径 14.5	口縁部外反気味	底部回転糸切り	胎土:密 焼成:良好 色調:灰色	
坏か	第75図 SU-60	61				底部の小破片	回転糸切り	胎土:密,1㎜大の砂粒をごく少量含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
盤	第75図 SU-61	61	N2E0	暗灰色 砂質土	口径 18.6 器高 3.8 底径 11.3	口縁部は体部より屈曲して伸びる。高台貼付け位置は内寄り	底部内面:多方向ナデ他は回転ナデ	胎土:やや粗,1～2㎜大の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道2
盤	第75図 SU-62	61	N2E1	暗灰色 粘質土	口径 17.4 器高 3.0 底径 13.8	底部外縁近くに低い高台	底部外面:糸切り	胎土:密,1㎜未満の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗青灰色	

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
盤	第75図 SU-63	61	N2E0	暗灰色 粘質土	口径 18.2 器高 4.4 底径 14.8	口縁部外反気味,底部外縁に高めの高台	底部外面:回転糸切り	胎土:密,1～2㎜大の白色砂粒を若干含む 焼成:やや軟質 色調:灰色～暗灰色	
瓶	第75図 SU-64	61	排土中		頸部径 3.8	頸部から口縁部にかけての小破片 波状文	回転ナデ	胎土:密,1㎜大の黒色粒子 焼成:良好 色調:淡青灰色～暗灰色	
高坏	第75図 SU-65	61	N4E1	暗青灰色 砂礫層		透かしをもつ 沈線2条	回転ナデ	胎土:1～2㎜大の砂粒 焼成:良好 色調:暗青灰色	河道2
高台付坏	第75図 SU-66	61	排土中		口径 15.1	浅い坏部	回転ナデ	胎土:密,1㎜大の黒色粒をわずかに含む 焼成:良好 色調:青灰色	
坏 高台付?	第75図 SU-67	61	N1E2		口径 14.0	浅い体部	回転ナデ	胎土:密,1～2㎜大の白色砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:淡青灰色	
長頸壺	第76図 SU-68	60	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	底径 8.7	肩はよく張るが稜をなさず丸味を帯びたつくり,外に張り出す高台 肩部と胴部の境に沈線を1条	底部静止糸切り後回転ナデ	胎土:密,1～2㎜大の白色砂粒をかなり含む 焼成:良好 色調:灰色～青灰色	河道2
長頸壺	第76図 SU-69	60	N3E1	赤褐色 砂層	口径 10.1	口縁部外傾後端部近くで外反,端部は丸くおさめる 頸部に不明瞭な沈線を2条施す	頸部内面に粘土をラセン状に巻き上げた痕跡。内外面とも回転ナデ	胎土:1㎜未満の砂粒をわずかに含む 焼成:良好 色調:暗青灰色	河道2
長頸壺	第76図 SU-70	60	N2E1	暗青灰色 砂層	口径 12.0	口縁部は外反して伸び,端部は丸くおさめる 頸部に沈線2条	回転ナデ	胎土:1～3㎜大の砂粒をかなり含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	河道2
長頸壺	第76図 SU-71	60	N3E2	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 10.6	口縁部は外反気味に伸び,端部で垂直な面をなす	回転ナデ	胎土:密,1㎜前後の白色砂粒を若干含む 焼成:良好 色調:灰色	河道2
長頸壺	第76図 SU-72	60	排土		頸部径 5.4		回転ナデ	胎土:密,白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗青灰色	
長頸壺	第76図 SU-73	60	N1E0	暗青灰色 砂質土	口径 10.9 器高 20.0 底径 8.4	口縁部は外反して伸び,端部は垂直な面をなす。肩が張り稜をもつ。高台をつける 頸部に沈線2条(ヘラ)	底部に回転糸切り痕	胎土:密,2㎜未満の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡青灰色	河道2
長頸壺	第76図 SU-74	60	N2E1	暗青灰色 砂層	口径 11.6	口縁部は外反して伸び,端部で外傾気味の面をなす。肩は張り稜をもつ。高台の剥離痕がみられる 頸部に沈線3条(ヘラ)	底部回転糸切り	胎土:密,1～2㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡青灰色	河道2
長頸壺	第76図 SU-75	60	N1E0 しがらみ状遺構	暗灰色 砂質土	口径11.1 器高19.35 底径 7.2	口縁部は大きく外反し,端部は垂直な面をなす。肩はよく張り稜をもつ。外に張り出すしっかりした高台 頸部にらせん状に浅い沈線	底部に糸切り痕	胎土:1～2㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰色	河道2
広口壺	第76図 SU-76	60	排土中		口径 11.0	広口の壺	回転ナデ	胎土:密,1㎜前後の砂粒を若干含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
壺	第76図 SU-77	62	N3E1	暗青灰色 砂層		壺胴部の小破片	外面:平行叩き 内面:ナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:青黒色	河道2
甕	第77図 SU-78	62	N1E0	淡灰色 砂質土		長頸の甕の頸部 波状文	回転ナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰色	河道2
甕	第77図 SU-79	62	N3E1	赤褐色 砂質土		甕肩部の破片,自然釉	外面:平行叩きか 内面:円弧押当具痕	胎土:密,白色小砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:灰色	河道2
甕	第77図 SU-80	62	N2E0 N2E1	暗赤褐色 砂層		甕胴部の小破片	外面:平行叩き 内面:円弧押当具痕の上をナデ	胎土:密,白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:青灰色	河道2
甕	第77図 SU-81	61	N2E0 N1E0	青灰褐色 砂礫層 暗赤褐色 砂層	口径 19.4	口縁部は外反,肩から胴部にかけては丸味を帯びてなだらかに下る	口縁部内外面:回転ナデ 外面:平行叩き 内面:同心円押当具痕	胎土:密,1㎜未満の白色砂粒を含む 焼成:良好,堅緻 色調:外 暗青灰色,内 灰青色	河道2

6．その他の土器

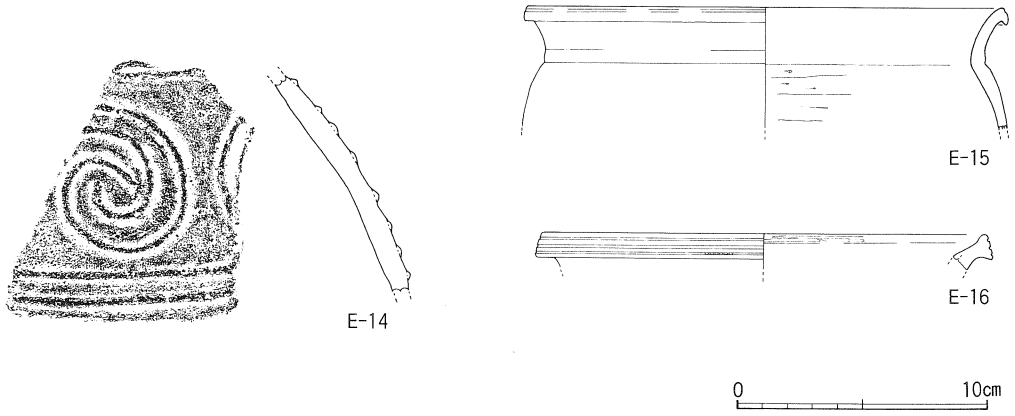
その他の土器としたものは，時期について言及できなかったものである。以下特徴のみを述べる。

E-14は外面に渦巻き状，又は蕨手状の突帯と，直線状の突帯を貼り付けるものである。壺の肩部に当たるものであろうか。器面調整はナデを行っている。胎土には１～５ミリ大の大粒の砂粒を含んでおり，弥生前期から中期初頭の土器の胎土に似ている。

E-15は壺，又は鉢と考えられるものである。ゆるく外反する口縁部は，端部付近で下垂し，頸部には稜線が入るものである。口頸部はヨコナデ，胴部外面にナデ，内面にはヘラケズリを施している。

E-16は頸部が「く」の字状に屈曲し，口縁端部外面に直線文をもつものである。弥生中期後葉から後期前半にある甕に非常によく似た形状を呈しているが，胎土と焼成は，タテチョウ遺跡でみられるその時期の弥生土器とは全く異なった印象を受ける。非常に精選された細かい胎土をもち，硬質に焼かれた灰白色の土器となっている。タテチョウ遺跡の前回の調査[註1]で報告されているものに，胴部に格子目のタタキをもつ韓式系土器があるが，それと同様のものであろうか。

註１　『タテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』　島根県教育委員会　1990年



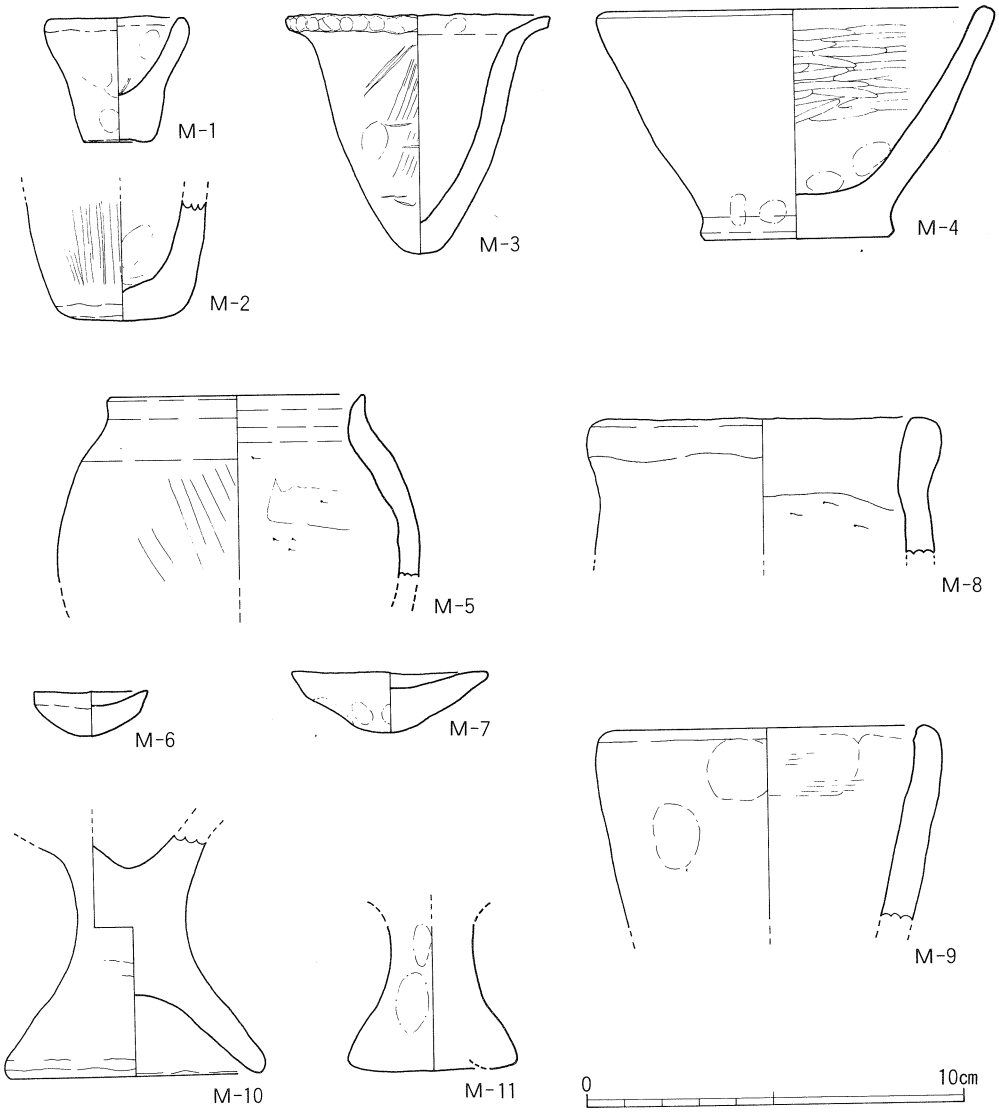
第78図　土器実測図　（1：3）

その他の土器観察表

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
壺か	第78図 E-14	62	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂礫層		外面に渦巻もしくは，わらび手状の突帯，その上下に平行突帯を貼り付ける	ナデか	胎土：1～5㎜大の砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：褐色	
鉢か	第78図 E-15	62	N3E1	青灰色 砂礫層	口径 19.0	口縁部は外反し，端部は斜め下方に下垂，外面に浅く凹線1条	口縁部～頸部ヨコナデ 胴部外面：ナデか 胴部内面：ヘラケズリ	胎土：小砂粒を少量含む 焼成：良好 色調：明灰色	河道2
甕か	第78図 E-16	62	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 17.7	口縁端部は拡張し，沈線3条	外面：ナデ 内面：ヘラミガキ	胎土：精選されている 焼成：良好 色調：明灰色	河道4

7．ミニチュア土器

ミニチュア土器（第79図　図版63）としては鉢形・甕形等９点を図示した。この中には，仮器としてのミニチュア土器以外の実用的な小型土器が含まれている可能性もあるが，出土状況等から判別できないので，ここではミニチュア土器として扱いたい。



第79図　ミニチュア土器実測図　（1：2）

鉢形（第79図　M-1・3・4）

器高が低く，口縁部が開くものを鉢形とした。手捏ねによる粗製のもの（M-1・3）とヘラミガキを施すていねいな作りのもの（M-5）がある。

M-1は，手捏ねによる粗製土器で器壁の厚い平底の底部から直線的に立ち上がる体部をもつ。調整は，内外面とも指頭圧痕を残しており，特に内面にはハケ状工具によって掻き取ったような痕跡を残している。M-3は，尖底気味の丸底からやや厚手の体部が内湾気味に立ち上がるもので，「く」の字形に大きく屈曲する口縁部をもつものである。口縁端部は指で押えながら成型したと考えられ，指頭圧痕による小さな面を連続的に配したような形状になっている。内面はナデ，外面はハケメの後ナデによりていねいに調整されている。

M-4は，弥生時代前期に見られる鉢形土器と同様の形状を呈すもので，外面は摩滅しているものの，内面には丁寧なヘラミガキが見られる。径の大きな平底の底部をもち，外傾する体部は口縁部まで直線的に立ち上がる。口縁端部はナデ調整が行われており，わずかに面をもつ。弥生時代前期の鉢形土器にはこうした器形をもつものがあり，その中には，口径10cmをわずかに超える程度の小品もある。そうしたことから，この土器は実用的な小型土器である可能性が高い。

甕形（第79図　M-2・8・9）

口縁部が開き，器高の高いものを甕形とした。M-2は底部近くの破片で，平底の底部から直立気味に体部が立ち上がる。内面には指頭圧痕が残り手捏ねの痕跡を残しているが，外面はハケによってていねいに整形されている。土器そのものが小さいせいか，ハケメの単位は3本程度しか見えない。M-8は口縁部付近の小片で，肥厚した口縁部をもつ甕形であろう。体部はほぼ直立するようである。体部の器壁は厚く作られているが，口縁部近くでは更に肥厚する。外面と口縁部内面はナデ，体部内面にはケズリの痕跡を残している。M-9も口縁部付近の小片である。器壁が厚く，やや開き気味に立ち上がる体部をもつ。口縁部付近は強くつまみ出したのか，内面がわずかにくびれ，断面では内傾するように見える。口縁部内面にわずかにハケメ状の痕跡を残すほかはナデによって整形され，外面には指頭圧痕を残している。

壺形（第79図　M-5）

短頸壺の口縁部から体部にかけての破片と考えられる。体部は緩やかに内湾し口縁部直下で上方に向かって折れ曲がる。頸部内面に強いナデによるくびれや，尖がった口縁部はつまみ出して成型したように思われる。器壁は，他のミニチュア土器に比べると薄手に作られている印象を受ける。体部内面はケズリ，外面には粗いハケメを残している。短い頸部はナデによってていねいに整形さ

れている。

高杯形（第79図　M-10・11）

高杯形のミニチュア土器は脚部の破片が２片出土している。M-10は摩滅のため，調整が見えないものの，ていねいに成型された脚部の破片である。器壁は厚手で，特に杯底部から脚内上部の間は非常に厚く作られている。脚は直線的に延び，杯部中央は深くくぼんでいる。M-11も，脚部の小片である。手捏ねによる粗製のもので，外面には指頭圧痕を多く残している。脚部は高く作られているのに比べ，底径は小さい。器壁は非常に厚く，脚部内面には絞り痕が見られる。

M-6・7は，高杯の杯底部中央を埋めた円盤状の粘土が剝離したものであろう。M-7は外面に指頭圧痕状のくぼみが見られる。両者とも摩滅しており調整痕や接合痕が残らず，皿状に見える。

ミニチュア土器観察表

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	重量（g）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
鉢	第79図 M-1	63	S6W1	青灰色 砂礫層	口径 3.3 最大径3.3 器高 1.9		手捏による。平底の底部から口縁部へ直線的に立ち上がる	内面はハケ状工具によりかき取ったような痕跡が見える	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕?	第79図 M-2	63	S3E0	青灰色 砂礫層	底径 2.8		丸底気味の底部から，直線的に体部が伸びる	内面は指頭圧痕，外面はハケ目	胎土:1～2㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
鉢	第79図 M-3	63	N3E1	灰色 砂質土	口径 6.9 器高 6.3		尖底気味の丸底。口縁部は大きく外反する。口縁外面には指による押さえが見られ，面を作っている	外面はハケ目の後ナデ，内面はナデ	胎土:1～2㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰色	
鉢	第79図 M-4	63	トレンチ内	暗青灰色 礫層	口径 10.0 器高 6.0 底径 4.9		平底の底部から口縁部にかけて直線的に伸びる	内面はミガキとナデ，外面は磨滅	胎土:1㎜程度の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰色	
壺	第79図 M-5	63	N4E2	青灰色 砂礫層	口径 6.7		ゆるやかに内湾する体部から，小さな口縁部が直線的に立ち上がる	体部外面に粗いハケ目	胎土:1㎜以下のガラス質の微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
不明	第79図 M-6	63	Ⅱ区 トレンチ内		口径 3.0 器高 1.2		浅い皿状	磨滅により不明	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰色	
不明	第79図 M-7	63	N1E1	褐色 砂礫層	口径 5.2 器高 1.6		浅い皿状。外面には指により押さえたような痕跡が多く残る	磨滅により不明	胎土:1㎜程度の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:黄白色	
甕か	第79図 M-8	63	N4E2	青灰色 砂礫層	口径 9.2		肥厚した口縁からわずかに屈曲し，体部へ続く	体部内面は削られている。他はナデ	胎土:1㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
甕か	第79図 M-9	63	N2E0	暗赤褐色 砂層	口径 8.8		口縁から体部にかけて，ほぼ直行する	内面上部はハケ目の後ナデ，他の部分はナデ調整	胎土:1～3㎜大の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	
高坏	第79図 M-10	63	表採				坏部は中央がくぼみ，大きく開く。脚部は直線的	磨滅により不明	胎土:1㎜程度の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:明白茶色	
高坏	第79図 M-11	63	N2E2	褐色 砂礫層	底径 4.4		手捏により厚手に作られる	一部に指頭圧痕が残る	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	

8．土　　製　　品

土器以外の土製品（第80図　図版63）の出土はきわめて少ないが，土笛，土製円盤，土錘等の12点を図示することができた。図示した以外の土製品としては，埴輪片が何点か出土している。

土笛（第80図　CL-1）

完形品が１点出土している。器高5.9cm，立面形は卵形を呈し，吹口が胴部最大径よりも小さく作られている。１面に４カ所，他面に２カ所の貫通孔が穿たれている。この形態は，1988年度までにタテチョウ遺跡多数出土しているものの中でも一般的に見られるものである。西川津遺跡で出土しているものの多くはヘラミガキを施されており，1988年度までにタテチョウ遺跡で出土したものも何らかの文様をもつものが多いが，この土笛は全面をナデによって調整されており，文様は見られない。

今回の出土により，タテチョウ遺跡出土の土笛の総数は20例となった。西川津遺跡で出土した18例と合わせると，朝酌川流域では38例が出土したことになる。土笛は，小片で出土した場合，無頸壺と区別しにくいほか，1988年度調査では特殊な器形のものも出土しており，今後の注意次第では更に資料が増加する可能性ももっている。全国では約50例が知られているが，朝酌川流域で全国出土総数の半数以上が出土していることは注意される。

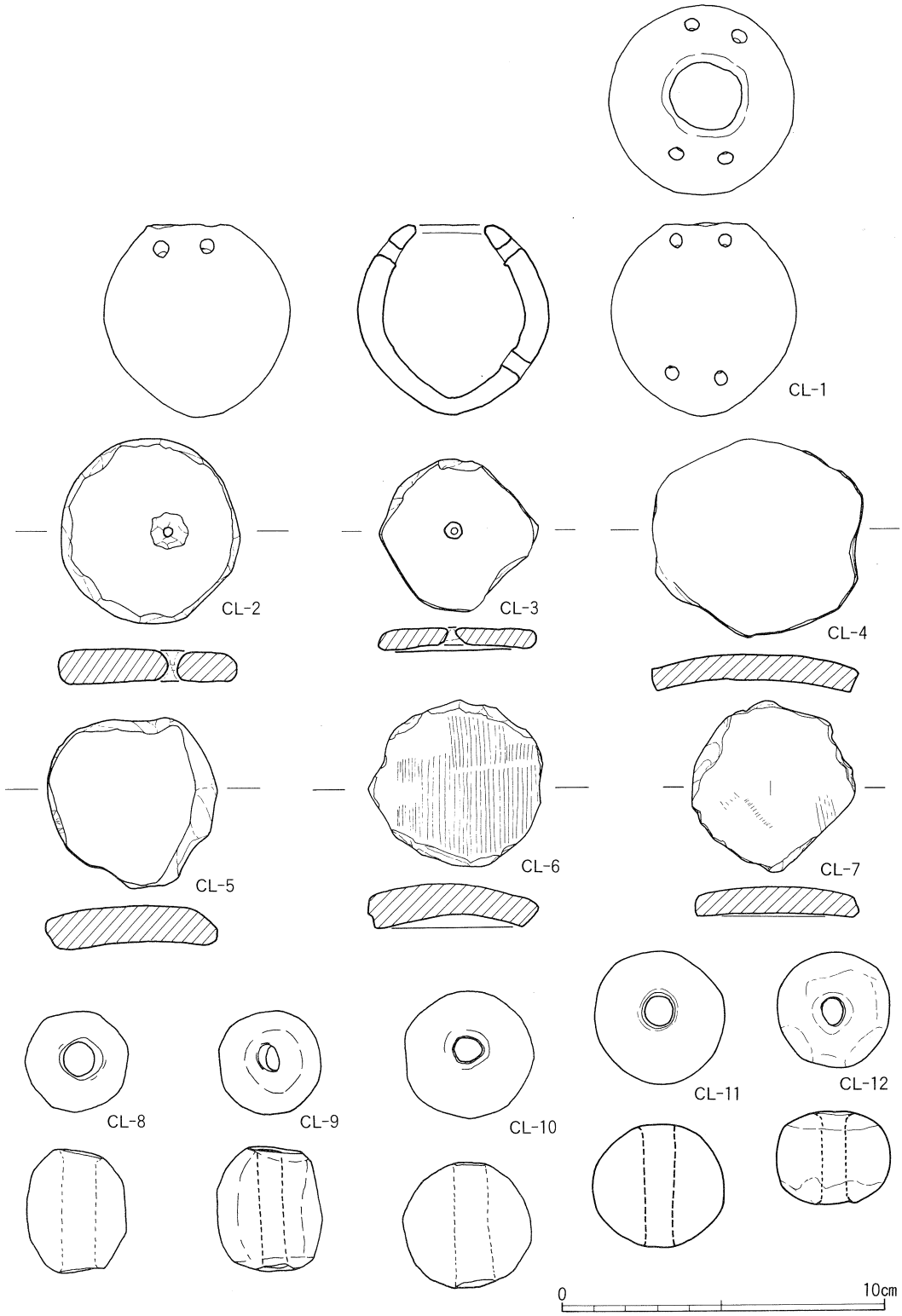
この土笛は，河道４の底面近くから出土している。河道４は完形を保つ鼓形器台の出土により古墳時代前半頃に埋没したと考えているが，その埋土中には弥生土器片も多く含んでおり[註1]，付近の弥生時代住居跡を削って流入したものと思われる。

有孔円盤（第80図　CL-2・3）

有孔円盤と呼ばれるものには，粘土を成型して作られたものと，土器を転用したものがあるが，今回出土した２点はいずれも土器を転用して作られたものであった。

CL-2は甕の体部を転用して作られたものと考えられ，１面にはススが付着している。周縁は雑に打ち欠かれているが，ほぼ整円になっている。貫通孔は両面からていねいに穿たれているが，有孔円盤の中心からはわずかに偏っている。摩滅のため，土器器面の調整は見えない。CL-3も土器を転用した有孔円盤であるが，周縁の打ち欠きが雑で，整円をなしていない。ほぼ中心に穿たれた貫通孔は両面から開けられている。

CL-3はトレンチ内の出土の為，出土層位が判らないが，CL-2は旧河道に伴わない遺物包含層からの出土である。この遺物包含層からは須恵器は出土しておらず，転用された土器も弥生土器と推



第80図　土製品実測図　（1：2）

定される。この有孔円盤の時期は，出土位置等からも，少なくとも古墳時代前半をさかのぼるものと推定される。

土製円盤（第80図　CL-4～7）

土製円盤としたものは，土器片を転用し，周縁を打ち欠き円盤状にしたものであるが，いわゆる「有孔円盤」に穿孔する前の未成品の状態とは区別がつかない。そのため今回は，貫通孔の穿たれていない円盤状を呈する土製品を一括して，土製円盤として扱うことにする。土製円盤としたものは4点を図示した。

CL-4は土器を転用し，周縁を雑に打ち欠いたものである。外形は楕円形に近い。長軸の両端にはわずかにくぼみが見られ，土器転用錘としての使用も考えられる。全面が摩滅しており，土器器面の調整は見えない。

CL-5も周縁を雑に打ち欠いた土製円盤で，外形は円形に近い。摩滅のため，土器器面の調整は不明である。

CL-6はほぼ整円を呈すものである。器壁の厚い土器を転用しており，土器器面外面側には細かいハケメが多く残っている。また，土器器面内面側にもハケメの痕跡をわずかに残している他，炭化物の付着が見られる。

CL-7も土器を転用し，周縁を雑に打ち欠いたものである。平面形は円形をなさない。土器器面外面側にはわずかにハケメの痕跡を，内面側にはナデによる指頭厚痕を残している。

土錘（土玉　第80図　CL-8～12）

5点を図示したが，この中にはほぼ球形を呈し，土玉と呼称すべきものも含まれているが，厳密には区別できないため，一括して扱う。

CL-8・9は立面楕円形のものである。ほぼ中央に穿たれた貫通孔は最大径に対してかなり大きい。手捏ねによって成型され，指頭厚痕を多く残す。表面は摩滅しており，調整は見えない。

ほぼ球形を呈し，土玉の可能性があるものは2点を確認した（CL-10・11）。いずれも最大径に対して，比較的小さな貫通孔を穿たれ，外面はナデによってていねいに成型されるものである。ていねいな調整によって手捏ねの痕跡は残していない。

CL-12は，ややいびつな球形を呈するものである。表面は摩滅しているが手捏ねの痕跡を多く残している。中央に穿たれた貫通孔は最大径に対してかなり小さい。手捏ねの痕跡を残しているが，外形や穿孔方法等から考えると，CL-10・11と同様のものであろう。

これらの土錘（土玉）は遺物包含層の暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層か，河道1付近から出土し

ており，河道2・3からは出土しなかった。このことより，少なくとも古墳時代前半よりさかのぼる時期のものであろう。

埴輪

埴輪片は4点が出土したが，いずれも体部の小片の為，図示しなかった。調整は，内外面共に斜め方向のハケメを施すものが多く，内面の一部にナデの痕跡を残すものも見られた。タテチョウ遺跡では1988年度調査でも多くの埴輪片が出土しており[註2]，遺物包含層の中には付近の古墳から流入してきたものも含まれていることが考えられる。

註1　タテチョウ遺跡は河川堆積層なので層位的に時期を求めることは難しいが，西川津遺跡では弥生時代前期の層から出土したとされている。
『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅴ　海崎地区3』 島根県教育委員会　1989年

註2　『タテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 島根県教育委員会　1990年

土　製　品　観　察　表

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	重量（g）	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
土笛	第80図 CL-1	63	S2W1	暗青灰色砂層	口径 2.6 器高 5.9 底径 5.8		正面形は卵形を呈し，吹口は胴部最大径より小さい。無文	全面ナデによりていねいに調整される	胎土:1㎜前後の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色～暗灰色	
有孔円板	第80図 CL-2	63	N1E1	褐色砂質土	直径 5.5～5.7 厚さ 9.0	39.05	土器を転用したもの。甕の体部。表面にはススが付着している	不明	胎土:1～3㎜大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
有孔円板	第80図 CL-3	63	トレンチ内		直径 4.6～4.9 厚さ 6.0	15.5	土器転用。周縁を雑に打ち欠く	磨滅のため調整不明	胎土:1～2㎜程度の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
土製円板	第80図 CL-4	63	N0E1	暗灰色砂礫層	直径 6.2～6.4 厚さ 8.0	38.65	土器を転用したもの。錐としての使用も考えられる	磨滅のため調整不明	胎土:1～3㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
土製円板	第80図 CL-5	63	N2E0	暗赤褐色砂層,下層粘質土	直径 5.2 厚さ 11.0	39.75	土器を転用したもの。周縁を雑に打ち欠く	磨滅のため調整不明	胎土:2㎜前後の白色の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
土製円板	第80図 CL-6	63	N0E1	自然流路中	直径 5.2～5.4 厚さ 11.0	32.8	土器を転用したもの。裏面側には炭化物が付着している	表面にはハケ目が残る	胎土:1～2㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
土製円板	第80図 CL-7	63	N1E2	赤褐色砂質土	直径 4.9～5.2 厚さ 8.0	23.5	土器を転用したもの。周縁を雑に打ち欠く	表面にはハケ目,裏面はナデにより指頭圧痕が残る	胎土:1～2㎜大の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
土錘	第80図 CL-8	63	N1E2	赤褐色砂質土	口径 1.4 最大径3.2 器高 3.9	33.25	管状の土錐	手捏により,わずかに凹凸を残す	胎土:1～2㎜大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰茶色	
土錘	第80図 CL-9	63	N0E2	灰色粘質土	口径 0.8 最大径3.2 器高 3.9	38.73	管状,円筒形の土錐	手捏により,凹凸を残している	胎土:白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
土錘	第80図 CL-10	63	N2E2	褐色砂礫層	口径 1.1 最大径3.9 器高 3.9	53.05	管状,球形	ていねいなナデにより手捏の痕跡は残さない。土玉か	胎土:白色の小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
土錘	第80図 CL-11	63	N0E0	青灰色砂礫層	口径 1.1 最大径4.1 器高 3.8	55.74	管状,球形	ていねいなナデ調整され手捏の痕跡は残さない。土玉か	胎土:1㎜程の白色砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
土錘	第80図 CL-12	63	Ⅰ区 トレンチ内排土中		口径 0.8 最大径3.6 器高 2.9	33.3	管状,球形	手捏による凹凸をわずかに残す	胎土:1㎜程の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	

9．石　　器

石器（第81～87図　図版64～66）は遺物包含層の暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層を中心に出土した。剝片や用途不明の石器を含め84点を図示したが，遺物包含層は縄文土器から土師器までを内包するため，各石器の所属時期を特定できなかった。また，石材の鑑定は島根大学教育学部の三浦清先生に依頼した。

尖頭器（第81図　ST-1）

尖頭器と考えられるものは１点出土した。不定形な尖頭器の先端部の破片で，基部が失われているため，基部整形は不明である。調整は尖端を意識して行われているが，両面とも刃部付近に止どまり第１次剝離面を多く残している。全面的に水磨を受けており，表面が白くなっている。黒曜石を使用している。西川津遺跡等でも尖頭状石器と呼ばれる石器が出土している[註1]が，それらの調整は刃部付近のみに止どまっており，第１次剝離面を多く残している。第１次剝離面をわずかしか残さないST-1とは，調整が異なる印象を受ける。

石鏃（第81図　ST-2～8）

石鏃は未成品と考えられるものも含め，７点が出土している。

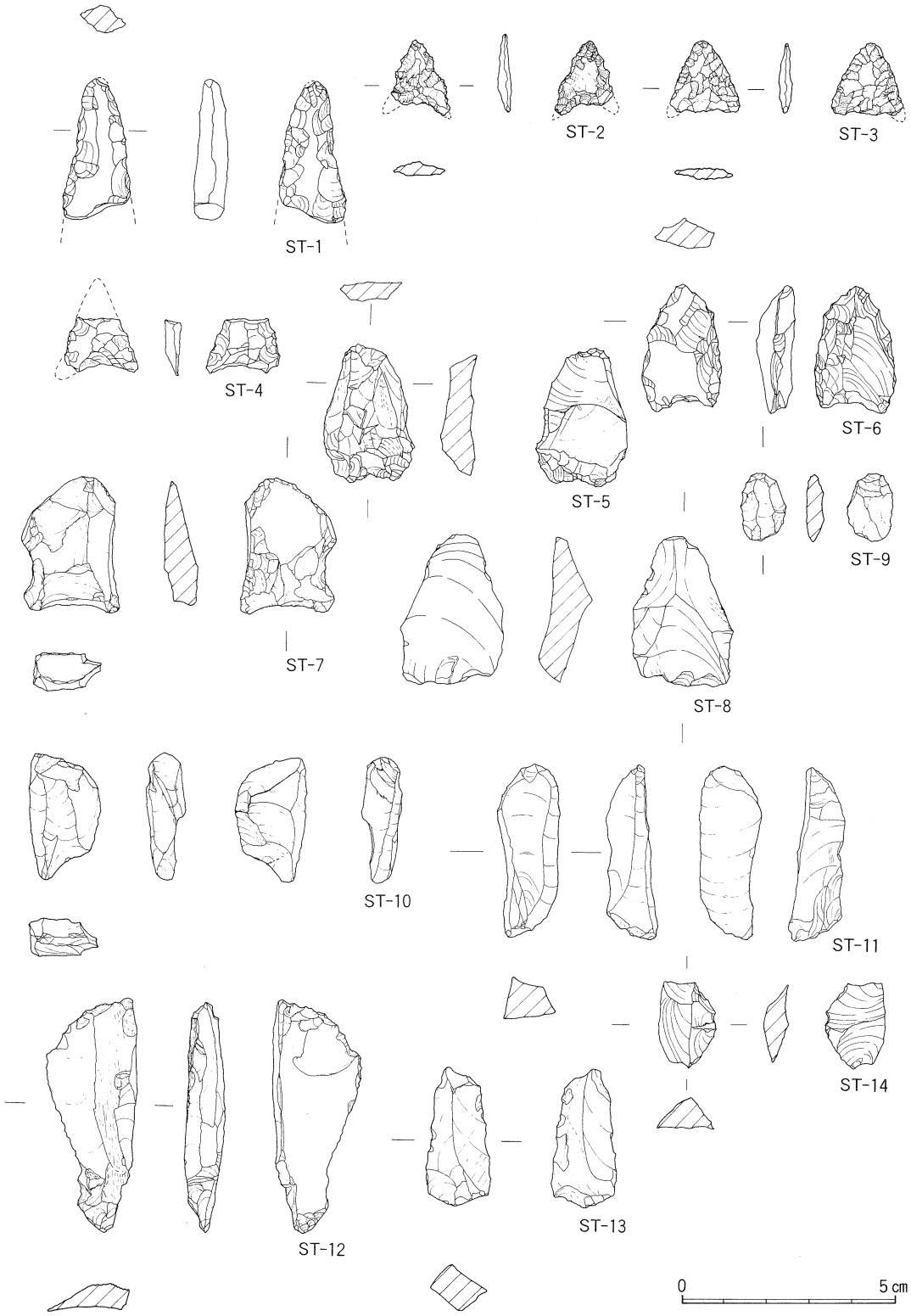
完成品は３点あり，ST-2・4は凹基式三角形鏃，ST-3は平基式三角形鏃である。ST-2・3は黒曜石製，ST-4は安山岩製である。いずれも両面調整を行っているが，ST-2・3は一部に第１次剝離面を残している。

石鏃未成品と思われるものは，４点が出土した。すべて凹基式三角形鏃もしくは平基式三角形鏃の未成品と考えられる。ST-5～7は調整段階の未成品である。厚さ９㎜～７㎜を測るもので，素材段階の厚みが残っている。ST-5・6には凹基部分を作り出そうとする剝離が見られる。ST-6～7は黒曜石製である。また，ST-5は瑪瑙で作られているが，その形状から石鏃未成品と判断した。

ST-8の剝片は素材段階に近い石鏃未成品と考えられるもので，第１次剝離面を大きく残している。厚さ９㎜を測る。

楔形石器（第81図　ST-9～14）

ST-9～13の石器には，上下両端に階段状の細かい剝離が見られ，楔形石器と考えられる。石材は，ST-9を除き，総て黒曜石製であった。ST-9は，玉髄質石英製の楔形石器で，使用が進み，かなり小型化している。ST-12は主要剝離面に横方向にリングが見られ，横長の剝片を使用した可能



第81図　石器実測図(1)　(2：3)

性がある。ST-14は小型化しているが，小さな階段状の剝離は見られず，上下からの強い加撃による大きな剝離が見られる。

スクレーパー（第82図　ST-15～23）

剝片の一側辺をわずかに加工した，不定形のスクレーパーが何点か出土しているが，定形化した石匙は見られなかった。刃部の加工は概ね粗く，部分的にしか調整を施さないものや，剝片のエッジ部をそのままスクレーパーとして使用したと考えられるものがほとんどであった。

ST-15は，黒曜石製のスクレーパーで，両端を欠いているが，縦長の剝片の側辺に刃部を付けたものである。上端の三角形の突起部分にも剝離が見られることから，スクレーパー以外の使用も考えられる。他に黒曜石製のスクレーパーにはST-22がある。ST-22は，石核を使用したスクレーパーと考えられる。石核段階での剝離には規則性は見られない。剝離が進み，薄くなった石材の一面から調整を行い，刃部を成型している。

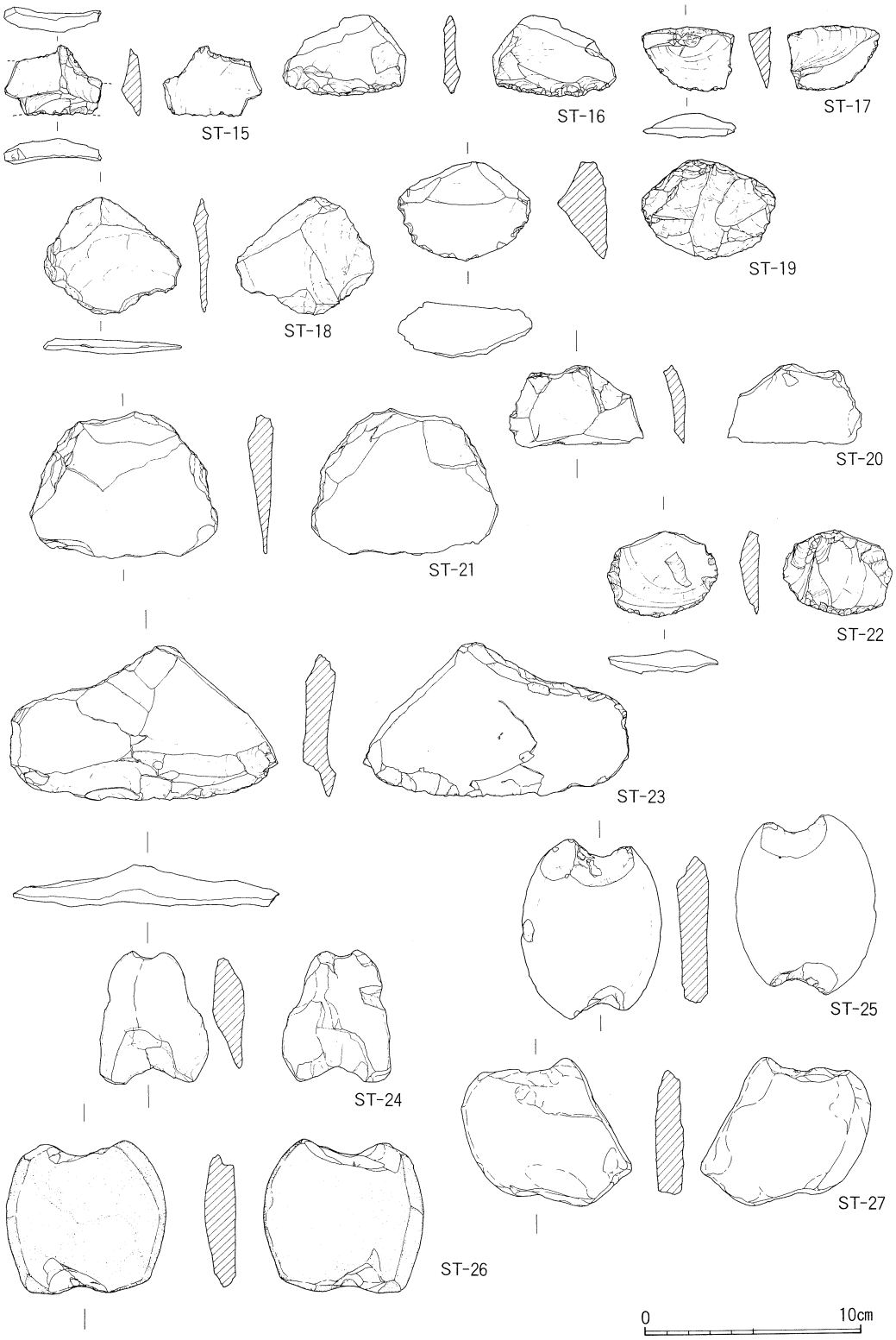
ST-16は玉髄質石英を使用したスクレーパーである。縦長の剝片の側辺を両側から打ち欠いて刃部としている。

ST-18～21・23は頁岩製のスクレーパーである。ST-18・21は，板状剝離した石材の下端エッジ部を刃部として使用したもので，刃部近くには使用によると思われる擦痕が見られる。ST-19は，石核に二次加工を施してスクレーパーとしたもので，刃部は縁辺部から片面を簡単に打ち欠いたもので，細かい調整は見られない。ST-20・23は横長の剝片の長側辺を使用したもので，エッジ部に摩滅が見られる。ST-17は断面三角形の剝片で自然面を残すものである。刃部の加工は見られないが，エッジ部に小さな剝離が見られ，スクレーパーとしての使用が考えられる。

石錘（第82図　ST-24～27）

4点が出土し，その重量は49ｇから113ｇまでと幅広く，石材の形も特に意識しているとは思えない。いずれも自然石の長軸を両面から簡単に打ち欠いて抉りを入れたもので，他の調整は見られない。また，磨石の転用品や研磨したものは見られなかった。

最も軽いものはST-24である。不定形の河原石の長軸を簡単に打ち欠いて抉りを入れたもので，石材はアプライトを使用している。ST-25は最も重量の重かったもので，偏平で平面楕円形の安山岩を使用している。ST-26・27は全面に摩滅が進み，抉りも浅いものである。ST-26は砂質頁岩をST-27はアプライトを石材に使用している。



第82図　石器実測図(2)　(2：3)

石斧（第83図　ST-28～30）

偏平片刃石斧は，完形品が２点出土している。２点とも平面長方形のもので，バチ形のものは見られなかった。ていねいに研磨されており，剝離面は残していない。刃部付近には使用によると思われる擦痕をわずかに残し，ST-29は刃部が摩滅している。ST-29は流紋岩を，ST-28は流紋岩と考えられる火山岩を使用している。1988年度の調査では擦切技法を用いたものが出土しているが，そうした痕跡は見られない。

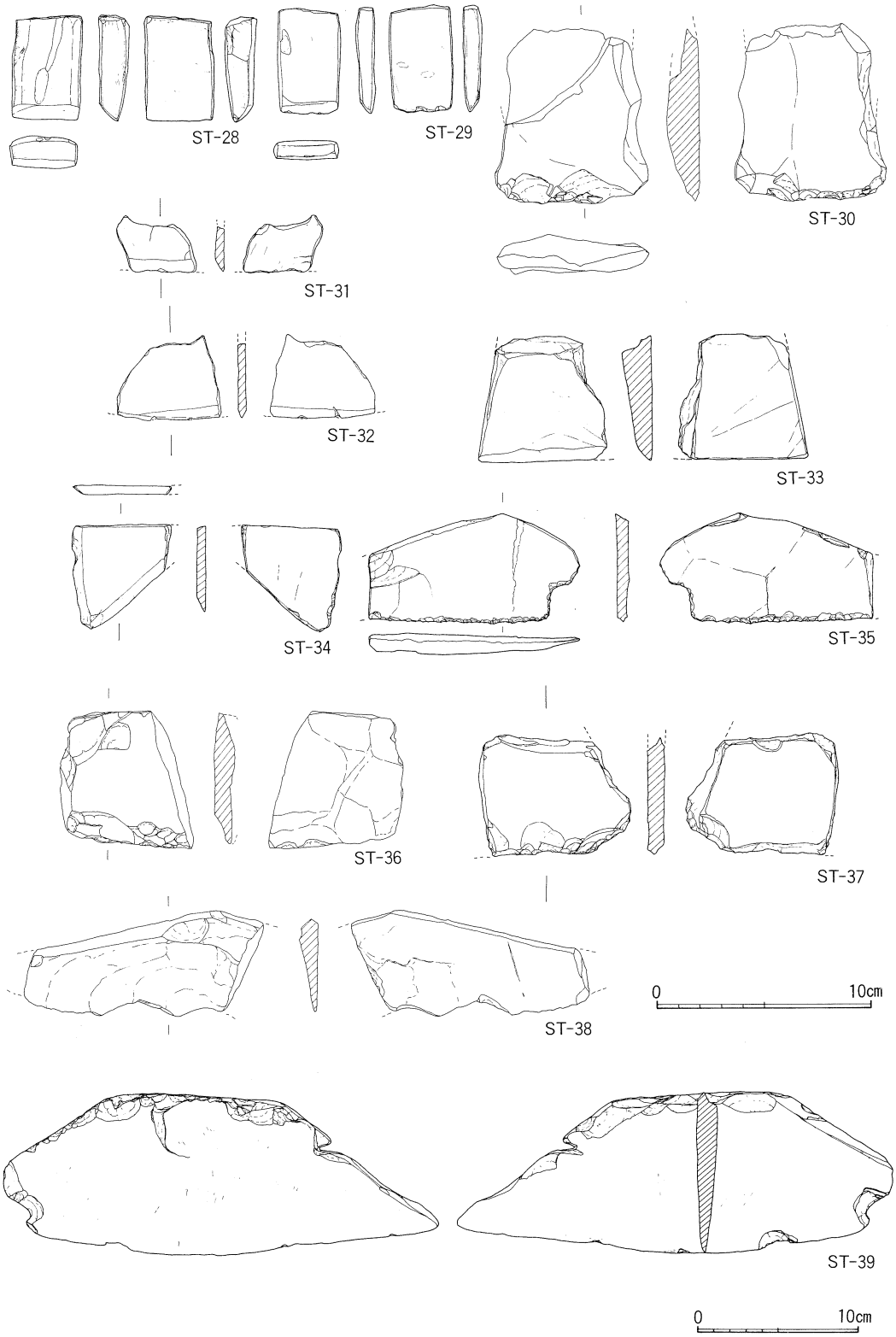
ST-30は偏平な石材の一端に刃部を付けた打製石斧と考えられるものである。いわゆる石鍬と呼ばれるものと考えられるが，一端を欠いており上部の形状は判らない。刃部，側部とも両面から雑に打ち欠かれている。水磨のため使用痕等は見えない。石材は流紋岩を使用している。

石包丁（第83図　ST-31～39）

石包丁と考えられるものは破片も含め，９点を図示した。磨製・打製の両者が見られる。

ST-31～34・39は磨製の石包丁である。ST-31・32は小片のため，全体の形が推定できない。ST-31は頁岩を使用した片刃，ST-32は流紋岩を使用した両刃のものである。穿孔や抉りは見られない。ST-33は頁岩を使用した片刃の大型石包丁と思われる。板状剝離した厚い石材を雑に研磨したもので，研磨によると思われる擦痕が多く見られる。側部も研磨されるが擦切の痕跡は残していない。一端を欠き，全体の形は推定できない。ST-34は刃部を２面もつ異形の石器である。一端を欠くが，ほぼ平面三角形を呈し，研磨による片刃の刃部を２面もつ。図上下面側の刃部はていねいに研磨されるが図上左側面の刃部は研磨が雑で，細かい凹凸が見られる。薄い板状の石材を使用し，刃部以外にも研磨による擦痕を多く残す。刃部の研磨が異なることから，破損した石包丁を再利用したものであろうか。ST-39は完形を保つ大型石包丁である。半月形に近い不整五角形を呈し，刃部はほぼ直線に作られる。刃部以外の周縁部には剝離痕を残すが，全体にていねいに研磨されている。縄掛状の抉りをもつ。片刃の刃部周辺には擦痕を多く残している。石材は頁岩を使用している。図上右側の抉りは研磨されており，しっかりした作りになっているが，それと対応する抉りが見られない。刃部左端にある打ち欠かれた抉りがそれに対応するものであろうか。

打製の石包丁は４点を確認した。ST-35は流紋岩製の石包丁で，一端を欠くが，原型が推定できるものである。薄い板状の石材を使用し，一側辺に細かい調整を施し，両刃の刃部を付けている。背部は調整を行っていないが，刃部端に「Ｌ」字形の抉りを入れている。ST-36は打製による大型石包丁の破片と思われるもので，一面は剝離している。刃部は粗く打ち欠かれており，研磨は見られない。頁岩を使用している。ST-37も大型石包丁の破片と思われるものであるが，形態から，石鎌の可能性もある。板状剝離した板材を使用し，両刃の刃部を作り出している。刃部の研磨は行っ



第83図　石器実測図(3)　(2：3)

ていない。石材は頁岩を使用している。

ST-38は板状剝離した頁岩の剝片である。総ての面が剝離面をそのまま残しており，調整は行っていない。下端長側辺エッジ部に擦痕が見られることから，剝片をそのまま石包丁状に使用したと考えられるものである。両端を欠いている。

1988年度の調査では石包丁は大型のものしか出土していないが，西川津遺跡においては通常のものも見られ[註2]，ST-31・32がそうしたものの可能性もある。1988年度調査では擦切技法の存在が推定されているが，今回の資料では確認できなかった。

石鎌（第84図　ST-40～43）

破片を含め4点が出土し，打製・磨製の両者が見られた。ST-40は完形を保つもので，典型的な形態と考えられる。板状剝離した石材の周縁を粗く打ち欠いたもので，研磨は行われていない。刃部は緩やかに外湾する。刃部以外の周縁部にもノッチを入れ，整形している。ST-41も同様の形状のものであるが，基部を欠いている。刃部の調整はST-40に比べ剝離が大きい。ST-42は，両端を欠いた小片である。刃部は外湾せず，背部も直線的に切断されていることから石包丁の可能性も考えられる。板状剝離した石材の側縁に両側から打ち欠いて刃部を付けたもので，刃部の研磨は行っていない。一面には使用によると思われる擦痕が多く見られる。

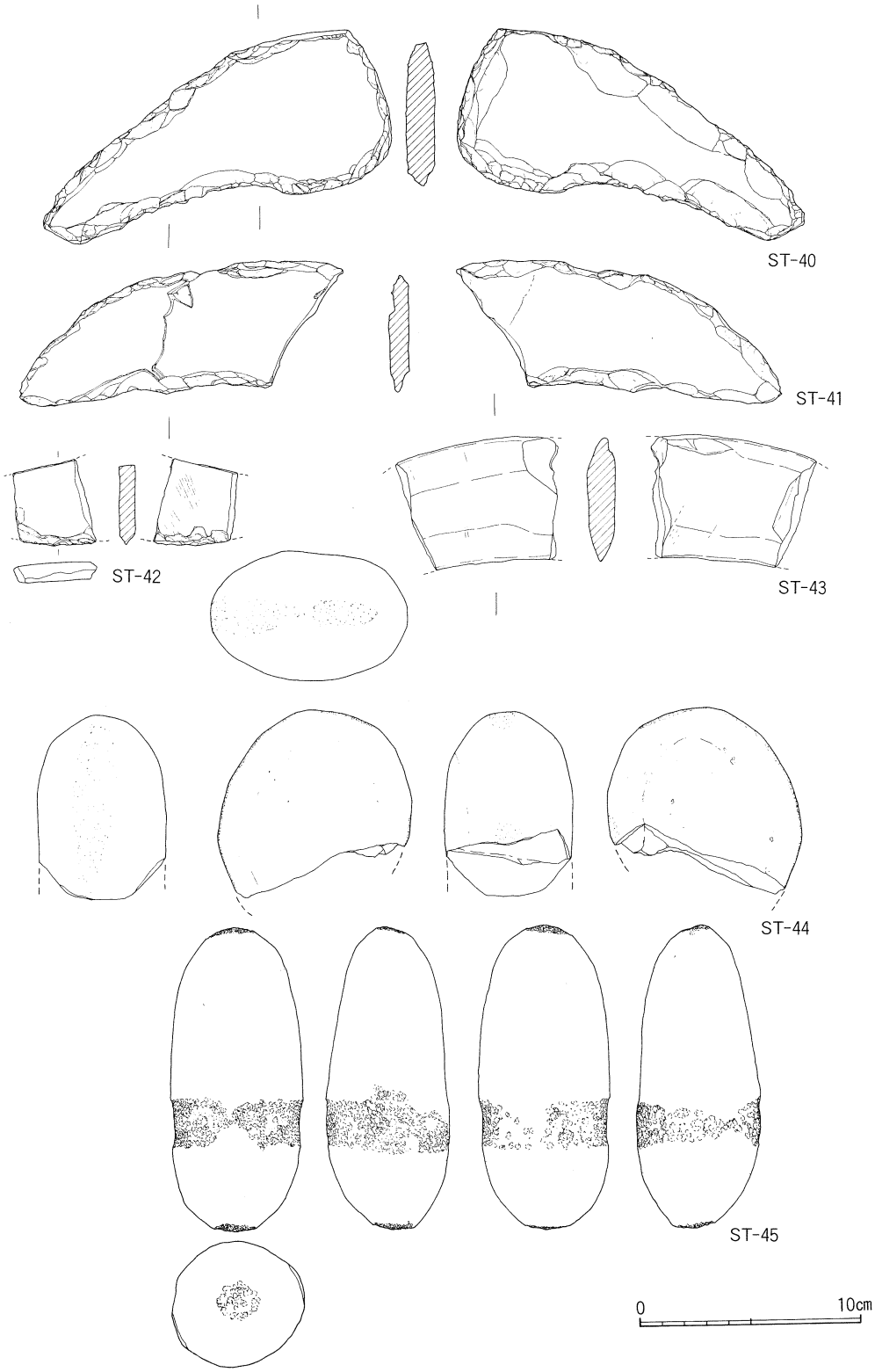
ST-43は両端を欠くが，刃部がわずかに内湾しており，磨製の石鎌と考えられる。刃部は両刃で，よく研磨されている。断面は，わずかに稜をもつレンズ状を呈す。刃部付近には，使用によると考えられる擦痕が見られる他，わずかに摩滅している。

石鎌と考えたものの石材はすべて頁岩であった。

敲石（第84図　ST-44・45）

敲石は2点出土している。ST-44は偏平な円礫をそのまま使用したもので，一部を欠くが約640gを図る。周縁部に細かく潰れたような敲打痕が多く見られる。平端になった部分は敲石としては使用しておらず，わずかに擦痕が走り，磨石としての使用が伺える。石材は，水磨を受けた流紋岩を使用している。

ST-45は円柱形の自然石を使用した敲石で，両端部と胴部を幅2cmに亙って一周する部分を使用している。胴部に見られる敲打痕は胴部中央よりわずかに端部に寄っており，他方を握りとして使用したものと思われる。一部に擦痕が見られ，磨石としても使用されているようである。石材は長さ137mm，太さ59mm，重量105gを測る水磨を受けた流紋岩を使用している。



第84図　石器実測図(4)　（2：3）

石皿（第85図　ST-46）

石皿と考えられるものは１点が出土した。楕円形の自然石をそのまま使用している。使用面にくぼみは無く，ほぼ平坦になっている。使用面の器面が潰れ，擦痕が見られる。石材はデーサイトを使用している。

その他の石器（第85図　ST-47～50）

ST-47は，楕円形の風化安山岩を使用した石器の一端である。自然石をそのまま使用しているようであるが，周縁部は研磨されている。磨製石斧のようなものであろうか。

ST-48は，頁岩の石核である。各剥離面は雑に剥離されており，規則性は感じられない。一面には擦痕があり，磨かれている。

砥石と考えられるものは一点出土した（ST-49）。薄い短冊状になった流紋岩の２面を使用している。擦痕が多く見られる。

ST-50は，角柱形の頁岩片で，不規則な剥離が見られるものである。図上頂面には擦痕が見られることから，砥石としての使用が考えられる。

剥片・石核（第85図　ST-51～第87図　ST-84）

剥片・石核は多量に出土し，34点を図示した。

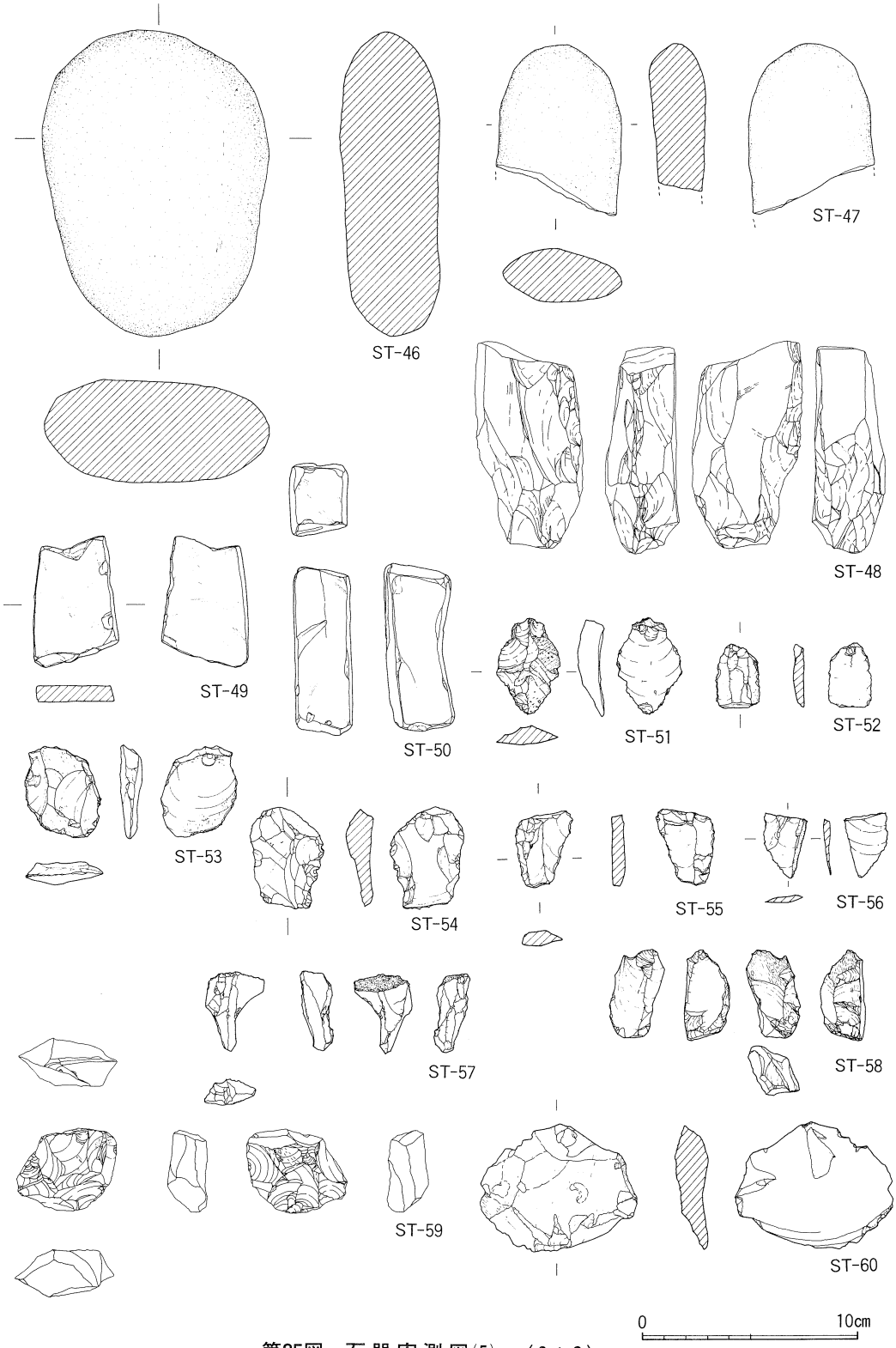
剥片は縦長のものが多いが，大半は大剥離面と主要剥離面の剥離方向が一致せず，不規則な剥離を行われたものだった。これらの中には，エッジ部に摩滅が見られる等の刃器としての使用を伺わせるものがいくつか見られる。

ST-51は，一部に自然面を残す黒曜石の剥片で，剥離方向は不規則だがエッジ部に小さな剥離が見られ，刃器としての使用が考えられる。また，ST-52やST-77は，剥離方向が一定しており，規則的な剥離が行われたもののようである。

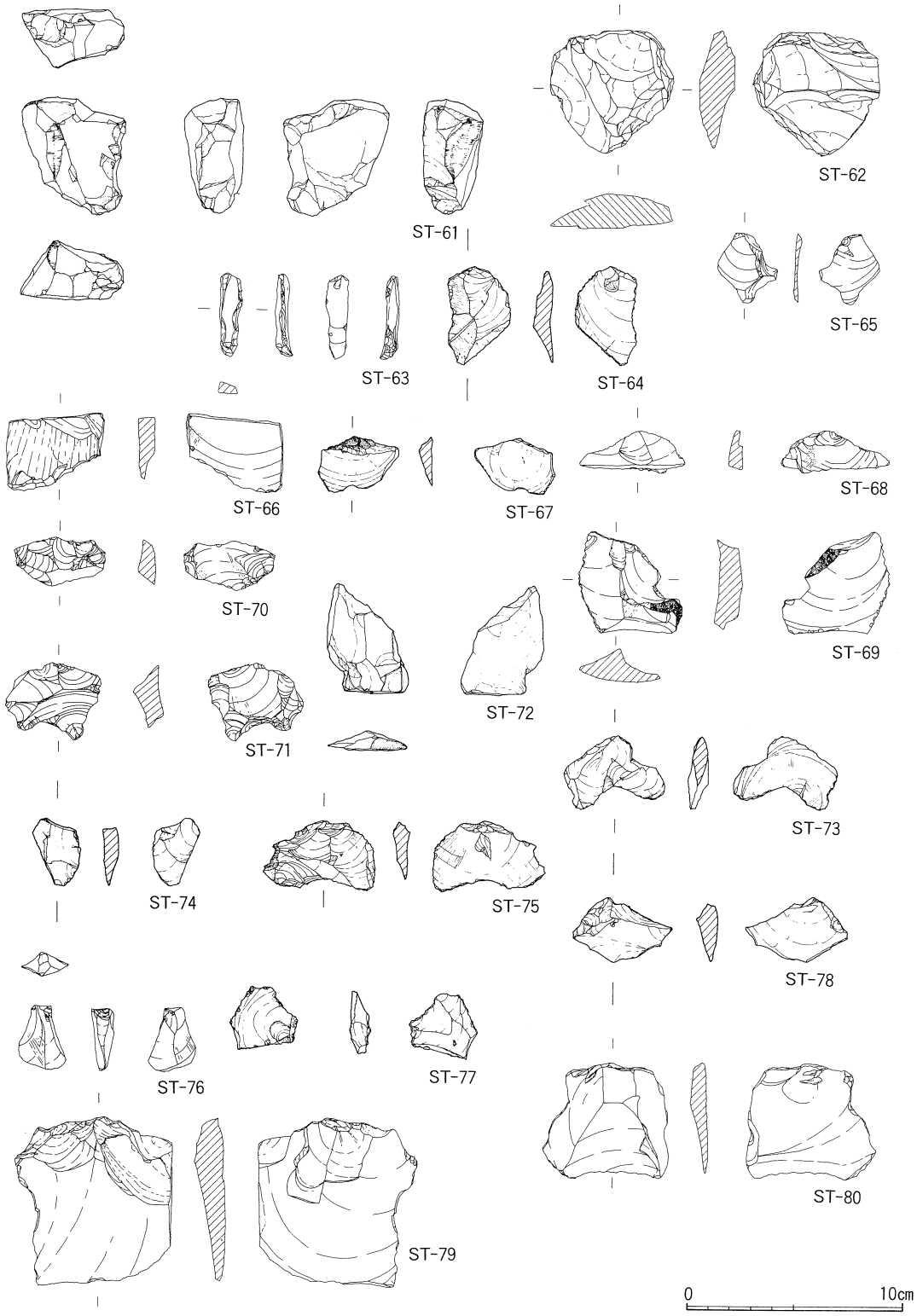
ST-54やST-75は，エッジ部の小さな剥離によって刃部を作り出そうとする意図が伺われるもので，スクレーパーとしての使用が考えられる。また，ST-69・73は調整は行われていないものの，下端エッジ部に使用によると思われる摩滅が見られ，スクレーパーとして使用したことが想像される。ST-53も，規則的な剥離の認められない黒曜石製の剥片であるが，これにも下端エッジ部に摩滅が見られる。

ST-81・83・84には上下端部に階段状の剥離がわずかに見られ，楔形石器としての使用が考えられる。

ST-72は，凝灰質頁岩の剥片であるが，下端部に平坦な面が見られ，細かい擦痕が多く見られる。



第85図　石器実測図(5)　(2：3)



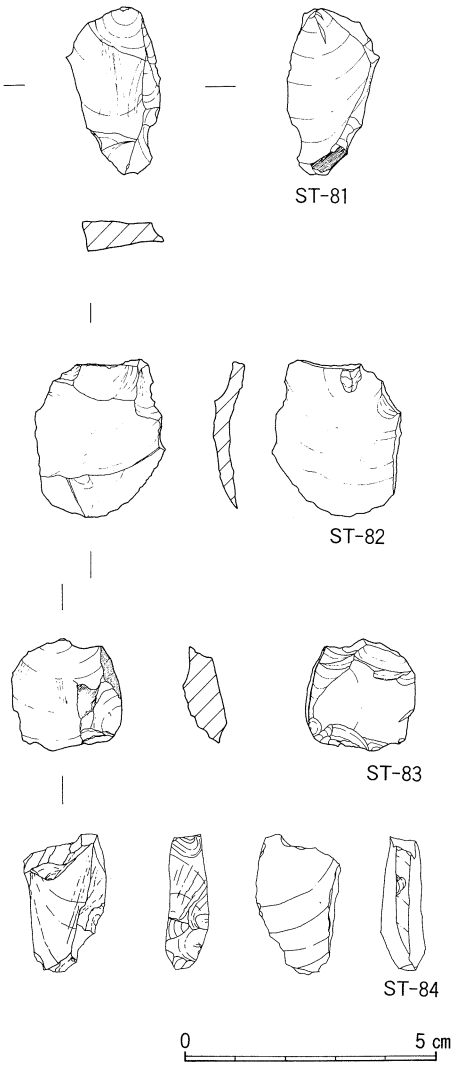
第86図　石器実測図(6)　(2：3)

この擦痕は研磨痕と考えられ，擦り切り技法による切断が行われていた可能性がある。タテチョウ遺跡の1988年度調査や西川津遺跡では，玉作に関係する遺物も出土している他，石包丁等の刃器類にも擦り切り痕を残すものが見られる。ST-72は小片であり全体は伺えないが，こうしたものである可能性をもっている。

石核としたものは，大半が剝離方向が一定せず，自然面を残すものも多い。

石器の石材は各種が見られるが，剝片等を含めると黒曜石の割合が圧倒的に多くなる。これは，砂礫層からの出土であることにより，黒曜石以外の剝片が自然石と区別しにくいことに起因している。この点については今後の注意次第で黒曜石以外の剝片が増加するおそれがあり，石器全体に占める黒曜石の割合が低下する可能性を秘めることになる。黒曜石の産地の同定は行っていないが，過去に行われたケイ光X線分析による原産地推定では，宍道湖・中海周辺の遺跡から出土した黒曜石はすべて隠岐島久見産と言うことであり，今回出土したものも大半は隠岐島産であろう。

タテチョウ遺跡では過去には多くの木製農耕具が出土しており，未成品も多く見られた。今回の調査でもミカン割り材や，鋤の未成品が出土しており，磨製の石製工具が多量に出土する可能性があったが，片刃磨製石斧が２点出土したにすぎない。獣骨には解体痕が見られるものがあり，金属器の使用も伺るが，磨製の石製工具類がわずかであったとは思えない。タテチョウ遺跡は河川堆積層であるため，今後，付近の集落跡が調査されれば，石製工具類が多量に出土する可能性があると思われる。



第87図　石器実測図(7)　（2：3）

上流の西川津遺跡では，玉作に関係する遺物が多く出土しており，その中に未成品が多く含まれていた[註3]ことから西川津遺跡周辺で玉作が行われていた可能性が指摘されている。しかし，今回のタテチョウ遺跡の調査では，確実に玉作に関係すると考えられる資料は出土しなかった。1988年度の調査では，板状に加工した石材に擦り切りを行った資料が多く出土しているが，この年度の調査で

は，石包丁・石鎌の成型に擦り切り技法が使われた可能性が指摘されているため，確実に玉作関係遺物と呼べるものが少なくなっている。[註4] 今回の調査でも擦り切り痕をもつ剝片（ST-72）が出土しているが，刃器である可能性も高い。西川津遺跡での玉作関係遺物は弥生時代前期から中期とされているが，タテチョウ遺跡でのその時代の遺物は豊富であった。こうしたことから，同時代に営まれた隣接する集落であっても，玉作を行う集落と行わない集落があったと考えられないだろうか。

註1　『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ（海崎地区1）』　島根県教育委員会　1987年
註2　『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅴ（海崎地区3）』　島根県教育委員会　1989年
註3　『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ（海崎地区1）』　島根県教育委員会　1987年
註4　『タテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』　島根県教育委員会　1990年

石　器　観　察　表

器種	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	法量（cm）	重量（g）	石材	形態・文様の特徴	手法の特徴	備考
尖頭器	第81図 ST-1	64	S6W1	青灰色 砂礫層	長さ（3.4） 幅（1.6） 厚さ 0.7	3.65	黒曜石	茎部を欠く		全面的に水磨
石鏃	第81図 ST-2	64	N2E0	青灰褐色 砂礫層	長さ 1.6 幅 1.4 厚さ 0.3	0.42	黒曜石	無茎石鏃。凹茎式三角形鏃	一部に第1次剝離面を残す	
石鏃	第81図 ST-3	64	N2E0 N3E0	青灰色 砂礫層	長さ 1.7 幅 1.7 厚さ 0.2	0.70	黒曜石	無茎石鏃。凹茎式三角形鏃。抉りが浅い	わずかに第1次剝離面を残す	
石鏃	第81図 ST-4	64	Ⅱ区 トレンチ内	砂質土	長さ（1.2） 幅（1.7） 厚さ 0.4	0.93	安山岩	無茎石鏃。凹基式三角形鏃	第1次剝離面はほとんど残さない	緻密，Sanukite?
石鏃未成品	第81図 ST-5		S6W1	青灰色 砂礫層	長さ（3.3） 幅（2.1） 厚さ 0.7	5.1	めのう（Agate）	無茎鏃。凹基式三角形鏃の未成品	第1次剝離面が大きく残る	
石鏃未成品	第81図 ST-6	64	S3E0	暗青灰色 砂礫層	長さ 2.8 幅 1.9 厚さ 0.9	4.3	黒曜石	無茎鏃。凹基式三角形鏃の未成品	第1次剝離面を多く残す	
石鏃未成品	第81図 ST-7	64	N3E1	暗灰色 粘質土	長さ 3.0 幅 2.2 厚さ 0.8	6.75	黒曜石	無茎石鏃。凹基式三角形鏃の未成品	第1次剝離面を多く残す	
剝片	第81図 ST-8	64	N1E0	褐色 砂質土	長さ 3.5 幅 2.3 厚さ 0.9	5.3	黒曜石	無茎石鏃の未成品と考えられる		
楔形石器	第81図 ST-9	64	N2E1	暗青灰色 砂質土	長さ 1.6 幅 1.1 厚さ 0.5	0.7	玉髄質石英 Chalcedonic Quarty	上下端に階段状の剝離		
楔形石器	第81図 ST-10	64	N2E3	暗褐色 粘質土	長さ 3.0 幅 1.7 厚さ 0.9	3.75	黒曜石	両側に階段状の剝離		
楔形石器	第81図 ST-11	64	Ⅰ区 排水路		長さ 4.2 幅 1.4 厚さ 1.0	5.77	黒曜石	縦長の剝片の両端に階段状の剝離		
楔形石器	第81図 ST-12	64	N1E3	褐色 砂質土	長さ 5.6 幅 2.1 厚さ 0.6	8.8	黒曜石	横長剝片の両端に階段状の剝離。自然面を残す		
剝片	第81図 ST-13	64	不明		長さ 3.3 幅 1.4 厚さ 1.2	3.85	黒曜石	縦長の剝片の両端に，わずかに階段状の剝離		
楔形石器	第81図 ST-14	64	S2W1	青灰色 砂礫層	長さ 2.0 幅 1.4 厚さ 0.6	1.75	黒曜石	上下から打撃を受けた大きな剝離が見られる		
スクレーパー	第82図 ST-15	64	S1E0	暗灰色 砂礫層	長さ（4.5） 幅 3.3 厚さ 0.9 刃部長3.2	10.3	黒曜石	縦長剝片の側辺を使用したもの		

器　種	挿図番号	図版番号	出土地点	層　位	法　量（cm）	重　量（g）	石　材	形態・文様の特徴	手法の特徴	備　考
スクレーパー	第82図 ST-16	64	S52年度 第Ⅲ調査区		長さ 5.9 幅 3.6 厚さ 0.8 刃部長5.2	19.85	玉髄質石英 Chalcedo-nic Quarty	縦長剥片の側辺を使用したもの		
使用痕剥片	第82図 ST-17	64	Ⅰ区 排水路		長さ 4.2 幅 2.5 厚さ 0.9	11.15	黒曜石	自然面を残す。一側辺に小さな剥離		
剥片	第82図 ST-18	64	Ⅰ区 排土中		長さ 6.3 幅 5.7 厚さ 0.7	20.25	頁岩	板状剥離した剥片。下端部には擦痕		
スクレーパー	第82図 ST-19	64	S6W1	青灰色 砂礫層	長さ 6.1 幅 4.6 厚さ 2.3 刃部長6.1	51.9	頁岩	石核に二次加工を施し，スクレーパーとしたもの		
使用痕剥片	第82図 ST-20	64	N2E2	赤褐色 砂質土	長さ 6.3 幅 3.6 厚さ 0.7	20.05	珪質頁岩	薄い横長の剥片。下端エッジ部に擦痕が見られる		Siliceous shale
剥片	第82図 ST-21	64	N2E1	褐色 砂礫層	長さ 6.8 幅 8.6 厚さ 1.2	69.55	頁岩	薄い板状の剥片。下端エッジ部が磨滅		
スクレーパー	第82図 ST-22	64	S2W1	暗青灰色 砂層	長さ(5.0) 幅 3.9 厚さ 0.9 刃部長(3.8)	17.91	黒曜石	幅広の剥片の長側縁に刃部を付けたもの		
スクレーパー	第82図 ST-23	64	N2E0	暗赤褐色 砂層，下層 粘質土	長さ 12.2 幅 7.1 厚さ 1.1 刃部長11.8	129.0	頁岩	横長の大型剥片の長側線に刃部を付けたもの		
石錘	第82図 ST-24	64	Ⅰ区 排水路中	青灰色 砂質土	長さ 5.1 (6.1) 幅 5.0 厚さ 1.5	39.61	アプライト (Aplite)			
石錘	第82図 ST-25	64	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	長さ 6.7 (8.3) 幅 6.5 厚さ 1.5	113.24	安山岩			
石錘	第82図 ST-26	64	N1E2	暗青灰色 砂質土	長さ 6.0 (6.9) 幅 7.4 厚さ 1.4	87.84	砂質頁岩	fine sandy shale		
石錘	第82図 ST-27	64	Ⅰ区 トレンチ内	砂質土	長さ 5.7 (6.9) 幅 7.0 厚さ 1.3	78.01	アプライト (Aplite)			
扁平片刃石斧	第83図 ST-28	65	N3E1	茶褐色 粘質土	長さ 4.9 幅 3.2 厚さ 1.5 刃部長3.1	40.01	火山岩 (流紋岩？)	ていねいな調整が行われており，剥離面はほとんど残さない		
扁平片刃石斧	第83図 ST-29	65	Ⅰ区 トレンチ内	砂礫層	長さ 4.9 幅 2.9 厚さ 0.8 刃部長2.6	25.35	流紋岩	ていねいな調整が行われており，剥離面はほとんど残さない。刃部は磨滅している		
打製石斧？	第83図 ST-30	65	N2E2	赤褐色 砂質土	長さ(8.3) 幅 7.1 厚さ 1.6 刃部長7.1	104.55		扁平な石材の端部に粗く刃部を付けたもの		
石包丁状石器	第83図 ST-31	65	S7E0	青灰色 砂礫層	長さ(3.1) 幅 (2.3) 厚さ 0.4 刃部長(2.7)	6.15	頁岩	扁平な板状の石材に片刃を付けたもの。全面的に研磨		
石包丁	第83図 ST-32		N2E1	暗青灰色 砂質土	長さ(4.8) 幅 (3.9) 厚さ 0.4 刃部長(4.7)	11.42	流紋岩	扁平な板状の石材に両刃を付けたもの。磨製		
石包丁	第83図 ST-33	65	Ⅰ区 トレンチ内 南側		長さ(5.9) 幅 (5.8) 厚さ 1.4 刃部長(5.1)	64.8	頁岩	厚みのある板状の石材に片刃を付けたもの。磨製。擦痕が多く見られる		
石包丁状石器	第83図 ST-34	65	S3E0	暗青灰色 砂礫層	長さ 4.8 幅 (4.6) 厚さ 0.4 刃部長(4.4) 4.6	14.7		2面にわたる片刃の刃部。左側片の刃部はやや雑に作られている。磨製		
石包丁	第83図 ST-35	65	N0E0	青灰色 砂礫層	長さ(10.0) 幅 5.1 厚さ 0.6 刃部長(8.5)	49.33	流紋岩	打製の石包丁。両刃。抉りを持つ		
大型石包丁	第83図 ST-36	65	N2E2	褐色 砂礫層	長さ(5.9) 幅 6.2 厚さ(0.9) 刃部長(5.8)	53.75	頁岩	打製による。裏面は剥離している		
大型石包丁	第83図 ST-37	65	N1E2	灰色 粘質土	長さ(6.9) 幅 (5.6) 厚さ 0.8	54.3	頁岩	打製による。扁平な石材の長側片に刃部を付けたもの。両刃		
石包丁状石器	第83図 ST-38	65	N2E2	赤褐色 砂質土	長さ(10.4) 幅 4.7 厚さ 0.8	57.31	頁岩	板状剥離による薄い石材。擦痕が見られる。打製による剥片をそのまま使用		

器　種	挿図番号	図版番号	出土地点	層　位	法　量 (cm)	重　量 (g)	石　材	形態・文様の特徴	手法の特徴	備　考
大型石包丁	第83図 ST-39	65	N2E0	暗赤褐色砂層,下層:粘質土	長さ 27.3 幅 9.8 厚さ 1.3 刃部長25.1	480.0	頁岩	直線刃。磨製。片刃。刃部近くに擦痕が見られる		
石鎌	第84図 ST-40	65	N5E1	暗灰褐色粘質土	長さ 16.7 幅 7.3 厚さ 1.3 刃部長14.6	213.9	頁岩	扁平な石材の周縁を打ち欠き,両刃の刃部を付けたもの。打製		
石鎌	第84図 ST-41	65	排土中		長さ(15.7) 幅 6.4 厚さ 0.9 刃部長(11.1)	103.25	頁岩	扁平な石材。両刃の刃部を付けたもの。打製		
石鎌	第84図 ST-42	65	S2E0	灰褐色砂礫層	長さ(3.7) 幅 (3.5) 厚さ 0.7 刃部長(3.5)	20.2	頁岩	扁平な石材を打ち欠き,両刃の刃部を付けたもの。打製		
石鎌	第84図 ST-43	65	N1E0	河道内砂礫層	長さ(7.2) 幅 5.6 厚さ 1.3 刃部長(5.2)	85.13	頁岩	両刃。刃部付近より擦痕が見られる		
敲石	第84図 ST-44	65	I区	表土中	長さ(8.3) 幅 8.7 厚さ 5.7	638.0	流紋岩円礫(水磨)	円礫をそのまま使用。擦痕が残っており磨石としても使用されている		
敲石	第84図 ST-45	65	N3E1	赤褐色砂質土	長さ 13.7 幅 5.9 厚さ 5.5	104.55	流紋岩円礫(水磨)	円筒形の河原石を使用。擦痕が見られ磨石としても使用されている		
石皿	第85図 ST-46	66	トレンチ内	暗灰色粘質土	長さ 14.3 幅 10.5 厚さ 4.5	970.0	デーサイト(Dacite)	楕円形の自然礫を使用。わずかに擦痕がある		河床礫
石斧?	第85図 ST-47	66	N3E2	褐色砂質土	長さ(6.8) 幅 5.7 厚さ 2.4	137.9	風化安山岩	楕円形の河川石。周縁部は磨かれている		
石核	第85図 ST-48	66	N1E2	褐色砂質土	長さ 8.8 幅 4.8 厚さ 3.2	186.77	頁岩	一面には擦痕が見られ,磨かれている		
砥石	第85図 ST-49	66	I区トレンチ内		長さ 5.6 幅 4.0 厚さ 8.0	31.3	流紋岩	薄い板状の石材。2面に擦痕が多く見られる		
砥石?	第85図 ST-50	66	S3E0	暗灰色粘質土	長さ 7.6 幅 2.6 厚さ 2.7	110.91	頁岩	角柱形の石材。頂面に擦痕		
使用痕剥片	第85図 ST-51	66	S3E0	暗青灰色砂礫層	長さ 4.5 幅 2.9 厚さ 0.9	9.96	黒曜石	縦長剥片。側縁部には小さな剥離。一部に自然面を残す		
剥片	第85図 ST-52	66	S2E0	暗青灰色砂層	長さ 3.0 幅 2.0 厚さ 0.6	3.9	黒曜石	縦方向の規則的な剥離。頂部には階段状の剥離		
剥片	第85図 ST-53	66	N2E1	褐色砂礫層	長さ 4.6 幅 3.3 厚さ 1.1	13.0	黒曜石	楕円形の縦長剥片。下端部には小さな剥離が見られる		
スクレーパー	第85図 ST-54	66	N0E0	灰褐色砂礫層	長さ 4.5 幅 3.3 厚さ 1.2	17.02	黒曜石	縦長の剥片の側辺に刃部。表裏両面から剥離調整		
剥片	第85図 ST-55	66	N1E2	褐色砂質土	長さ 3.3 幅 2.5 厚さ 0.7	5.56	珪質頁岩	剥離の方向は一定しない		
剥片	第85図 ST-56	66	S2E0	暗青灰色砂層	長さ 2.9 幅 2.0 厚さ 0.4	1.80	黒曜石	縦長の剥片		
石核	第85図 ST-57	66	N3E2	赤褐～青灰色砂礫層	長さ 3.7 幅 2.6 厚さ 1.5	7.68	黒曜石	自然面を残す。剥離方向は一定しない		
石核	第85図 ST-58	66	N2E2	褐色砂礫層	長さ 4.1 幅 2.3 厚さ 1.9	15.59	黒曜石	自然面を残す。剥離方向は一定しない		
石核	第85図 ST-59	66	N2E2	暗灰色砂礫層	長さ 3.8 幅 4.5 厚さ 1.8	31.6	黒曜石	剥離方向は一定しない		
石核	第85図 ST-60	66	N2E1	赤褐色砂質土	長さ 5.9 幅 7.3 厚さ 1.4	62.35	黒曜石	自然面を多く残す		
石核	第86図 ST-61	66	N3E1	赤褐色～青灰色砂礫層	長さ 5.6 幅 4.9 厚さ 2.8	71.95	流紋岩	剥離方向は一定しない。自然面を残す		

器　種	挿図番号	図版番号	出土地点	層　位	法　量（cm）	重　量（g）	石　材	形態・文様の特徴	手法の特徴	備　考
石核	第86図 ST-62	66	N2E1	褐色 砂礫層	長さ 5.7 幅 5.8 厚さ 1.6	54.7	頁岩	剝離方向は一定しない		
剝片	第86図 ST-63	66	N2E2	褐色 砂礫層	長さ 3.9 幅 1.0 厚さ 0.6	2.75	黒曜石	短冊形の剝片。下端部の剝離方向は一定しない		
剝片	第86図 ST-64	66	S3E0	褐色 砂礫層	長さ 4.6 幅 2.8 厚さ 0.8	8.77	黒曜石	自然面を残す		
剝片	第86図 ST-65	66	N1E2	赤褐色 砂質土	長さ 3.3 幅 2.7 厚さ 0.2	2.45	黒曜石	薄い剝片。周縁からの剝離がみられる		
剝片	第86図 ST-66	66	N3E1	暗灰色 粘質土	長さ 3.6 幅 4.5 厚さ 0.7	15.3	黒曜石	板状の剝片		全面的に風化が進んでいる
剝片	第86図 ST-67	66	N2E2	明白茶色 砂層	長さ 2.7 幅 3.6 厚さ 0.5	4.12	黒曜石	横長の剝片。一部に自然面を残す		
剝片	第86図 ST-68	66	N1E0	暗青灰色 砂礫層	長さ 1.9 幅 4.9 厚さ 0.7	5.1	黒曜石	横長の剝片		
剝片	第86図 ST-69	66	N2E2	褐色 砂礫層	長さ 4.8 幅 4.6 厚さ 1.5	23.74	黒曜石	剝離方向の一定しない剝片。側縁エッジ部には小さな剝離が見られる		
剝片	第86図 ST-70	66	N0E1	褐色 砂質土	長さ 2.3 幅 4.2 厚さ 0.8	8.8	黒曜石	横長の剝片		
石核	第86図 ST-71	66	N0E1	褐色 砂質土	長さ 3.3 幅 4.3 厚さ 0.8	19.55	黒曜石	剝離方向は一定しない		
剝片	第86図 ST-72	66	トレンチ内	暗灰色 粘質土	長さ 5.1 幅 3.2 厚さ 0.9	17.52	凝灰質頁岩	薄い板状の剝片。下端部には研磨痕		
使用痕剝片	第86図 ST-73	66	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	長さ 2.3 幅 4.8 厚さ 0.9	9.36	黒曜石	横長の剝片。内湾する下端縁には小さな剝離		
剝片	第86図 ST-74	66	N2E1	褐色 砂礫層	長さ 3.0 幅 2.1 厚さ 0.7	4.45	黒曜石	剝離方向は一定しない		
スクレーパー	第86図 ST-75	66	S3E0	暗青灰色 砂層	長さ 5.3 幅 3.8 厚さ 0.3	8.82	黒曜石	横長の剝片の下端縁に刃部を付けたもの		
剝片	第86図 ST-76	66	不明		長さ 3.0 幅 2.2 厚さ 0.9	4.52	黒曜石	縦長の剝片		
剝片	第86図 ST-77	66	N2E2	褐色 砂礫層	長さ 3.1 幅 2.5 厚さ 0.9	6.65	黒曜石	剝離方向が一定		
剝片	第86図 ST-78	66	N2E2	褐色 砂礫層	長さ 3.0 幅 4.6 厚さ 0.9	7.9	珪質頁岩	横長の剝片		
剝片	第86図 ST-79	66	N1E2	赤褐色 砂質土	長さ 7.7 幅 7.3 厚さ 1.3	91.42	流紋岩（やや風化）	薄い板状の剝片		
剝片	第86図 ST-80	66	N3E1	赤褐色～青灰色 砂礫層	長さ 5.2 幅 5.9 厚さ 0.7	22.3	頁岩	薄い板状の剝片		
剝片	第87図 ST-81		N2E0 杭列	暗褐色 砂質土	長さ 3.4 幅 1.8 厚さ 0.6	4.3	黒曜石	縦長の剝片。両端に階段状の剝離		自然面を残す
剝片	第87図 ST-82		N1E1	褐色 砂質土	長さ 3.1 幅 2.5 厚さ 0.3	2.4	黒曜石	縦長の薄い剝片		
剝片	第87図 ST-83		N1E2	赤褐色 砂質土	長さ 1.2 幅 1.1 厚さ 0.6	3.75	黒曜石	両端に上下方向からの剝離		わずかに自然面を残す
剝片	第87図 ST-84		N3E1	赤褐色～青灰色 砂礫層	長さ 4.8 幅 1.5 厚さ 0.8	3.7	黒曜石	縦長の剝片。両端に小さな剝離		

10. 木　　製　　品

木製品（第88～102図　図版67～92）は遺物包含層，各河道から多量に出土し，92点を図示した。しかし，出土層位が不安定なため，曲物容器等の一部の例外を除き，その所属時期を断定できなかった。また，本遺跡出土の木製品はその原型を復元できない破片が多く，使用法について判然としないものも多かったが，資料を提示する意味で，できるだけ多くの図面を掲載した。なお，木製品の一部については渡邊正巳氏に樹種鑑定を依頼しているが，その結果については，第X章に記載した。

木製農耕具（第88図　W-1～第89図　W-6）

1988年度以前の調査では鍬類をはじめ，多くの木製農耕具が出土しているが，今回の調査では鍬と断定できるものは無く，鋤類も少量の出土に止どまった。

W-1・2は身が二股になった，いわゆる「ナスビ形」の鋤である。

西川津遺跡では鋤の分類を行い，身の平面形がナスビのような形状をもつ鋤をまとめてB1類と呼んでいる。[註1] 鋤B1類には身の部分が二股にならず，一枚の舌状を呈すもの，中央に三角形の透かし孔をもつもの，二股，もしくは三又に分かれるもの等様々な形態が見られる。W-1は，全長約50㎝あり，別作りの柄と組み合わせて使用するものであろう。最も厚く作られている位置でも15㎜しかなく，きわめて薄く作られている。W-2は基部付近しか残損していないため，下部の形態は判らない。

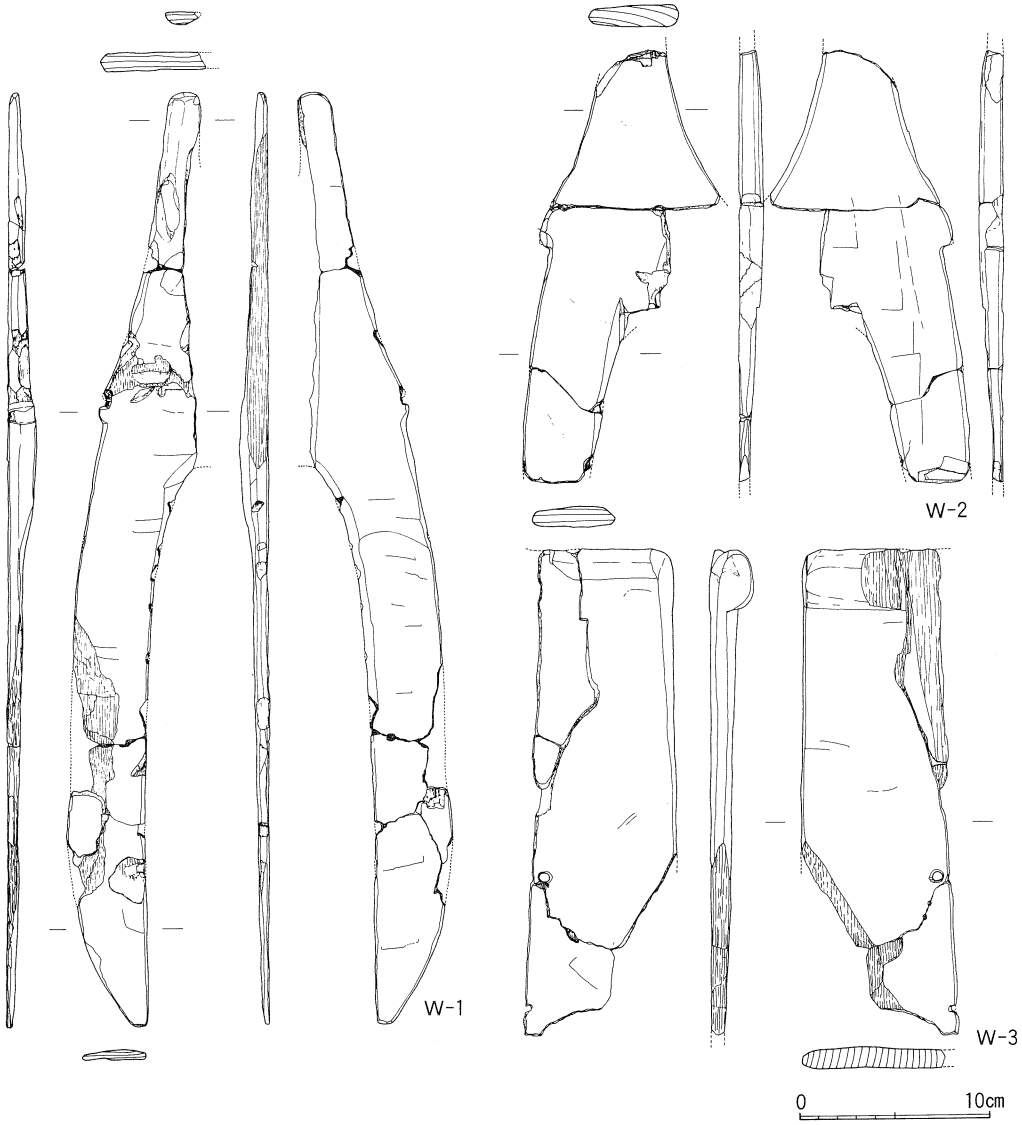
W-6は両端を欠くが，二股の身をもつ鋤B1類の未成品と考えられる。木材は，ミカン割りした柾目材を使用しており，厚さ60㎜を測る。完成品の厚さが10～20㎜とすると，40㎜以上も削らなければならないことになる。ミカン割りした材を粗削りし，股の部分を削り出そうとする段階のもので，股になる部分には刃物の痕跡が多く残っている。上方の頸部付近には抉りを作り出そうとしているが，この抉りは，W-1・2等の完成品には見られない。

W-4・5はミカン割り材である。W-4は，長さ1275㎜，幅235㎜を測るもので，両端の切断以外，ほとんど未加工である。背部には樹皮が残されている。未加工のため，用途は不明である。

W-5は長さ436㎜，幅263㎜，厚さ48㎜を測るミカン割り材である。4隅を切断し丸鍬状の形状に，整形する段階のものと考えられる。丸鍬の製作は一般に，長さのあるミカン割り材を使用し，3枚程度を同時に粗削りし，中央の隆起部分まで整形したものを分割する方法が知られており，W-5とは合わない。しかし，西川津遺跡出土の丸鍬では一枚毎に分割した後で，隆起部分等の整形を行うものも知られているため，W-5は丸鍬未成品の可能性も推定される。W-5には平面部分にわずかに加工痕が見られる。なお，丸鍬については，広鍬の泥避けとして「ゲタ」部分に装着して使用され

たことが推定されており[註2]，丸鍬単独で鍬として使用することは行っていないようであるが，便宜上丸鍬の名称を使用した。

W-3は用途不明の板状製品で，薄い板の端部に突帯をもつものある。板状の部分の厚さ12㎜，突帯部分では25㎜を測る。当初，その形態から広鍬と考えていたが，突帯の形状が広鍬の「ゲタ」とは異なること，中程に貫通孔が穿たれていること，広鍬とは木取の方向が異なることから，他の用途を考えざるを得ない。しかし，木材は鍬等の農耕具に多用されるアカガシ亜属を用いており，農耕具である可能性が高い。



第88図　木製品実測図(1)　（1：4）

有頭棒（第90図　W-7）

断面四角形の棒で，下端部をわずかに欠く。上端部は木偶頭状削り出し，下端部は杭状に尖らせている。同様の形態のものは，1984年度の調査で断面円形のものが出土している。

棒状木製品１（第90図　W-8～10）

W-8は断面長方形の棒の一端を斜めに削り出したものである。両端を欠くが，少なくとも一端は尖頭状になっていたものと思われる。削り出した部分には加工痕が多く残っている。建築部材であろうか。

W-9は芯持材の一端を頭を残して削り出したもので，一端を欠く他，片面が剝離している。全体の形状は判らないが，W-7と同様のものであろうか。使用痕は見られないが，頭部には，縄を掛けるような用途が考えられる。

W-10は中程がくびれた断面円形の棒状を呈すものである。一端を欠く他，一面が剝離し水磨を受けている。欠損した側の太さは46㎜を測り，端部に向けてやや細くなっている。端部は切断された後，ていねいに面取りが行われており，くびれ部も細かい調整が加えられている。芯持材をそのまま使用しており，端部・くびれ部以外に面取りは行われていない。

杭状先端加工品（第90図　W-11）

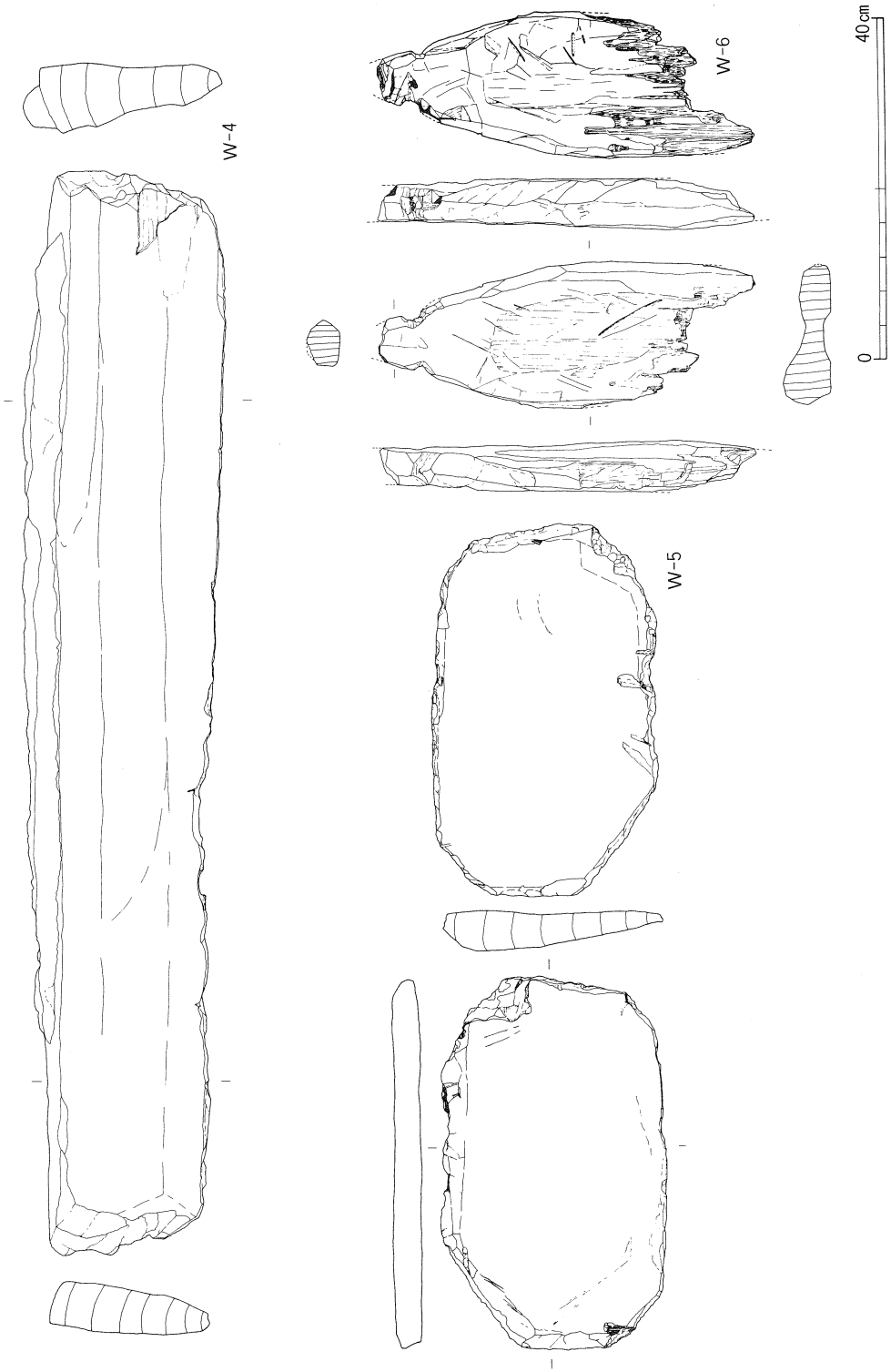
小枝を半裁して柾目材としたものの両端を加工したものである。下部は端部から７㎝程の位置から尖らせるように削り出しており，端部はへら状に斜めに落としている。それに対し，上部は端部から２㎝程の位置から緩く削り出し，頭部近くにわずかに段を残し，端部を丸く整えている。長さ約21㎝を測る。

板状木製品１（第90図　W-12～第91図　W-17）

用途不明の木製品のうち，板状製品を図示した。

W-12は柾目材を使用した偏平な板材で，長さ267㎜，幅56㎜，厚さ９㎜を測る。加工痕は残していないが，小さな貫通孔１カ所をもつ。貫通孔は四角形であることから釘孔の可能性も考えられる。なお，出土層位は遺物包含層の青灰色砂礫層で，この土層からは，古墳時代以前の遺物しか出土していない。

W-13は柾目材を薄く削り，両側辺に緩やかな抉りを切り出して羽子板状に整形したもので，両端と一側辺を欠く。側辺はていねいに面取りが行われ，両面にはわずかに加工痕を残している。先端の形状は判らないが，抉りの入れられた部分の幅は25㎜程で，面取りも行われていることから，



第89図　木製品実測図(2)　（1：4）

この部分を握り，へら状，もしくは杓文字状の使い方をしたものであろうか。

W-14は反りをもつ板材で周囲を欠損している。方形の貫通孔が少なくとも2カ所に穿たれている。残存長398㎜，残存幅122㎜，厚さ20㎜を測り，両面には加工痕をわずかに残している。貫通孔は方形で両面から穿たれているが，穿孔を行う方向は，片面は木目に平行に，他面は木目に直行している。板目材を使用している。

W-15・16は板材の小片である。W-15は板目材を，W-16は柾目材を使用している。W-16は，断面扇形になっている。

W-17は隅丸方形の貫通孔が2カ所に穿孔された板材である。貫通孔は両面から穿孔されている。各面には加工痕を残していないが，側縁はわずかに面取りされている。側辺を欠くため全体の形状や穿孔の数は判らない。1977年度調査では4カ所の貫通孔をもつ板状の木製品が出土しており，田下駄状木製品の名称で紹介されている。厚さ14㎜を測る板目材を使用している。

木鏃（第91図　W-18～21）

木鏃と考えられるものは4本が出土している。いずれも板目材を細く削り出したもので，一端を欠くものが多い。W-20は幅10㎜，厚さ5㎜の断面長円形を呈しており，平面形は柳葉形になっている。下方はわずかに抉られ，基部を作り出している。W-21は太さ約10㎜の板目材を使用しており，下端部を約3㎝にわたって削り出している。

不明木製品（第91図　W-22・第92図　W-23）

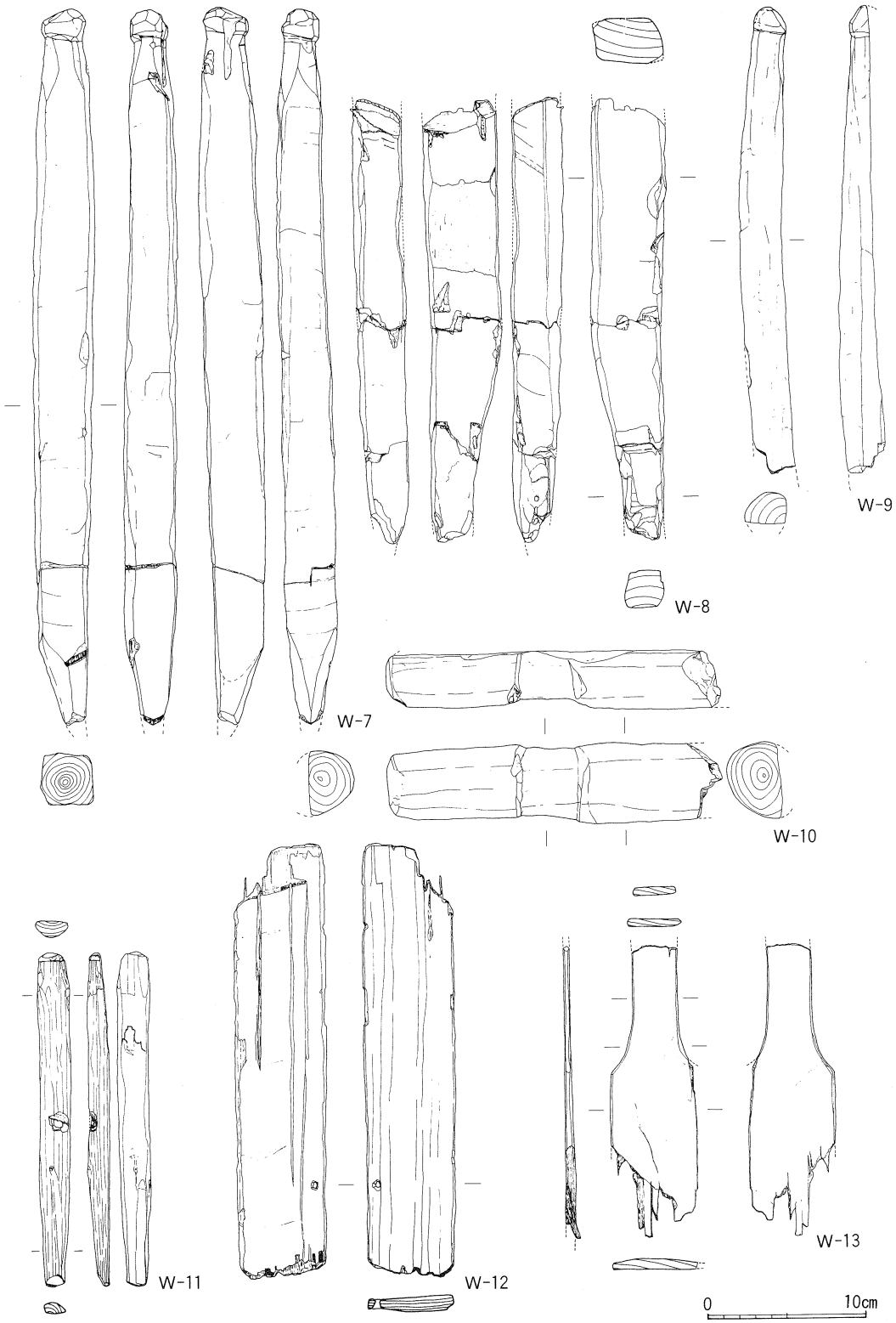
W-22は板目材を細く削り出し，球形の頭部を作り出したものである。W-23は薄い柾目材に2カ所の隆起部分をもつもので上端部は欠損しているようである。

棒状木製品2（第92図　W-24～26）

W-24は断面長方形の棒の一端を削り出した杭状のもので，一端を欠いている。棒状になった部分の両面には加工痕が多く残されている。下端部分は両側縁から鋭利に削り出している。板目材を使用している。

W-25も断面長方形の棒の一端を加工したものである。両端を欠損しているため全体の形は判らない。下端部は，各面から斜めに削り落とそうとしている。建築材のほぞのような形状か。

W-26は芯持材の各面を面取りした棒で，一端を欠く。やや湾曲した枝材をそのまま使用したものと思われる。切断面と考えられる上端はていねいに整形されており，使用痕は見られない。一面だけ広い面が作られており，面取りを行った各面にはわずかに加工痕を残す。残存長約45㎝，幅38



第90図　木製品実測図(3)　（1：4）

㎜，厚さ27㎜を測る。

建築部材1（第92図　W-27）

貫通孔をもつ胴縁状の形態をもつもので，建築部材であろうか。残存長366㎜，幅20㎜，厚さ12㎜を測る断面長方形の棒で，両端を欠く。約10cm毎に4カ所以上の貫通孔をもつ。貫通孔は一辺5㎜程の方形で，釘孔と考えられる。材はわずかに炭化してひび割れが見られる。柾目材を使用している。

把手状木製品（第92図　W-28・29）

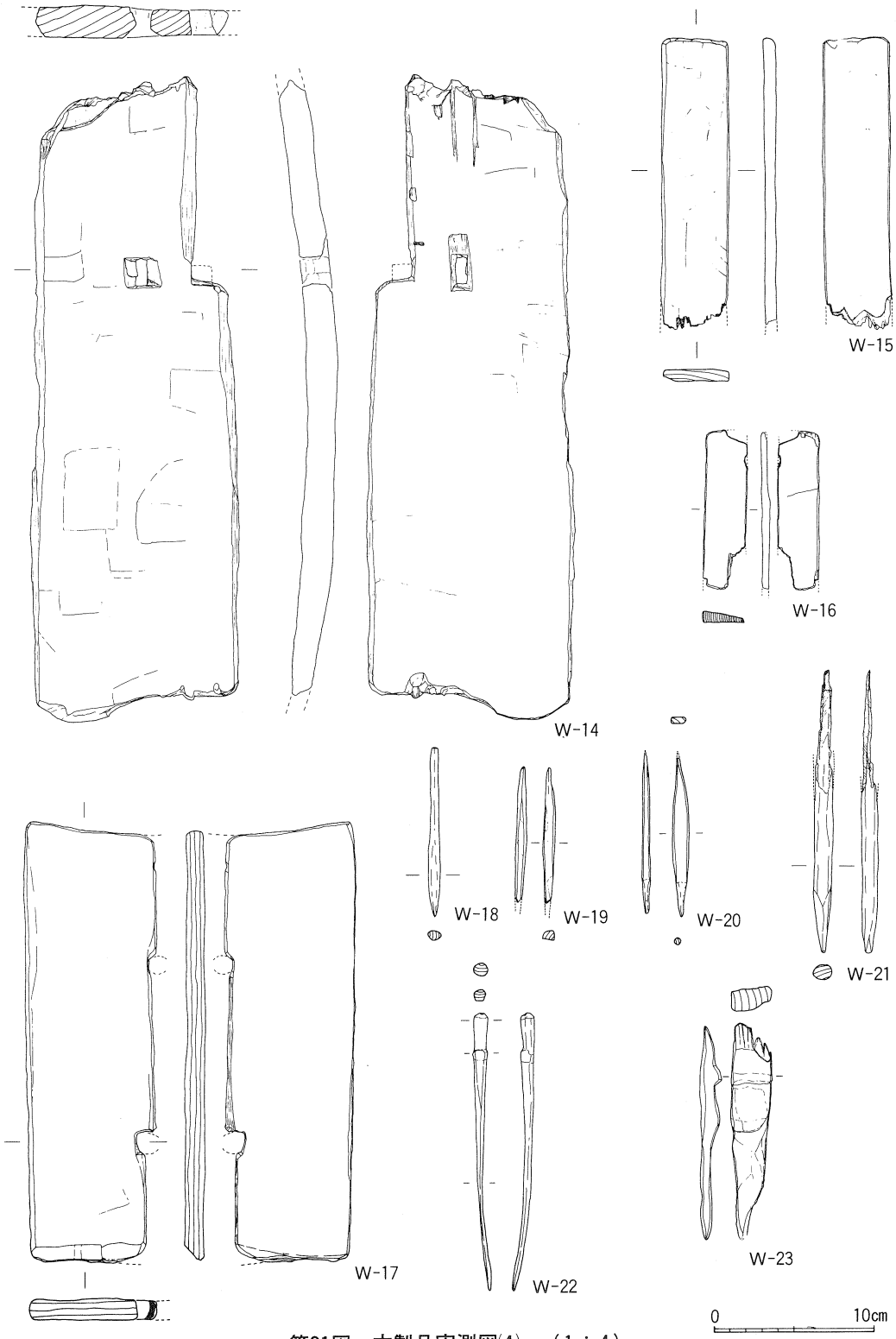
ほぞ穴状の貫通孔をもつものが2点あり，その形状から把手状木製品とした。W-28は長さ約29cmの棒状を呈すもので，中程に長方形の貫通孔が穿たれている。太さ43～48㎜を測り，断面はほぼ円形を呈す。芯持の枝材をそのまま使用したもので，周縁は簡単に面取りされている。両端は斜めに切断され，切断部周縁は細かく面取りを行っている。ほぞ穴は約1cm×3cmの長方形で，両側から穿孔されているように思える。鋤や櫂の上部に別木をT字形に取り付けて使用するものであろうか。1977年度調査で出土したものには，ほぞ穴と直交する釘孔を持つものが出土しているが，W-28には見られず，はめ殺しの技法によったものであろう。両端の傾斜した切断方向とほぞ穴の穿孔方向は直交しており，傾斜した切断方向は，使用方法について，何らかの用途を持っていたものであろうか。木材はマツ属を使用している。

W-29は小型のものである。隅丸方形の断面をもち，長さ90㎜，幅32㎜，厚さ32㎜を測る。各面ともていねいに面取りされ，加工痕を残している。両端の切断面はW-28と同様に周囲に面取りを行っている。貫通孔は長方形で，一方が広く一方が狭い断面台形を呈している。釘孔等は見られない。芯持材を使用している。

これらの木製品はその形状から把手としての使用方法を考えたが，鋤の把手は，西川津遺跡での出土例にも見られるように柄と同時に切り出すものが知られており，鋤の柄で別木を装着する例は朝酌川流域では知られていない。1977年度調査で出土したものには木釘を打ち込まれた例があり，別木を装着して使用したことは推定できるが，鋤であったかどうかは判らない。出土層位から，少なくとも古墳時代を下らない時期のものであり，今後の調査による装着例の出土を待って判断しなければならない。

棒状木製品3（第93図　W-30・31）

W-30・31は，棒状を呈するものでやや細いものである。W-30は長さ1185㎜，太さ28㎜を測る。



第91図　木製品実測図(4)　（1：4）

芯持材に面取りを行ったもので，全体に緩やかに湾曲している。一部を欠くが，ほぼ全形を推定できる。両端の切断面は，角を残さないように丸く整形されており，使用痕や紐等の圧痕は見られない。繊維の丈夫な，弾力性のある材を使用している。

W-31はわずかに湾曲した棒状で，一端を欠く。端部はW-30と同様に丸く整形され，端部近くに小さな抉りが切られている。使用痕は見られないが，紐等を掛けたものであろうか。棒状の部分の約半面は面取りされるが，他面は樹皮を剝いだだけの自然面を残しており，小枝の痕跡が見られる。芯持材を使用している。

余材（第93図　W-32）

W-32は，切断痕が多く見られるが意図的な整形をしているとは思えないもので，木製品成型時の余材と考えた。長さ662㎜，幅114㎜，厚さ58㎜を測る板目材である。両端は粗く斜めに切断される他，周縁部の所々に大きな加工痕が見られる。一面には溝状のくぼみが見えるが，これは枝等による自然のものであろう。板目材を使用している。

板材（第93図　W-33・34）

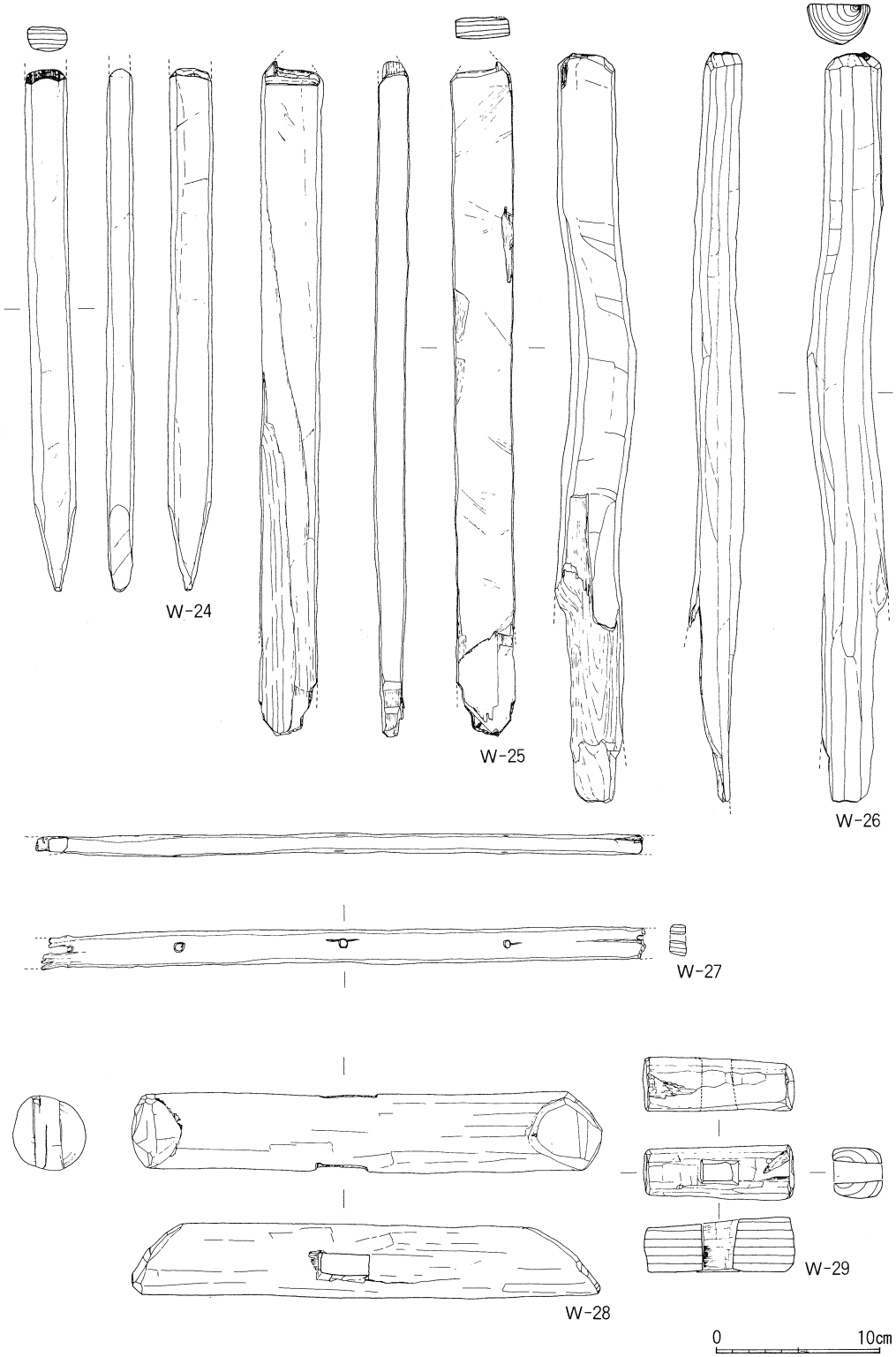
W-33・34の形状は板であるが，それぞれが単独で機能し得るものとは考えられず，他のものと組み合わされて機能するものと考えられるので，板材とした。

W-33は，長方形の板材で，一側辺を欠く。各側辺はていねいに面取りされ，上方は緩やかなカーブを描くように削られている。側辺下方には切り込みが入れられている。上方には３カ所の貫通孔が見られるが，方形を呈しており釘孔であろう。両面ともていねいに整形されており加工痕は残さない。板目材を使用し，長さ861㎜,厚さ20㎜を測る。

W-34も同様の形態をもつ板材で，長さ758㎜，幅126㎜，厚さ13㎜を測る。端部近くに片面から削り込まれた，不整四角形の貫通孔をもつ。側縁は簡単に面取りされわずかに加工痕を残すが，両面はていねいに整形され，加工痕を残していない。板目材を使用している。

板状先端加工品（第93図　W-35）

厚い板の一端を尖らせたもので，他端を欠いている。幅92㎜，厚さ38㎜を測り，残存長も70㎝を超える。板目材を使用し，下端を両側縁から斜めに切り落とした杭状の形態になっている。両面はていねいに整形されているが，側縁は未調整と言えるほど雑に整形される。下端部の切り落としも加工痕を多く残している。



第92図　木製品実測図(5)　（1：4）

建築部材２（第93図　W-36）

棒の端部近くにほぞ状の抉りをもつもので，一端を欠く。太さ約30㎜の枝材をそのまま使用しており，小枝を落としただけで面取りは行っていない。端部はていねいに，丸く整形されている。端部からわずかの位置に幅約２㎝，深さ約１㎝にわたって「コ」字形に抉りが入れられている。抉り周辺に紐等の痕跡は見られないが，横木を接続するためのものであろうか。同様の抉りは1986年度調査で出土した有頭棒と呼ばれる木製品に見られる。芯持材を使用している。

アカトリ状木製品（第94図　W-37～39）

W-37～39は箱形の一辺を取り除いたものに取手を付けた，塵取り状の形状をもつもので，船底に溜まった水（アカ）を掻き出す道具（アカトリ）に似たものであることから，アカトリ状木製品とした。

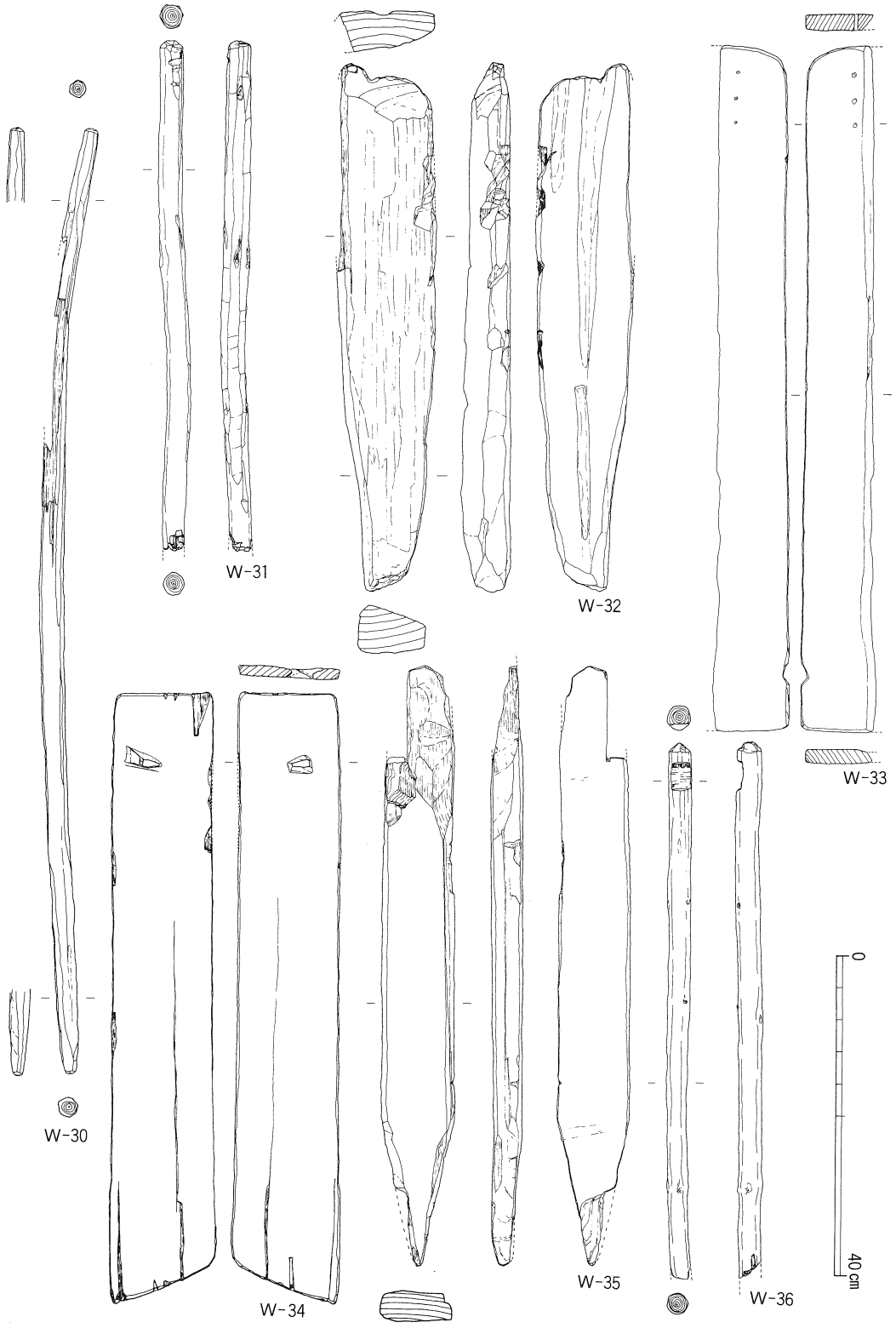
W-37は，最も残りの良いもので，全長約35㎝，復元推定幅約20㎝のものである。身の約半分を欠くが，身・柄とも一枚の板目材から削り出されていることが判る。身は，先端のやや開いた隅丸方形を呈す。側板は最も高いところで約３㎝あり，先端に向かうほど低くなっている。先端部の背面は斜めに削られており，対象物に隙間なく密着できるよう工夫が見られる。太さ約３㎝の柄は身の最下端から水平に延び，中程から緩やかに湾曲して上方に向かう。柄端部は面取りが行われ，丸く整形されている。背面や身内面には加工痕が少ないが，側面や柄には加工痕を多く残している。木材はスギを使用している。

W-38は器高の高い小型のものである。片面を欠き，柄も見られない。身の先端は開かず，ほぼ平面長方形を呈す。６㎝程もある高い側板は，ほぼ水平に切り揃えられており，先端近くで急激に傾斜を付け先端につながっている。底面は船底形になっており，側面から見ると，先端が尖るような形状になる。側板内面等にわずかに加工痕を残しているが，全体にていねいに整形されている。器壁は非常に厚く，全体に無骨な印象を受ける。板目材を使用している。W-37と同様に柄も同一の材から一度に削り出されるものとしたら，幅はかなり広いものになる。

W-39は非常に残りが悪いが，W-37と同様の形態のものと考えられる。残存長は約30㎝あり，復元推定幅もW-37と同程度になるものと思われる。側板は一部しか残存していないが，高さは３㎝に充たない。身背面底部に付く柄は，斜め上方に向け直線的に延びる。太さ約３㎝の柄には加工痕を多く残し，柄先端部は丸く面取りされている。柾目材を使用している。

匙（第94図　W-40）

非常にていねいに整形された匙が，１点出土している。柄の先端部をわずかに欠くが，ほぼ完形



第93図　木製品実測図(6)　（1：4）

を保っている。身の幅は72㎜で，卵形を呈し，器壁も薄い。身から連続的に続く柄は，上面をわずかにくぼませ，緩やかなカーブを描きながら斜め上方に延びている。全面に漆が使用されていたようで，柄に剝離した漆状のものが付着している。身・柄ともに一枚の板目材から削り出して成型している。

椀・皿（第94図　W-41～44）

椀・皿類は，４点出土しているが，W-41とW-42は同一個体である可能性が高い。４点とも漆を使用したものと考えられ，黒色化されている。椀・皿類は総て河道３から出土しており，平安時代のものと考えられる。

W-41は椀の口縁部付近の小片で，口径は約17㎝に復元できる。わずかに内湾気味に立ち上がり，全面を黒色化している。成形の痕跡は残していない。

W-42はW-41と同一個体と考えられるもので底径は74㎜を測る。高台はほぼ直立し，高台内面を深くくぼめ，底部と体部の厚さはほぼ等しい。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がる。底部内面を除き，黒色化されている。木取りは竪木地を使用する。

皿と判断されるものはW-43が出土している。口径186㎜，器高35㎜，底径108㎜を測り，底部内面を含め，全面が黒色化されたものである。高台はわずかな高さしかなく高台内面はくぼんでいない。直線的に立ち上がる体部は口縁付近でわずかに外反する。木取りは横木地を使用する。

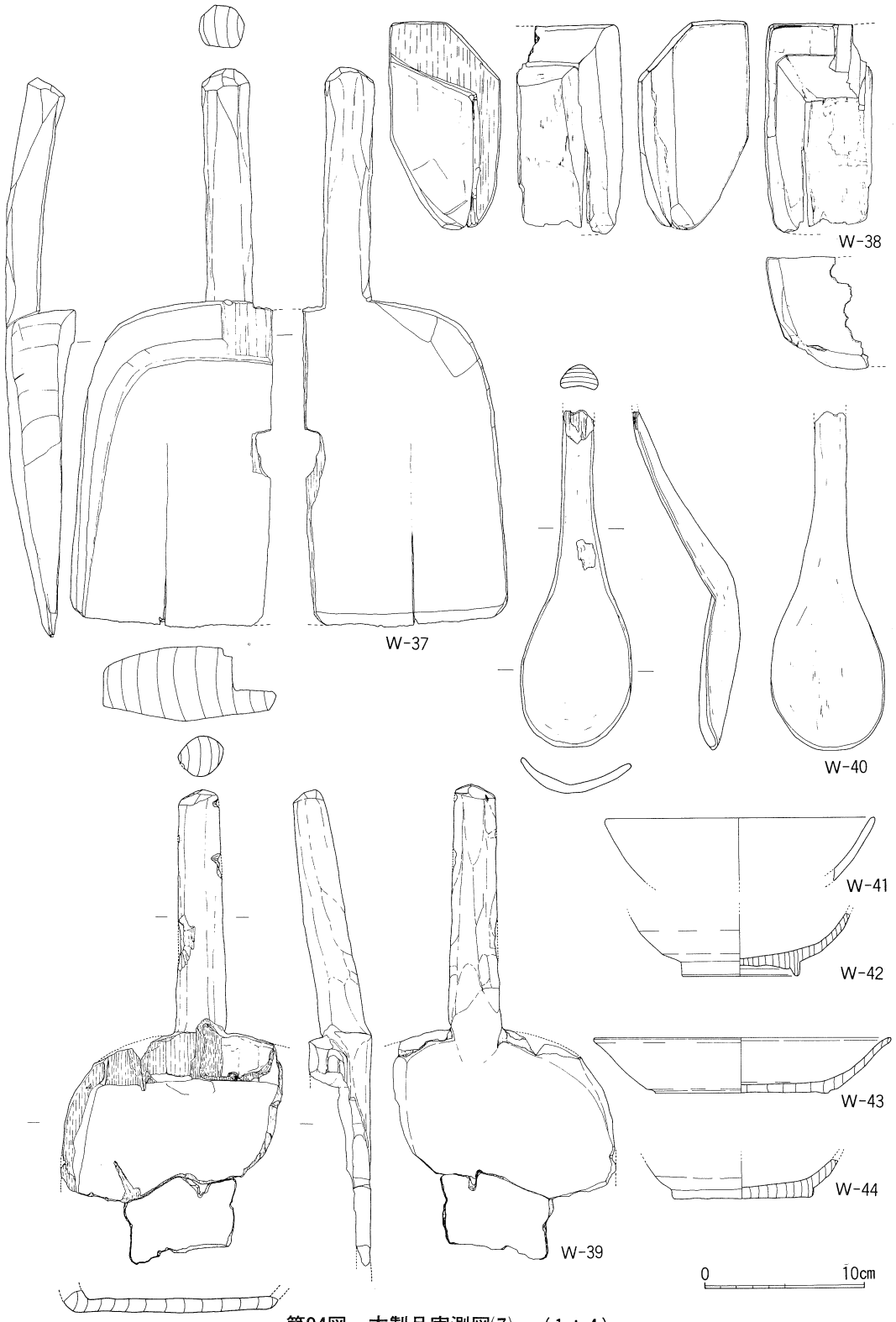
W-44は椀と考えられるものの破片で，底径88㎜を測る。高台の高さは約７㎜あり，高台内面はくぼめない。見込み部は高台取り付け位置程の高さまで彫り込められている。内湾気味に立ち上がる体部は厚手に作られており，漆と思われる黒色付着物が見られる。木取りは竪木地を使用している。

刳物（第95図　W-45）

W-45は小片のため挽き物か刳物かの区別がつかなかったが，刳物としておく。全体の形状が判らないが，仮に円形であれば挽き物の可能性も考えられる。現状で見る限り楕円形を呈すように思え，刳物による蓋ではないだろうか。柾目材をていねいにくりぬいており，加工痕を残さない。端部は水平に削り，一部に段をもつ。

曲物容器（第95図　W-46～55，第96図　W-58・59）

曲物容器と考えられるものは８点が出土している他，曲物容器の側板と考えられる小片が多数出土している。これらの多くは河道３から出土しており，平安時代の遺物と考えられる。



第94図　木製品実測図(7)　（1：4）

今回出土したものは，形や大きさから大きく３種類に分けることができる。平面形がほぼ円形を呈するものをＡ類，楕円形のものをＢ類とし，直径が12～15cmの小型のものをA1類，16～19cmのものをA2類とした。A1・A2類の中にはそれぞれ，側板を木釘で固定するものと，桜皮で固定するもの，はめ殺しの技法を取るものがある。

W-46～48は，A1類としたものである。W-46は板目材の周縁を正円に削り出したもので，復元推定口径は約15cmになるものと思われる。周縁の裁ち落としに際してはわずかに傾斜を付けている。側板を固定するための貫通孔が見られ，桜皮が１枚残存している。全体にていねいに整形されているが，一部に刃物によると考えられる傷が見られる。木材はスギを使用している。

W-47・48は口径約13cmのもので，側板の固定に桜皮を使用しないものである。W-47は，木釘が１本残存しており，側板の固定に木釘を使用している。板目材の周縁を裁ち落とす際にはわずかに傾斜を付けている。W-48は材や法量，周縁の傾斜はW-47と同様であるが，木釘の痕跡が見られない。側板の固定に際してはめ殺しの技法が使用されたものと思われる。材はスギを使用している。

A1類には，側板の固定に，桜皮を使用するものと使用しないものが見られ，前者は口径約15cmとやや大きく，後者は約12cmと小さい。こうした違いは身と蓋の違いと考えられ，前者が蓋，後者が身と思われる。

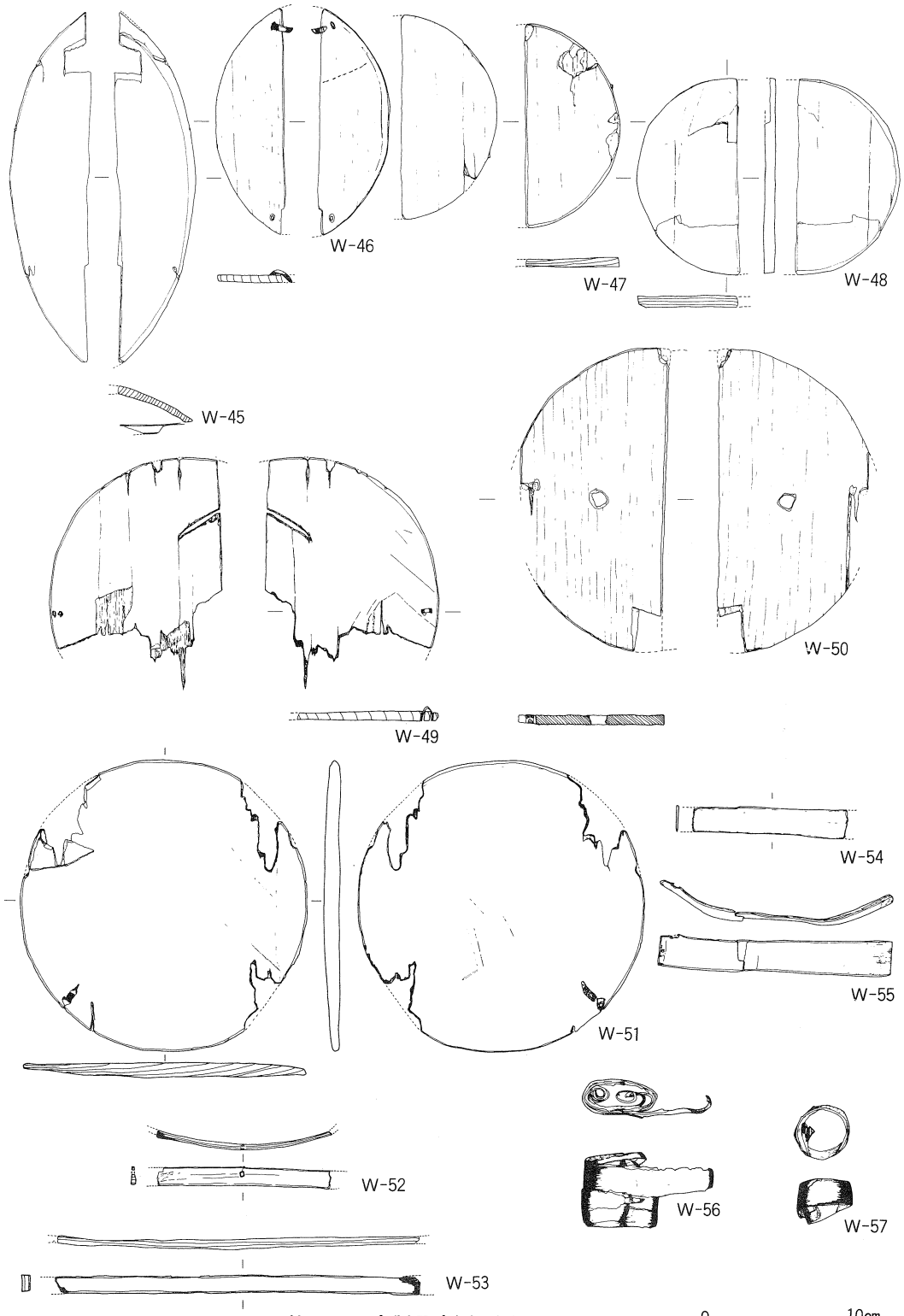
A2類としたものはW-49～51・W-59で，口径18cm前後を測るものである。側板の固定は総て桜皮を使用しており，木釘を使用するものは見られない。板目材を正円に削り出し，側板を４カ所で固定する。周縁の整形はA1類ほどていねいには行われておらず，傾斜を付けるものも見られない。口径は17cm前後のものと，19cm前後のものがあり，身と蓋に分かれるものと考えられる。W-50は木材にヒノキ属を使用している。

W-58はＢ類としたもので，楕円形を呈す大型のものである。残存長約50cm，残存幅約７cmを測る。側板の固定は桜皮を使用しており，穿孔の位置から，少なくとも５カ所以上で固定されていたようである。周縁の調整はA2類と同様に雑で，傾斜も付けられていない。両面には整形時に付けられたと思われる擦痕が見られる。一端を欠くため全体の形を伺うことはできないが，木取りからおそらく楕円形を呈するものであろう。板目材を使用している。

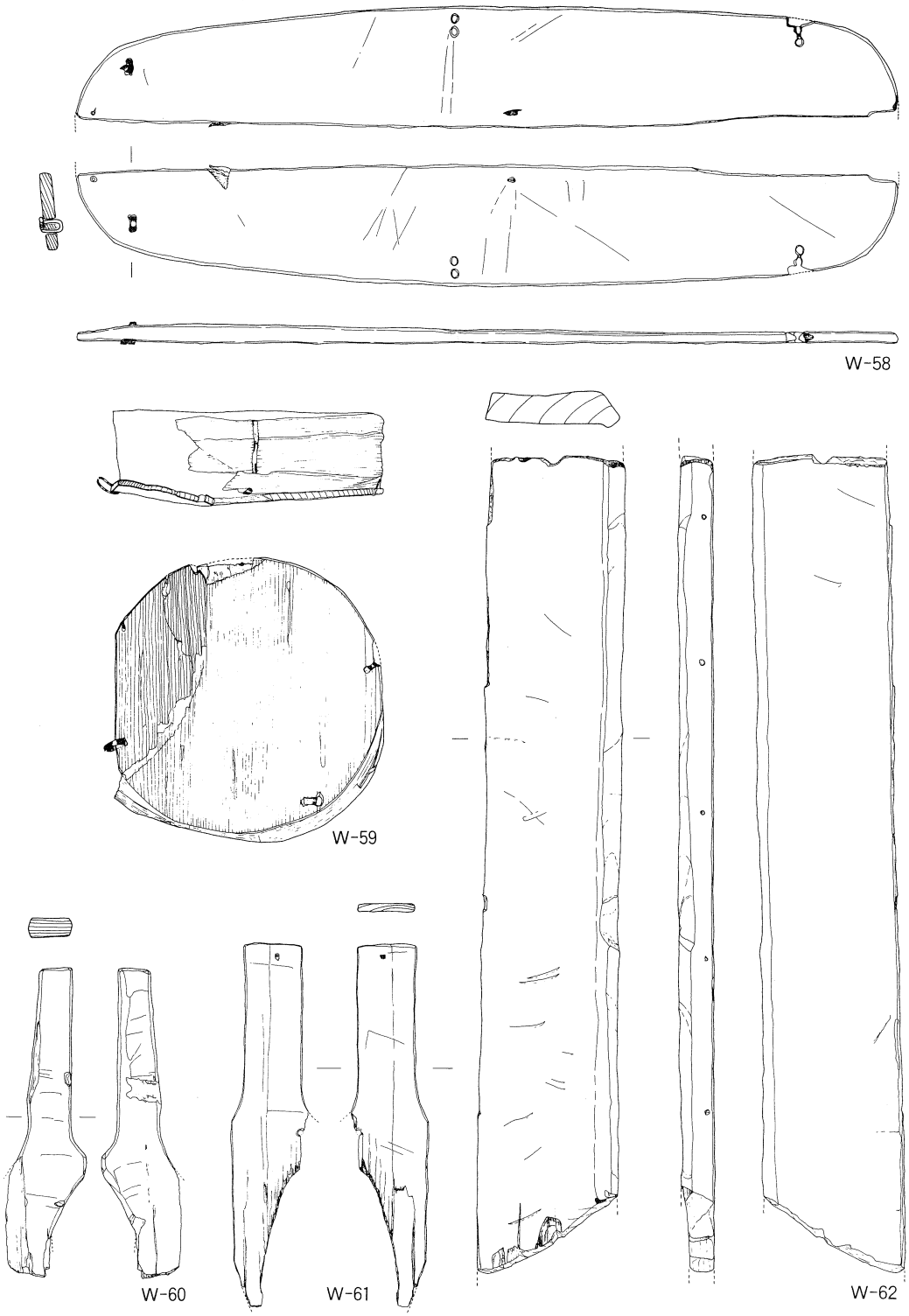
W-52～55は容器の部材と考えられるもので，湾曲した薄い板材である。W-52は，方形の小さな貫通孔があり，釘を使用した痕跡と思われる。曲物容器に使用されたものであろうか。

桜皮（第95図　W-56・57）

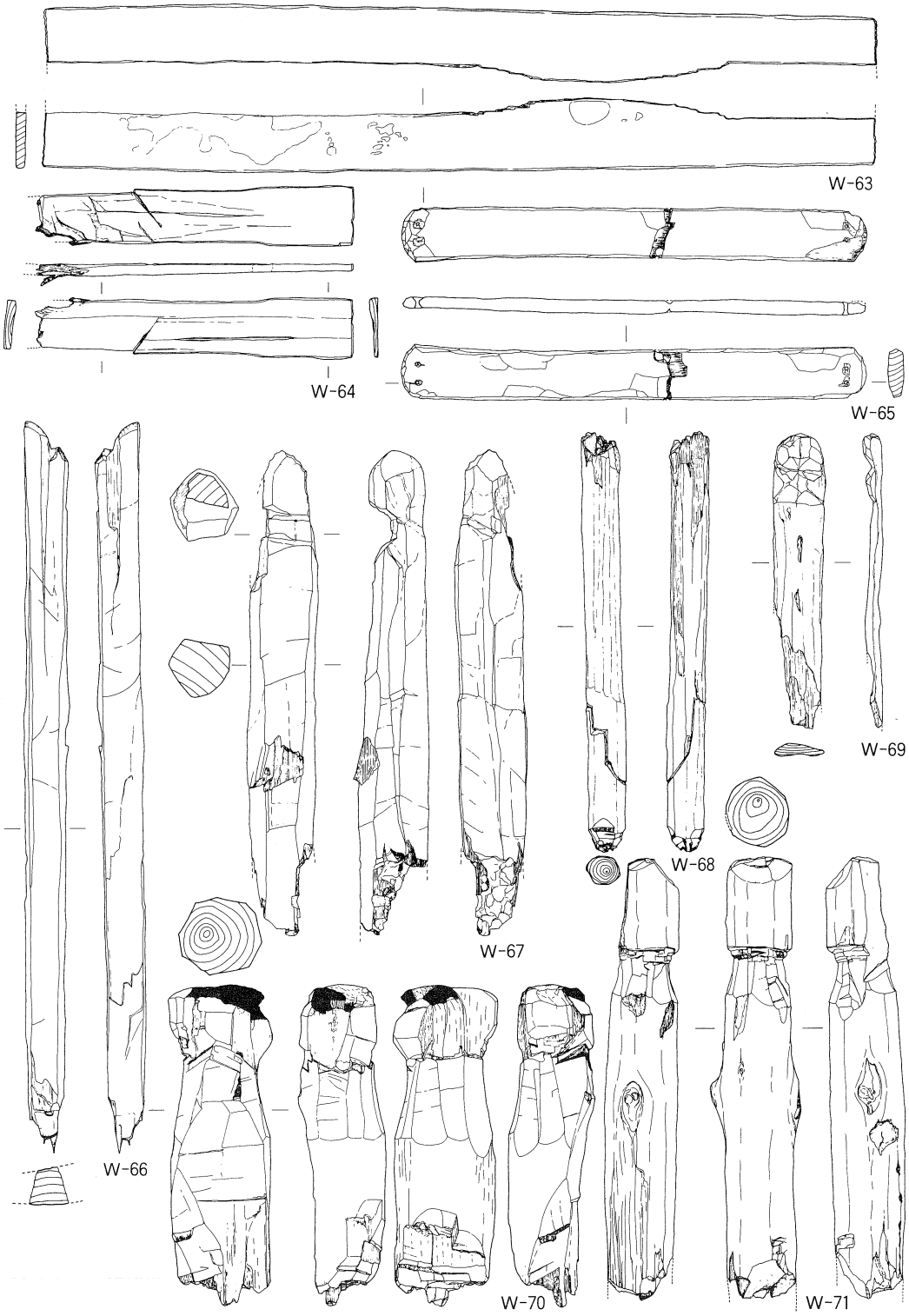
巻き込まれた状態のものを２点を図示した。脆くなっているため，引き伸ばしての全長の計測は行わなかったが，30cm程度はあるものと思われる。加工痕は見られないが，これほどの長さのもの



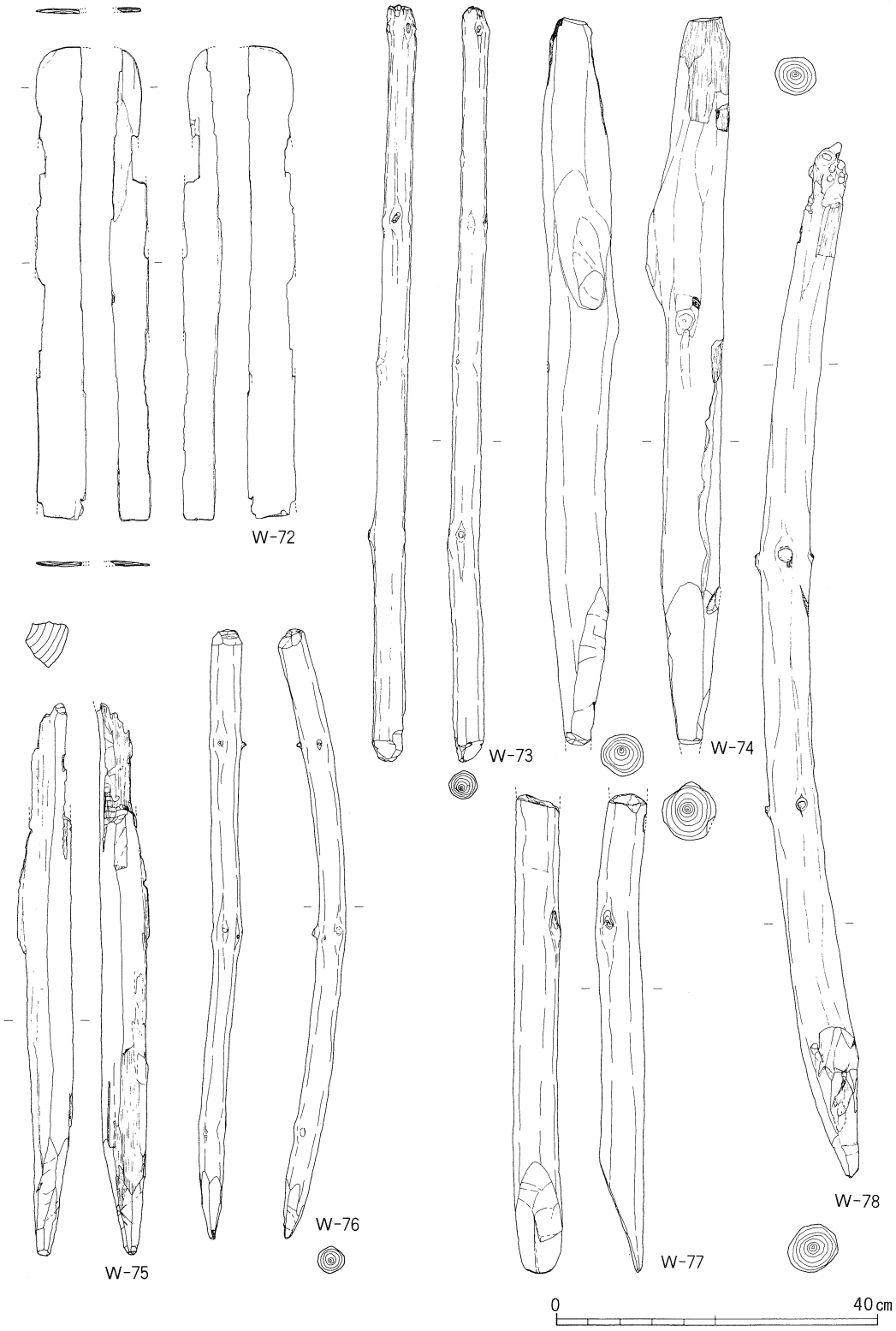
第95図　木製品実測図(8)　（1：4）



第96図　木製品実測図(9)　（1：4）　0　10cm



第97図　木製品実測図(10)　（1：4）



第98図　木製品実測図(11)　（1：4）

が自然に剝落するとは考えられず，意図的に採集されたものであろう。1988年度のタテチョウ遺跡の調査でも同様の桜皮は多く出土しており，曲物容器の縫い合わせに使用するものと推定された。現に，曲物容器の側板の固定に桜皮が使用されている例は何点か見られる。しかし，これら桜皮の出土地点は古墳時代以前の遺物しか出土しない河道４であり，曲物容器が出土する河道３からは出土していない。また，曲物等の生活用具の未製品と確認できたものは無く，この桜皮が河道３に伴うものとは思えない。これらの桜皮は古墳時代以前のもので，例えば工具類の身と柄の接続など，他の使用方法を考えるべきであろう。

第99図
木製品実測図⑫（１：４）

板状木製品３（第96図　W-60～62・第97図　W-63～66）

板状を呈すもので，用途不明のものである。

W-60は，杓文字形の一部をそぎ落とした形で，先端を欠く。12㎜を測る厚手の材を使用し，側部は丸く面取りされている。板目材を使用し，各面に加工痕を多く残している。材はスギを使用している。

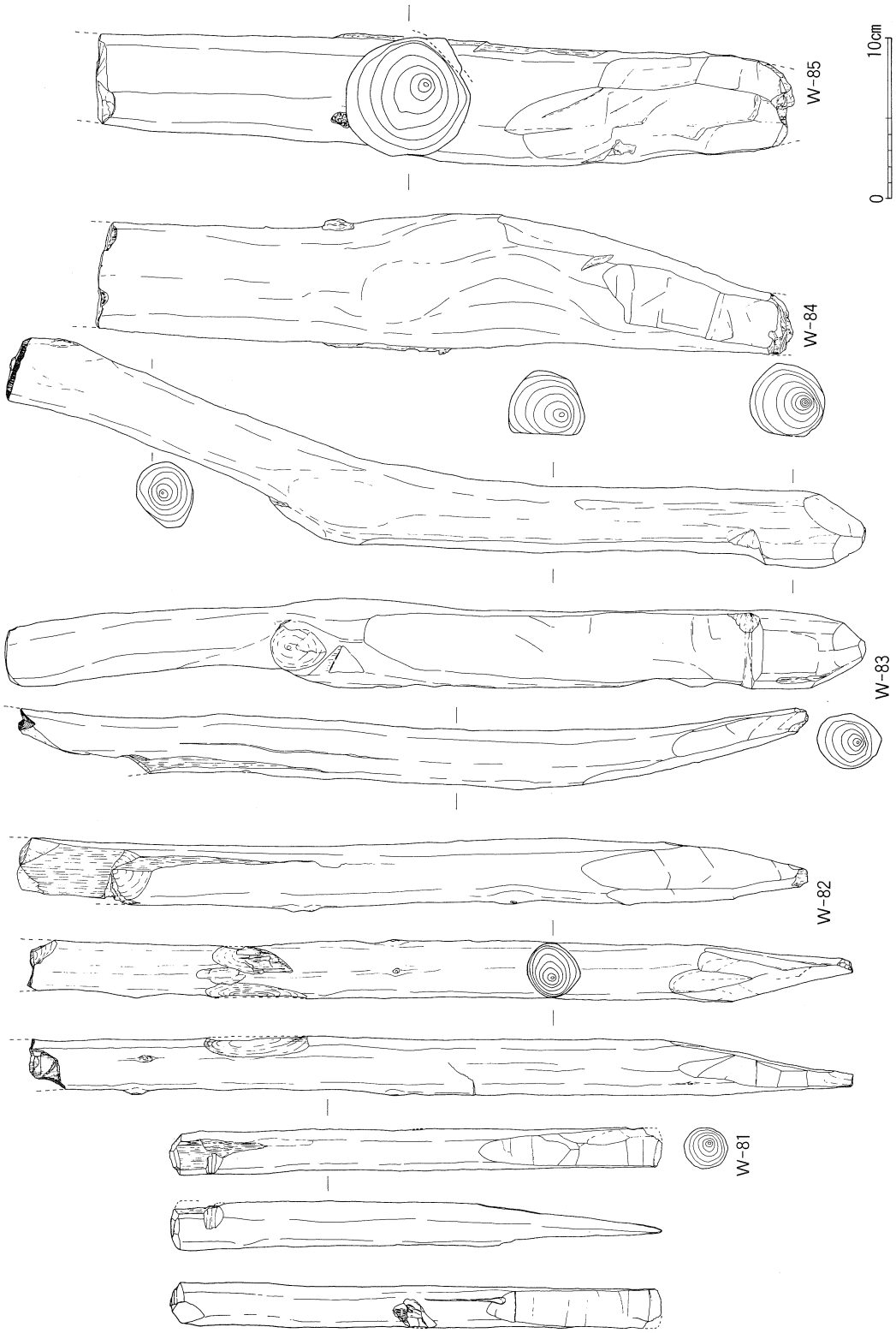
W-61は不整六角形の身に幅のある柄を付けたもので，２カ所に小さな貫通孔が穿たれるものである。杓文字形と呼べる形状であるが，身にも貫通孔が穿孔されており，用途は判らない。各面ともていねいに調整されており，加工痕はわずかしか残さない。貫通孔は小さく，釘孔とは思えない。板目材を使用している。

W-62は建築部材と考えられるものである。幅81㎜，厚さ23㎜を測る板材で，側辺に傾斜を付け，低い縁をもつ。傾斜の付く側縁部には約９cm間隔で５カ所に釘孔を残している。板目材を使用している。

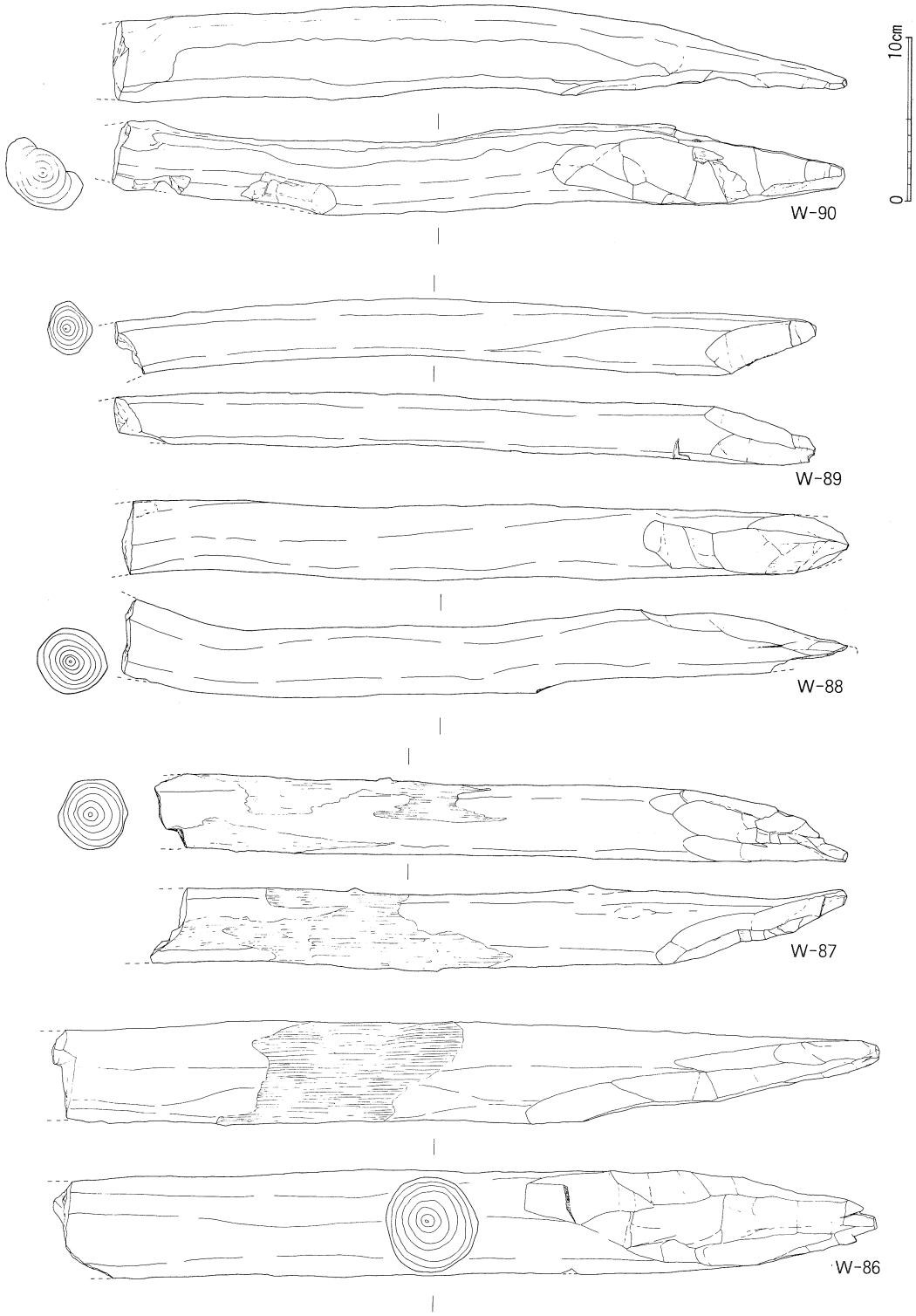
W-63は，薄い偏平な板材で，側辺を欠いている。長さ約51cm，厚さ６㎜を測るもので，特別な加工は見られない。板目材を使用している。

W-64も偏平な板材で，幅36㎜，厚さ８㎜を測る。長側辺をわずかにくびれさせるが，他に目立った加工は見られない。板目材を使用している。

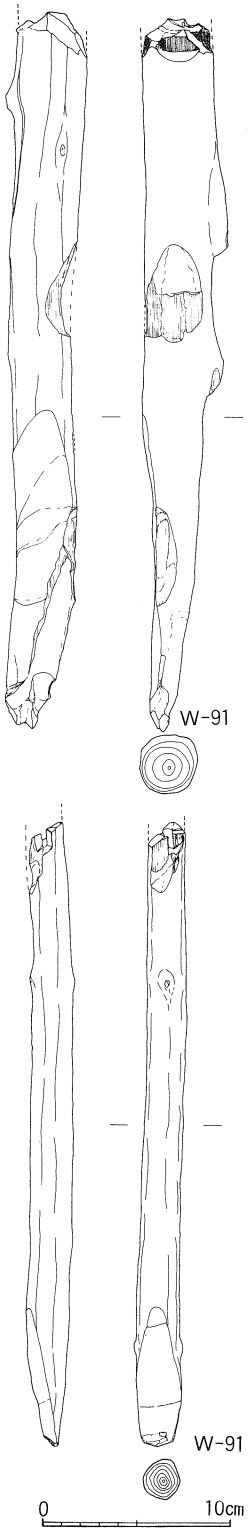
W-65は，両端に丸く面取りを施された薄い板材である。板目材を使用し，長さ約28cm，幅約３cm，厚さ９㎜を測る。側辺は丸く整形が加えられるが，両端の面取りは粗く，加工痕を多く残している。両端近くには平行して２個所毎の貫通孔が穿孔されているが，釘孔であろうか。河道３から出土している。木材にはモミ属を使用している。



第100図　木製品実測図⑬　（1：4）



第101図　木製品実測図(14)　（1：4）



第102図
木製品実測図(15)（1：4）

W-66は断面台形の棒状を呈すものであるが，両側辺を欠き，板状を呈していたものと考えられる。加工痕は見られず，用途は判らない。

棒状木製品4（第97図　W-67・68）

W-67はほぞ状の抉りをもつもので，建築部材であろうか。断面不整六角形を呈す棒状で，残存長約30cm，幅40mm，厚さ37mmを測り，下端を欠く。上端を粗く削り，ほぞ状になった「コ」字形の抉りを切り入れている。抉り周辺に紐等の圧痕は見られないが，平面にもわずかにくぼみが見られ，紐を掛けて使用した可能性がある。各面の調整は非常に粗く，加工痕を多く残している。板目材を使用している。

W-68は，杭状に先端を加工した棒状木製品である。一端を欠くが残存長約25cmを測り，太さは約2cmの，ほぼ断面円形を呈すものである。周囲を粗く面取りした，芯持ちの枝材をそのまま使用しており，小枝の痕跡は残していない。先端部付近は杭状に尖らせようとしているが，何らかの使用により，先端は潰れている。木材はヒノキ属を使用している。

不明木製品（第97図　W-69）

ヒノキ属の薄い板に2カ所の隆起を削り出したもの。先端を丸く面取りし，2カ所の隆起を粗く削り出している。隆起部には加工痕を残しているが，他の部分は，はぎ取ったようになっている。下端部を欠く。

有頭棒2（第97図　W-70・71）

削り出した頭部を持つ，用途不明の木製品である。

W-70は太さ約6cmの芯持ちの棒の一端をへら状に削り出し，他端に頭部を持つもので，頭部の一部と，へら状になった部分の先端を欠いている。へら状に削り出した部分の他の面は，木材の自然面をそのまま使用しており，面取りは行っていない。頭部は面取りを行った不整多角柱で，たたかれたように潰れ，繊維が見えている。くびれ部は，下方から上方に深く削り込み，くびれ部径は48mmを測る。紐を掛けたような痕跡は見られない。残存長約20cm，太さ62mmを測る。イチイ属を使用している。

W-71も同様の形状の頭部を持つものであるが，下方のへら状の削りを持たないもので，下端を欠く。面取りを行わない枝材をそのまま使用しており，中程には枝の跡を残している。上端から約5㎝の所を，下方から上方へ削り，細くすることによって頭部を作り出している。頭部先端は，垂直に切り落とし，約半分を斜めに削っている。擦痕は見られないが，その形状から紐等を掛けたものではないだろうか。残存長約27㎝，太さ43㎜を測る。

不明板状製品（第98図　W-72）

薄い板の側辺に「V」字形の切り込みを入れたものである。1側辺を欠くものが2点出土しているが，同一個体と考えた。所々が欠損しており，全体の形状が判らないが，五輪の形を表したものと考えると板塔婆のようなものだろうか。板目材を使用し，厚さ6～7㎜を測る。河道3から出土し，平安時代のものと考えられる。

1988年度調査では信仰に関係する遺物が多く出土しており，その中には板塔婆も含まれている。しかし，1988年度調査で出土した板塔婆は第1河道から出土したものが多く，室町時代のものと考えられ，今回の調査では見られない時代のものである。また，1988年度調査で出土した板塔婆は幅に対する厚さが厚く，W-72とは異なる印象をもつものである。

杭・杭状先端加工木製品（第98図　W-73～第102図　W-92）

杭は河道2を中心に多量に出土している。杭と同様の形状を持つもの，杭と同様の使い方をしたと考えられるものを含め，19点を図示した。

W-73は1m近く長さのある棒の両端を加工したものである。小枝を落とした芯持ち材をそのまま使用しており，面取りは行っていない。上端は垂直に切り落とし，下端は斜めに削っている。杭と同様に使用したものだろうか。

W-81は先端を尖らせず，へら状になったものである。面取りを行わない芯持ち材をそのまま使用しており，長さ307㎜，太さ25㎜を測る。上端の切断面はていねいに丸く面取りを行っており，杭として打ち込む機能は考えにくい。下端は，約10㎝に及び，両面から斜めに削り落としており，へら状に作り出している。上端のていねいな調整や下端が尖らない点から，杭以外の使用方法を考えるべきであろう。

杭と考えたもののほとんどは，面取りを行わない芯持ち材の一端を片側から斜めに削り落としたもので，使用する材は必ずしも直線ではなく，湾曲するものも多い。これ以外のものでは，周縁から鉛筆状に先端を尖らせたもの（W-84）や，上端の面取りを行うもの（W-76）等がある。W-84は，先端を鉛筆状に尖らせたものであるが，中程で大きく湾曲しており，打ち込めるようなもので

はない。また，上端の面取りを行うW-76等も，土中に打ち込む為のものとは考えにくいが，周縁部の面取りを行わず，自然面をそのまま残し，他の杭とほぼ同様に見える。W-75は，ミカン割りを行った柾目材を使用した杭で，自然木をそのまま使用した他の杭と違うように見えるが，一面には自然面を残し，面取りも行っておらず，他の杭と同様に使用したものであろう。

註1　『朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅳ（海崎地区２）』 島根県教育委員会 1988年

註2　黒崎直 「西日本における弥生時代農具の変遷と展開」『西日本における稲作農耕の期限と展開』 日本考古学協会静岡県大会実行委員会　1988年

註3　『朝酌川河川工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 島根県教育委員会　1990年

木　製　品　観　察　表

器　種	挿図番号	図版番号	出土地点	層　位	法　量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	木取	備　考 (分類を含む)
鋤	第88図 W-1	67	S3E0	暗青灰色 砂層	長さ 49.6 幅（ 5.2) 厚さ 1.5	身が二又になった，いわゆるナスビ形の鋤		柾目	B_1類
鋤	第88図 W-2	67	N0E2	河道内	長さ（22.8) 幅（ 9.8) 厚さ 1.3	ナスビ形の鋤の一部		柾目	B_1類
板状木製品	第88図 W-3	67	N3E2	暗青灰色 砂礫層中 の粘質土	長さ（25.7) 幅（ 7.7) 厚さ 2.5	刳物の一部		板目	平鍬状の形態。孔2カ所あり
ミカン割材	第89図 W-4	67	河道4	流路中	長さ127.5 幅 23.5 厚さ 8.1	両端の加工痕以外に目立った加工は見られない		柾目	
ミカン割材	第89図 W-5	67	河道4	流路中	長さ 43.6 幅 26.3 厚さ 4.8	木製農耕具の未成品と考えられる		柾目	丸鍬状の形態だが，孔等はない
鋤未成品	第89図 W-6	67	S3E0	暗青灰色 砂礫層	長さ（44.5) 幅（16.7) 厚さ 6.0	ナスビ形の鋤の未成品	ミカン割材を使用	柾目	B_1類？
有頭棒	第90図 W-7	68	S2E0	暗青灰色 砂礫層	長さ（44.9) 幅 3.5 厚さ 2.8	断面四角形の棒端部を木偶頭状に削り出す。他の一端は尖頭状		芯持	
棒状木製品	第90図 W-8	68	S3W1	褐色 砂礫層	長さ（27.8) 幅 4.6 厚さ 3.2	巾広の棒の一端を削り出したもの		板目	
棒状木製品	第90図 W-9	68	S3E0	暗青灰色 砂礫層	長さ（29.3) 幅 2.7 厚さ（ 2.1)	小枝を使用し上端を丸く削り出したもの		芯持	
棒状木製品	第90図 W-10	68	N1E0	暗青灰色 砂礫層	長さ（21.0) 幅 4.6 厚さ（ 3.1)	中程がくびれた棒状		芯持	
杭状 先端加工品	第90図 W-11		N3E0	褐色 砂礫層	長さ 20.8 幅 2.0 厚さ 1.3	半截した板材を使用し両端を削り出す		柾目	
板状木製品	第90図 W-12	68	N0E0	灰褐色 砂礫層	長さ 26.7 幅 5.6 厚さ 0.9	貫通孔1カ所を持つ板材。貫通孔は四角形		板目	
板状木製品	第90図 W-13	68	N2E1	褐色 砂礫層	長さ（18.3) 幅（ 5.5) 厚さ 0.7	扁平な板材を加工。身の下端を欠損している		板目	
板状木製品	第91図 W-14	69	S3E0	暗青灰色 砂礫層	長さ（39.8) 幅（12.2) 厚さ 2.0	貫通孔2カ所を持つ板材		板目	

器　種	挿図番号	図版番号	出土地点	層　位	法　量（cm）	形態・文様の特徴	手法の特徴	木取	備　考（分類を含む）
板状木製品	第91図 W-15		S3W1	褐色 砂礫層	長さ（18.0） 幅 4.1 厚さ 0.8	扁平な板材		板目	
板状木製品	第91図 W-16	69	N0E0	灰褐色 砂礫層	長さ（9.9） 幅 2.7 厚さ 0.5	断面扇形の板材		柾目	
板状木製品	第91図 W-17	69	河道4	流路中	長さ 26.4 幅（8.1） 厚さ 1.4	方形の貫通孔2カ所		板目	
木鏃	第91図 W-18	69	N2E2	暗青灰色 砂礫層	長さ（10.4） 幅 0.8 厚さ 0.6	板目材を細く削り出し，先端を尖らせている		板目	
木鏃	第91図 W-19	69	N0E2	河道内	長さ（8.4） 幅 0.8 厚さ 0.7	板目材を細く削り出し，先端を尖らせている		板目	
木鏃	第91図 W-20	69	N1E2	赤褐色 砂質土	長さ（9.9） 幅 1.0 厚さ 0.5	両端を尖らせた柳葉形。断面長円形		板目	
木鏃	第91図 W-21	69	不明		長さ（17.5） 幅 1.2 厚さ 1.0	板目材を細く削り出し，先端を尖らせている		板目	
不明木製品	第91図 W-22	69	S3E0	暗青灰色 砂層	長さ 17.1 幅 0.9 厚さ 0.8	球形の頭部を持つ		板目	
不明木製品	第91図 W-23	69	S1E0	暗灰色 砂礫層	長さ 13.2 幅 2.6 厚さ 1.3	細い柾目材に2カ所の隆起部分		柾目	
棒状木製品	第92図 W-24	70	河道4	流路中	長さ（49.3） 幅 2.4 厚さ 1.6	両側辺から削り出し，先端を尖らせたもの		板目	
棒状木製品	第92図 W-25	70	河道4	流路中	長さ（40.5） 幅 3.5 厚さ 1.8	細く加工した板目材の両端を尖らせようとした部分で欠損している		板目	
棒状木製品	第92図 W-26	70	N2E1	暗赤褐色 砂層	長さ（45.1） 幅 3.8 厚さ 2.7	頭部を丸く削り落とした棒状。面取を行っている		芯持	
建築部材？	第92図 W-27	70	S3E0	暗青灰色 砂礫層	長さ（36.6） 幅 2.0 厚さ 1.2	断面長方形の棒状。5カ所の釘孔を持つ		柾目	
把手状木製品	第92図 W-28	70	N0E2	河道内	長さ 28.5 幅 4.8 厚さ 4.3	貫通孔を持つ棒状。両端を斜めに切り落とす		芯持	
把手状木製品	第92図 W-29	70	S3E0	暗灰褐色 砂層	長さ 9.0 幅 3.2 厚さ 3.2	方形の柄孔が貫通した断面方形の棒状		芯持	
棒状木製品	第93図 W-30	70	S3W1	青灰色 砂層	長さ118.5 幅 2.8 厚さ 2.8	両端を丸く削り落とした棒状。面取を行っている		芯持	
棒状木製品	第93図 W-31	70	河道4	流路中	長さ（64.2） 幅 3.0 厚さ 2.9	端部を丸く削り落とした棒状。約半分を3面にわたり面取する		芯持	
余材	第93図 W-32	70	N1E0	しがらみ状遺構内	長さ 66.2 幅 11.4 厚さ 5.8	板目材の端部を切り落としたもの		板目	
板材	第93図 W-33	70	N0E3	黒灰色 粘質土	長さ 86.1 幅（8.2） 厚さ 2.0	面取を行った板材。上方に3カ所の釘孔。下方に切り込みを入れている		板目	
板材	第93図 W-34	70	N0E2	河道内	長さ 75.8 幅（12.6） 厚さ 1.3	不整形の貫通孔を持つ		板目	
板状先端加工品	第93図 W-35	70	N0E3	黒灰色 砂質土	長さ（75.5） 幅 9.2 厚さ 3.8	やや厚手の板材。杭状に先端を尖らせたもの		板目	
建築部材	第93図 W-36	70	N0E2	河道内	長さ（67.3） 幅 3.1 厚さ 2.9	端部を丸く削り落とした棒状。端部近くに「コ」の字状の刳り込みを持つ		芯持	
アカトリ状木製品	第94図 W-37	71	S3E1	灰褐色 粘質土	長さ 35.4 幅（12.3） 厚さ 4.4	柄・身とも1枚の板目材から削り出す		板目	
アカトリ状木製品	第94図 W-38	71	N1E0	淡褐色 砂質土	長さ 13.1 幅（6.7） 厚さ 7.1	底面は舟底形の丸味を持つ			
アカトリ状木製品	第94図 W-39	71	N3E1	茶褐色 粘質土	長さ（29.2） 幅（13.2） 厚さ 3.9	取手部径2.9×2.6	柄・身とも1枚の板目材から削り出す		柾目
匙	第94図 W-40	71	S3E0	暗青灰色 砂層	長さ（21.4） 幅 7.2 厚さ 2.1	平面卵形を呈す身を持ち，柄も共木から削り出されている	全面にうるしを使用	板目	

器　種	挿図番号	図版番号	出土地点	層　位	法　量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	木取	備　考 (分類を含む)
椀	第94図 W-41 W-42	71	N5E1	暗褐色 粘質土	口径 16.8 底径 7.4	高台裏面を凹め,底部と体部の厚さはほぼ等しい。体部は内湾気味に立ち上がる	底面を除きうるしを使用	竪木地	
皿	第94図 W-43	71	N5E1	暗灰褐色 粘質土	口径 18.6 器高 3.5 底径 10.8	高台裏面は凹めない。口縁付近でわずかに外反する	全面にうるしを使用	横木地	
椀	第94図 W-44	71	N5E1	暗灰緑色 粘質土	底径 8.8	高台裏面は凹めない。やや厚手の体部が内湾気味に立ち上がる	うるし？	竪木地	
蓋？	第95図 W-45	72	不明		長さ(21.7) 幅(4.8) 厚さ 0.7	口縁端部の一部に段を持つ		横木地	
曲物容器	第95図 W-46	72	N5E2	暗灰色 粘質土	長さ(14.0) 幅(4.3) 厚さ 0.5	わずかに外方に傾斜を付けている。裏面に刃物によるキズあり	桜皮1枚が残存	板目	A_1類
曲物容器	第95図 W-47	72	N4E1	暗灰緑色 粘質土	長さ 12.6 幅 5.9 厚さ 0.5	周縁に側板を打ち付けた木釘が残っている		板目	A_1類
曲物容器	第95図 W-48	72	N4E1	暗灰緑色 粘質土	長さ 12.1 幅(6.3) 厚さ(0.7)	外方へわずかに傾斜。桜皮をつなぐ貫通孔が無い		芯持	A_1類
曲物容器	第95図 W-49	72	N3E1	暗灰色 粘質土	長さ(14.4) 幅(10.7) 厚さ 0.5	桜皮が一カ所に残る		板目	A_2類
曲物容器	第95図 W-50	72	N3E1	暗灰色 粘質土	長さ 18.8 幅(9.2) 厚さ 0.6	側板を付けるための桜皮の貫通孔が見られる。中程に貫通孔が見られる		板目	A_2類。桜皮2枚が同位置から出土しているが,現位置は不明
曲物容器	第95図 W-51	72	N3E1	暗灰緑色 粘質土	長さ 17.9 幅 17.9 厚さ 1.0	側板を付けるための桜皮が1カ所に残る		板目	A_2類
曲物容器 側板？	第95図 W-52	72	S52年度 第Ⅲ調査区		長さ(10.9) 幅 1.1 厚さ 0.4	木釘によると考えられる貫通孔あり		柾目	
曲物容器 側板？	第95図 W-53	72	N5E1	暗灰色 粘質土	長さ(22.7) 幅(1.0) 厚さ 0.6			板目	
曲物容器 側板？	第95図 W-54	72	不明		長さ(9.6) 幅 1.7 厚さ 0.1				
曲物容器 側板？	第95図 W-55	72	S3E0	暗青灰色 砂層	長さ(14.3) 幅 2.0 厚さ 0.2				
桜皮	第95図 W-56	72	S3E0	褐色 砂礫層					
桜皮	第95図 W-57	72	S2E0	暗青灰色 砂礫層					
曲物容器	第96図 W-58	72	N4E1	暗灰色 粘質土	長さ(49.9) 幅(7.2) 厚さ 1.4	側板を付けるための桜皮が残る		板目	B類
曲物容器	第96図 W-59	72	N4E1	暗灰緑色 粘質土	長さ 16.9 幅(16.2) 厚さ 5.7	側板は4カ所で,桜皮によって付けられている			
板状木製品	第96図 W-60	73	S2E0	暗灰色 粘質土	長さ(18.7) 幅(4.4) 厚さ 1.2	杓文字状木製品の一部を削り落とした形状。加工痕を残している		板目	
板状木製品	第96図 W-61	73	N4E1	暗灰緑色 粘質土	長さ(21.8) 幅(4.7) 厚さ 0.5	柄上部と身の一側辺近くに貫通孔あり		板目	
板状木製品	第96図 W-62	73	S2E1	灰褐色 粘質土	長さ(49.3) 幅 8.1 厚さ 2.3	厚みを持つ板材の側辺を傾斜を付けて削ったもの。傾斜した側面にはうカ所にわたり釘孔が見られる		板目	
板状木製品	第97図 W-63	73	N2E2	暗灰色 粘質土	長さ 51.1 幅(4.4) 厚さ 0.6	扁平な板材		板目	
板状木製品	第97図 W-64	73	S2E0	暗灰色 粘質土	長さ(19.6) 幅 3.6 厚さ 0.8	扁平な板材		板目	
板状木製品	第97図 W-65	73	N4E1	暗灰緑色 粘質土	長さ 28.3 幅 3.1 厚さ 0.9	両端を丸く面取した板材。両端部近くに2カ所ずつの貫通孔(釘孔か)を持つ		板目	
板状木製品	第97図 W-66	73	N4E1	暗褐色 粘質土	長さ(44.7) 幅(2.6) 厚さ 2.2	断面台形の棒状を呈す		柾目	
棒状木製品	第97図 W-67	73	S2E0	暗灰褐色 粘質土	長さ(29.5) 幅 4.0 厚さ 3.7	断面不整六角形の棒状を呈す。端部近くが「コ」の字形に欠き取られている		板目	

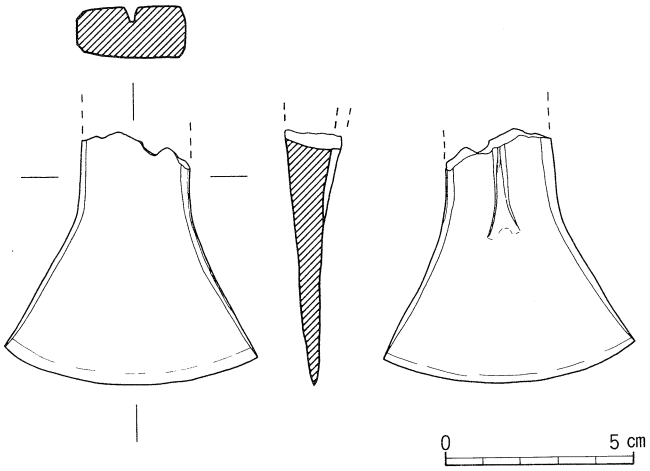
器　種	挿図番号	図版番号	出土地点	層　位	法　量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	木取	備　考 (分類を含む)
棒状木製品	第97図 W-68	73	N1E1	茶褐色 粘質土	長さ(25.7) 幅 2.4 厚さ 1.7	先端部は何らかの使用によりつぶれている		芯持	
不明木製品	第97図 W-69	73	N5E1	茶褐色 粘質土	長さ(7.9) 幅 3.1 厚さ 0.7	先端を丸く面取した板。2カ所の隆起を削り出している		板目	
有頭棒	第97図 W-70	74	N1E1	暗褐色 粘質土	長さ(19.5) 幅 6.2 最小径4.8	下端をヘラ状に削り出した棒の一端に,円筒形の頭部を削り出したもの。頭部は叩いた様につぶれている		芯持	
有頭棒	第97図 W-71	74	S52年度 第Ⅲ調査区		長さ(26.9) 幅 4.3 厚さ 4.3	円筒形の頭部を付けたもの。頭頂部は斜めに削り出されている		芯持	
不明 板状製品	第98図 W-72	74	N5E1	暗褐色 粘質土	長さ(59.0) 幅 (4.8) 厚さ 0.7	薄い板の側辺に「V」字形のきざみを入れるもの		板目	
不明 板状製品	第98図 W-72	74	N5E1	暗褐色 粘質土	長さ(59.3) 幅 (5.7) 厚さ 0.6	薄い板の側辺に「V」字形のきざみを入れるもの		板目	
杭状 先端加工品	第98図 W-73	74	S3E0	暗灰色 粘質土	長さ 94.9 幅 3.6 厚さ 3.5	小枝を落とした棒の両端を加工したもの		芯持	
杭	第98図 W-74	74	N1E2	暗灰色 砂質土	長さ 90.9 幅 7.4 厚さ 6.9	芯持の丸太材の下端を片面から削り,尖らせている		芯持	
杭	第98図 W-75	74	S2E0	暗青灰色 砂層	長さ(69.1) 幅 5.1 厚さ 5.7	丸太材をミカン割した柾目材を使用。片面から削り,尖らせている		柾目	
杭状 先端加工品	第98図 W-76	75	N3E0	しがらみ状 遺構内	長さ 76.3 幅 3.4 厚さ 3.4	小枝を落とした芯持材の一端を片側から杭状に削り落としたもの		芯持	
杭	第98図 W-77	75	杭	暗青灰色 砂層	長さ(60.1) 幅 5.3 厚さ 5.1	芯持の丸太材を一方向から斜めに切り落としたもの		芯持	
杭状 先端加工品	第98図 W-78	75	N2E0	暗灰色 砂質土	長さ129.7 幅 6.2 厚さ 5.9	小枝を落とした芯持材の一端を斜めに削り落としたもの		芯持	
杭	第99図 W-79		杭 No.21	自然 流路中	長さ(201.1) 幅 4.6 厚さ 4.2	芯持材の先端を斜めに削り落としている		芯持	
杭	第99図 W-80		不明		長さ174.8 幅 2.9 厚さ 2.8	芯持材の先端を斜めに切り落としたもの		芯持	
ヘラ状 先端加工品	第100図 W-81	75	トレンチ内	暗灰色 砂質土	長さ 30.7 幅 2.5 厚さ 2.8	芯持材の一端を二方向からヘラ状に削り出す。頂部は丸く面取を行っている		芯持	
杭	第100図 W-82	75	N0E2	黒灰色 砂質土	長さ(56.4) 幅 3.5 厚さ 3.4	小枝を落とした芯持材の一端を斜めに削り落としたもの		芯持	
杭	第100図 W-83	75	N4E1	暗褐色 粘質土	長さ(49.4) 幅 3.4 厚さ 3.9	小枝を落とした芯持材の先端を斜めに削り落としたもの		芯持	
杭状 先端加工品	第100図 W-84	75	N2E2	暗灰色 粘質土	長さ 53.8 幅 5.5 厚さ 4.9	芯持材の先端を円錐形に削り落としたもの		芯持	
杭	第100図 W-85		N4E1	暗褐色 粘質土	長さ(43.6) 幅 7.8 厚さ 7.3	芯持の丸太材の先端を斜めに削り落としたもの		芯持	樹皮を多く残す
杭	第101図 W-86	75	杭 No.25	暗青灰色 砂層	長さ(50.3) 幅 5.8 厚さ 5.6	芯持の丸太材の一端を一方から斜めに削り落としている		芯持	樹皮を残す
杭	第101図 W-87		杭 No.50	暗青灰色 砂層	長さ(42.5) 幅 4.4 厚さ 4.2	芯持材の先端を一方から斜めに削り落としたもの		芯持	樹皮を多く残す
杭	第101図 W-88	75	杭 No.8	暗青灰色 砂層	長さ(44.4) 幅 4.4 厚さ 3.9	芯持の丸太材の一端を斜めに削り落としたもの		芯持	
杭	第101図 W-89	75	杭 No.39	暗青灰色 砂層	長さ(43.9) 幅 3.2 厚さ 2.5	芯持の丸太材の先端を2方向から斜めに削り落としたもの		芯持	わずかに樹皮を残す
杭	第101図 W-90	75	杭 No.10	暗青灰色 砂層	長さ(44.9) 幅 5.2 厚さ 3.2	芯持の丸太材の先端を1方向から斜めに削り落としたもの		芯持	
杭	第102図 W-91		杭 No.40	暗青灰色 砂層	長さ(37.9) 幅 3.7 厚さ 3.7	小枝を落とした芯持材の先端を荒く削り落としたもの		芯持	
杭	第102図 W-92		杭 No.15	暗青灰色 砂層	長さ(33.1) 幅 2.2 厚さ 2.0	小枝を落とした芯持材の先端を1方向から斜めに削り落としたもの		芯持	樹皮を残す

11. 金　属　遺　物

今回の調査では，引手等の金属遺物（第103図）が２点出土したが，いずれも表土近くの採集で，現代のものと考え図示しなかった。しかし，河道３底面より金属が腐食した後の型を残す土の塊が出土し，その型を取ることができた。この土の固まりは，表面に凹凸のある拳大の大きさの不整球形を呈するものであったが，方形の空洞が空いていたため，内部にシリコンを流し込み凝固させた後，土の部分を破砕して，型を取ることにした。

103図はシリコンによって型取りしたものの実測図である。撥形の刃部をもつ鉄斧が腐食して消滅した痕跡と考えられるもので，型取りによって確認できる長さ67㎜，刃部幅66㎜，厚さ15㎜，基部付近の幅31㎜を測り，基部が更に長かったものと推定される。基部断面は長方形を呈し，刃部先端まで角を丸めた縁が延びる。基部中央には「Ｙ」字形に開いた溝状のくぼみが見られ，袋状の基部を持っていたことが分かる。基部は直線的に延びるが，刃部は左右に大きく開き，刃部先端は扇形に湾曲する。研ぎ出しは，両面から行われたものと思われるが，表面側の稜線がより明確に見える。側面から見ると，裏面に向けてわずかに湾曲しており，横斧として袋状になった部分を下方に向けて使用したものと考えられる。

この金属遺物は河道３の底面から出土しているが，河道３の埋没時期は出土遺物から平安時代と考えており，この金属遺物もそれに近い時期のものであろう。



第103図　金属遺物実測図　（1：2）

第Ⅴ章　タテチョウ遺跡1990，91年度調査出土の動物遺体

西　本　豊　弘

タテチョウ遺跡第４次調査で出土した遺体は39点である。その内容は表に示した通りである。シカ・イノシシ・ウシの３種が含まれていた。そのうちシカとイノシシは，縄文時代から５世紀にかけての遺物包含層より出土したもので，縄文時代と弥生時代のものがほとんどであろう。ウシは，いずれも９～10世紀の遺物包含層から出土したものである。

動物遺体の内容を見てみると，シカでは，肩甲骨に大小があることから雌雄の個体が含まれていると思われる。年齢組成を考慮して最小個体数を推定すると，生後６ヶ月程度の幼獣１個体・３歳以上の成獣３個体の計４個体である。イノシシは，最小個体数は約１歳半の若獣１個体と成獣２個体の計３個体であり，成獣の１個体は雄である。なお，イノシシについては，弥生時代のものも含まれるので，ブタも含まれるかもしれない。しかし，今回の資料はすべて破片であり，イノシシとは異なったブタとしての形質を明瞭に示すものは認められなかった。そこで，今回の資料は，すべてイノシシとして記載しておくこととした。ウシについては，上腕骨と大腿骨の２片が出土しただけである。いずれも小型のウシであること以外はよく分からない。

第1表　動物遺体出土内容

挿図番号	動物名	部位・ほか	備考	出土地点	層準
2	シカ	角片	加工痕あり	N2E2	4
12		角片		N1E1	4
13		角＋骨		N1E1	4
23		角先		N2E1	4
26		角座＋骨		S0E0	4b
4		下顎骨・左・成獣	(P1～M3)	N2E2	4
20		下顎骨片（幼獣）		N1E0	3
1		肩甲骨・右・成獣	大型	N2E1	4
3		肩甲骨・右・成獣	小型	N2E2	河道2
19		肩甲骨・左・成獣		N1E2	4
30		肩甲骨・右・成獣		N3E1	4
25		橈骨・右・成獣	近位部～中間部	S0E0	4b
10		大腿骨・右・成獣	遠位部	不明	河道2
17		大腿骨・左・成獣	近位部	N0E0	3
9		脛骨・右・成獣	遠位部	90年度中央セクション	4
27		脛骨・左・成獣	遠位部	I区トレンチ	4b
21		踵骨左成獣		N1E0	3
24		基節骨		N0E3	4
31		中節骨		N1E1	4
18	イノシシ	上顎犬歯・左・雄			廃土中
8		下顎・左・若獣	(xxxx　P4　M12)	N2E2	河道2
5		上腕骨・左・成獣	中間部	N2E2	河道2
29		上腕骨・右・成獣	中間部～遠位部	S1E0	4b
28		寛骨・左・成獣		S1E0	4b
14		脛骨・左・成獣	中間部～遠位部	N2E1	4a
6		胸椎・若獣			不明
22	シカ	肩甲骨		N1E0	3
15	または	肋骨片		N3E1	3
	イノシシ	骨肩9			
7	ウシ	上腕骨・右・成獣	遠位部・小型　現存長 193.0㎜		
11		田負大腿骨・左・成獣	中間部・小型　現存長 196.5㎜		

注　下顎骨の備考の（　）は，歯の残存状況を示す。Pは前臼歯，Mは後臼歯，数字は歯の番号，xは歯槽はあるが歯のないものを示す。

第Ⅵ章　タテチョウ遺跡の珪藻遺骸分析と軟X線解析

大西郁夫・徳岡隆夫・山本重幸・田村嘉之

タテチョウ遺跡発掘現場の地層観察と試料採取をおこない，珪藻遺骸分析と軟X線解析をおこなったので，ここに報告する。

1．珪藻遺骸分析

(1) 試料採取地点と層準

分析用試料は東西の壁面の4ヶ所（第1図のA～D）において層ごとにおこなった（第2図)。また，壁面から北10mの地点において，ハンドオガーを使用して，床面（－0.9m）から－3.4mまで掘削し，20～30cmごとに採取した（E－01～16)。

(2) 分析結果

これらの39試料について，プレパラートを作成し，観察・同定をおこなった。礫層や砂層からは珪藻はほとんど検出されなかったので，主に泥層についての結果を第3図に示す。

A：Ⅰは少量の砂を含む茶褐色の泥層。ⅣとⅥは暗灰色泥層で，Ⅵ中にはレンズ状の砂を挟む。珪藻はⅥのみから検出された。Ⅵの珪藻は，海水性種が33%であり，主な種は，*Cocconeis scutellum* と *Diploneis smithii* で，河口などの汽水域に生息する *Achnantes hauckiana* も出現する。

B：Ⅰは砂混じりの茶褐色の泥層。Ⅱ・Ⅳ・Ⅵが暗灰色泥層である。Ⅰ層からは珪藻は検出されなかった。海水性種の割合は，Ⅱで28%，Ⅳで55%，Ⅵで44%である。主な種は，*Cocconeis scutellum* と *Grammatophora* spp. であり，個体数は下位ほど多い。

C：Ⅰは少量の砂を含む泥層。Ⅲは暗灰色泥層，Ⅴは含泥砂層である。Ⅲでは海水性種珪藻が45%であり，*Cocconeis scutellum* と *Grammatophora* spp.の割合が高い。Ⅴは全個体数は少ないが，*Cocconeis scutellum* や，*Diploneis smithii* などの海水性種が50%を占める。

D：Ⅰは赤褐色，Ⅱは暗灰色の砂混じり泥層で，珪藻は検出されなかった。Ⅳは暗灰色の砂混じり泥層で，多量の珪藻を含む。海水性種は62%であり，*Cocconeis scutellum* と *Grammatophora* spp. が多い。

E：上部は砂混じり泥層，下部は暗灰色泥層である。標高からみて，Dの下位に位置する。全体的にみて，海水性種が50%を越えているが，その数値は3～4回の小さな変動を繰り返している。

⊠ 環境推定

珪藻分析の試料採取した壁画は，1977年度発掘調査の際に花粉分析をおこなった第Ⅲ調査区と重複している。大西は（1979）は，第Ⅲ調査区の壁面のスケッチを示している。それと，今回の壁面スケッチ（第１図）とを比較すると，次のような地層の対応が考えられる。

今回の最下位層（Ａ－Ⅷ，Ｂ－Ⅷ，Ｃ－Ⅵ，Ｄ－ⅤおよびＥ－01～16）は大西（1979）のＦ層に対応し，その時代は縄文～弥生時代初頭と考えられる。

その上位にある砂礫層のうち西端部のＡⅤ～Ⅶは，大西（1979）縄文・弥生および古式土師を含むＥ層に相当し，古墳時代以前と考えられる。

その上位のＢ－Ⅶ以上の層は，より以前の層を削り込んで堆積していて，西から東に向かって上位となるが，砂礫層が優勢なＢ－ⅦからＣ－Ⅱぐらいまでは，大西（1979）のＤ層～Ｂ層に相当するものと考えられる。

また，主に泥層からなるＤ－Ⅲ～Ⅰは，大西・大谷（1990）の上位層（試料番号１～23）に相当し，その時代は室町以後と考えられる。

このような時代推定に基づくと，次のような環境変化が考えられる。

縄文時代：この地域は中海・宍道湖を結ぶ水道の一部で，朝酌川の河口はもっと上流にあり，海水性の珪藻が50％を越えるような海水の影響の強い汽水域であった。しかし，朝酌川からの淡水の淡水の流入に起因すると考えられるような，淡水性珪藻がやや増加し，海水性がやや減少するような小変動が，３～４回くりかえした。ヤマトシジミの貝殻層とＥとの関係は不明であるが，かなり淡水性が強くなり，ヤマトシジミが繁殖した時代はＦ層最上部の弥生時代初頭であると考え考えられる。

弥生～古墳時代：古墳時代の後半には，砂礫層（ＡⅢ～Ⅱ）がこの地域一帯に広く堆積した。この砂礫層下部（Ａ－Ⅵ）では海水性珪藻が33％と低いことから，小海退が起こったために河口がこの付近まで下がったものと考えられる。さらに，上部（Ａ－Ⅲ～Ⅱ）の堆積によってこのあたりは広く陸化し，朝酌川はこの陸地を流れ，流路に沿って浅い川谷が削り込まれた。

奈良時代以後：その川谷を流れる堆積物の下部（Ｂ－Ⅶ～Ⅳ）は砂泥質で，44～55％の海水性珪藻を含むこと，上部（ＢⅢ）は礫質であることから，川谷の埋立ては，その後の小海進によって始まり，小海退によって完了したものと考えられる。このような小海進小海退は，その後室町時代以後まで数回繰り返したものと考えられる。

２．軟Ｘ線解析

旧河道堆積物の下部を占める，褐色泥と灰色泥の細互層から，長さ25cm，厚さ１cmの試料を４個

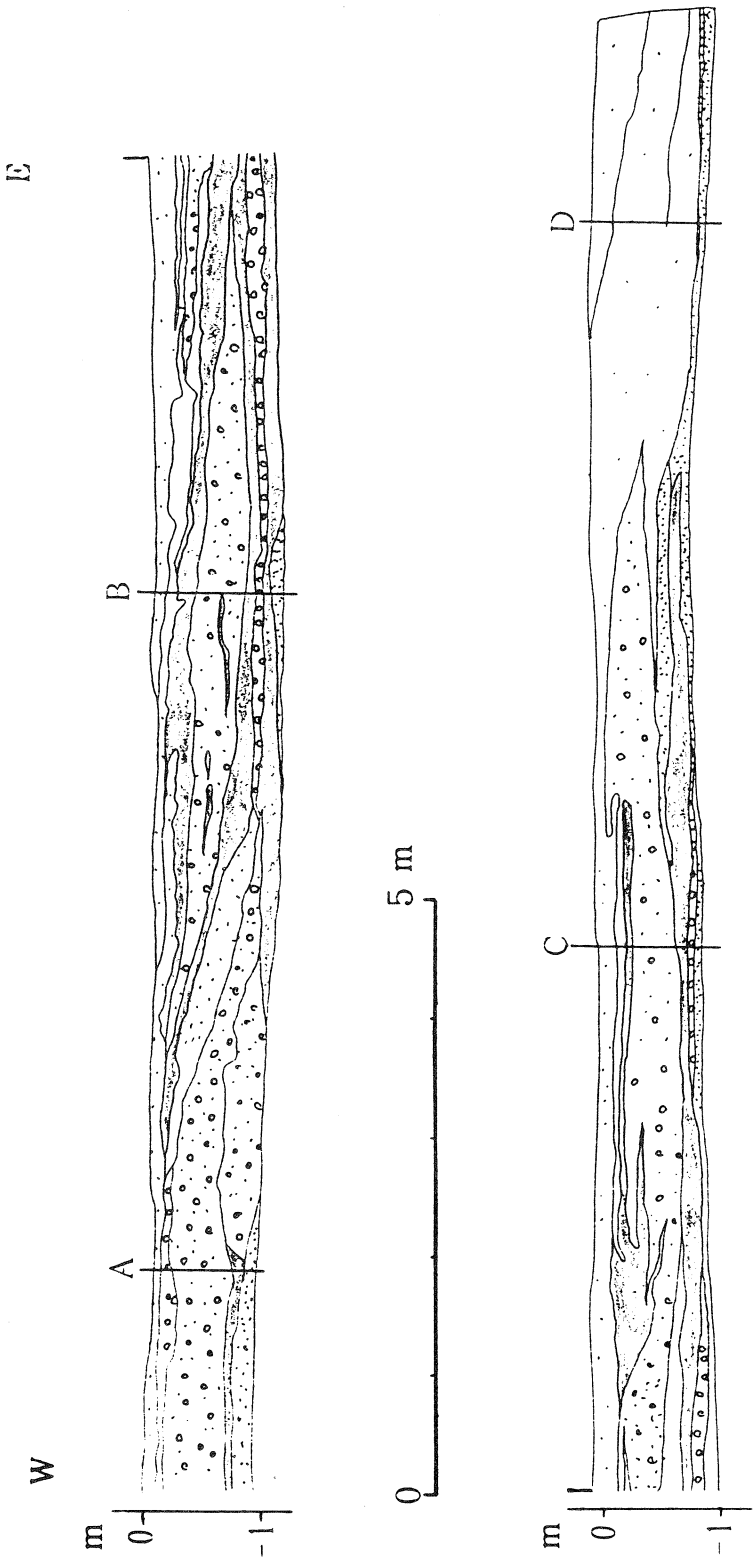
とり，軟X線写真を撮影した。結果は写真（T－910802　下位から1，2，3，4）の通りである。

最下部には，孤状の模様が数個見られる。X線がよく通過し，ネガが黒くなったところが，写真では白くなるから，黒い3個はシジミの貝殻を，白い1個は貝殻が抜け落ちた跡を示す。又，上下方向の直線的な模様がみられる。これはアシなどの植物の茎の跡であろう。全体的に，厚さ0.5～－1㎝程度の水平方向のラミナが顕著である。また厚い灰色の部分にも細かいラミナが認められる。今回の試料では，これらのラミナは色の違いとして肉眼的にも認められる。しかし，色の違いがなく堆積構造が肉眼的に認められないような堆積物の内部構造を知るためには軟X線写真は重要となるであろう。

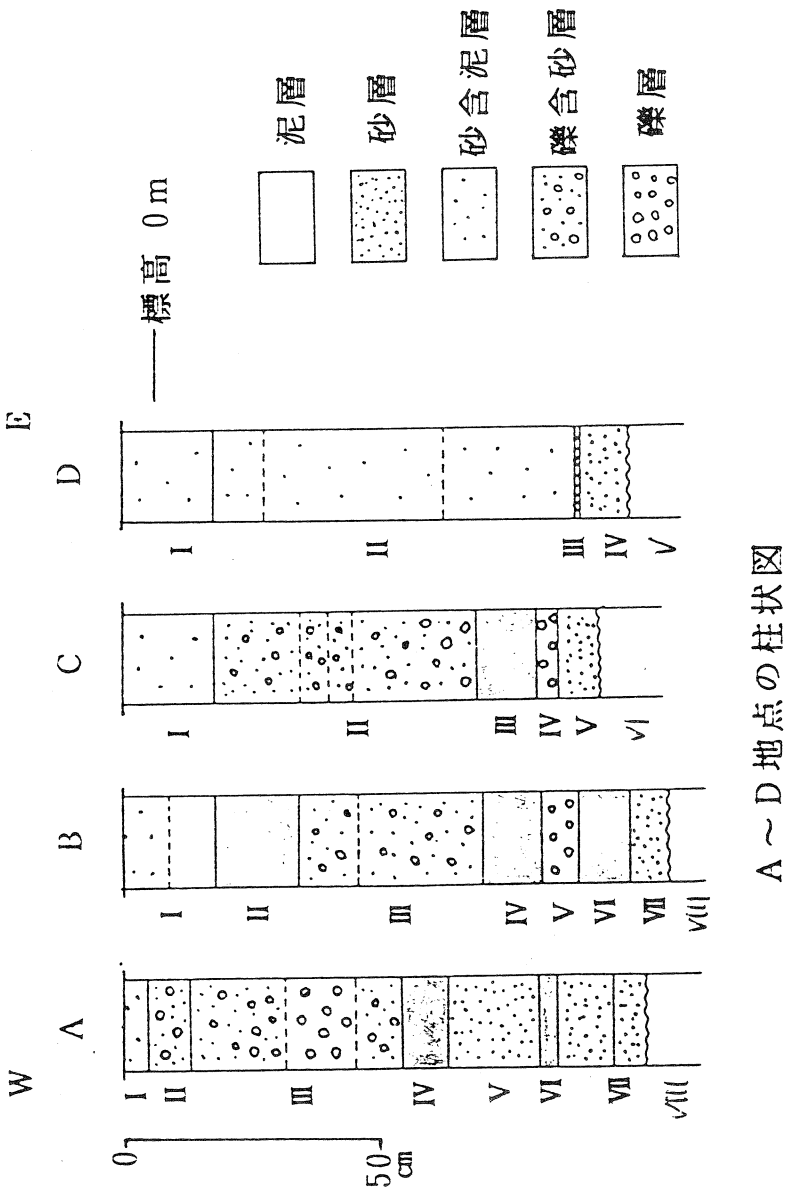
文献

大西郁夫（1979）花粉の分析．朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅰ，188－193，島根県教育委員会．

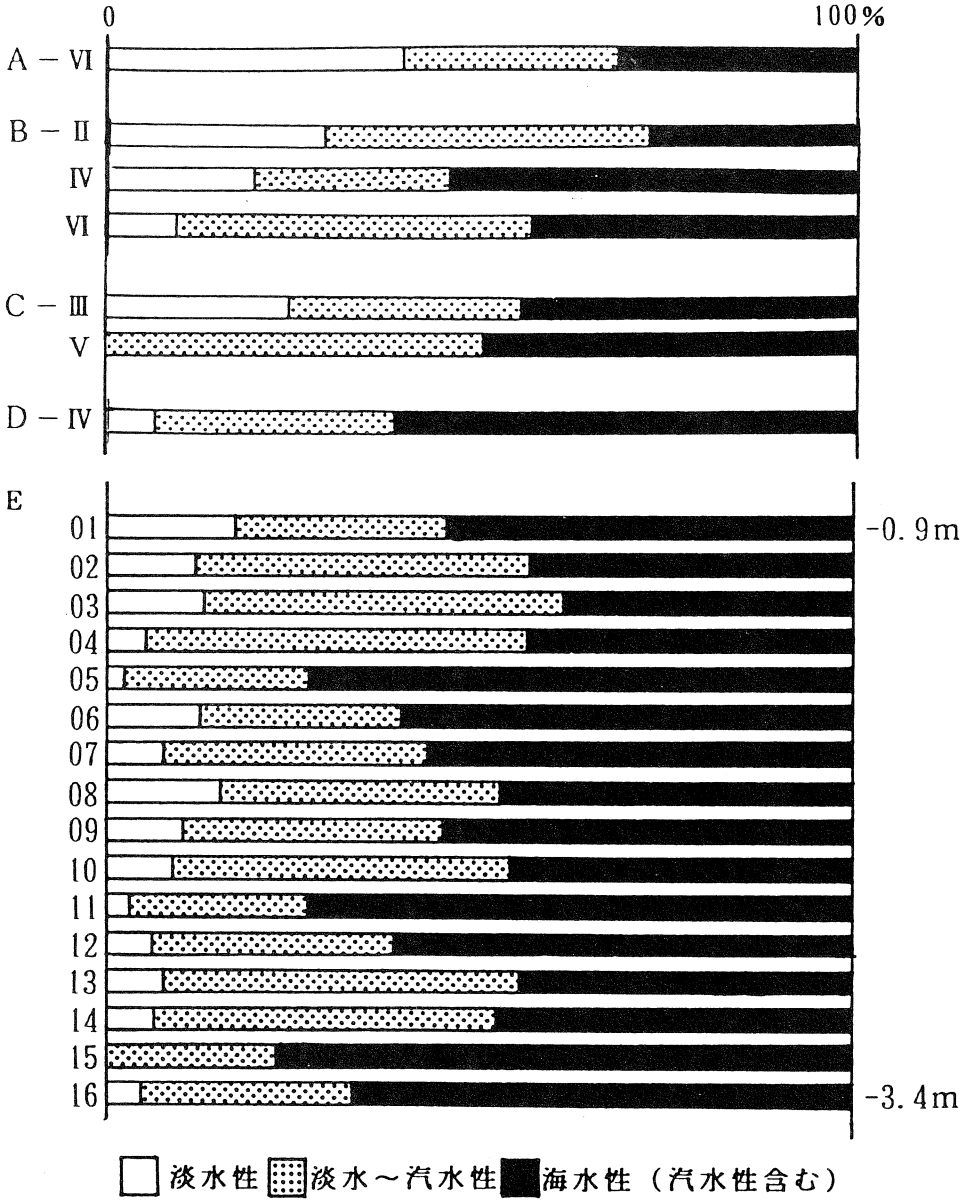
大西郁夫・大谷英之（1990）タテチョウ遺跡′88の花粉分析．同上　Ⅲ，434－436，島根県土木部河川課・島根県教育委員会．



第104図　壁面の断面図



第105図　タテチョウ遺跡東西壁面断面図と柱状図



第106図　タテチョウ遺跡における堆積物中の珪藻化石の分析結果

第Ⅶ章　松江市タテチョウ遺跡出土木製品の樹種の記載
— その２ —

平成２・３年度調査での出土木製品

川崎地質株式会社　大阪支店

渡　邊　正　巳

１．はじめに

近年島根県内では，低湿地での遺跡の調査やこれに伴う木質遺物（木製品）の出土が相次いでいる。しかし多くの遺跡では，考古学的記載は行われているものの樹種鑑定（記載）はほとんどの場合行われていない。このような現状のもとで，松江市北東部の朝酌川流域では，渡邊（1987）により，西川津遺跡出土の銛型木製品の樹種記載が行われて以来，渡邊（1988，1990）により，西川津，タテチョウ両遺跡出土の木製品の樹種鑑定（記載）が行われてきた。また，大西ほか（1988）により西川津遺跡での自然流木の分析が行われ，花粉分析結果との比較から弥生時代前期から中期の環境復元が行われている。

本報告ではタテチョウ遺跡の平成３年度調査において出土した木製品の内，11個について樹種鑑定（記載）を行う。

２．遺跡の概要

松江市の北東部を流れる朝酌川流域一帯には，低湿地遺跡が広く分布しており，上流部を西川津遺跡，下流部をタテチョウ遺跡と呼んでいる。タテチョウ遺跡では，島根県教育委員会により1974年以来調査が行われてきた（島根県教育委員会，1979ほか）。

これまでに，両遺跡が縄文時代前期より中世に至る遺跡であり，土器，石器などに混ざって多くの植物遺物，動物遺物が出土したことが報告されている（島根県教育委員会，1979ほか）。また西川津遺跡では，弥生時代前期から中期にかけての期間の遺物が多く，この時代の貝塚群や掘立柱の柱穴も見つかっている。タテチョウ遺跡においても同時期と考えられる出土遺物は存在するが，人間の生活した跡は未だ報告されていない。

３．試料の処理方法

樹種鑑定を行うにあたり，試料にできるかぎり損傷を与えないように注意し，横断面・接線断面・

放射断面の切片を作り，サフラニンで染色した後，カナダバルサムで封入し永久プレパラートを作成した。このプレパラートを顕微鏡下で観察し内部形態的特徴から樹種の同定を行った。また今回樹種同定に使用したプレパラートは全て，島根県教育委員会により作成されたものである。

4．木材の記載及び結果

樹種同定に至った根拠を以下に示す［用語は島地ほか（1985）に準じた。］。樹種同定は，小林（1957），鈴木・能代（1986），須藤（1959），能代・鈴木（1987）の記載を参考にし，現生標本のあるものについてはそれを参考にした。試料の同定結果を第2表に示す。

1）　モミ属　*Abies* sp.　（M2）

仮道管，放射柔細胞，傷害樹脂道からなる針葉樹材で，早材から晩材へに移行はゆるやかである。放射柔細胞早材部の分野壁孔はスギ型であり，末端壁は，じゅず状であるなどから，モミ属であると同定できる。モミ属にはモミ，ウラジロモミなどいくつかの種が存在するが，区別が困難なのでモミ属としておく。

2）　マツ属（複維管束亜属）　*Pinus*（*Dipioxlon*）sp.（M17）

仮道管，放射柔細胞，放射仮道管，軸方向・水平樹脂道，およびエピセリウム細胞からなる針葉樹材である。放射柔細胞の分野壁孔は窓状で，放射仮道管の壁に鋸歯状肥厚が著しいことなどからマツ属（複維管束亜属）であると同定できる。マツ属（複維管束亜属）には，アカマツ，クロマツなどいくつかの種が存在するが，区別が困難なのでマツ属（複維管束亜属）としておく。

3）　スギ　*Cryputomeria japonica*（L.f.）D.Don（M3，4，6，7　試料）

仮道管，樹脂細胞，放射樹脂細胞からなる針葉樹で，早材から晩材への移行は急である。放射柔細胞早材部の分野壁孔はスギ型で2個存在するなどからスギであると同定できる。

4）　ヒノキ属　*Chamaecyparis* sp.（M1，12，13）

仮道管，樹脂細胞，放射樹脂細胞からなる針葉樹材で，早材から晩材への移行はややゆるやかで，樹脂細胞は晩材に偏在する。放射柔細胞早材部の分野壁孔はヒノキ型で2個存在することからヒノキ属であると同定できる。ヒノキ属には，ヒノキ，サワラなどいくつかの種が存在するが，区別が困難なのでヒノキ属としておく。

5) イチイ属 *Taxus* sp.（M14）

仮道管，放射柔細胞からなる針葉樹材で，晩材の巾が非常にせまく年輪界がやや不明瞭である。仮道管には螺旋肥厚が明瞭であることなどからイチイであると考えられるが，本地域に近い大山には同属のキャラボクが生育しており，対比標本がないことからイチイ属としておく。

6) アカガシ亜属 *Quercus*（*Cyclo.*）sp.（M10）

中庸の道管が単独で配列する放射孔材で，道管穿孔は単穿孔，軸方向柔細胞は，1ないし数細胞巾の独立帯状柔組織を示すことが多い。放射組織は単列できわめて低い同性放射組織型のものと複合放射組織があることなどから，アカガシ亜属と同定した。アカガシ亜属にはいくつかの種が存在するが，区別が困難なのでアカガシ亜属としておく。

5．謝　辞

島根県教育委員会文化課主事林健亮氏には，物心両面にわたり多くの御援助をいただいた。今回の報告をまとめるにあたりここに厚く感謝の意を表したい。

文献

小林弥一，1975：本邦における針葉樹材のカード式識別法．林業試験場研究報告．no.98，1-84，pl.1-16．

能代修一・鈴木三男，1987：中里遺跡出土木材遺体から推定される古植生．東北新幹線建設に伴う発掘調査　中里遺跡2，253-320．

大西郁夫・渡邊正巳・内田律雄，1988：松江市西川津遺跡出土の材化石．山陰地域研究，（自然環境），no.4，65-79．

島地　謙・佐伯　広・原田　広・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司，1985：木材の構造，文永堂，276p．東京．

島根県教育委員会，1979：朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書 —Ⅰ—．島根県教育委員会，204p．

須藤彰司，1959：本邦産広葉樹材の識別（識別カードを適用して）．林業試験場研究報告，no.118，1-138，pl.1-36．

鈴木三男・能代修一，1986:新保遺跡出土加工木の樹種．新保遺跡Ⅰ弥生・古墳時代大溝編 —関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書　第10集— 本文編，71-94，pl.136．

渡邊正巳，1988：西川津遺跡より出土した縄文時代早期末～前期初頭の銛形木製品について．朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書 —Ⅲ—（海崎地区Ⅰ），262-263，pl.3-19．

渡邊正巳，1987：松江市西川津遺跡出土木製品の樹種について．朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書 —Ⅳ—（海崎地区Ⅱ），244-260，pl.76-81．

渡邊正巳，1990：松江市タテチョウ遺跡出土木製品の樹種の記載．朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ，458-462，pl.202-203．

第2表　木製品樹種一覧表

挿図番号	図版ページ	実測番号	製品名	樹種	出土地点	層準
W-50		M 1	曲物	ヒノキ属	N3E1	3
W-65		M 2	板状木製品	モミ属	N4E1	河道 3
W-48		M 3	椀？	スギ	N4E1	河道 3
W-46		M 4	曲物	スギ	N5E2	河道 3
W-37		M 6	垢取り状木製品	スギ	N3E1	3
W-60		M 7	不明木製品	スギ	N2E1	3
W- 3		M10	鍬？（板状）	アカガシ亜属	N3E2	4
W-68		M12	杭状木製品	ヒノキ属	N1E1	3
W-69		M13	不明木製品	ヒノキ属	N5E1	3
W-70		M14	不明木製品	イチイ属	N1E1	3
W-28		M17	把手状木製品	マツ属（複維管束亜属）	N0E2	河道 2

第Ⅷ章　松江市タテチョウ遺跡の材化石

川崎地質株式会社　大阪支店

渡　邊　正　巳

1．はじめに

島根県教育委員会が，1991年度にタテチョウ遺跡において行った発掘調査に伴って，古墳時代前半の堆積物から多数の材化石が出土した。本報では出土材化石の樹種鑑定結果をもとに，古植生の推定を試みた。

2．遺跡の概要

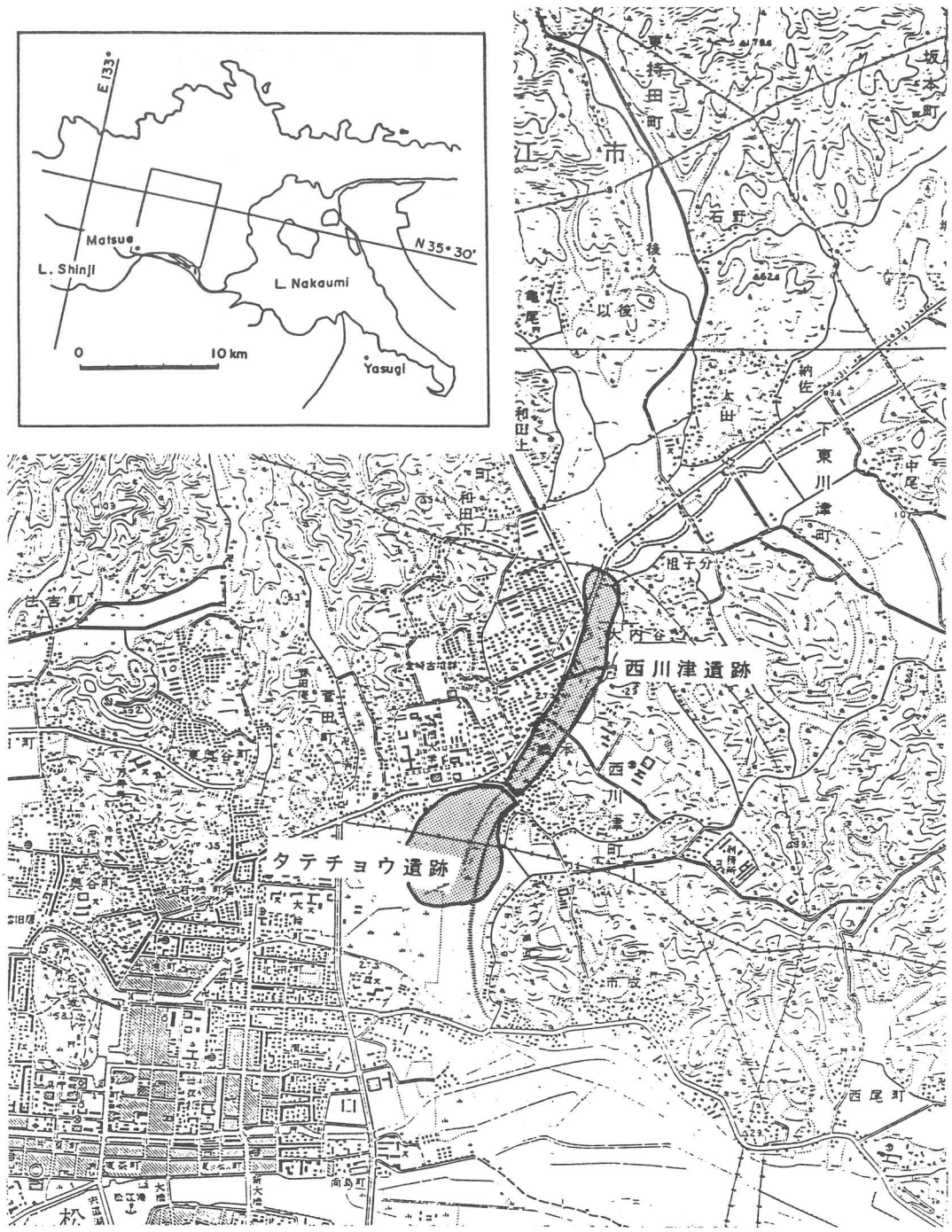
松江市の北東部を流れる朝酌川流域一帯には，低湿地遺跡が広く分布しており，上流部を西川津遺跡，下流部をタテチョウ遺跡と呼んでいる（第107図）。タテチョウ遺跡では，島根県教育委員会により1974年の予備調査以来，数回におよぶ発掘調査とまとめ（島根県教育委員会，1979；島根県土木部河川課・島根県教育委員会，1987，1990）が行われてきた。これまでの調査で，タテチョウ遺跡は弥生時代を中心として，縄文時代早期から古墳時代にいたる複合遺跡であることがわかっている。また，上流部の西川津遺跡では弥生時代前期から中期にかけての貝塚群や掘立柱の柱穴も見つかっているが，タテチョウ遺跡では人間の生活した跡は未だ報告されていない。

タテチョウ・西川津の両遺跡においては，従来から継続的に花粉分析が行われており，およそ縄文時代後半から現在に至るまでの花粉分帯が行われている（大西，1974；大西・渡邊，1987ａ，ｂ，ｃ；大西ほか，1989；大西・大谷，1990）。大型植物化石については，タテチョウ遺跡では粉川（1974，1990）の報告がある。また西川津遺跡では内田（1987）が，縄文時代のものと考えられる種子，実などを記載している。材化石の鑑定では，タテチョウ遺跡で渡邊（1990，1992）が，西川津遺跡で渡邊（1987，1988），大西ほか（1988）がある。

3．試料と出土層について

今回の報告に使用した材化石試料は，1991年度に発掘された旧河川の埋土より出土（第108図）したものであり，その中から任意に抽出した50点である。

またこの旧河川埋積土は，共伴した土器より古墳時代前半に堆積したものであると考えられている（島根県土木部河川課・島根県教育委員会，1992）。


E 133°
N 35° 30'
Matsue
L. Shinji
L. Nakaumi
0
10 km
Yasugi
西川津遺跡
タテチョウ遺跡
東持田町
坂本町
石野
太田
下東川津町
中尾
和田上
和田下
古曽町
東尾谷町
西川津町
市成
西尾町
南島町
大橋
新大橋

第107図　調　査　地　点

4．試料の処理方法

今回の試料作成は渡邊の指導により，島根県教育委員会が行ったものである。樹種鑑定を行うにあたり，横断面・接線断面・放射断面の切片を作り，サフラニンで染色した後，カナダバルサムで封入し永久プレパラートを作成した。このプレパラートを顕微鏡下で観察し内部形態的特徴から樹種の鑑定を行った。

5．木材の記載及び結果

樹種同定に至った根拠を以下に示す［用語は島地ほか（1985）に準じた。］。樹種同定は，基本的には現性標本との対比で行ったが，小林（1957），鈴木・能代（1985，1986），須藤（1959），能代・鈴木（1985，1987）の記載も参考にした。試料の鑑定結果を表３に，出現率を第109図に示す。

1）　モミ属　*Abies* sp.　試料番号：p-1

仮道管，放射柔細胞，傷害樹脂道からなる針葉樹材で，早材から晩材への移行はゆるやかである。放射柔細胞早材部の分野壁孔はスギ型であり，末端壁は，じゅず状であるなどから，モミ属とした。モミ属にはモミ，ウラジロモミなどいくつかの種が存在するが，区別が困難なのでモミ属としておく。

2）　スギ　*Cryptomeria japonica*（L.f.）D. Don　試料番号：p-4，7，12，23，28

仮道管，樹脂細胞，放射樹脂細胞からなる針葉樹材で，早材から晩材への移行は急である。放射柔細胞早材部の分野壁孔はスギ型で２個存在することなどからスギとした。

3）　ヒノキ属　*Chamaecyparis* sp.　試料番号：p-32，34，49

仮道管，樹脂細胞，放射樹脂細胞からなる針葉樹材で，早材から晩材への移行はややゆるやかで，樹脂細胞は晩材に偏在する。放射柔細胞早材部の分野壁孔はヒノキ型で２個存在するなどからヒノキ属とした。ヒノキ属には，ヒノキ，サワラなどいくつかの種が存在するが，区別が困難なのでヒノキ属としておく。

4）　イヌガヤ属　*Chephalotaux* sp.　試料番号：p-24，55

仮道管，樹脂細胞，放射樹脂細胞からなる針葉樹材で，晩材の巾が非常に狭く，年輪界はやや不明瞭である。仮道管にはらせん肥厚が明瞭であるなどからイヌガヤ属とした。イヌガヤ属には，イ